

2013年度
昭和会誌

目 次

I. 昭和会の沿革	P. 1
II. 昭和会の理念	P. 2
III. 昭和会の基本方針	P. 2
IV. 昭和会の運営方針	P. 2
V. 昭和会の組織図	P. 3
VI. 公益財団法人昭和会 事業実施概況書	P. 4
VII. 病院の現況	
(1) 標榜科目(診療科)	P. 22
(2) 許可病床数、病棟別病室数・病床数	P. 22
(3) 施設の概要	P. 22
(4) 病院及び関連施設配置図	P. 22
(5) 病院施設概要	P. 23
(6) 医師研修施設指定の現状	P. 24
(7) 各種会議・委員会	P. 24
(8) 諸制度の指定状況	P. 27
VIII. 医療設備概要(放射線部門、検査部門)	P. 29
IX. 病院統計	
(1) 科別外来患者数	P. 32
(2) 科別在院患者延数	P. 33
(3) 年度別手術症例数	P. 34
(4) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数	P. 34
(5) 外来患者市町村別分布図	P. 35
(6) 退院患者市町村別分布図	P. 36
(7) 市町村別紹介施設数・患者数	P. 37
(8) 市町村別逆紹介施設数・患者数	P. 38
(9) 紹介率	P. 39
(10) 逆紹介率	P. 39
(11) 年度別救急車受入台数(患者数)	P. 40
(12) 救急患者受入時間帯・年齢別分類	P. 40
(13) 市町村別救急患者数	P. 40
(14) 外来患者初再診数	P. 41
(15) 外来患者時間外・深夜・休日患者数	P. 41
(16) 入院患者に関する年度別実績比較	P. 41
(17) 入院患者に関する実績比較	P. 42
(18) 退院患者ICD大分類(主傷病名大分類)	P. 43
(19) " (科別、性別大分類)	P. 44
X. 各科各部の診療実績、活動状況	
総合内科	P. 45
血液内科	P. 47
糖尿病内科	P. 48
消化器内科・肝臓内科	P. 49
循環器内科	P. 51
呼吸器内科	P. 52
神経内科	P. 54
外 科(消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)	P. 59
呼吸器外科	P. 61

整形外科・リハビリテーション科	P. 63
形成外科	P. 67
脳神経外科	P. 69
産婦人科	P. 71
新生児内科	P. 72
小児科	P. 75
泌尿器科	P. 78
眼 科	P. 79
気管食道・耳鼻いんこう科	P. 80
皮 膚 科	P. 81
麻 酔 科	P. 83
放射線診断科	P. 85
放射線治療科	P. 87
緩和医療科	P. 89
病理診断科	P. 90
在宅診療科	P. 94
歯 科	P. 96
歯科口腔外科	P. 97
看 護 部	P. 101
薬 剤 部	P. 102
中央放射線部	P. 106
中央臨床検査部	P. 111
リハビリテーション部	P. 114
臨床工学部	P. 118
在宅医療部	P. 123
居宅介護支援事業所	P. 128
相談支援センター・医療相談室	P. 130
がん相談支援センター	P. 133
QCセンター・医療安全管理課	P. 134
QCセンター・褥瘡管理課	P. 142
QCセンター・緩和医療課	P. 144
QCセンター・感染管理課	P. 147
QCセンター・がん化学療法課	P. 148
QCセンター・施設課	P. 149
栄養管理部	P. 153
診療情報管理部	P. 157
患者サポートチーム	P. 160
事 務 部	P. 162

X I . 院内研修会・講演会一覧	P. 164
-------------------	--------

X II . 会議・委員会活動報告	P. 166
-------------------	--------

X III . 院内外活動報告	P. 207
-----------------	--------

X IV . クリニックの現況

(1) 標榜科目(診療科)	P. 209
(2) 病床数 無床	P. 209
(3) 医療設備概要(放射線部門、検査部門)	P. 209
(4) 科別外来患者数	P. 210
(5) 外来患者市町村別分布図	P. 211

病院概要

(平成26年3月現在)

名称	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院(いまきいれそうごうびょういん) Imakiire General Hospital
創設者	今給黎 満幸 (いまきいれ みつゆき)
開設者	代表理事 今給黎 尚典 (いまきいれ たかのり)
管理者	院長 昇 卓夫 (のぼり たくお)
所在地	〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号(かごしまししもたつおちょう)
代表電話	099-226-2211
代表FAX	099-222-7906
URL	http://imakiire.jp
病院開設日	1938年(昭和13年)7月 1964年(昭和39年)5月「医療法人昭和会」設立 2009年(平成21年)12月 公益財団法人昭和会 法人名変更
病床数	450床 (うちICU8床 GCU10床、NICU9床 亜急性期病床12床)
看護基準	7:1
認定施設	厚生労働省地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院 洋上救急業務支援協力医療機関 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設 厚生労働省 DPC 対象病院 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関 県エイズ治療拠点病院 県地域周産期医療支援病院 県重症難病医療協力病院(短期入所施設) 痛風治療協力医療機関 鹿児島市高規格救急車指示病院 県救急・災害医療情報システム参加登録病院 県消防・防災ヘリコプター急患搬送(医師搭乗)システム輪番病院 県指定 かごしま子育て応援企業 産科医療補償制度加入医療機関 県女性医師復職研修事業指定病院 各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関
関連施設	昭和会クリニック

職員数	965名（非常勤136名含む）		
有資格者	常勤	非常勤	
	医師	86名	40名
	薬剤師	19名	
	診療放射線技師	21名	
	臨床検査技士	29名	1名
	臨床工学技士	5名	
	理学療法士	40名	
	作業療法士	15名	
	言語聴覚士	8名	
	管理栄養士	8名	
	視能訓練士	2名	
	社会福祉士	1名	
	看護師	426名	10名
	助産師	22名	
	保健師	4名	
	准看護師	21名	2名
診療情報管理士	5名		

標榜科目	28診療科 内科、糖尿病内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、小児科、外科（消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門）、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
診療受付時間	平日 午前：午前8時00分～午前11時30分 午後：午後1時30分～午後5時00分 土曜（午前のみ） 午前8時00分～午前11時30分
休診日	土曜午後・日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）



昭和会のロゴマークについて

ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。

また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

I . 昭和会の沿革

- 昭和13年 7月 現在地に今給黎医院開設
- 昭和22年 11月 今給黎病院開設(24床)
- 昭和30年 2月 鉄筋コンクリート2階建 病棟増築(41床)
- 昭和32年 6月 65床認可
- 昭和35年 2月 看護婦寮新築
- 昭和35年 5月 80床認可
- 昭和32年 7月 医師住宅新築
- 昭和39年 5月 「医療法人昭和会」設立(120床)
- 昭和39年 7月 救急告示病院指定
- 昭和40年 7月 民法第34条による「財団法人昭和会」設立
- 昭和42年 1月 160床認可
- 昭和44年 4月 鉄筋コンクリート3階建病院新築
- 昭和44年 8月 鉄筋5階建第1看護婦寮・4階建医師住宅2棟新築
- 昭和45年 10月 220床認可
- 昭和47年 10月 鉄筋5階建職員住宅(20世帯)新築
- 昭和50年 12月 鉄筋コンクリート2階建第3女子寮・院内託児所新築
- 昭和53年 10月 鉄筋コンクリート7階建本館新築(300床)
- 昭和54年 3月 325床認可
- 昭和54年 8月 鉄筋コンクリート4階建第2女子寮新築
- 昭和58年 2月 医師住宅4階建新築
- 昭和62年 1月 第4看護婦寮3階建新築
- 昭和62年 9月 別館4階建新築
本館・別館の連絡路として地下道(巾3m)完成
- 昭和63年 1月 450床認可、本館全面改装、総合医療各診療科整備
- 昭和63年 8月 第5看護婦寮4階建新築、男子独身寮2階建新築
- 平成元年 1月 医師研修等3階建新築
- 平成9年 9月 外来患者専用自動管理式駐車場完成
- 平成10年 3月 医局棟3階建新築
- 平成13年 3月 (財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別B)取得
- 平成14年 1月 民間ビル(3階建)、研修棟として購入
- 平成15年 10月 医師臨床研修病院 指定(管理型)
- 平成17年 5月 昭和会クリニック開院(診療録の電子化開始)
- 平成17年 12月 今給黎総合病院(外来診療録の電子化開始)
- 平成18年 8月 歯科・歯科口腔外科開設
- 平成19年 10月 リニアック棟造築(稼働開始)
- 平成21年 12月 「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成22年 2月 今給黎総合病院(入院診療録の電子化開始)
- 平成24年 4月 厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 平成25年 3月 地域医療支援病院認定

II. 昭和会の理念

「協力・貢献・向上」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心

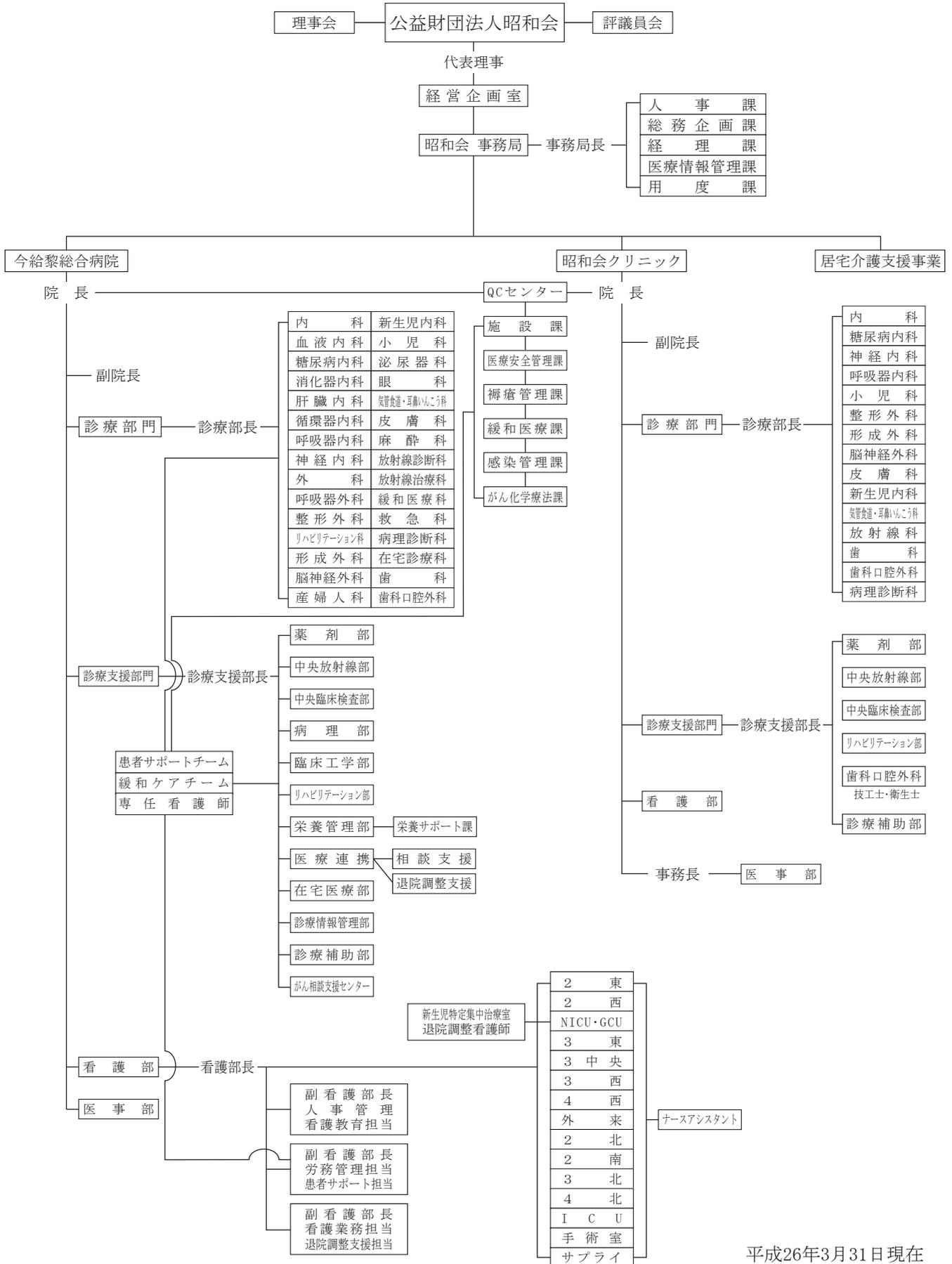
III. 昭和会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。

IV. 昭和会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。

V.昭和会の組織図



平成26年3月31日現在

VI.公益財団法人昭和会 平成25年度 事業実施概況書

平成 25 年度 特記事項

- 4月19日 NPO「医療の質に関する研究会」の支援を受けて
患者図書室 すまいる 開設
- 10月1日 (株)ソフトウェアサービスに電子カルテ
及び医事会計システム入替

1.がん医療対策関連について

地域がん診療連携拠点病院

- 1)厚生労働省局長通知による「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催方針」に則り、地域のがん診療に携わる医師を対象に、当院主催により次の通り「公開緩和ケア研修会」を開催した

(日時) 10月12日(土) 14:00～19:00
10月13日(日) 9:00～19:00
(場所) ホテル福丸
(参加者) 12名

2)がん・緩和ケア研修会

- 4月12日 がん緩和ケア研修会 早期からの緩和ケア ～急性期病院の場合～ 178名参加
講師：聖路加国際病院 緩和ケア科部長 林章敏 (外部参加者34名)
- 6月4日 「がんの臨床現場におけるスピリチュアルペインとそのケア」 131名参加
的場康徳先生(鹿児島大学腫瘍学講座) (外部参加者33名)
- 10月16日 「エンディングノート」 DVD 56名参加
- 3月6日 がん緩和ケア研修会 「抗がん剤の話」 111名参加
鹿児島大学病院 呼吸器内科助教 水野圭子 (外部参加者11名)

3)癌に関する講演会

- 10月18日 がん診断講座講演会
・肝細胞癌の画像診断と放射線科における治療
・肝細胞癌の外科治療
・内科における肝細胞癌の治療と抗ウイルス治療による肝細胞癌の予防
当院 放射線科部長 銚立博文
当院 外科部長 濱之上雅博 59名参加
当院 消化器内科部長 前田正彦 (外部参加者6名)
- 10月25日 低線量CT肺がん検診研修会 鹿児島県医師会館 2名参加
- 12月13日 国立がん研究センター がん看護領域認定看護師サポート研修 1名参加
- 12月22日 鹿児島県院内がん登録研修会参加 鹿児島大学 2名参加
- 3月14日 乳がん検診均てん化研修会 鹿児島県民交流センター 2名参加
- 3月18日 副作用に関する講演会
放射線治療 Update、有害事象への対策を含めて
進行期肺がんの治療現状について
当院 放射線治療科部長 中禮久彦 58名参加
当院 呼吸器内科部長 川島寿史 (外部参加者8名)
- 3月21日 肺がん検診均てん化研修会 パレスイン鹿児島 1名参加
- 3月28日 大腸癌治療カンファレンス 大腸癌治療の現状と地域連携
症例検討会 2例提示/がん診療連携パス(大腸癌)について
金沢赤十字病院 第一外科部長(兼)副院長 西元元一 50名参加
当院 外科部長 濱之上雅博 (外部参加者7名)

- 4)がん患者とその家族を対象に、病気や心の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として「がんサポートかごしま」と共同で「ほっとサロン今給黎」を院内開催してサポートした。

(毎月第3水曜日開催、無料) 128名参加

5) 講師派遣

- 8月2日 訪問看護ステーションにて「症状コントロールについて」勉強会講師
緩和ケア認定看護師 大西玲子 派遣
- 8月27日 居宅介護支援事務所ファルマコム
緩和ケアについて～在宅との連携、支援について～勉強会講師 11名参加
緩和ケア認定看護師 岩山友紀 派遣
- 11月27日・28日 国立病院機構南九州病院
平成25年度 緩和ケアを中心とした地域のがん看護従事研修
看護師 入江田徳美 派遣
- 12月15日 がん診療体制の質評価
調査結果およびPDCA改善サイクルに関する報告会講師
東京・国立がん研究センター 外科部長 濱之上雅博 派遣
- 1月12日・13日 鹿児島医療センター主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講師
緩和ケア認定看護師 大西玲子・岩山友紀 派遣
- 3月1日・2日 鹿児島大学病院主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講師
緩和ケア認定看護師 大西玲子派遣

6) 院内がん登録集計・・・157頁

7) 施設基準に基づく主傷病名大分類・・・43頁

2. 脳卒中

- 8月26日 「脳卒中予防教室」講師 郡山地区保健センター 30名参加
在宅診療科医 甲斐太 派遣
- 11月25日 「脳卒中の予防と早期対応」講師 松元地区保健センター 30名参加
在宅診療科医 甲斐太 派遣

3. 急性心筋梗塞 平成25年度は該当なし

4. 糖尿病

- 6月1日 糖尿病スタッフセミナー (鹿児島) 3名派遣
- 6月22日 交流会と勉強会
「I型糖尿病の最新治療～ポンプ治療や将来の治療～」 1名派遣
- 8月16日～19日 第44回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 休暇村指宿 1名派遣
- 8月19日 特別講演 新人研修並びに糖尿病栄養部総会 1名派遣
- 8月31日 県民公開講座～糖尿病予防と食生活～ 1名派遣
- 10月18日 第3回糖尿病会
「I型糖尿病を発症した2歳児とその両親への療育指導について」 2名派遣
- 11月11日 看護協会 地域医療連携計画(鹿児島市域) 糖尿病医療連携検討部会委員 1名派遣
- 11月16日・17日 日本糖尿病療養指導士認定機構主催 受験者用講習会(福岡) 1名派遣
- 12月1日 食品カロリー表示について勉強会 1名派遣
- 2月15日 糖尿病コメディカルスタッフセミナー 2名派遣
- 3月2日 糖尿病治療と食事管理 3名派遣

5. 精神疾患

- 平成26年4月1日 緩和医療科 小玉哲史医師赴任予定
(資格) 精神保健指定医(第12483号)
医学博士(学位記番号医研第483号)

- 6) 年度別救急車受入台数（患者数）・・・40頁
 7) 平成25年度 救急患者受入時間帯・年齢別分類・・・40頁
 8) 県消防、防災ヘリコプターの積極的活用に係る医師搭乗システム移動病院として輪番を担当した。
 4月22日・23日・24日・26日・27日・28日 5月13日・14日・15日・17日・18日・19日
 11月25日・26日・27日・29日・30日 12月1日
 9) 心肺蘇生・AED市民向け講習会 平成25年度は該当なし

7. 災害時における医療

災害救護訓練等への参加

【看護部】

- 5月24日 鹿児島県保健福祉部地域医療整備課
 鹿児島県広域災害医療情報システムに参加している全医療機関参加した
 第1回鹿児島県広域災害医療情報システム情報伝達訓練
 11月12日 鹿児島市自衛防火協会 第52回自衛消防隊消火競技会 3名参加

【放射線部】

- 8月11日 原子力防災（緊急被ばく医療措置）訓練 2名参加
 10月4日 緊急被ばく医療基礎講座Ⅲ 1名参加

【栄養管理部】

- 8月4日 チームアプローチによる災害時の食事支援
 ～共通理解を深める～スタッフ養成研修修了者 1名参加
 2月8日・9日 JDA-DAT（栄養士会 災害支援チーム）
 ～スタッフ養成研修～プログラム修了者 1名参加

【事務部】

- 9月9日 鹿児島県医師会 集団災害事故救急訓練に伴うFAX連絡訓練実施

8. へき地医療

1) 離島看護師スキルアップ事業の一環として、診療所へ代替看護師の派遣を行った。

- ①11月23日～30日 三島村 4診療所へ
 ・竹島 2名 ・硫黄島 2名 ・黒島大里 2名 ・黒島片泊 2名
 各8日間8名派遣（延64人工）
 ②12月9日～12月15日 十島村 7診療所へ
 ・口之島 2名 ・中之島 2名 ・平島 2名 ・諏訪瀬島 2名
 ・悪石島 2名 ・小宝島 2名 ・宝島 2名 各7日間14名派遣（延98人工）

2) 歯科医区住民の歯科医療確保の為、歯科巡回診療車事業に歯科医師を派遣した。

- ①11月11日～14日 屋久島町 口永良部島 歯科口腔外科部長 吉田雅司 4日間 派遣
 ②7月3日～8日 ミャンマー 歯科医療制度の学術調査
 歯科口腔外科部長 吉田雅司 6日間 派遣
 ③12月21日～29日 ミャンマー 口唇口蓋裂児への医療補助・技術指導および学術調査のため
 歯科口腔外科部長 吉田雅司 9日間 派遣

3) 屋久島町口永良部島の巡回診療の為、眼科巡回診療車事業に看護師を派遣した。

- 5月11日・12日 鹿児島赤十字病院離島へき地 1名派遣

9. 周産期医療

1) 講師派遣

5月25日	第62回九州新生児学会 「NICUにおける効果的な退院支援とは」	1名派遣
8月12日	妊娠期・出産期を支える関係者連絡会 鹿児島県庁	医師1名派遣
8月30日	ハイリスク母子保健訪問指導研修会講師 県民交流センター 母子担当保健師・医療センター職員・訪問看護ステーション職員・ 訪問看護ステーション職員対象 100名参加 新生児内科部長 丸山有子 派遣・看護師2名派遣	
10月5日	鹿児島県周産期症例検討会	1名派遣
11月7日	平成25年NICU長期入院児の支援に関するシンポジウム 「NICU等への長期入院児の現状と課題」	1名派遣
11月12日	鹿児島県保健福祉部子ども福祉課 妊娠期・出産期を支える関係者連絡会	1名派遣
12月12日	重症心身障害児・関連施設連絡会議 「NICU等への長期入院児の現状と課題」	1名派遣
12月15日	第1回出張もじょかくらぶ（NICU同窓会）開催 南薩地区（指宿保健センター）67名参加	9名派遣
1月18日・19日	周産期医療スキルアップ事業 ALSO研修（周産期救急教育コース）アシスタント 産婦人科医 下倉眞平 派遣	
2月8日・9日	産婦人科レビュー・コース 社会医療法人生長会（大阪） 新生児内科部長 丸山有子派遣	
2月13日～15日	第16回新生児呼吸療法・モニタリングフォーラム 「N-CPAP使用中の回路内の細菌培養を行って」 「マイクロファイバー素材クリーニングクロスによる保育器の清拭効果の検討」	1名派遣他
3月9日	第2回出張もじょかくらぶ（NICU同窓会）開催 出水地区（高尾野農業者健康管理センター）87名参加	13名派遣
3月18日	鹿児島県周産期医療協議会	1名派遣
3月29日	平成25年度周産期医療関係者推進事業（子ども虐待防止対策研修会） 「当院におけるハイリスク妊産婦の地域連携の実際」	1名派遣

2) 未熟児支援調整会議

7月17日・8月9日	当院新生児室にて開催 市子ども福祉課、児童相談員、保護第一課担当者、保健師、民生員、 訪問看護師、当院職員	3名参加
10月15日	保健センターにて開催 市子ども福祉課、児童相談所、保護第一課担当者、生活支援ヘルパー、 保健師、訪問看護師、当院職員	13名参加
10月29日	当院新生児室にて開催 保健師、児童相談所、乳児院職員、家族、当院職員	11名参加
2月21日	当院新生児室にて開催 市児童相談所、保健師、訪問看護師、当院職員	8名参加
2月28日	当院新生児室にて開催 市子ども福祉課、保健師、訪問看護師、当院職員	7名参加
2月24日	保健センターにて開催 市子ども福祉課、児童相談所担当者、保健師、生活支援ヘルパー、 民生員、NPO育児支援団体、当院職員	11名参加
3月18日	市役所にて開催 市子ども福祉課、児童相談所担当者、保健師、生活支援ヘルパー、 民生員、NPO育児支援団体、当院職員	12名参加

10. 小児（救急）医療

1) 平成 25 年度小児科救急車一覧表

月日	年齢	性別	救急隊	時間帯	診断名	診察医師	担当医師	入院・外来
8月5日	10才	女	吉野	17:00	過換気症候群	濱之上(外科)	玉田	入院
11月26日	4才	男	上町	17:24	熱性痙攣	堀之内(小児)	堀之内	外来
12月2日	14才	男	甲南	15:25	食物アレルギー	堀之内(小児)	堀之内	外来
3月12日	10才	女	吉野	12:52	卵巣のう腫茎捻転	玉田(小児)	寺原	入院

2) 学校健診実施

鹿児島市医師会学校腎臓病検診	委員、また3次検診の受け入れ	小児科医1名派遣
鹿児島市医師会学校糖尿病検診	精査症例受け入れ	小児科医1名派遣
鹿児島市小児生活習慣病予防検診	精査症例受け入れ	小児科医1名派遣
坂元中学校歯科検診	約400名検診	歯科口腔外科医3名派遣 歯科衛生士3名派遣

11. 地域支援病院活動報告

1) 当院担当者と外部関係者2名で下記のように報告、検討を行った。

8月30日 地域支援病院委員会	・実績報告(4月～7月)紹介率、逆紹介率 ・救急搬送の現状 ・地域医療支援病院承認要件の変更について(外部参加者2名)	7名参加
-----------------	---	------

2) 当院にて下記のような様々な活動を行った。

月日	演題	講師	受講者数
4月12日	がん・緩和ケア研修会 早期からの緩和ケア ～急性期病院の場合～	聖路加国際病院 緩和ケア科部長 林章敏	178名 (外部参加者34名)
4月15日	脊椎カンファレンス	当院整形外科医師と外部の医師参加	15名 (外部参加者5名)
5月11日	今給黎スポーツフォーラム 野球少年による肩肘障害	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 スポーツ整形外科教授 筒井廣明 理学療法士 鈴木貞興・田村将希	75名 (外部参加者67名)
5月12日	「第9回 みんなでいきいき健康まつり」	当院各診療科医師と当院職員にて	外部参加者 200名
5月13日	脊椎カンファレンス	当院整形外科医師と外部の医師参加	15名 (外部参加者5名)
5月23日	鹿児島細胞診定例会	市内の病理関係者	35名 (外部参加者30名)
6月4日	がん緩和ケア研修会 「がんの臨床現場におけるスピリ チュアルペインとそのケア」	鹿児島大学病院 腫瘍学講座 的場康徳	131名 (外部参加者33名)
6月12日	ICT合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	14名 (外部参加者7名)
6月24日	形成外科・放射線科合同公演会 血管腫・血管奇形診療の実際(診 断から治療のストラテジーまで)	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 総合血管内治療センター長 血管内治療研究所 今井茂樹	21名 (外部参加者4名)
6月28日	NST講演会 「急性期から考えるサルコペニア」	熊本リハビリテーション科吉村芳弘	179名 (外部参加者69名)

8月19日	鹿児島外傷セミナー 「橈骨遠位端骨折から考えた 骨粗鬆症治療戦略」	産業医科大学 整形外科学 准教授 酒井昭典	102名 (外部参加者50名)
8月21日	I C T合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	14名 (外部参加者7名)
8月31日	救急事後検証会・合同勉強会 救急外来受入状況について 顔面外傷、事後検証意見交換	当院 形成外科部長 高木信介 当院 外来副師長 尾堂知子	67名 (外部参加者8名)
10月7日	I C T合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	13名 (外部参加者7名)
10月18日	がん診断講座講演会 ・肝細胞癌の画像診断と放射線科 における治療 ・肝細胞癌の外科治療 ・内科における肝細胞癌の治療と 抗ウイルス治療による肝細胞癌 の予防	当院 放射線科部長 鉾立博文 当院 外科部長 濱之上雅博 当院 消化器内科部長 前田正彦	59名 (外部参加者6名)
11月18日	公開無料健康教室 「健康に過ごすヒント」	当院 総合内科部長 生野博久	18名
11月30日	今給黎スポーツフォーラム 肩肘のスポーツ障害に対する超音 波検診症例検討	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 整形外科医 鈴木昌／教授 筒井廣明 理学療法士 千葉慎一・尾崎尚代	95名 (外部参加者47名)
1月17日	パーキンソン病医療講演会 パーキンソン病の原因・診断・治療	当院 神経内科部長 長堂竜維	53名 (外部参加者16名)
2月23日	整形外科医の診る運動器の機能低下 「寝たきりを招くロコモティブシ ンドローム」	当院 副院長 整形外科医 松永俊二	63名
3月6日	がん緩和ケア研修会 抗がん剤の話	鹿児島大学病院 呼吸器内科助教 水野圭子	100名 (外部参加者11名)

12. 初期臨床研修病院実績

初期(卒後)医師臨床研修病院として、次の通り研修医を受け入れ、指導教育を行った。

基幹型研修医 4月～3月 2名(救急、内科、外科、産婦人科、麻酔科、小児科)、
2月～3月 1名(研修再開者中途採用、内科)

協力型研修医 4月～6月 1名(脳神経外科)、12月～3月 1名(救急、内科)、2月～3月 1名(救急)

初期臨床研修関係事業・・・198頁

- ・医学部医学科学学生病院見学35名受入
- ・平成26年度より鹿児島市立病院(総合周産期母子医療センター)を研修協力施設に追加申請(選択部門)
(歯科医師研修医)鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 研修歯科医25名受け入れ

13. 医師・保健師・栄養士・検査技師による、地域の医療従事者・地域住民の方を対象に、健康増進への普及を図った。

月日	演題	講師	受講者数
4月2日	医療安全研修会 医薬品の安全管理について 医療安全管理の基本的な考え方	当院 薬剤師副薬局長 江籠幸子 (医薬品安全管理責任者) 当院 医療安全管理課 千田清美 (専従医療安全管理者)	院内のみ
4月12日	がん緩和ケア研修会 早期からの緩和ケア ～急性期病院の場合～	聖路加国際病院 緩和ケア科部長 林章敏	178名 (外部参加者34名)

4月15日	脊椎カンファレンス	当院整形外科医と外部の医師参加	15名 (外部参加者5名)
5月11日	今給黎スポーツフォーラム 野球少年による肩肘障害	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 スポーツ整形外科教授 筒井廣明 理学療法士 鈴木貞興・田村将希	75名 (外部参加者67名)
5月12日	「第9回みんなでいきいき健康まつり」	各診療科医師と当院職員にて	外部参加者200名
5月13日	脊椎カンファレンス	当院整形外科医と外部の医師参加	15名 (外部参加者5名)
5月23日	鹿児島細胞診定例会	市内の病理関係者	35名 (外部参加者30名)
6月4日	がん緩和ケア研修会 「がんの臨床現場におけるスピリチュアルペインとそのケア」	鹿児島大学病院 腫瘍学講座 的場康徳	131名 (外部参加者33名)
6月12日	I C T合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	14名 (外部参加者7名)
6月21日	院内感染講演会 「消毒液の正しい使い方」	丸石製薬株式会社 学術情報グループ 八木俊和	304名 (院内のみ)
6月24日	形成外科・放射線科合同公演会 血管腫・血管奇形診療の実際(診断から治療のストラテジーまで)	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 総合血管内治療センター長 血管内治療研究所 今井茂樹	21名 (外部参加者4名)
6月28日	N S T講演会 「急性期から考えるサルコペニア」	熊本リハビリテーション科 吉村芳弘	179名 (外部参加者69名)
8月19日	鹿児島外傷セミナー 「橈骨遠位端骨折から考えた骨粗鬆症治療戦略」	産業医科大学 整形外科学 准教授 酒井昭典	102名 (外部参加者50名)
8月21日	I C T合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	14名 (外部参加者7名)
8月31日	救急事後検証会・合同勉強会 救急外来受入状況について 顔面外傷、事後検証意見交換	当院 形成外科部長 高木信介 当院 外来副部長 尾堂知子	67名 (外部参加者8名)
10月7日	I C T合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	13名 (外部参加者7名)
10月16日	がん緩和ケア研修会 エンディングノート (DVD 講演)	当院 緩和医療科 植屋・大西・森 主催	58名 (院内のみ)
10月18日	がん診断講座講演会 ・肝細胞癌の画像診断と放射線科における治療 ・肝細胞癌の外科治療 ・内科における肝細胞癌の治療と抗ウイルス治療による肝細胞癌の予防	当院 放射線科部長 鉾立博文 当院 外科部長 濱之上雅弘 当院 消化器内科部長 前田正彦	59名 (外部参加者6名)
11月15日	医療安全研修会 1. 7月に実施した医療安全意識調査の結果報告 2. インシデント事例を基にした3つの場面(寸劇)を鑑賞しワークシートで個人ワーク 3. 個人ワークシートに基づき意見交換～グループワーク～	東京海上日動メディカルサービス(株) メディカルリスクマネジメント室 上席研究員(薬剤師) 工藤千佳 主任研究員(看護師) 玉利英子	227名 (院内のみ)
11月18日	公開無料健康教室 「健康に過ごすヒント」	当院 総合内科部長 生野博久	18名
11月30日	今給黎スポーツフォーラム 肩肘のスポーツ障害に対する超音波検診症例検討	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 整形外科医 鈴木昌ノ教授 筒井廣明 理学療法士 千葉慎一・尾崎尚代	95名 (外部参加者47名)
12月13日 ・18日	院内感染研修会 医療廃棄物の分別について	株式会社 太陽化学 武田晃稔	514名 (外部参加者8名)
1月17日	パーキンソン病医療講演会 パーキンソン病の原因・診断・治療	当院 神経内科部長 長堂竜維	53名 (外部参加者16名)
2月21日	救急医療講演会 「地域で受ける時代の救急医療とドクターヘリ」 ～鹿児島県の新たな挑戦～	鹿児島市立病院 救急救命センター長 吉原秀明	152名 (院内のみ)

2月23日	整形外科医の診る運動器の機能低下 「寝たきりを招くロコモティブシ ンドローム（運動器症候群）」	当院副院長 整形外科医 松永俊二	外部参加者 63名
3月6日	がん緩和ケア研修会 抗がん剤の話	鹿児島大学病院 呼吸器内科助教 水野圭子	100名 (外部参加者 11名)
3月8日	市民公開講座 「医療現場における 診療放射線技師の役割」	技師会主催 当院 放射線科副技師長 新村栄次	100名
3月18日	副作用に関する講演会 放射線治療 Update・有害事象への 対策を含めて 進行期肺がんの治療現状について	当院 放射線治療科部長 中禮久彦 当院 呼吸器内科部長 川島寿史	58名 (外部参加者 8名)
3月28日	大腸癌治療カンファレンス 「大腸癌治療の現状と地域連携」 症例検討会 2例提示 がん診療連携パス（大腸癌）について	金沢赤十字病院 第一外科部長（兼）副院長 西元元一 当院 外科部長 濱之上雅博	50名 (外部参加者 7名)

14. 施設基準に基づく手術実施件数、平均在院日数・病床利用率・手術症例数・紹介率 報告

※手術の施設基準に基づき、平成25年(2013年)の1年間に実施した手術名、手術件数

手術区分	手術名	手術件数
区分 1	頭蓋内腫瘍摘出手術等	14件
区分 1	黄斑下手術等	111件
区分 1	鼓室形成手術等	5件
区分 1	肺悪性腫瘍手術等	84件
区分 2	靭帯断裂形成手術等	9件
区分 2	水頭症手術等	24件
区分 2	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1件
区分 2	尿道形成手術等	37件
区分 2	角膜移植術	0件
区分 2	肝切除術等	23件
区分 2	子宮付属器悪性腫瘍手術等	11件
区分 3	上顎骨形成術等	33件
区分 3	上顎骨悪性腫瘍手術等	0件
区分 3	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0件
区分 3	母指化手術等	4件
区分 3	内反足手術等	0件
区分 3	食道切除再建術等	2件
区分 4	胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等	217件
その他の区分	人工関節置換術	46件
その他の区分	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	7件

入院患者に関する年度別実績

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
平均在院日数(日)	17.0	15.4	15.3
病床利用率(%)	82.6	80.9	83.3

年度別手術症例数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
手術症例数(件)	3,710	4,013	4,480

年度別紹介率

	平成23年度(地域支援)	平成24年度(地域支援)	平成25年度(地域支援)
紹介率(%)	40.7	45.9	50.5

年度別逆紹介率

	平成23年度(地域支援)	平成24年度(地域支援)	平成25年度(地域支援)
逆紹介率(%)	62.3	65.4	60.8

※計算方法 地域支援・地域支援病院

15. 各学校より実習病院の指定を受け、次の通り実習生を受け入れ、医学、看護、理学・作業・言語聴覚療法、放射線、事務等に関する実習指導を行った。

【医師】

- 1)ポリクリ 耳鼻咽喉科 毎週火曜日 1～2名
- 2)ポリクリ 外科 毎週水曜日・隔週金曜日 1～2名
- 3)ポリクリ 整形外科 隔週水曜日 1～2名
- 4)鹿児島大学医学部医学科4年生シャドウイング
呼吸器内科 6月14日・7月12日 (各1名の2名)
- 5)鹿児島大学医学部医学科4年生シャドウイング
神経内科 4月12日・5月17日・5月31日・6月14日・7月12日 (各1名の5名)
- 6)鹿児島大学医学部医学科3年生シャドウイング
呼吸器内科 10月4日・10月18日・11月22日・11月29日 (各1名の4名)
- 7)鹿児島大学医学部医学科3年生シャドウイング
神経内科 10月4日・10月18日・11月8日・11月22日・11月29日 (各1名の5名)
- 8)鹿児島大学医学部医学科3年生シャドウイング
呼吸器外科 10月11日・10月25日 (各1名の2名)
- 9)鹿児島大学医学部医学科3年生シャドウイング
脳神経外科 11月1日・11月15日・11月29日・12月6日 (各1名の4名)

【看護部】

- 1)原田学園鹿児島医療技術専門学校(看護学) 16日間 20名
- 2)久木田学園看護専門学校(看護学) 800日間 512名
- 3)医療法人協会立看護専門学校(看護学) 12日間 5名
- 4)神村学園専修学校(看護学) 116日間 70名
- 5)神村学園高等部 看護学科基礎課程(看護学) 32日間 12名
- 6)神村学園高等部 看護学科専門課程(看護学) 96日間 30名
- 7)鳳凰高等学校 看護学科基礎課程(看護学) 24日間 15名
- 8)鳳凰高等学校看護 学科専門課程(看護学) 68日間 42名
- 9)龍桜高等学校 看護学科専門課程(看護学) 84日間 42名
- 10)鹿児島看護中央専門学校 2年課程(看護学) 36日間 67名
- 11)久木田学園看護専門学校(在宅看護) 48日間 18名
- 12)鹿児島看護中央専門学校 2年課程(在宅看護) 14日間 16名
- 13)神村学園高等部 看護学科専門課程(在宅看護) 24日間 9名
- 14)鳳凰高等学校看護学科専門課程(在宅看護) 40日間 30名
- 15)神村学園高等部 臨床指導者(母性看護学実習)事前実習 1日間 1名

【リハビリテーション部】

1) 琉球リハビリテーション学院 第4学年臨床実習Ⅳ (理学療法学)	4月7日～6月12日	67日間	1名
2) 琉球リハビリテーション学院 第4学年臨床実習Ⅳ (作業療法学)	4月8日～6月12日	66日間	1名
3) 鹿児島医療福祉専門学校 第3学年長期臨床実習 (理学療法学)	5月13日～7月20日	69日間	1名
4) 九州中央リハビリテーション学院 第4学年臨床実習Ⅳ (作業療法学)	5月20日～7月13日	55日間	1名
5) 鹿児島医療福祉専門学校 臨床実習 (言語聴覚療法学)	6月24日～8月3日	41日間	1名
6) 神村学園専修学校 第3学年臨床実習 (作業療法学)	6月24日～8月17日	55日間	1名
7) 鹿児島第一医療リハビリ専門学校 第3学年長期実習 (作業療法学)	7月15日～8月24日	41日間	1名
8) 鹿児島医療技術専門学校 見学体験実習 (理学療法学)	7月22日～7月26日	5日間	1名
9) 鹿児島医療福祉専門学校 第2学年臨床検査測定実習 (理学療法学)	7月22日～7月27日	6日間	3名
10) 神村学園専修学校 検査測定実習 (作業療法学)	7月29日～8月3日	6日間	1名
11) 鹿児島医療福祉専門学校 第3学年長期臨床実習 (理学療法学)	8月5日～10月12日	69日間	1名
12) 鹿児島医療技術専門学校 第4学年臨床評価実習 (理学療法学)	8月5日～10月11日	68日間	1名
13) 九州中央リハビリテーション学院 第4学年臨床実習Ⅳ (理学療法学)	8月5日～9月28日	55日間	1名
14) 鹿児島医療技術専門学校 第4学年長期臨床実習 (作業療法学)	8月5日～10月11日	68日間	1名
15) 沖縄リハビリテーション福祉学院 第3学年長期臨床実習 (作業療法学)	8月12日～10月12日	62日間	1名
16) 宮崎リハビリテーション学院 臨床実習Ⅱ (理学療法学)	8月19日～10月30日	73日間	1名
17) 鹿児島医療福祉専門学校 第3学年長期臨床実習 (理学療法学)	9月12日～11月9日	59日間	1名
18) 鹿児島医療福祉専門学校 臨床実習 (言語聴覚療法学)	12月9日～12月27日	19日間	1名
19) 福岡リハビリテーション専門学校 第3学年長期臨床実習 (理学療法学)	1月6日～2月28日	54日間	1名
20) 鹿児島医療福祉専門学校 評価実習 (言語聴覚療法学)	2月17日～3月8日	20日間	1名
21) 鹿児島医療福祉専門学校 第1学年介護体験実習 (理学療法学)	2月24日～2月26日	3日間	1名

【中央放射線部】

1) 6月3日～6月28日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科4年	26日間	2名
2) 7月1日～7月26日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科4年	26日間	2名
3) 9月2日～9月27日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科4年	26日間	2名
4) 10月1日～11月8日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科3年	39日間	2名

【中央臨床検査部】

1) 6月10日～22日	九州保健福祉大学	13日間	1名
2) 6月24日～7月6日	〃	13日間	1名
3) 8月12日～24日	〃	13日間	1名
4) 8月5日～10日	熊本大学4年生	10日間	2名
5) 9月2日～7日	山口大学4年生	5日間	1名
6) 9月4日	鹿児島大学3年生	1日間	3名
7) 9月17日	山陽女子短期大学3年生	4日間	2名

【薬剤部】

9月2日～11月15日 九州保健福祉大学 75日間 1名

【栄養管理部】

8月19日～8月31日 鹿児島純心女子大学 臨地実習(I)病院 給食栄養管理実習 13日間 2名

【在宅医療部】

- | | | | |
|-----------------|-------------------------|-------|-----|
| 1) 4月8日～10月31日 | 鳳凰高校看護学科 | 207日間 | 6名 |
| 2) 4月15日～9月5日 | 久木田学園看護専門学校 | 144日間 | 15名 |
| 3) 7月22日～8月15日 | 鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)看護科 | 25日間 | 16名 |
| 4) 11月4日～11月28日 | 神村学園高等部 看護学科専門課程 | 25日間 | 6名 |

【診療情報管理部】

5月13日～5月24日 キャリアデザイン専門学校 12日間 2名

16. 視察・研修・見学(社会人の個人、団体、および学生)の受入・訪問**【診療部】**

3月28日～4月4日 県内外の医学部医学科学生病院見学 35名

【看護部】

- | | | | |
|------------------|--|----------------|------------|
| 1) 4月12日 | 医療法人厚生会小田原病院看護師
泌尿器科外科手術・前立腺生検・中央材料室見学 | | 3名 |
| 2) 4月16日 | 神村学園高等部
新入生および高等部3年生・専修学校対象の病院説明会 | | 3名 |
| 3) 6月21日 | 公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院
ICU見学のため訪問 | | 6名 |
| 4) 7月26日 | 長田中学校・清水中学校 | | 5名 |
| 5) 7月26日 | 明桜館高等学校 | | 9名 |
| 6) 7月30日・31日 | 鹿児島大学病院PNS見学研修 | | 8名 |
| 7) 8月1日～3月31日 | 独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター | | 1名 |
| 8) 8月6日 | 鹿児島県医療法人協会立看護専門学校 | | 7名 |
| 9) 8月6日 | 公益財団法人慈愛会今村病院分院(ICU見学) | | 5名 |
| 10) 8月20日 | 鹿児島南高校・鹿児島実業高校・鹿児島女子高校 | | 17名 |
| 11) 8月21日 | 独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター
医療システム全般に関する見学のため訪問 | | 3名 |
| 12) 8月23日 | 久木田学園看護専門学校 | | 3名 |
| 13) 9月3日 | 藤元メディカルシステム附属医療専門学校 | | 1名 |
| 14) 10月4日 | 南風病院 感染チーム(感染予防対策地域連携加算 相互ラウンド)数名 | | |
| 15) 10月22日～12月8日 | 訪問看護師ステーションにおける小児訪問看護推進研修(NICU・ECU)
訪問看護ステーション:20施設 | 半日コース
1日コース | 15名
32名 |
| 16) 11月16日 | 加治木看護専門学校 戴帽式 | | 1名 |
| 17) 12月6日 | 鹿児島大学病院PNS見学研修 | | 10名 |
| 18) 12月13日 | 鹿児島東高等学校 進路ガイダンス講師 | | 4名 |

【中央放射線部】

- | | | | |
|----------|------------------------|--|----|
| 1) 6月25日 | 奄美中央病院(CT検査) | | 1名 |
| 2) 6月26日 | 佐世保市立総合病院・日立メディコ MRI見学 | | 3名 |
| 3) 7月25日 | 中華民国 林口長庚記念醫院 CT検査 | | 8名 |
| 4) 8月21日 | 福岡国際医療福祉学院 視能訓練士 | | 1名 |
| 5) 12月5日 | 社会医療法人社団 大久保病院 CT装置見学 | | 1名 |
| 6) 2月22日 | 上天草総合病院 CT見学 | | 3名 |

【薬剤部】

1) 4月3日	神戸学院大学薬学部	1名
2) 5月1日	長崎大学薬学部	4名
3) 5月22日	福山大学薬学部	1名
4) 6月18日	熊本大学薬学部	1名
5) 8月3日	志学館高校	2名
6) 2月27日	九州保健福祉大学薬学部	4名
7) 3月14日	福岡大学薬学部	1名
8) 3月19日	昭和大学薬学部	2名
9) 3月24日	九州保健福祉大学薬学部	2名
10) 3月28日	崇城大学薬学部	2名

【栄養管理部】

1月23日	南風病院(看護師・管理栄養士・検査技師・薬剤師・リハビリ・言語療法士) NST 活動見学	4名
-------	---	----

【消防・救命士】

1) 6月より 30例に至るまで実施中	鹿児島市消防局(気管挿管実習)	1名
2) 10月21日～10月28日・11月5日～12日・12月9日～16日	鹿児島市消防局(救急救命士実習)	各1名
3) 9月5日～10月9日	公務員ビジネス専門学校(実習)	3名
4) 1月27日～2月3日	救急救命九州研修所(実習)	3名
5) 2月14日	鹿児島県消防学校(病院実習)	2名

【事務部】

1) 7月4日	川内市医師会立市民病院 用度課の物品管理に関する見学	3名
2) 8月19日	福岡医療福祉専門学校	3名
3) 2月19日	クオアリハビリテーション病院 電子カルテ見学	12名

17. 文化・スポーツ事業活動・ボランティア活動**【医師】**

1) 6月27日	第60回南薩医学研究会 「パーキンソン病の診断と治療」かわなべ寿光苑	1名派遣
2) 6月28日	第2回鹿児島県多発性硬化症 Peer to Peer Meeting 座長 城山観光ホテル ガレリア	1名派遣
3) 8月1日	「パーキンソン病、認知症のトピックス」ノバルティス(株)講演	1名派遣
4) 8月6日	鹿児島県保育連合会 乳児担当者特別保育事業研修会講師	1名派遣
5) 9月7日	宮崎県骨関節研究会 宮崎市整形外科医師対象(講師)40名参加	1名派遣
6) 9月11日	鹿児島県小児保健協会・山形屋主催 南日本子供健康セミナー	1名派遣
7) 9月25日	命に関わる危ない頭痛と、命の危険のない頭痛の見分け方教室講師 郡山地区保健センター 30名参加	1名派遣
8) 10月16日	認知症よろず相談 Meeting in kagoshima「認知証薬の使い分け」 ブルーウェーブ鹿児島	1名派遣
9) 10月29日	大塚製薬「パーキンソン病治療におけるニューロパッチの使用経験」講演	1名派遣
10) 12月1日～3月31日	先天性代謝等検査連絡協議会 委員就任	産婦人科医 寺原賢人
11) 1月30日	リアルしごとびと～中学生と働く大人の対話の時間～講師 城西中学校	1名派遣
12) 2月21日～24日	第69回国民体育大会冬季大会スキー競技(スポーツドクター)山形県山形市	1名派遣
13) 鹿児島県・日本保育協会主催、鹿児島県保育連合会後援「乳児保育の意義と役割」	鹿児島県庁	1名派遣
14) 県教育委員会 県教育センター 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講演		1名派遣
15) 市民の育児支援のために育児相談		1名派遣

- 16) 医療連携検討部会 委員就任 新生児内科部長 丸山有子 派遣
 17) 薩摩地域救急業務高度化議会 委員就任 院長 昇 卓夫 派遣

【看護部】

- 1) 5月11日 看護協会「看護の日」および「看護週間」事業1日まちの保健室協力員 4名派遣
 2) 7月6日 鹿児島市教育委員会 第2回鹿児島市スポーツ推進委員会 1名派遣
 3) 8月10日 鹿児島市教育委員会 第48回鹿児島市民体育大会開会式役員 1名派遣
 4) 9月7日 看護協会 まちの保健室 第34回看護展出席 1名派遣
 5) 11月8日・9日 九州バスケットボール協会
 第65回全九州総合バスケットボール選手権大会兼地区予選会競技役員 1名派遣
 6) 12月13日 看護の出前出張 鹿児島東高校 1名派遣
 7) 1月11日～14日 鹿児島県バスケットボール協会
 第44回鹿児島県高等学校新人バスケットボール競技 大会役員 1名派遣
 8) 2月14日～16日 長崎県バスケットボール協会
 第44回全九州高等学校新人バスケットボール競技大会役員 1名派遣
 9) 2月15日 第61回県下一周市郡対抗駅伝競走大会における協力員 1名派遣

【緩和医療課】

- 5月11日・12日 リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま リレー 39名参加
 救護班医師1名派遣・看護師1名派遣

【中央放射線部】

- 1) 10月5日・6日 鹿児島ミュージックフェスタ 乳がん検診啓発活動 1名派遣
 2) 10月27日 ピンクリボン in Kagoshima 実行委員会活動 1名派遣
 3) 1月18日 シナリアユーザーミーティング CT検査
 (当院におけるアドバンスドの使用経験) 1名派遣

【リハビリテーション部】

- 1) 6月22日 鹿児島県在宅褥瘡セミナー ポジショニングの実際 鹿児島県青少年会館 5名派遣
 2) 9月5日 鹿児島リレーマラソン@ドロフィンポート前 トレーナー 7名派遣
 3) 10月11日 出張授業「リアルしごとびと～高校生と働く大人の対話の時間～」講師
 錦江湾高校 480名 1名派遣

【褥瘡管理課】

- 7月19日・20日 第15回日本褥瘡学会学術集会 世話人として 1名派遣

【事務部】

- 1) 4月13日 県民交流センターにて鹿児島BLSO開催にあたり当院の救急車を貸出
 2) 6月18日 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血 28名実施
 3) 9月14日・15日 第67回県民体育大会 東開庭球場 1名選手派遣
 4) 11月28日 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血 22名実施

18. 医学・看護学等の学業教諭として、大学・高校・専門学校等へ講師を定期的に派遣した。

- 4月1日～9月30日 鹿児島県立短期大学 非常勤講師 小児科医派遣
 11月15日～3月31日 鹿児島情報ビジネス専門学校 非常勤講師 集中ケア認定看護師派遣
 1月8日～1月10日 鹿児島大学医学部2年生 非常勤講師 神経内科医派遣
 1月24日・31日 鹿児島県消防学校 非常勤講師 麻酔科医派遣
 3月中旬～4月中旬 鹿児島市立病院 非常勤講師 作業療法士派遣
 鹿児島大学 非常勤講師 神経内科医派遣
 鹿児島歯科学院専門学校技工士科 非常勤講師 歯科口腔外科医派遣

久木田学園看護専門学校 非常勤講師一覧表

授業科目		時間数	講師氏名
病態学Ⅰ	骨格系・筋系	15	整形外科医 松永 俊二
病態学Ⅱ	呼吸器系	20	呼吸器内科医 川島 寿史
	血液・造血器系	10	血液内科医 小濱 浩介
病態学Ⅲ	消化器系	10	消化器内科医 前田 正彦
	腎泌尿器系	10	泌尿器科医 水間 浩平
	女性生殖器系	10	産婦人科医 加藤 明彦
	内分泌系・免疫系	8	総合内科医 生野 博久
病態学Ⅳ	脳神経系	10	神経内科医 長堂 竜維
	眼系	7	眼科医 薄井 隆宏
	耳鼻咽喉系	8	耳鼻咽喉科医 昇 卓夫
	皮膚系	5	皮膚科医 畠中 美帆
小児疾病論		30	小児科医 堀之内 兼一
周産期及び新生児の生理と異常		30	産婦人科医 加藤 明彦
保健医療論		15	耳鼻咽喉科医 昇 卓夫

19. 主な公的会議・研修会への参加

【医師】

- 1) 5月16日 鹿児島市子ども子育て会議 委員として育児支援活動 1名参加
- 2) 5月18日 鹿児島県小児科医会 監査として監査 1名参加
- 3) 8月10日 悪性リンパ腫診断治療の普及の為 島根県出雲市 1名参加
- 4) 1月18日 鹿児島労働局労働基準部監督主催
医療分野の雇用の質のための研修会 1名参加
- 5) 1月21日 薩摩地域救急業務高度化協議会 消防総合訓練センター 1名参加
- 6) 1月28日 鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会 (委員) 1名参加
- 7) 2月17日 鹿児島県こども福祉課 先天性代謝異常等検査連絡協議会 2名参加
- 8) 3月15日 平成25年度・26年度歯科医師臨床研修管理委員会
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 1名参加
- 9) 鹿児島県膠原病研究会 顧問として年2回開催 1名参加
- 10) 鹿児島文化サロン 委員として年3回開催 1名参加
- 11) 鹿児島県エイズ対策委員会 1名参加
- 12) 鹿児島子ども虐待問題研究会 会長として年6回開催 1名参加

【看護部】

- 1) 4月6日・6月15日・8月10日・11月6日・1月10日・2月1日・3月15日(7回)
看護協会 職能委員会 1名参加
- 2) 4月17日・5月10日・6月6日・10月18日・11月15日・12月25日・2月17日・3月14日(8回)
看護協会 看護の日・週間行事実行委員会 1名参加
- 3) 6月1日・2日 日本医療保育学会 「MRI プレパレーションツールの作成と実践報告」 3名参加
- 4) 5月24日・6月28日・7月26日・8月23日・9月27日・10月25日・11月22日・1月14日・
2月28日・3月28日(9回) 看護協会 第4回役員会・評議会 1名参加
- 5) 5月28日・9月19日・12月13日 (3回) 感染管理ベストプラクティス研究会 1名参加
- 6) 5月25日 看護協会 通常総会 2名参加
- 7) 6月15日 株式会社モルテン健康用品事業本部
「明日から実践～褥瘡予防のスキンケア」講師 1名参加
- 8) 6月21日 鹿児島市保健所 母子健康連絡会 2名参加

9) 6月15日・12月20日(2回)	看護協会 鹿児島地区委員会	1名参加
10) 6月29日	県委託研修 助産師研修会 「離島への助産師支援を行って」	1名参加
11) 7月3日	内視鏡学会 「ワイパー型内視鏡クリーニングで胃バイパスを導入して」	2名参加
12) 7月5日・8月8日・9月25日・11月14日・1月16日・3月11日(6回)	看護協会 第1回社会経済福祉委員会	1名参加
13) 7月6日	公開講座「ストーマリハビリテーションの基本」講師 鹿児島大学	1名参加
14) 7月11日	鹿児島市保健予防課 第1回子どもすこやか安心ねっと事業調整会議	5名参加
15) 7月13日	鹿児島県減菌業務研究会 第40回鹿児島県減菌業務研究会協力	1名参加
16) 7月20日	第20回鹿児島自己血治療法研究会 「貯血式自己血パス導入について」	2名参加
17) 7月22日	看護協会 平成25年度鹿児島市献血推進対策協議会	1名参加
18) 7月27日	看護協会 介護施設及び在宅等で働く看護師研修会	1名参加
19) 8月17日・9月7日	看護協会 准看護師研修会及び看護師職能委員会	1名参加
20) 8月22日	鳳凰高等学校看護学科基礎過程 実習病院・高校連絡協議会	1名参加
21) 8月30日	鹿児島県周産期医療センター看護部門連絡会	4名参加
22) 9月8日・9日	看護協会ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ派遣	1名参加
23) 9月14日	第29回ストーマリハビリテーション研究会 「ストーマケアへ消極的な患者への退院指導」	2名参加
24) 9月14日	第29回九州ストーマリハビリテーション研究会 座長	1名参加
25) 9月14日	大鵬薬品工業株式会社 「第1回 Cancer Care Management Seminar」	1名参加
26) 10月19日	看護協会「褥瘡ケアの基礎(大隈地区)」講師	1名参加
27) 10月26日	日本手術看護学会 第16回手術看護研修会 協力員派遣	1名参加
28) 10月10日	看護協会 看護師研修会の出席依頼	1名参加
29) 10月17日・18日	独立行政法人国立がん研究センター 平成25年度看護研修企画・指導者研修受講	1名参加
30) 10月21日・22日・10月19日・20日・11月16日・17日(6回)	医療事故・紛争対応 人材養成講座	1名参加
31) 11月15日	介護労働安定センター 平成25年度介護事業者支援セミナー講師	1名参加
32) 11月21日	やまびこ医療福祉センター 褥瘡予防研修会講師	1名参加
33) 11月22日	第9回エイズ拠点病院ネットワーク会議	2名参加
34) 11月30日	大鵬薬品工業株式会社 「TAIHO CINV SYMPOSIUM」職員派遣	1名参加
35) 12月8日	固定チーム研修 「受け持ち看護師が積極的に取り組む退院支援活動」	2名参加
36) 12月13日	感染管理ベストプラクティスワーキング 「外来処置室における手指衛生実態調査」	2名参加
37) 12月14日	看護協会 鹿児島県看護協会事業検討会	1名参加
38) 12月19日	整形外科三愛病院 褥瘡委員会主催の創傷処置研修講師	1名参加
39) 12月25日	看護協会 「看護の日」記念事業検討会実行委員会委員長	1名参加
40) 1月18日	鹿児島労働局労働基準部監督主催 医療分野の雇用の質のための研修会	2名参加
41) 1月21日	鹿児島市保健所 母子保健連絡会	4名参加
42) 1月22日・23日	看護協会 助産師関連事業説明及び助産師出向支援モデル事業合同報告会	1名参加
43) 1月24日	看護協会 第47回鹿児島県保健看護研究学会座長	1名参加
44) 1月29日	看護協会 ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ派遣	1名参加
45) 2月17日～19日	福井大学医学部附属病院 PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム)研修	5名参加
46) 2月25日	鹿児島大学病院PNS見学研修	10名参加
47) 2月26日	〃	11名参加
48) 2月27日	母性看護学講師 阿久根市民病院附属看護学校	1名参加
49) 3月8日	看護連盟 褥瘡ケア 講師	1名参加
50) 3月20日	第4回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	2名参加

【中央放射線部】

1) 5月18日	エシエロンユーザーズミーティング MRI 講演	2名参加
----------	-------------------------	------

2) 5月18日	腹部影像にまつわるエトセトラ 講師 (株)日立メディコ	1名参加
3) 5月25日	臨床実習指導者会議 城山観光ホテル	2名参加
4) 6月8日	診療放射線技師基礎技術講習会(MRI 検査)MRI 講演 長崎	1名参加
5) 6月21日	日立メディコ講演会(臨床現場から見たエシエロンベガ)MRI 講演	2名参加
6) 6月23日	心電図セミナー 鹿児島県市町村自治会館	3名参加
7) 7月2日	フレッシューズセミナー 大学病院	1名参加
8) 7月7日	九州部会 MR セミナー(撮影方法から画像評価方法の取得)MRI 講師	1名参加
9) 8月1日	結核予防技術者地区別講習会 鹿児島県庁会議室	1名参加
10) 8月2日	肺がん検診均てん化研修会 鹿児島県医師会館	1名参加
11) 8月2日	乳がん検診研修会 鹿児島県医師会館	1名参加
12) 8月9日	がんの早期診断に関する研修会 鹿児島市立病院	8名参加
13) 8月23日	日立 Premier セミナー(エシエロンベガを使い倒す)MRI 講演	1名参加
14) 3月8日	市民公開講座「コ・メディカルの役割」 ホテルパレスイン鹿児島	2名参加

【緩和医療課】

1) 6月1日	鹿児島県がん相談員部門会議	1名参加
2) 1月12日・13日	鹿児島医療センター主催 緩和ケア研修 ファシリテーター	2名参加
3) 2月21日	鹿児島県がん相談員部門会議	2名参加
4) 3月1日・2日	鹿児島大学病院主催 緩和ケア研修 ファシリテーター	1名参加

【薬剤部】

1) 4月16日・7月17日・10月16日・1月15日(4回)	保険薬局と連携会議	7名参加
2) 5月15日・8月28日・11月20日・2月19日(4回)	がん化学療法薬薬連携研修会	23名参加

【栄養管理部】

1) 4月20日	クリニコ経腸栄養セミナー (鹿児島)	4名参加
2) 6月22日	第9回びくるすの会研究会 自治会館	1名参加
3) 8月19日	食フォーラム 2013	2名参加
4) 12月15日	鹿児島県慢性腎臓病(CKD)に関する研修会	3名参加
5) 11月2日	市民健康まつり	1名参加
6) 11月14日	異常症治療ガイドライン 2013年版普及啓発セミナー	4名参加
7) 1月11日・12日	第17回日本病態栄養学会教育セミナー(大阪)	1名参加
8) 1月19日	九州・山口口腔ケアシンポジウム in 鹿児島	1名参加
9) 1月19日	生活習慣病予防食生活セミナー・コレステロール	1名参加
10) 2月2日	カーボカウント&インスリンポンプセミナー(熊本)	3名参加
11) 2月2日	CKD診療ガイドラインセミナー	1名参加

【在宅医療部】

1) 6月22日	鹿児島県褥瘡セミナー	2名参加
2) 10月11日	訪問看護師基礎研修会	1名参加
3) 10月26日	鹿児島県呼吸療法研究会	2名参加
4) 10月31日	介護サービスの質の向上に資する研修会	1名参加
5) 11月28日	在宅医療推進研修会	2名参加
6) 2月15日	呼吸理学療法研修会	1名参加
7) 3月26日	認知症をめぐる動向と訪問看護研修会	1名参加

【褥瘡管理課】

1) 4月19日	鹿児島県オストメイトの会「こだま会」 「平成25年度 定期総会(鹿児島県支部)」	1名参加
2) 6月15日	メディカルケアサポートセミナー in 奄美 主催：モルテン株式会社 「Wellbeing と褥瘡対策を考えるー 「明日から実践！」～褥瘡予防のスキンケア～」	1名参加
3) 6月22日	日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会 第6回鹿児島県在宅褥瘡セミナー	1名参加

- | | | |
|-----------|---|------|
| 4) 7月6日 | 第17回 鹿児島大学医学部保健学科公開講座
「スマートリハビリテーションの基本」実技指導 | 1名参加 |
| 5) 10月19日 | 平成25年度鹿児島県看護協会主催(大隅地区)
「褥瘡ケアの実際」ジェネラリストの能力開発促進教育(stage I・II・III) | 1名参加 |
| 6) 11月21日 | 社会福祉法人 日陽会 やまびこ医療福祉センター 褥瘡勉強会
「褥瘡予防のためのポジショニング」 | 1名参加 |
| 7) 12月19日 | 医療法人 三愛会 整形外科三愛病院 褥瘡勉強会 褥瘡評価 DESIGN-R | 1名参加 |
| 8) 3月8日 | 鹿児島県看護連盟 南薩地区研修会
「褥瘡ケアの実際」～褥瘡深達速度別の褥創処置・ケア～ | 1名参加 |
| 9) | 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会 | 1名参加 |
| 10) | 第6回鹿児島県在宅褥瘡セミナー(企画・運営会議) | 1名参加 |
| 11) | 鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師会議 | 1名参加 |

【事務部】

- | | | |
|-----------|---|------|
| 1) 5月11日 | NPO 医療の質に関する研究会
シンポジウム2013:「インフォームド・コンセントの再考と支援」 | 1名参加 |
| 2) 11月29日 | JDream Users Day(文献データベース説明会) 2013 | 1名参加 |
| 3) 12月19日 | 第44回かごしま医療IT研究会 | 4名参加 |
| 4) 1月18日 | 鹿児島県労働局労働基準部監督主催 医療分野の雇用の質のための研修会 | 1名参加 |

20. 入院患者の不在者投票を実施した

- | | | | |
|-------------|--------------------|-------------|-------|
| 1) 7月21日執行 | 参議院議員通常選挙 | 7月18日不在者投票 | 49名実施 |
| 2) 9月22日執行 | 屋久島町議会議員選挙 | 9月19日不在者投票 | 3名実施 |
| 3) 11月17日執行 | 霧島市長選挙および桐嶋氏議会議員選挙 | 11月15日不在者投票 | 2名実施 |
| 4) 12月1日執行 | 知名町長選挙 | 11月24日不在者投票 | 1名実施 |

21. その他の活動報告

- | | |
|-----------|--|
| 1) 4月1日 | 平成25年度鹿児島大学臨床教授委託
昇卓夫・西澤輝彦・松永俊二・濱之上雅博・古賀公明・児浦純生
丸山芳一・白濱浩・田代幸恵・川島寿史 10名 |
| 2) 8月1日 | 平成25年度鹿児島大学臨床教授委託 米田敏 |
| 3) 10月1日 | 平成25年度鹿児島大学臨床教授委託 井尻幸成 |
| 4) 10月17日 | 産科退院患者様による「おぎゃー献金」を日母おぎゃー献金基金へ献金する |
| 5) 11月2日 | 第62回鹿児島市おはら祭前夜祭出場 113名 |
| 6) 12月25日 | 職員によるNHK歳末助け合い募金 103,003円寄付 |
| 7) 12月30日 | つるぞえひなた君を救う会募金 1回目 75,803円寄付 2回目 63,708円寄付 |

22. 表彰

- | | | |
|----------|------------------------------------|--------------------|
| 1) 5月25日 | 看護協会 平成25年度鹿児島県看護協会会長表彰 | NICU看護師長 古川秀子 |
| 2) 6月5日 | 公益社団法人 日本水難救済会(東京)洋上救急に貢献のため名誉総裁表彰 | |
| 3) 6月29日 | 鹿児島県医師会 鹿児島県医師会会長賞(看護業務功労)表彰 | サプライ看護師長 東美津子 |
| 4) 7月18日 | 第十管区海上保安本部長表彰(ウエルビュー鹿児島) | 外来副師長 尾堂知子 |
| | 第十管区海上保安本部長表彰(ウエルビュー鹿児島) | 呼吸器外科科長 今給黎尚幸 |
| | 鹿児島海上保安本部長表彰 (ウエルビュー鹿児島) | 脳神経外科 河井浩志・麻酔科 西山敦 |
| | 鹿児島海上保安庁長官表彰 海の日海事功労者表彰 | 今給黎総合病院 |
| | 鹿児島海上保安部 洋上救急活動に関する感謝状 | 外来副師長 尾堂知子 |
| | | 外来看護師 熊迫智枝・松田めぐみ |
| 5) 10月2日 | 厚生労働大臣表彰受賞 産科医療功労者 | 産婦人科 寺原賢人 |
| 6) | 第60回小児保健学会 長年の奉仕に対して表彰 | 小児科部長 堀之内兼一 |

VII. 今給黎総合病院の現況

(1) 標榜科目(28 診療科)

内科, 糖尿病内科, 血液内科, 神経内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 肝臓内科, 循環器内科, 小児科, 外科(消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門), 整形外科, 形成外科, 脳神経外科, 呼吸器外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 新生児内科, 眼科, 気管食道・耳鼻いんこう科, リハビリテーション科, 放射線診断科, 放射線治療科, 歯科, 歯科口腔外科, 麻酔科, 救急科, 病理診断科

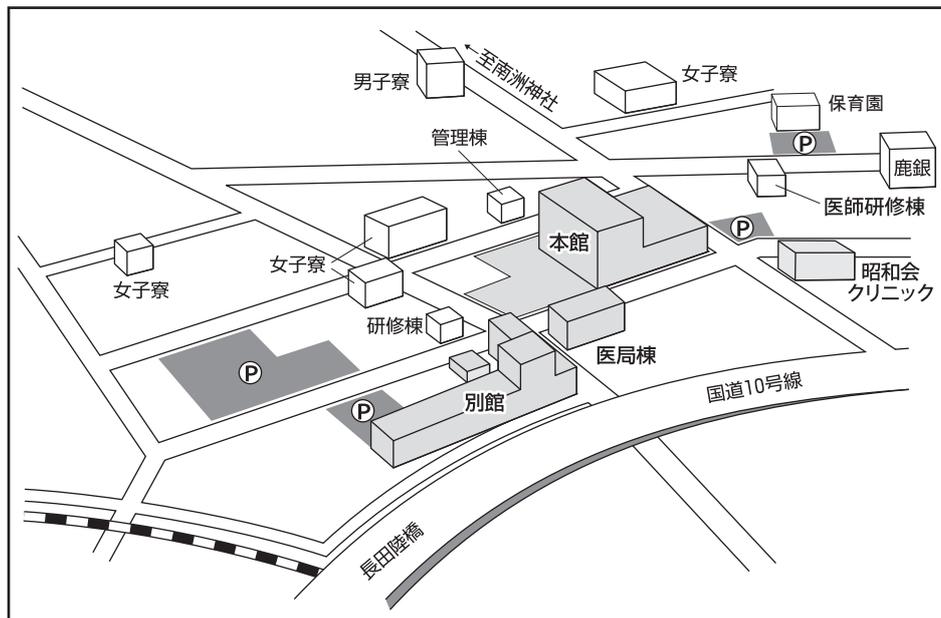
(2) 許可病床数 一般病床 450 床

病棟	病室数	病床数	診療科	
本館	2 F 西	12	19	産婦人科
	NICU-GCU	2	19	新生児内科
	2 F 東	18	61	外科, 消内, 形成
	3 F 西	19	43	呼内, 呼外, 緩医
	3 F 中	7	37	循内, 糖内, 整形
	3 F 東	12	37	脳外, 泌尿
	4 F 西	10	31	眼科, 形成
別館	I C U	1	8	外科, 麻酔科
	2 F 北	13	45	放射線科, 総内
	2 F 南	10	43	神経内科, 皮膚科
	3 F 北	12	42	整形外科
	3 F 南	8	41	整形外科
合計	133	450		

(3) 施設の概要

		敷地	建物
病院	本館	3,407.3 m ²	10,542.6 m ²
	別館	3,656.2	5,531.5
	医局棟	290.1	546.8
福利厚生施設	研修棟	156.6	280.1
	医師研修等	224.2	523.9
	第1女子寮	616.8	1,329.7
	第2 "	987.8	2,243.0
	第3 "	1,000.2	521.2
	第4 "	286.6	535.8
	第5 "	200.6	409.9
男子寮	1,582.0	433.5	
保育園	(第3寮と同敷地)	157.1	
管理棟	179.0	411.8	
患者専用駐車場	2,632.5	—	
医療関連施設建設予定地	81,642.0	—	
患者用駐車場	170台収容可		

(4) 病院及び関連施設配置図



H26.1.1 現在

(5) 病院施設概要

本館

7 F	・会議室・和温療法室・患者図書室 ・高気圧酸素治療室・臨床工学部
6 F	・中央手術室6室(手術台8台)
5 F	・ICU室(8床)・サブライセンター
4 F	・病理部・看護部長室・言語聴覚室・当直室 ・病棟(眼、形)・ナースステーション(4F 西)
3 F	・病棟(呼内、呼外、緩和、循内、糖内、整、脳外、泌) ・ナースステーション(3F 西、3F 中、3F 東)
2 F	・病棟(産婦、周産母子、外、消内、形) ・ナースステーション(2F 西、2F 東、NICU・GCU) ・薬剤部薬剤管理室
1 F	・総合内科・患者サポート相談室 ・総合受付・薬剤部・医事部 ・救急室・総合処置室・外来化学療法室 ・各科外来診療室・薬品情報室 ・内視鏡室(消化器)・相談室(医療・栄養) ・外来検査室・心電図室 ・新入院患者様待合室・家族控室(ICU・手術)
B 1	・放射線科外来診察室・中央放射線部 ・画像診断室・診療情報管理部 ・中央監視センター・自家発電装置室 ・高圧変電室・空調機械室・売店
B 2	・前立腺シード室

医局棟

3 F	カンファレンスルーム
2 F	医局・院長室
1 F	医局・当直室

管理棟

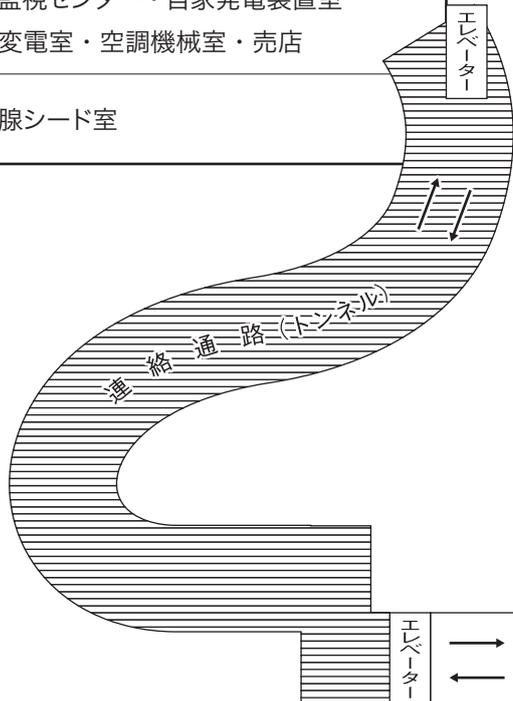
3 F	医療相談室・地域医療連携室・感染管理課 医療安全管理課・褥瘡管理課・緩和医療課 がん化学療法課
2 F	在宅医療部・看護師控室
1 F	公益財団法人昭和会 事務局

研修棟

3 F	研修室
2 F	研修室
1 F	テナント

別館

4 F	・病棟(小、気・耳、歯口外) ・ナースステーション(4F 北)
3 F	・病棟(整) ・ナースステーション(3F 北、3F 南)
2 F	・病棟(放、総内、神内、皮) ・ナースステーション(2F 北、2F 南)
1 F	・中央臨床検査部・リニアックセンター ・生理検査室(心エコー・脳波・筋電図) ・栄養管理室・調理室・浴場
B 1	・講義室(大ホール) ・機能訓練室(理学・作業・言語) ・ハーバードタンク室 ・洗濯室
B 2	・気管支鏡準備室 ・病理解剖室・霊安室



(6) 医師研修施設指定の現状

S58.	4.	11	日本整形外科学会・専門医研修施設	H20.	4.	1	日本泌尿器科学会・基幹教育施設
S63.	1.	1	日本泌尿器科学会・専門医教育施設	H20.	12.	20	日本呼吸器学会・専門医制度関連施設
S63.	9.	1	日本眼科学会・専門医研修施設	H21.	4.	1	日本集中治療医学会・専門医研修施設
H2.	5.	18	日本麻酔科学会・麻酔科標榜研修施設	H21.	4.	1	日本血液学会・認定研修施設
H2.	12.	19	日本内科学会・認定医教育関連病院	H21.	10.	1	日本産婦人科学会・専門医制度卒後臨床研修指導施設
H3.	4.	1	日本医学放射線学会・専門医修練機関	H21.	10.	1	日本口腔外科学会・専門医制度研修施設
H3.	4.	1	日本耳鼻咽喉科学会・専門医研修施設	H22.	1.	1	日本救急医学会・専門医指定施設
H4.	7.	13	日本脳神経外科学会・専門医指定訓練場所	H23.	1.	1	日本消化器外科学会・専門医研修施設
H7.	3.	22	日本形成外科学会・認定医研修施設	H23.	7.	1	日本胆道学会・指導医制度指導施設
H7.	5.	10	日本呼吸器外科学会・専門医認定制度施設	H24.	1.	1	日本消化器病学会・専門医制度認定施設
H7.	11.	21	日本外科学会・専門医制度修練施設	H24.	11.	1	PEG・在宅医療研修会 専門胃瘻造設施設 (～H25. 6)
H8.	4.	1	日本病理学会・認定病理制度登録施設	H25.	1.	13	日本手外科学会研修施設
H13.	7.	30	日本胸部外科学会・認定医認定制度関連施設				その他の施設認定
H14.	4.	1	日本皮膚科学会・専門医研修施設	H16.	8.	1	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設
H15.	4.	1	日本神経学会・専門医制度教育関連施設	H17.	4.	1	日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
H15.	4.	1	日本臨床細胞学会・認定施設	H17.	11.	1	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
H16.	4.	1	日本周産期新生児医学会・周産期(新生児)専門医暫定研修施設	H23.	2.	17	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士取得 実修練施設
H17.	2.	11	日本脳卒中学会 専門医研修教育施設	H23.	4.	1	日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設
H17.	12.	1	日本消化器内視鏡学会・専門医指導施設				H25. 9. 1現在
H18.	4.	1	日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医暫定研修施設				
H19.	10.	24	日本放射線腫瘍学会 認定施設				
H19.	11.	1	日本がん治療認定医機構 認定研修施設				
H20.	4.	1	呼吸器外科専門医合同委員会・基幹施設				

(7) 各種会議・委員会

	開 催	責 任 者	目 的
管理運営会議 (経営企画室会議)	月1回	代表理事	※管理運営に関する重要事項の審議と決定を行う
病院業務運営会議	月1回	代表理事、院長	※総合医療推進に伴い、実務についての連絡調整、意見集約を図りながらより充実したチーム医療を構築する
医師懇談会 診療部長会議 (CPC・症例(死亡)検討会)	月1回 (随時)	院 長	※各科及び各科間の総合医療に対する連絡調整 ※各科の意見集約
薬事委員会	年4回	大久保院長	※採用薬の整理・後発品への切り替え ※院内特殊製剤取扱い要項の整備
労働安全衛生管理 委 員 会	月1回	牟禮副院長	※職員の健康保持、職場の環境衛生の改善、健康診断の実施 ※職場の勤務能率の向上
個人情報保護推進 委 員 会	月1回	白濱(診療支援)部長	※当院が保有している患者・職員その他の情報について、個人情報保護に関する 法令等を遵守し、自主的なルール・体制を確立することにより、個人の権利・利益を保護する
防火対策委員会	年2回	院 長	※火災の予防及び火災発生時の対応 ※防火訓練の実施及び研修により、防火意識の高揚を図る
大規模災害対策 委 員 会	年1回	生野(総内)部長	※大災害発生時、負傷者等に対し医療機関が果たすべき医療活動をより有効的に対応できるよう、日常より対策を困り、危機対応に備える
医療ガス設備安全 委 員 会	年1回	牟禮副院長	※医療ガスの安全及び管理について審議し決定し以て医療事故防止を図る。
栄養管理委員会	月1回	院 長	※栄養管理の質の向上及び患者へのサービス改善 ※厨房の衛生管理及び従業員の研修

	開 催	責 任 者	目 的
治験審査委員会	月 1 回	生野(総内)部長	※医薬品の製造（輸入）承認申請または承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集を行う ※医薬品の再審査申請、再評価申請または副作用調査の際に提出すべき資料の収集を行う
放射線安全管理委員会	年 1 回	中禮(放治)部長	※放射線障害の発生の防止と、公共の安全を確保する
化学療法緩和ケアネットワーク会議	月 1 回	牟禮副院長	※院内で行われている癌化学療法の問題点などを、医師、看護師、薬剤師、栄養士などの多数の職種の医療関係者が集まって議論し、解決策を見出す ※外来化学療法の現状の報告、問題点の洗い出し、解決 ※緩和ケアに関する問題点の議論、やり方などの紹介、院内での統一化
院内がん登録委員会	年 2 回	院 長	※病院におけるがん診療の向上と患者診療への支援、患者・家族、一般への情報提供、ならびに国のがん対策立案のための情報提供を目的とし、院内で診断・治療を行った全てのがん患者についてその診断から治療、ならびに予後に関する情報を登録するにあたり、検討すべき事柄を議論する。
DPCコーディング委員会	年 4 回	牟禮副院長	※標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保する
医療安全対策委員会 (ICT カンファレンス)	月 1 回 (週 1 回)	松永副院長	※患者が受ける医療事故に対し、平常よりその安全対策を検討し職員への安全教育を実施することにより医療の質の確保・向上を図る ※医療事故発生時の適切な対応 ※医療事故の経験を無駄にしないため、原因分析と安全対策を検討の上、安全教育の場にフィードバックし、より強固な安全対策を図る
医事問題委員会	随時	院 長	※医事問題について迅速かつ適切に対応する
病院感染防止対策委員会 (安全管理部門カンファレンス)	月 1 回	丸山副院長	※病院感染の予防及び発生時の対応 ※医療従事者に対する啓蒙教育 ※医療廃棄物の処理 ※院内清掃管理
輸血療法委員会	月 1 回	丸山副院長	※輸血療法の適応、血液製剤の選択 ※輸血実施時の手続き、血液の使用状況 ※輸血療法に伴う事故・副作用・合併症等の対策
人工呼吸器安全管理委員会 (呼吸療法サポートチーム)	月 1 回	池田(麻)部長	※人工呼吸・呼吸療法に関する勉強会の開催、人工呼吸に関するマニュアル作成及びチェックリスト作成
看護安全対策委員会	月 1 回	医療安全管理責任者	※医療・看護の質を保証するために細心の注意と判断力を養い信頼される看護を目指す
医療機器安全管理委員会	随時	池田(麻)部長	※高度医療機器の効率的運用と安全性の確保を図る ※新規医療機器の選定及び評価
医療の質向上委員会 (病院機能評価)	年 6 回	院 長	※スタッフ・設備の充実及び医療の質を高め、安全な医療の提供に努める。 ※患者サービスの質の向上を図る。
T Q M 委員会 (QC サークル)	年 3 回	院 長	※病院全部署において、自主的に仕事内容の品質管理活動を行い、ムリ・ムダ・ムラを省き、全職員参加のもとに改善活動を継続的に実施し、病院の発展に寄与する ※働きがいのある明るい職場を作る
診療記録検討委員会	月 1 回	丸山副院長	※診療録管理室の運営管理 ※診療録及び諸様式伝票類の検討

	開 催	責 任 者	目 的
救急医療部門運営委員会	年 1 回	西澤副院長	※救急患者受入の為の施設・設備・人員の整備、各科の支援体制と入院患者に対する救急体制の確立など、救急医療に関する部門の効率的運営を図る
倫理審査委員会 (小委員会)	随時 (月 1 回)	代表理事 (院長)	※倫理上問題となる症例への対応及び倫理に関する教育・研修などにより、患者中心の医療を推進する
クリニカルパス委員会	月 1 回	中目(泌)部長	※インフォームド・コンセントの充実により患者満足度を高め、チーム医療の促進を図る
救急・手術室・ICU・NICU 運営委員会	年 6 回	池田(麻)部長	※手術室使用の効率的運営を図る ※手術室の各種機器・設備の整備・保守・点検・清潔の保持及び安全管理を図る ※集中治療室の適切な運営と施設整備を図る
医療情報システム委員会	月 1 回	西澤副院長	※患者サービスの向上・診療内容の質と安全性の向上・業務の標準化推進・診療業務の改善・院所管理・経営の改善・激動する医療情勢への攻勢的な対応等を考慮し、電子カルテシステム(医療情報システム)の効率運営を目指す
N S T 委員会 (栄養サポートチーム)	月 1 回	生野(総内)部長	※入院患者の栄養評価、栄養管理および栄養指導を行い栄養状態の改善を図る。 ※研究会、講演会を開き、NST メンバーおよびその他の全スタッフの栄養管理に関する啓発をおこなう
褥瘡対策委員会	月 1 回	高木(形成)部長	※褥瘡対策に関する診療・看護計画を作成し、予防及び対策を実施する ※専門的知識・技術で患者・家族の QOL を高める
看護業務委員会	月 1 回	看護師長(互選)	※看護業務の改善及び看護手順等を文章化し、全職員に周知させ看護水準の維持、向上を図る
看護記録委員会	月 1 回	看護師長(互選)	※看護記録を充実させることを通して、看護ケアの質の向上を図る
看護部入退院支援調整委員会	月 1 回	近藤看護副部長	※各部署における円滑な入退院支援調整の実践を支援することで、患者の早期退院・ケアの質の向上を図る
臨床検査適正化委員会	年 2 回	白濱(診療支援)部長	※精度管理報告・新規検査項目の実施・外注化検査項目の決定や中止・検査運用の変更等、臨床検査の適正化を図る
患者図書室運営委員会	年 4 回	院 長	※患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討する ※患者図書室としての意向を反映できるようにする
がん看護委員会	月 1 回	大西緩和ケア 認定看護師	※地域がん診療拠点病院であり、がん患者と家族がどの時期であっても安心して治療・療養できるように病院全体のケアの質向上を図る。 他
PNS プロジェクト推進委員会	月 2 回	看護師	※PNS の基本に基づき導入・浸透・定着ができる為に、全職員が PNS について理解でき、安全で質の高い看護を提供する
看護必要度推進委員会	月 2 回	看護師長	※実施した看護が正確に記録でき、正しい評価ができるようにする。
医師臨床研修委員会 (研修医体制会議)	年 2 回 (月 1 回)	院 長	※将来、プライマリ・ケアに対処し得る第一線の臨床医・高度専門医・救急専門医を目指す為に必要な基本的な知識・技能を取得及び医療人としての人間形成を目的とする
職員教育研修委員会	年 2 回	長堂(神内)部長	※安全で質の高い医療を提供するには、職員の生涯に互る教育研修は極めて重要であり組織的・継続的に取り組んでいく

	開 催	責 任 者	目 的
図 書 委 員 会	年 2 回	院 長	※図書資料を通じ、職員の生涯研修及び医学・医療の知識の向上を図り地域医療・救急医療に貢献する
看護教育委員会	月 1 回	藤山副看護部長	※職務遂行能力と自己研鑽能力を啓発し専門職業人としての人間性を養い、社会の変化に対応できる看護職員を育成する
看護臨地実習指導者会議	月 1 回	看護師長(互選)	※臨地実習の意義と実習指導者としての役割が理解でき、効果的な実習指導を行う ※実習指導者としての資質の向上を図る
病床運営委員会 (入退院支援調整会議)	月 1 回	院 長	※病床の効率的な科別配分及び入院予約状況や空床理由の把握等により病床の有効利用を目指す ※入退院促進の働きかけにより平均在院日数の短縮を図る
医療機器・診療材料購入委員会	月 1 回	代表理事	※一定額を超える物品（機械器具、備品）の購入（リース物件含む）に関し選定等に適正を期することを目的として設置する ※一定額以上の物品購入等については、本委員会の承認を必要とする
業務委託検討委員会	年 2 回	代表理事	※必要に応じて業務委託することにより円滑化・効率化を図る ※業務の質の改善と患者サービスの向上を図る
労務管理(人事考課)委員会	月 1 回	院 長	※職員の能力開発・育成を促進し、職場の活力を高める
働き続けられる職場づくり (Work life balance) 検討委員会	随時	院 長	※職員の働きやすい職場環境の見直しを行う ※職員の子育て支援活動（託児所・病児保育の充実など）を行なう
労 使 協 議 会	随時	院 長	※労働意欲と健康の維持増進を図ると共に、労使協同して職場を盛り上げ、相互の満足充実度の向上を目指す
職員駐車場互助会	年 1 回	院 長	※職員の車通勤者の為に、職員駐車場の効率的運営管理及び経済的互助活動を行う H26.9 現在
患者サービス委員会 (患者サポート体制会議)	月 1 回 (週 1 回)	院 長	※患者が外来・入院診療を受けるに当たり、明るい病院及び誠実と愛情に満ちた病院として物心両面より温もりのある環境作りを目指す ※患者の為に職員研修教育を実施する
広 報 委 員 会	年 4 回	西澤副院長	※医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、インターネットを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対しての広報を行なう
健康まつり実行委員会	年 1 回	院 長	※地域住民の方を対象に、健康は日常の生活習慣による影響が多であることの認識を周知すると共に健康増進への普及を図る

(8) 諸制度の指定状況

● 各種法による当院の取扱指定状況

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1、 保険医療機関 | 10、 感染症法（第37条の2）指定病院 |
| 2、 国民健康保険医療取扱機関 | 11、 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院 |
| 3、 労災保険指定病院 | 12、 母体保護法指定病院「不妊手術」 |
| 4、 労災保険二次健診等給付病院 | 13、 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院 |
| 5、 生活保護法指定病院 | 14、 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院 |
| 6、 介護保険法「居宅介護支援事業所」指定病院 | 15、 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院 |
| 7、 生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院 | 16、 母子保健法指定病院「養育医療」 |
| 8、 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療） | 17、 出入国管理及び難民認定法指定病院 |
| 9、 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療） | 18、 救急告示病院 |

●九州厚生局による当院の許認可事項

○基本診療料の施設基準等

- ※一般病棟入院基本料(7対1)
- ※総合入院体制加算
- ※臨床研修病院入院診療加算(基幹型)
- ※救急医療管理加算
- ※超急性期脳卒中加算
- ※妊産婦緊急搬送入院加算
- ※診療録管理体制加算
- ※医師事務作業補助体制加算25:1
- ※急性期看護補助体制加算25:1
- ※急性期看護補助体制加算の注3に掲げる看護職員夜間配置加算
- ※重症者等療養環境特別加算
- ※緩和ケア診療加算
- ※がん診療連携拠点病院加算
- ※医療安全対策加算
- ※感染防止対策加算1
- ※感染防止対策地域連携加算
- ※褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ※ハイリスク分娩管理加算
- ※ハイリスク妊娠管理加算
- ※退院調整加算
- ※救急搬送患者地域連携紹介加算
- ※救急搬送患者地域連携受入加算
- ※データ提出加算2
- ※特定集中治療室管理料4
- ※新生児特定集中治療室管理料1
- ※新生児治療回復室入院医療管理料
- ※小児入院医療管理料5
- ※患者サポート体制充実加算
- ※栄養サポートチーム加算
- ※新生児特定集中治療室退院調整加算
- ※亜急性期入院医療管理料

○特掲診療料の施設基準等

- ※がん性疼痛緩和指導管理料
- ※がん患者指導管理料1,2,3
- ※外来緩和ケア管理料
- ※院内トリアージ実施料
- ※夜間休日救急搬送医学管理料
- ※外来リハビリテーション診療料
- ※外来放射線照射診療料
- ※ニコチン依存管理料
- ※開放型病院共同指導料
- ※地域連携診療計画管理料
- ※がん治療連携計画策定料
- ※がん治療連携管理料
- ※薬剤管理指導料
- ※医療機器安全管理料1,2
- ※在宅訪問看護・指導料
- ※HPV核酸固定検査
- ※検体検査管理加算(IV)
- ※神経学的検査
- ※CT透視下気管支鏡検査加算
- ※画像診断管理加算1
- ※画像診断管理加算2
- ※CT撮影及びMRI撮影
- ※冠動脈CT撮影加算
- ※放射線治療専任加算
- ※高エネルギー放射線治療
- ※1回線量増加加算
- ※病理診断管理加算1
- ※大腸CT撮影加算
- ※抗悪性腫瘍剤処方管理加算

※外来化学療法加算1

- ※無菌製剤処理料
- ※脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
- ※運動器リハビリテーション料(I)
- ※呼吸器リハビリテーション料(I)
- ※がん患者リハビリテーション料
- ※乳がんセンチネルリンパ節加算1
- ※緑内障手術
- ※網膜再建術
- ※腹腔鏡下肝切除術
- ※腹腔鏡下膝体尾部腫瘍切除術
- ※腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- ※腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
- ※ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ※医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に揚げる手術
- ※輸血管理料I
- ※輸血適正使用加算
- ※人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ※麻酔管理料(I)
- ※外来放射線治療加算
- ※直線加速器による定位放射線治療
- ※クラウン・ブリッジ維持管理

●その他の取扱指定状況

- 1、医師臨床研修病院(基幹型)
- 2、歯科医師臨床研修病院(協力型)
- 3、洋上救急業務支援協力医療機関
- 4、厚生労働省医薬品・医療器具安全性情報協力施設
- 5、厚生労働省DPC対象病院
- 6、県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関
- 7、県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関
- 8、県エイズ治療拠点病院
- 9、県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援)
- 10、県重症難病医療協力病院(短期入所施設)
- 11、痛風治療協力医療機関
- 12、鹿児島市高規格救急車指示病院
- 13、県救急・災害医療情報システム登録病院
- 14、県広域災害医療情報システム(EMIS)登録病院
- 15、県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム輪番病院
- 16、県指定かごしま子育て応援企業
- 17、市指定こここ子育て応援隊認定企業
- 18、産科医療補償制度加入医療機関
- 19、県女性医師復職研修事業指定病院
- 20、県地域周産期医療支援病院
- 21、県指定地域周産期母子医療センター
- 22、厚生労働省指定地域がん診療連携拠点病院
- 23、県指定地域医療支援病院
- 24、各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関

H26.9現在

VIII. 医療設備概要

(放射線部門)

※印：今年度購入(新設・更新)
病棟・手術室・外来部門は除く

検査室名等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(I)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
			(2)CXDI-22(臥位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
2	一般撮影室(II)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
			(2)CXDI-11(立位用X線デジタルカメラ)	1
第1 操作通路	CR レーザーイメージャー	コダック	(1)CR800 (2)CR850	1
5	FPD式X線テレビ室(Cアーム)	日立	SF-VA2000FP(Versi Flex)	1
6	FPD式X線テレビ室	日立	EXAVISTA	1
7	X線CT室(II)	日立	SCENARIO(64列MDCT)	1
8	アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9	X線CT室(I)	フィリップス	ブリリアンス	1
			Brilliance64(64列MDCT)	1
10	MR I 室	日立	ECHOLON Vega(1.5テスラ)	1
11	R I 室	フィリップス	BRIGHTVIEW(特)	1
13	乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV	1
			(2)マルチケアー・マンモトーム(組織生検)	1
14	前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード	1
			(2)クリアスコープ9000	1
第2 操作通路	レーザーイメージャー	コダック	ドライビュー8900	1 1
受付・画像処理		テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACS・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル		東芝 GE シーメンス	(1)SXT-1000A	1
			(2)Brivo OEC 850	1
			(3)モビレット プラスHP	1
本館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレット プラス	1
別館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレットXP Hybrid	1
リニアックセンター		エレクタ フィリップス	(1)プリサイズ トリートメント システム (2)ピナクル	1 1

(検査部門)

コーナー	機器名称	メーカー	用途	台数
血液一般	クリニテックアドバンタス	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	尿定性検査	1
	コアプレスタ2000	積水メディカル	血液凝固項目	1
	総合血液学検査装置ADVIA2120i	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	血液像、血算項目他	1
	自動血沈計 モニター20	常光	血沈測定	1
	遠心分離器2010	クボタ	遠心作業	2
	双眼顕微鏡 BH2	オリンパス	血液像、尿沈査他	3
	血小板凝集能測定装置 MCM HEMA TRACER 313M	エル・エム・エス	ADP、コラーゲン	1
	集細胞遠心装置サイト・スピンド	サーモフィッシュサイエンティフィック	遠心器	1
	骨髓像分類計数装置F510	ERMA INC	骨髓像分類	1
	生化学	JCA-BM9130	日本電子	生化学項目・免疫項目
Toxinometer NX		和光	BDグルカン、エンドトキシン	1
AIC全自動測定装置HA-8170		アークレイ	HbA1c、HbA1c	1
AVL OPTI		AVL	PH、PCO2、PO2	1
OSMOSTAT OM6020		アークレイ	血液、尿、OSM	1
分光光度計		エルマ	生化学他定量測定項目	1
超低温フリーザー(-80℃)		日本フリーザー	凍血保存用(血清、リコール等)	1
DRI-CHEM100		フジフィルム	NH3測定	1
血中薬物濃度測定器Viva-E		シーメンス	ジゴキシン他7項目測定	1

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
生 化 学	遠心分離器2010・2410・※4000	クボタ	血清分離	3
	cobas h232	ロシュ・ダイアグノスティックス	トロポニンT	1
	業務用冷凍冷蔵庫	ナショナル	試薬管理・血清保存	1
	THERMOSTATION TS100	和光	血清不活化用保温器(B-Dエンド)	1
	SDA 0080	オルガノ	蒸留装置	1
	全自動免疫血清測定器AIA1800ST	東ソー	腫瘍マーカー、ホルモン測定	1
	冷却遠心器	KUBOTA2800	血清分離	1
輸血免疫血清	ヘモクイックAC-185	テルモ	自己血採血装置	1
	全自動洗浄器 MC450	日立	交差試験等セルウォッシュャー	1
	mini VIDAS	日本ビオメリュー	HIV、風疹、トキソ、E2、他	1
	サンフュージュ遠心器	三光純薬	交差試験専用遠心器	1
	遠心分離器 2010	クボタ	血清分離	1
	BIO-RAD輸血システム	BIO-RAD	輸血管理システム	1
	ID-Gelstation	BIO-RAD	輸血検査システム	1
	マイクロダイピングシステム用恒温器	BIO-RAD	輸血検査	1
	マイクロダイピングシステム用遠心器	BIO-RAD	輸血検査	1
	全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスG1200	富士レビオ	感染症検査	1
	HS-12遠心器	コクサン	血液型、交差試験専用遠心器	1
	サーモレギュレーター CTR400	IWAKI	交差試験用恒温槽	1
	恒温槽TR-S	アズワン	交差試験用恒温槽	1
	テルモチューブシーラーAC-155	テルモ	自己血用チューブシーラー	1
FFPバッグ解凍器FP-40	Meditex		1	
外来検査室	自動採血管準備装置 BC-ROBO-686	テクノメディカ	採血管準備	1
	クリニテックアドバンタス	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	尿定性検査	1
	OPTI CCATS	シスメックス	PH、PCO2、PO2	1
	遠心分離器 2010、4200	クボタ	血清分離	2
	cobas h232	ロシュ・ダイアグノスティックス	トロポニンT	1
双眼顕微鏡BH-2	オリンパス	尿沈査	1	
生理検査室	ホルター心電計	日本光電	24h 心電図	5
	ホルター心電図解析装置 DSC3100	日本光電	24h 心電図解析	1
	呼吸機能自動解析装置 FUDAC-77	フクダ電子	肺気量分画・フローボリューム他	1
	脳波計(18ch)	日本光電	脳波	1
	ポータブル用脳波計(14ch)(誘発電位検査装置付)	日本光電	脳波	1
	節電図・誘発反応検査装置	日本光電	節電図・ABR・SEP他	1
	磁気刺激装置	セルコム・日本光電	誘発反応刺激	2
	携帯用自動血圧モニター	日本光電	24hr 自動血圧計	1
	レポートジェネレーター	日本光電	24hr 自動血圧計解析	1
	※VaSera VS-3000TE(血圧脈波検査装置)	フクダ電子	CAVI・ABI・TBI検査	1
	自動解析装置付心電計	フクダ電子	心電図	3
	パルスオキシメータ	タインヘルスケアジャパン	パルスオキシメータ	1
	ネイタスアルゴ3i	アトムメディカル	聴覚誘発反応測定装置	1
	脳波計(NICU用)	日本光電	脳波	2
	携帯型心電計	デイリーケアバイオメディカル	心電図	1
	電気味覚計	リオン	味覚計	1
※イベントレコーダー	日本ライフライン	心電図	2	
※赤外分光分析装置	大塚製薬	ピロリ感染	1	
I C U	自動解析装置付き心電計	日本電気三栄	心電図・CVRR	1
	輸液ポンプ TE171	テルモ株式会社	輸液ポンプ	11
	輸液ポンプ OT-808	株式会社JMS	輸液ポンプ	15
	シリンジポンプ TE-351	テルモ株式会社	シリンジポンプ	12
	IntelliVue MP70	フィリップス	生体情報モニタ	8
	IntelliVue X2 MMS	フィリップス	生体情報モニタ	1
	頭蓋内圧モニタ ICPエキスプレス	ジョンソンアンドジョンソン	生体情報モニタ	1
	パルスオキシメータ N-550	コヴィディエンジャパン	ネルコア	3
	除細動装置ハートスタート M4735A	フィリップス	除細動装置	1
	ECG8300	日本光電	心電図	1
	血液凝固計ヘモクロン401	平和物産	臨床検査機器(血液凝固測定装置)	1
	ABL90FLEX	ラジオメーター株式会社	血液ガス分析装置	1
	人工呼吸器 PB-840	コヴィディエンジャパン	人工呼吸器	4
人工呼吸器 エビタXL	ドレーゲルメディカル	人工呼吸器	1	

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
I C U	人工呼吸器 エングストローム ケアステーション	GEヘルスケア	人工呼吸器	1
	メディサームII	GAYMAR	高・低体温維持装置	1
	アトムソニックライザー305	アトムメディカル	超音波 [®] ライゾ [®]	3
	個人用透析装置DBBシリーズ	日機装株式会社	血液透析装置	4
	RO水製造装置NEWΩ	IMS	透析用RO水製造装置	1
	気管支ファイバースコープ P-20	オリンパス株式会社	気管支内視鏡	1
	吊下げ式体重計スケルトロニクス モデル2001 フットポンプSCDエクスプレス	ウベ循環 コヴィディエンジャパン	体重計 コヴィディエンジャパン(ジャウダ)	1 1
細 菌 室	全自動細菌検査システム(マイクロスキヤン)	シーメンス・メディカルソリューションズ	一般細菌同定、感受性	1
	全自動オートクレーブ	平山	滅菌	1
	ふらん器	池本理化	培養器	2
	顕微鏡 BX50	オリンパス	グラム染色・抗酸菌染色他	1
	クラスII生物キャビネット	日本エアアテック	安全キャビネット	1
	顕微鏡Ni-U BACTEC 9050	ニコン 日本ペクトン・ディッキンソン	グラム染色・抗酸染色他 全自動血液培養検査	1 2
病理検査室	Synergy UV	日本ミリポアリミテッド	蒸留水作成	1
	解剖台 (PM-S-3型)	ホザナ	病理解剖	1
	ディスプレイツング・コンソール	ティシューテック	包埋	1
	クライオ・コンソール	ティシューテック	冷却(包埋カセット)	1
	臓器撮影台CPM-2000	コメット, 白井松	写真撮影	2
	超低温フリーザー MDF-190AT	サンヨー	凍結保存	1
	超低温フリーザー MDF-U281AT	サンヨー	凍結保存	1
	Elix UV3	日本ミリポアリミテッド	蒸留水作成	1
	マイクロトーム	ヤマト	パラフィン標本薄切	2
	パラフィン溶融器	サクラ	パラフィン溶融	1
	卵孚卵器(37℃)	サクラ	染色漆反応	1
	最高級写真顕微鏡 (PROVIS)AX-80	オリンパス	組織鏡頭用	1
	卓上小型遠心器 (クボタ2420)	クボタ	遠心器	1
	安全キャビネット	エアテック	検体処理	2
	オートクレーブ	サクラ	免疫染色	1
	PCRサイクラー	フナコシ	PCR	1
	クライオ3D	ティシューテック	凍結標本作製	1
	VIP5ジュニア	ティシューテック	脱水、造徹	1
	PCRサイクラー PC818	アステック	PCR	1
	冷却遠心器 3500	クボタ	PCR	1
	ブロックインキュベーター BI-525A	アステック	PCR	1
	VENTANA BenchMark ULTRA	ロッシュ	免疫染色	1
	HISTOSTAINER36A	NICHIREI	免疫染色	1
	HEAT PROII	NICHIREI	免疫染色	1
	LEICA BOND-III	Leica	免疫染色	1
	Histo-Tek Air-Pro	サクラ	局所排気装置	1
Tissue-Tek Glas	サクラ	局所排気装置	1	
NANDO DROP	Thermo	PCR	1	
バーチャルスライド装置 Fino	CLARO	組織鏡頭用	1	
内 視 鏡 室	胃ファイバースコープ(電子)	オリンパス	胃精密検査	8
	胃ファイバースコープ(処置用)	オリンパス	処置用	1
	胃ファイバースコープ(XP-260N)	オリンパス	経鼻内視鏡	1
	十二指腸ファイバースコープ(電子)	オリンパス	膵胆管造影	2
	大腸ファイバースコープ	オリンパス	大腸精密検査	4
	超音波ファイバースコープ	オリンパス	食道・胃・十二指腸	1
	気管支ファイバースコープ	オリンパス	気管支Ⅱ	2
	気管支ビデオスコープ	オリンパス	気管支Ⅱ	3
	光源装置	オリンパス	光源	4
	自動洗浄機	J&J	洗浄	5
	※自動洗浄機	オリンパス	洗浄	1
高気圧酸素 治 療 室	高気圧酸素治療装置	川崎エンジニアリング	高気圧酸素治療	2
	高気圧治療モニター HBDM2000	小池メディカル	生体情報モニター	1

IX. 病院統計

- 印:時間内診療はクリニックで実施
- 在宅医療含む
- 1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

(1) H25年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均	初診率(%)
○(一部) 内科 (糖・神内・呼・循・消・血)	2,008	2,002	2,020	2,117	2,017	1,885	2,103	1,933	1,952	2,057	1,710	2,050	23,854	1,988	88.3	19.4
○ 小児科	11	4	4	11	6	6	5	9	8	4	6	8	82	7	0.3	19.5
外科 (消・乳・甲・小・肛)	372	406	374	375	391	357	401	368	368	362	333	342	4,449	371	16.5	10.4
呼吸器外科	198	218	154	183	202	171	177	215	181	191	165	177	2,232	186	8.3	6.4
○ 整形外科	381	440	480	460	412	467	411	378	354	332	345	413	4,873	406	18.0	25.8
○ 形成外科	47	61	79	63	76	67	67	71	55	48	76	85	795	66	2.9	52.3
○ 脳神経外科	21	30	23	24	17	20	35	36	22	24	33	32	317	26	1.2	58.7
○ 皮膚科	5	17	15	22	58	19	11	11	32	7	4	8	209	17	0.8	79.9
泌尿器科	803	815	790	853	762	754	788	709	763	712	634	682	9,065	755	33.6	14.8
産婦人科	262	267	271	283	287	281	352	353	315	245	305	337	3,558	297	13.2	18.4
眼科	1,203	1,072	1,098	1,130	1,063	1,114	1,082	995	1,076	909	1,063	1,074	12,879	1,073	47.7	12.9
○ 気管食道・ 耳鼻いんこう科	8	5	8	9	7	2	6	1	9	8	7	3	73	6	0.3	53.4
○(一部) 放射線科 (診断・治療)	163	180	197	221	217	265	237	277	251	153	239	248	2,648	221	9.8	42.1
○ 麻酔科	30	33	27	31	23	26	23	33	35	28	19	27	335	28	1.2	8.7
緩和医療科	4	10	6	13	14	11	10	17	15	14	16	17	147	12	0.5	4.1
○ 歯科口腔外科	3	2	1		1	1	0	0	0	3	0	0	11	1	0.0	0.0
病理診断科	0	0	0	0	0	0	0	2	4	8	2	2	18	2	0.1	0.0
合計	5,519	5,562	5,547	5,795	5,553	5,446	5,708	5,408	5,440	5,105	4,957	5,505	65,545	5,462	-	18.5
1日平均	240	247	247	241	227	259	238	246	247	243	236	245	-	-	242.8	-

(2) H25年度 科別在院患者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	1月平均	1日平均
内科 (糖・神内・呼・循・消・肝・血)	2,997	3,167	3,115	3,220	3,466	3,513	3,464	3,090	3,381	3,584	2,917	3,305	39,219	3,268	107
小児科	79	82	85	74	120	54	51	66	31	22	81	124	869	72	2
外科 (消・乳・甲・小・肛)	771	931	867	738	735	717	605	696	853	659	634	679	8,885	740	24
整形外科	2836	3072	2992	3364	2932	3278	3451	3660	3420	3634	3533	4013	40,185	3,349	110
形成外科	588	461	705	855	745	789	611	484	654	560	510	682	7,644	637	21
脳神経外科	670	722	519	591	593	640	573	663	450	537	546	604	7,108	592	19
呼吸器外科	299	177	228	299	244	240	245	298	304	284	308	238	3,164	264	9
皮膚科	187	62	110	134	211	134	94	106	98	92	89	84	1,401	117	4
泌尿器科	449	394	509	475	472	369	464	457	487	458	469	460	5,463	455	15
産婦人科	415	367	355	330	399	437	545	460	400	400	334	377	4,819	402	13
眼科	462	333	378	527	499	398	506	565	375	442	516	536	5,537	461	15
気管食道・ 耳鼻いんこう科	262	163	194	272	342	395	474	429	384	359	374	324	3,972	331	11
放射線科 (診断・治療)	245	234	149	245	188	238	143	69	89	36	20	19	1,675	140	5
新生児内科	451	465	466	547	462	475	390	388	494	441	334	508	5,421	452	15
麻酔科	9	0	1	0	1	1	22	0	0	2	0	0	36	3	0
緩和医療科	90	126	123	31	27	20	34	15	31	32	24	57	610	51	2
歯科口腔外科	76	47	72	98	123	113	41	36	51	46	87	62	852	71	2
合計	10,886	10,803	10,868	11,800	11,559	11,811	11,713	11,482	11,502	11,588	10,776	12,072	136,860	11,405	-
1日平均	363	348	362	381	373	394	378	383	371	374	385	389	375	-	375

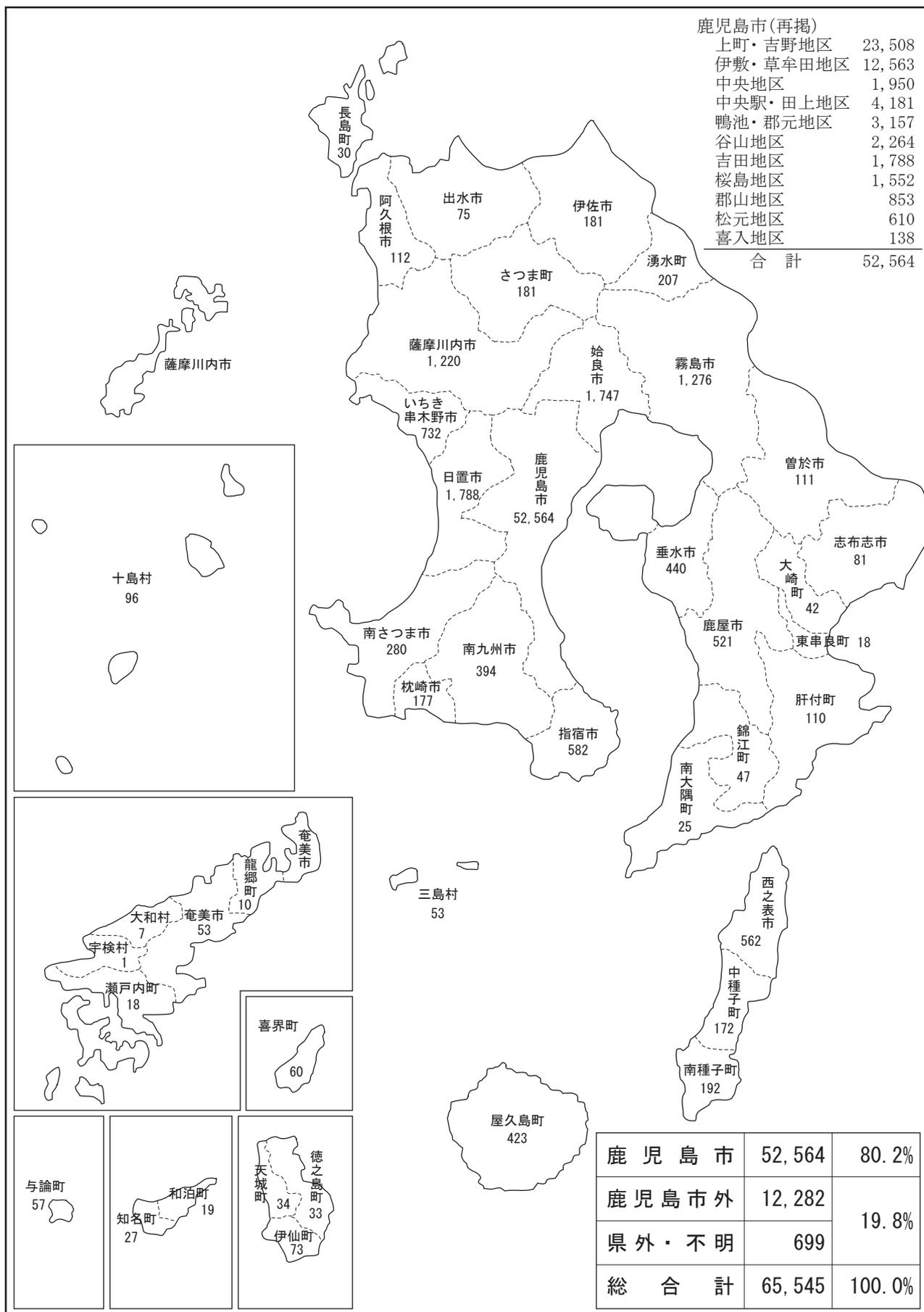
(3) 年度別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
4 月	315	330	305	293	391
5 月	305	326	293	356	352
6 月	322	336	341	326	325
7 月	338	354	314	335	415
8 月	294	311	388	370	394
9 月	302	312	280	338	353
10 月	334	350	313	372	397
11 月	319	332	313	333	379
12 月	271	286	315	278	353
1 月	273	290	263	320	361
2 月	274	289	286	337	371
3 月	325	338	299	355	387
合 計	3,672	3,854	3,710	4,013	4,478
月平均	306	321	309	334	373

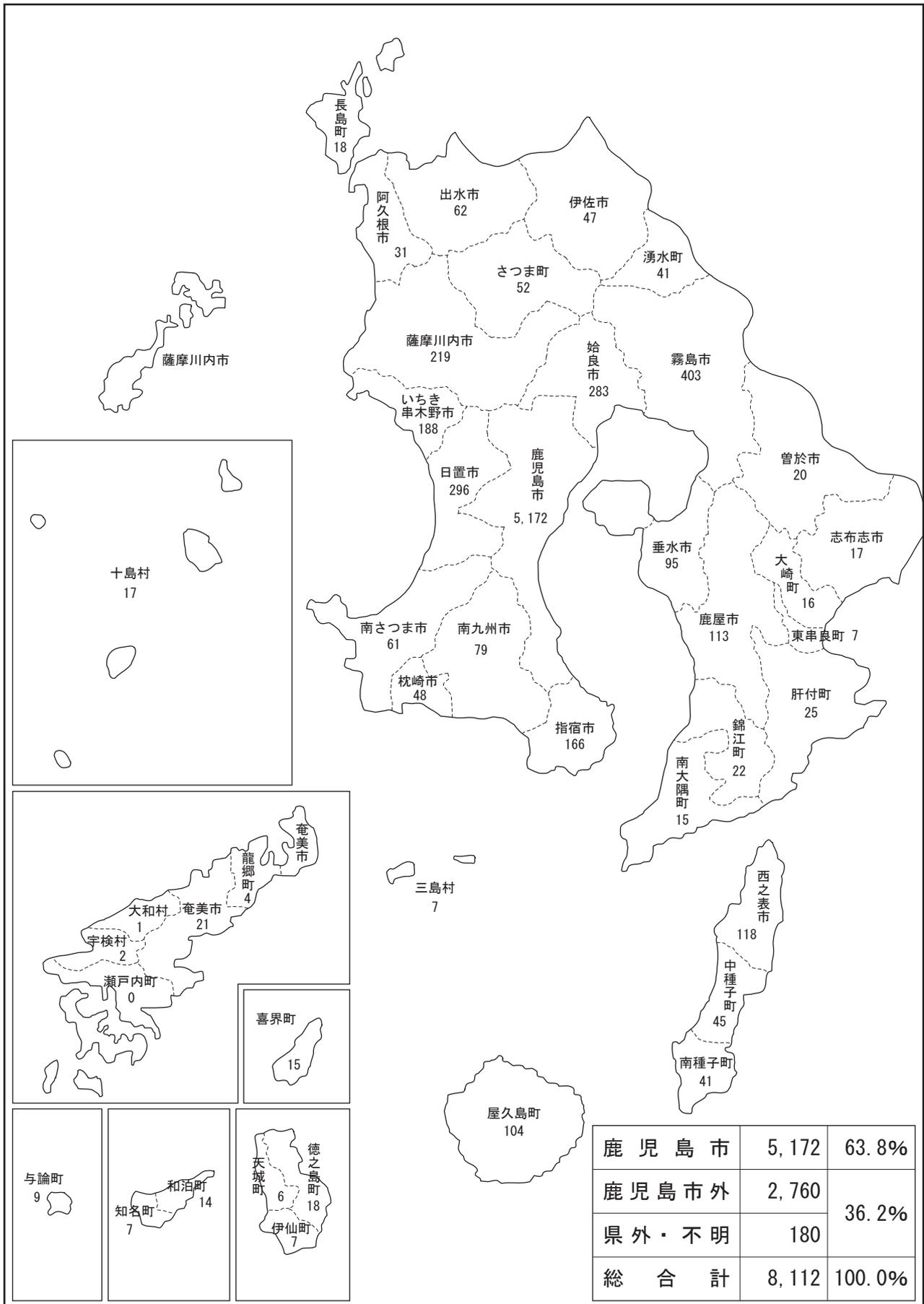
(4) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	死亡数	解剖数								
4 月	16	0	18	1	11	0	18	0	17	0
5 月	19	0	21	0	21	0	17	1	19	0
6 月	23	0	12	0	15	0	13	0	13	0
7 月	16	0	25	0	15	0	12	0	16	0
8 月	18	0	12	0	14	0	18	0	11	0
9 月	15	0	12	0	19	0	21	0	13	0
10 月	14	0	24	0	18	0	14	0	20	0
11 月	17	1	15	0	15	0	19	0	21	0
12 月	19	0	17	0	15	0	9	0	19	0
1 月	21	0	17	0	17	0	14	0	19	0
2 月	22	0	15	0	19	0	18	0	12	0
3 月	12	0	15	0	20	0	18	0	13	0
合 計	212	1	203	1	199	0	191	1	193	0
剖検率	0.5%		0.5%		-		0.5%		-	

(5) 平成25年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



(6) 平成25年度 退院患者市町村別分布図



(7) 平成25年度 市町村別紹介施設数・患者数(他院より当院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数	
鹿 児 島	鹿 児 島 市		562	6,573	曾 於	曾 於 市		4	16	
	鹿 児 島 郡	三 島 村	5	16		伊 佐	志 布 志 市		2	4
		十 島 村		9	34		伊 佐 市		8	44
始 良	霧 島 市		88	484	熊 毛 郡	西 之 表 市		7	212	
	始 良 市		70	244		大 島 郡	熊	中 種 子 町	2	4
日 置	始 良 郡	湧 水 町	4	20			毛	南 種 子 町	1	7
		日 置 市		57			259	屋 久 島 町		10
川 薩	薩 摩 川 内 市		43	306	大 島 郡	奄 美 市		12	28	
	いちき串木野市		27	235		大 島	大	瀬 戸 内 町	1	2
	薩 摩 郡	さ つ ま 町		14			46	島	喜 界 町	1
川 辺		南 さ つ ま 市		21		42	大 島 郡	徳 之 島 町		5
	枕 崎 市		13	49		島		和 泊 町	2	4
	南 九 州 市		12	33		郡		知 名 町	3	7
指 宿	指 宿 市		29	191	与 論 町			1	4	
	出 水	出 水 市		11	46	県 内		1,066	9,235	
阿 久 根 市		6	25	県 外		132	173			
出 水 郡		長 島 町		1	3	総 合 計		1,198	9,408	
	肝 属	鹿 屋 市		24	112	※病院・クリニック合算の数です				
垂 水 市		7	61							
肝 属 郡		錦 江 町		3	7					
		肝 付 町		1	5					

(8) 平成25年度 市町村別逆紹介施設数・患者数(当院より他院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数	
鹿 児 島	鹿 児 島 市		503	4,490	曾 於	曾 於 市		7	14	
	鹿 児 島 郡	三 島 村	4	6		伊 佐	志 布 志 市		4	5
		十 島 村		5	13		伊 佐 市		13	27
始 良	霧 島 市		56	361	熊 毛 郡	西 之 表 市		9	129	
	始 良 市		45	231		大 島 郡	熊	中 種 子 町	3	5
日 置	始 良 郡	湧 水 町	1	5			毛	南 種 子 町	1	3
		日 置 市		34	184	屋 久 島 町		8	54	
川 薩	薩 摩 川 内 市		45	199	大 島 郡	奄 美 市		9	21	
	いちき串木野市		19	116		大 島	大	瀬 戸 内 町	1	1
	薩 摩 郡	さ つ ま 町		12			35	島	喜 界 町	1
川 辺		南 さ つ ま 市		14		28	大 島 郡	徳 之 島 町		4
	枕 崎 市		11	31		島		和 泊 町	2	4
	南 九 州 市		10	38		郡		知 名 町	2	9
指 宿	指 宿 市		22	144		大 島 郡	天 城 町		1	1
出 水	出 水 市		9	44	郡		与 論 町		1	3
	阿 久 根 市		6	27	県 内		893	6,390		
肝	鹿 屋 市		19	91	県 外		109	144		
	垂 水 市		8	44	逆 紹 介 先 不 明			242		
属	肝 属 郡	錦 江 町	1	1	総 合 計		1,002	6,776		
		肝 付 町		3	8					

※病院・クリニック合算の数です

(9) 今給黎総合病院 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	318	300	324	348	350	350	315	319	308	260	303	287
即日入院救急患者	80	87	100	82	96	92	73	77	91	79	76	87
初診患者 (労災自賠除)	1,122	1,107	1,189	1,161	1,165	1,061	971	1,008	975	937	930	1,133
休日夜間外来患者	280	270	344	249	296	232	223	287	253	233	206	377
紹介率 (%)	47.3	46.2	50.2	47.1	51.3	53.3	51.9	54.9	55.3	48.2	52.3	49.5

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

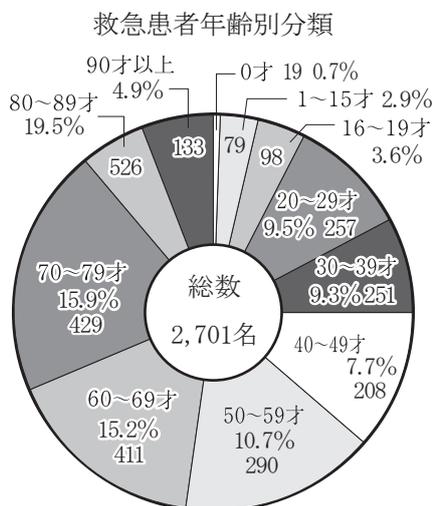
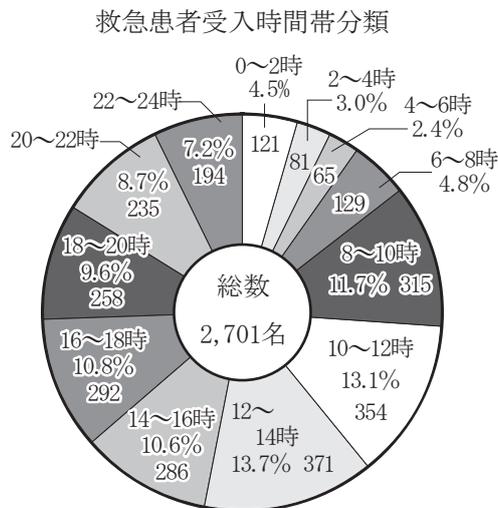
(10) 今給黎総合病院 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
逆紹介患者数	532	479	548	540	567	489	421	422	436	416	448	485
逆紹介率 (%)	63.2	57.2	64.9	59.2	65.2	58.9	56.3	58.5	60.4	59.1	61.9	64.2

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(11) 年度別救急車受入台数(患者数)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
4月	180 (183)	156 (160)	180 (182)	220 (221)	214 (220)
5月	183 (189)	184 (187)	196 (196)	219 (221)	228 (235)
6月	161 (166)	164 (165)	185 (188)	194 (195)	208 (213)
7月	175 (175)	196 (205)	212 (216)	218 (223)	247 (251)
8月	184 (184)	186 (188)	250 (266)	251 (256)	249 (253)
9月	184 (192)	187 (190)	214 (218)	217 (222)	197 (201)
10月	169 (174)	202 (205)	247 (251)	238 (242)	230 (233)
11月	161 (161)	185 (188)	212 (215)	245 (249)	224 (226)
12月	204 (208)	215 (215)	237 (239)	224 (225)	218 (223)
1月	189 (190)	201 (205)	239 (241)	214 (219)	201 (208)
2月	133 (134)	155 (157)	172 (175)	209 (210)	212 (221)
3月	162 (164)	203 (204)	228 (228)	214 (215)	209 (217)
合計	2,085 (2,120)	2,234 (2,269)	2,572 (2,615)	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)
月平均	173.7 (176.7)	186.2 (189.1)	214.3 (217.9)	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)
日平均	5.7 (5.8)	6.1 (6.2)	7.0 (7.1)	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)
高規格救急車 指示(再掲)	32	18	26	17	18

(12) 平成25年度 救急患者受入時間帯・
年令別分類

(13) 平成25年度 市町村別救急患者数

		市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数
鹿 児 島	鹿 児 島 市	上町・吉野	858	日 置 川 薩 川 辺 指 宿 出 水 肝 属	日 置 市	日置市	87	曾 於 伊 佐 熊 毛	曾 於 市	曾於市	4
		伊敷・草牟田	365			薩摩川内市	16			志布志	7
		中央・田上	243			いちき串木野市	14			伊佐市	12
		中央駅・田上	243			さつま町	5			西之表市	7
		鴨池・郡元	206			南さつま市	5			屋久島町	4
		谷山	139			枕崎市	12			県内	2,698
		桜島	39			南九州市	7			県外	3
		吉田	112			指宿市	16			洋上救急(再掲)	0
		松元	41			出水市	1			総合計	2,701
	喜入	5	阿久根市	1							
始 良	始 良 湧 水 町	郡山	62	水	長島町	1					
		三島村	2		鹿屋市	11					
		霧島市	45		垂水市	8					
		始良市	92		大崎町	1					
		湧水町	5								

(14) H25年度 外来患者初再診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	1月平均
初診	1,058	1,043	1,140	1,096	1,083	992	941	945	889	899	885	1,140	12,111	1,009
再診	4,461	4,519	4,407	4,699	4,470	4,454	4,767	4,463	4,551	4,206	4,072	4,365	53,434	4,453
合計	5,519	5,562	5,547	5,795	5,553	5,446	5,708	5,408	5,440	5,105	4,957	5,505	65,545	5,462
初診率(%)	19.2	18.8	20.6	18.9	19.5	18.2	16.5	17.5	16.3	17.6	17.9	20.7	-	18.5

(15) H25年度 外来患者時間外・深夜・休日患者数（診療報酬加算をもとに集計）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	1日平均
時間外	270	332	324	334	268	240	240	210	228	177	214	330	3,240	8.9
深夜	112	112	136	114	124	108	136	92	100	59	90	110	1,342	3.7
休日	280	212	354	172	326	256	134	272	400	324	210	466	3,334	47.6
合計	662	656	814	620	718	604	510	574	728	560	514	906	7,916	-

休日：休日在宅医（当番日）含む

(16) 入院患者に関する年度別実績比較

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
定床	450	450	450	450	450
新入院数	7,288	6,997	7,021	7,631	8,136
退院数	7,238	7,043	7,039	7,652	8,112
在院患者延数	138,794	137,974	135,970	132,825	136,860
1日平均 在院患者数	380.3	378.0	371.5	363.9	375.0
平均 在院日数	18.3	18.2	17.0	15.4	15.3
病 利 用 床 率	84.5%	84.0%	82.6%	80.9%	83.3%

(17) 平成25年度 入院患者に関する実績比較

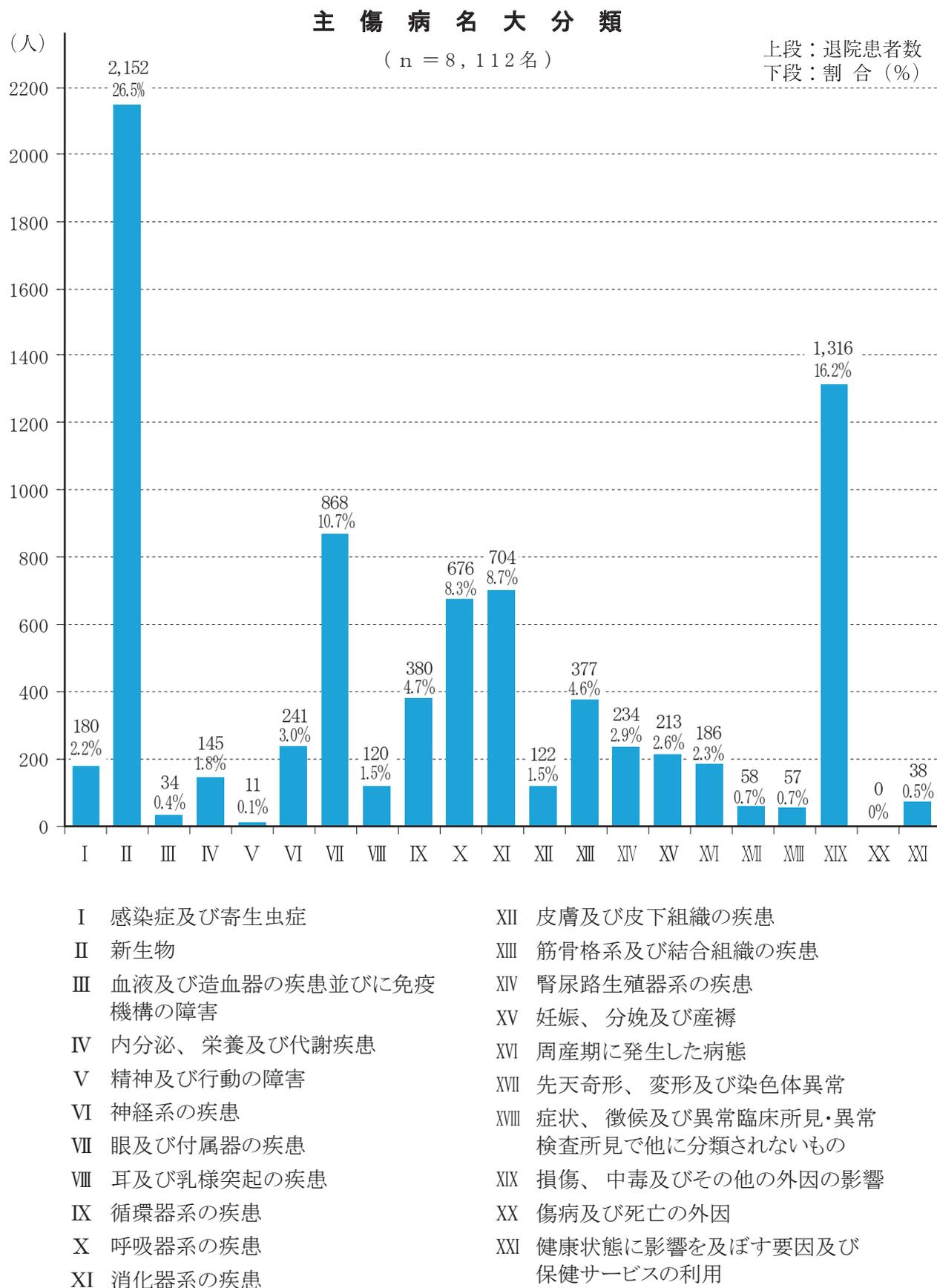
1. 月別比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
定 床	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	-	450
新 入 院 患 者 数	684	650	647	753	708	683	673	679	681	659	634	685	8,136	678
退 院 患 者 数	670	626	675	720	717	689	640	699	761	559	633	723	8,112	676
在院患者延 数	10,886	10,803	10,868	11,800	11,559	11,811	11,713	11,482	11,502	11,588	10,776	12,072	136,860	11,405
1日平均 在院患者数	362.9	348.5	362.3	380.6	372.9	393.7	377.8	382.7	371.0	373.8	384.9	389.4	-	375.0
平 均 在 院 日 数	14.6	15.4	14.7	14.1	14.8	15.6	16.6	15.2	14.3	16.7	16.0	15.6	-	15.3
病 床 利 用 率 (%)	80.6	77.4	80.5	84.6	82.9	87.5	84.0	85.1	82.5	83.1	85.5	86.5	-	83.3

2. 科別比較

	総 内	糖 内	神 内	呼 内	消 内	循 内	小	外 (消外・肛)	整	形	脳
新 入 院 患 者 数	306	27	455	589	676	124	143	590	1,328	429	274
退 院 患 者 数	304	22	463	578	649	127	138	616	1,295	435	275
在院患者延 数	9,280	471	9,276	9,788	6,489	3,915	869	8,885	40,185	7,644	7,108
1日平均 在院患者数	25.4	1.3	25.4	26.8	17.8	10.7	2.4	24.3	110.1	20.9	19.5
	呼 外	皮	泌	産 婦	眼	耳(気)	放	新 内	麻	緩 和	歯 口 外
新 入 院 患 者 数	292	79	563	449	915	434	69	183	4	15	192
退 院 患 者 数	278	82	563	451	911	435	70	185	7	35	193
在院患者延 数	3,164	1,401	5,463	4,819	5,537	3,972	1,675	5,421	36	610	852
1日平均 在院患者数	8.7	3.8	15.0	13.2	15.2	10.9	4.6	14.9	0.1	1.7	2.3

(18) 平成25年度 退院患者 I C D大分類



(19)

平成25年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整	形	脳	泌	産	N	G	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和
総数	8,112	男 4,357 女 3,755	141 163	218 245	392 186	388 261	69 58	15 7	74 64	373 243	196 82	44 38	628 667	249 186	168 107	460 103	- 267	50 47	45 43	- 184	443 468	276 159	43 27	3 4	61 132	21 14
I 感染症及び寄生虫症	180	男 94 女 86	5 11	16 4	11 9	15 26	- -	1 -	15 11	2 5	5 3	20 16	- -	- -	- -	1 -	- -	- -	- -	- -	1 -	2 -	- -	- -	- -	- -
II 新生物	2,152	男 1,307 女 845	35 51	2 5	296 113	168 81	1 -	- -	1 -	212 138	98 52	7 1	10 16	55 74	8 9	318 55	- 47	- -	- -	154 -	8 -	7 -	22 -	- -	4 -	20 12
III 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	34	男 15 女 19	8 5	3 5	- 3	1 -	- 1	- -	- 1	1 -	- 1	- -	- -	- -	1 -	1 -	- 1	- -	- -	- 2	- -	- -	- -	- -	- -	- -
IV 内分泌、栄養及び 代謝疾患	145	男 78 女 67	9 10	9 12	- 4	3 4	2 1	14 4	9 13	- 1	- -	- -	1 -	1 -	4 1	- 2	- 1	- -	- -	- -	- -	25 13	- -	- -	- -	- -
V 精神及び行動の障害	11	男 5 女 6	1 2	2 2	- -	- 1	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
VI 神経系の疾患	241	男 124 女 117	1 1	90 91	- -	1 -	1 -	- 3	3 2	- 1	- -	- -	10 5	2 3	9 9	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	6 -	- -	- -	- -
VII 眼及び付属器の疾患	868	男 412 女 456	- -	1 -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	- -	9 18	- -	- -	- -	- -	- -	- -	401 437	- -	- -	- -	- -	- -
VIII 耳及び乳様突起の 疾患	120	男 55 女 65	- 1	- 12	- 2	- -	- 3	- -	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	2 -	- 5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	52 41	- -	- -	- -
IX 循環器系の疾患	380	男 211 女 169	4 8	56 60	3 2	7 3	51 44	- -	2 1	1 2	- -	- -	3 1	2 2	79 42	2 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	- 1	- -
X 呼吸器系の疾患	676	男 426 女 250	47 33	14 17	76 47	2 4	4 3	- -	39 30	1 1	72 12	- -	- -	- -	1 -	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	167 101	- 1	- -	- -	2 1
XI 消化器系の疾患	704	男 370 女 334	2 5	- 1	- -	167 111	- -	- 1	2 1	138 77	2 -	- -	1 3	3 3	- -	2 -	- -	- -	- -	- -	- -	2 3	- -	- -	51 129	- -
XII 皮膚及び皮下 組織の疾患	122	男 67 女 55	4 -	1 -	- -	1 -	- -	- -	1 -	- -	- -	16 19	8 2	34 29	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 1	- -	- -	- -	1 -
XIII 筋骨格系及び 結合組織の疾患	377	男 190 女 187	6 9	8 20	3 3	2 -	- 2	- -	1 -	- 1	- -	- 1	156 143	14 7	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	- -	- -	- -
XIV 腎尿路生殖器系 の疾患	234	男 129 女 105	12 19	4 3	- -	4 7	2 1	- 1	3 -	1 1	- 2	- -	- -	3 -	100 42	- 5	- -	- -	- -	- 23	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XV 妊娠、分娩及び産褥	213	男 - 女 213	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 207	- -	- -	- 5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVI 周産期に発生した病態	186	男 95 女 91	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	50 47	45 43	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVII 先天奇形、変形 及び染色体異常	58	男 27 女 31	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	2 4	14 18	- 2	4 -	- 1	- -	- -	- -	- -	5 4	- -	- -	2 1	- -
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	57	男 29 女 28	1 7	5 8	2 -	1 4	2 1	- -	1 2	2 2	1 1	- -	1 -	2 -	2 -	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	9 -	1 -	- -	- -	1 -
XIX 損傷、中毒及びその 他の外因の影響	1,316	男 692 女 624	6 1	5 3	1 2	14 16	4 1	- 1	13 11	15 8	15 1	434 493	111 31	61 36	8 3	- 1	- -	- -	- -	- -	13 9	1 -	2 2	2 3	1 2	- -
XX 傷病および死亡の外因	-	男 - 女 -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因 および保健サービスの利用者	38	男 31 女 7	- -	2 1	- -	2 2	2 -	- -	- -	- 1	- -	- -	2 -	- -	- -	22 -	- 3	- -	- -	- -	- -	1 -	- -	- -	- -	- -

X.各科各部の診療実績・活動状況

内科(総合内科)

総合内科部長 生野 博久

当院総合内科は休診状態でしたが、2004(平成16)年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種に関しては昨年度インフルエンザを含めて886件行いました。日本はワクチンに関しては後進国と言われていましたが、今後は種類、接種も増加すると思われます。3年前よりは色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生に加えて外科出身の三宅先生にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきました。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者さんが来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなられました。世界的に見て早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと思われます。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となった代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(メディカルソーシャルワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えて行きたいと思えます。

2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と供に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。当科としては三宅先生を中心に、この活動にも力を入れていく方針です。これからも地道に診療、委員会活動を続けようと思えます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医

医師臨床研修指導医養成講習修了医

医学博士(鹿児島大学)

二木 真琴

日本血液学会 専門医

医学博士(日本医科大学)

三宅 健治

日本外科学会認定医

日本医師会認定産業医

日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】

クリニック外来患者数（平成25年1月～平成25年12月）

初診	再診	患者 延べ数	1日平均（稼働日数270日）			初診率
			合計	初診	再診	
4,107	6,401	10,508	38.9	15.2	23.7	39.1%

今給黎総合病院外来患者数（平成25年1月～平成25年12月）

初診	再診	患者 延べ数	1日平均（稼働日数270日）			初診率
			合計	初診	再診	
1,338	474	1,812	6.7	5.0	1.8	73.8%

【予防接種件数】（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

	インフル エンザ	おたふく	エイム ゲン	ビー ムゲン	日本 脳炎	麻し ん	風し ん	狂 犬 病	破 傷 風	水 痘	麻し ん 風し ん	ポ リ オ	ニ ュ ー モ バ ッ ク ス	合 計
1月	37	1		3							3		2	46
2月	2		2	2			1	2	2		8			19
3月	1	3	1	1			2		1		14		2	25
4月		2	2	3		1	1	3	2	1	18			33
5月		3		1							20			24
6月		4		3			1			1	20	1		30
7月		2		4							20	1		27
8月			1	3							3			7
9月			1	1				2			2			6
10月	63	2					3	1			5		1	75
11月	400	1									2		12	415
12月	160			3			3						13	179
総合計	663	18	7	24	0	1	11	8	5	2	115	2	30	886

血液内科

血液内科部長 小 濱 浩 介

当院血液内科は現在専門医師1名(総合内科兼任)で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患(紫斑病等)の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、県内最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

外来は別表の通り基本的には月曜、火曜、金曜ですが、詳細は随時外来までお問い合わせください。

診療実績として通常の外来診療の他、平成25年度の新規患者入院数58名(悪性リンパ腫25例、多発性骨髄腫14例など)であり、総合内科との連携で診療を行っています。

【スタッフ】

小濱 浩介(おばまこうすけ) 血液内科部長、医学博士

略歴 鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医

【平成25年度中の学術活動】

【学会発表】

2013年10月札幌 日本血液学会総会

Bortezomib, Melphalan and Dexamethasone Therapy in Elderly Patients with Newly Diagnosed Myeloma. Kosuke Obama

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者様につきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、平成25年度は担当医師が常勤医1名のみのため、管理出来る患者様の数は、既に限界に達しており、十分な診療を提供出来なくなっております。そのため、病状が落ち着いておられる患者様につきましては、掛かり付けの医療機関に紹介させて頂き、受け入れ可能患者数の確保に努めております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

【平成 26 年度の計画】

前述のように平成 25 年度は常勤医 1 名と少ない医師数での診療体制に対し、患者様の増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者様の増加が著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において、既に限界に達しております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、以前より推し進めております開業医の先生方との地域連携パスを含めた病診連携をより一層進めることによる外来診療の効率化と、また、鹿児島大学のご協力を頂きながら、担当医の確保という人的資源の充実を図ってまいりたいと思います。今後とも開業医の先生方には、引き続き、色々ご支援をお願いすることもあるかと思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しくお願い申し上げます。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在も入院下で十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC(診断群分類包括評価)といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行なえるようにシステムを構築し、通院中の全患者様に検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は、まだ、不十分かと思っておりますので、今年度は、上記疾患に対する動脈硬化性疾患の評価システムを、順次、構築してまいりたいと考えております。

最後に、糖尿病患者様方に対して、一病息災という理念の下に、QOL を維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。

消化器内科・肝臓内科

部長 前田正彦

消化器内科・肝臓内科は、月曜日から金曜日まで外来と検査・治療を行っております。消化器外科や放射線科との協同で集学的な治療を提供しています。

検査は上・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、上・下部超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検、内視鏡的逆行性膵胆管造影、IDUS、胃透視、注腸検査、肝生検、肝炎ウイルス検査などを行っております。

治療は、上部・下部消化管内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的拡張術、静脈瘤結紮術・硬化療法、内視鏡的粘膜切除術・粘膜剥離術、ポリープ切除術、各種ドレナージ・拡張術、穿刺吸引術、PEG 造設術や、肝炎ウイルスに対する抗ウイルス療法、肝細胞癌に対する動脈塞栓術、肝細胞癌の焼灼術など多岐にわたっています。

当科の特徴は、内視鏡のほとんどすべての処置を満遍なく扱っていること、総合病院の特徴から他疾患やリスクの高い患者さんが多いこと、消化器癌の化学療法を行っていること、緊急処置を要する患者さんの緊急搬送が多いことです。外来は離島を含め県内各地の病院と連携しています。

内視鏡室には4名の専属スタッフがおり、当科の高い安全性と成功率を維持する要となっております。

【スタッフ紹介】

常勤医師

前田 正彦

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会専門医
アメリカ内科学会専門医
日本医師会認定産業医
日本体育協会公認スポーツドクター
日本旅行医学会認定医

今給黎 和幸

日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定医
日本人間ドック学会認定医

水流 弘文

日本外科学会外科専門医
日本消化管学会胃腸科専門医・指導医
医学博士（福岡大学）

非常勤医師

松元淳 税所篤郎 田村智章 大磯陽子
有馬志穂

内視鏡室 看護師

梅北裕司 山元真貴子 江口真美 大迫翔
長濱千鶴子

【外来診療日】

月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
前田 税所	前田 田村	前田 大磯	前田 今給黎	前田 今給黎	今給黎 交代制

診療、検査、投薬などはすべて完全予約制です。
午後からは検査のみとなっております。

【診療状況】（2013年1月～12月）

外来患者数 初診 2,012名、再診 7,247名

入院患者数 671名

【検査件数】（2013年1月～12月）

検査名	件数
胃・十二指腸ファイバー	2156
(うち経鼻)	(168)
食道ファイバー	4
大腸ファイバー	929
小腸ファイバー	3
上部超音波内視鏡検査 (EUS)	70
超音波内視鏡下生検 (FNA)	4
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)	9

【処置件数】(2013年1月～12月)

処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	42
下部消化管内視鏡的止血術	14
経口イレウスチューブ留置術	34
経肛門的イレウスチューブ留置術	5
内視鏡的異物除去術(上部・下部)	21
EIS・EVL	3
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ・粘膜切除術	3
早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)	14
小腸・結腸狭窄部拡張術(内視鏡によるもの)	4
内視鏡的大腸ポリープ切除術	185
食道狭窄拡張術(拡張用バルーンによるもの)	6
食道ステント留置術	5
内視鏡的胃・十二指腸狭窄拡張術	2
十二指腸ステント留置術	1
内視鏡的胆道ドレナージ術(ENBD・ERBD)	44
内視鏡的乳頭切開術(EST)	15
内視鏡的胆道碎石術(EML)	5
内視鏡的乳頭切開術(胆道碎石術を伴うもの)	39
経皮経肝胆管ステント挿入術	5
内視鏡的胆道ステント留置術	8
内視鏡的胃瘻造設術(PEG) ※PEG→PEG-J含む	35
PEG交換	33
PEG-J交換	6
W-EDチューブ留置	3
軸念転整復	4
胃瘻閉鎖術	1
瘻孔閉鎖術	2

【治験】

- 1) 難治性逆流性食道炎患者を対象としたD961H 20mg 1日2回経口投与とD961H 20mg 1日1回経口投与の有効性及び安全性を比較検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、並行群間比較試験
- 2) 非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリックステントの留置方法を比較検討する多施設共同無作為化比較試験 - 片葉ドレナージ vs 両葉ドレナージ -

【所感・今給黎和幸】

今年には医師の減員に伴い、いかに診療スタイルを確立するかという事がテーマであった。結果として医業収益も落とすことなくここ数年で最高の実績をたたきだした。これも外来・診療部のスタッフの協力とチームワークの賜物と思われる。しかし、ムダ・ムラをなくし効率化を図った1年であったが、医師もスタッフもオーバー・ワークであったことは否めない。ブラック企業という言葉が流行った年でもあったが、まさにブラックな働き方で何とか業績を維持できた恰好であった。こういう環境では人の定着は難しいと強く思われた。

また今度の診療報酬改定をみるかぎり、病院経営はさらに厳しくなりそうである。将来は小手先だけの工夫だけでは立ち行かなくなると予想され、建て替え・移転が明確に打ち出されない現状では、我々の医業収益を環境整備に投資してもらえないと考へた。十分ではないが、働きやすい環境を整備して離職を避けたいと思う。早速5月の連休を利用して工事に入り、今年度も更なる実績更新をめざして病院に貢献できればと考えている。医療費削減の中、内視鏡は出来高算定であり検査・治療の伸びが外科手術症例の増加であったり、病院経営にも好影響を及ぼすものと思われ、他部門の皆さんからも協力・支援をいただきたいと思っている。

医師確保は教授交代で常勤医の派遣が滞っているが、非常勤医の増員でなんとか凌ぐ予定である。臨床研修医の増加が入局者の増員、さらには派遣要員の増員へとつながるため当院・当科でも臨床教育に努めたいと思う。

勤務医の多忙はなかなか改善されないと思うが、安部政権のもと規制緩和の風潮がみられ、病院の合併・統合やホールディングカンパニー(持ち株会社)の承認などの話しも聞くようになり、今の閉塞感が少しでも良い方向へ向かうのを望むばかりだ。

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所心臓血管・高血圧内科学教室（大石充教授）から循環器内科スタッフとして派遣された二名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成25年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。現在は部長大場一郎と、鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科から派遣された下舞浩二医師が常勤医として勤務しています。その他に毎年院内または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が金曜以外の毎日午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、待ち時間の解消のための予約制をとっています。鹿児島市内または市外の病院やクリニックから心疾患の精査依頼や鹿児島医療センターなどから診療の依頼などで紹介され受診される患者様が最近では増加している印象です。高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。

当院における当科の特徴としては術前心機能評価および入院中の胸部症状出現などによる診察依頼などでの院内他科からの紹介の多さです。冠動脈疾患の精査については冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。

併せて心筋シンチなど核医学検査による画像診断を放射線科医師と行うことで診断の精度向上を常に心がけています。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 26 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大学病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れています。

【手術症例数】（平成 25 年度）

ペースメーカー移植術

- 1) 新規 : 4 件
- 2) 入れ替え : 3 件

【超音波検査件数】（平成 25 年度）

- ・心エコー : 約 3, 100 件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 300 件

【冠動脈 MDCT】

約 300 件

呼吸器内科

呼吸器内科部長 川 畠 寿 史

平成25年4月より川畠、窪田、松山、谷川の4人の常勤医で診療にあたっております。

当科は引き続き日本呼吸器病学会関連施設の認定を受けており、呼吸器外科、放射線科、病理診断科とも協力し、最良の医療を提供できるように努めております。

【当科の主な診療疾患】

- ・ 肺癌、胸部悪性疾患
- ・ 肺炎、呼吸器感染症
- ・ 気管支喘息
- ・ 間質性肺炎、びまん性肺疾患
- ・ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性呼吸不全

主に上記の疾患の診療を行っております。呼吸器診療は難治性疾患が多く、その代表ともいえる肺癌患者数は年々増加しております。部位別癌死亡率では肺癌は男性で1位、女性で2位という現状です。死因第3位の肺炎や、またCOPDは高齢者に多く、超高齢化に伴い益々これらの呼吸器疾患を抱える患者様は増えていくものと思われま

【外来・入院診療】

当科外来では、患者様の待ち時間の短縮や専門診療の充実など外来診療のサービス向上のため、平成24年12月から予約制を導入しました。そのため平成25年の新患者数は664名と減少しておりますが、入院患者数は平成24年より増えており、特に肺癌患者が年々増えております。気管支喘息やCOPDは吸入療法により外来でのコントロールが良好となり、特に気管支喘息で入院を要する例は年々減少傾向です。入院で肺癌に次いで多い肺炎は、半数近くが高齢者の誤嚥性肺炎であり、総合内科の先生方にも診ていただいております。当科での肺癌治療としては、IIIB/IV期の進行期肺癌症例が多く、化学療法が主体となります。化学療法は外来で可能な場合はなるべく外来化学療法を行います。離島や大隅地区など市外在住の方も多く、入退院を繰り返して治療を行う場合が多くなります。

気管支鏡検査は基本1泊2日の入院で行っております。クリニカルパスを使用し、ほぼ100%の使用率となっております。平成25年の気管支鏡検査数は111例でした。最終的に肺癌と診断された症例において、気管支鏡検査を行った70例中46例（診断率 66%）で確診となりました。診断率は例年70%前後で、今年はやや下回りましたが、診断率を上

げるべく適応を考慮し、安全に的確な検査を施行してまいります。

表1) 外来患者数

	延べ患者数	新患者数
平成23年	6,795	725
平成24年	6,758	739
平成25年	6,345	664

表2) 入院患者疾患内訳

	23年	24年	25年
肺癌	287	328	365
肺炎	82	59	51
びまん性肺疾患	48	36	29
気管支喘息	14	9	5
慢性閉塞性肺疾患	15	20	22
肺結核	10	2	5
その他	134	56	108
合計	590	510	585

呼吸器内科で入院となる患者様の多くは難治性疾患で、患者様本人は勿論家族の方も大変に苦しい思いをされます。全ての患者様の病気が良くなり元気になってほしいという思いは我々も一緒ですが、現実的にはそうならない場合も多く、むしろ無力感を感じる毎日です。Bad news を伝えなければならぬ辛い場面も多々あります。ですがたゆまぬ診療技術・知識の向上は決して怠ることなく、何よりも患者様の気持ちに寄り添える心を大切にしていきたいと考えております。

最後に、当科の診療が円滑に行っているのは、師長をはじめとする看護師や医療事務、メディカルソーシャルワーカー、クラーク、理学療法士、検査技師などの病棟スタッフ、外来スタッフ、多くのコメディカルの方々のお蔭であり、ここに深謝いたします。

【資格所得】

川島 寿史

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本神経学会専門医
- ・肺がん CT 検診認定医師

窪田幸司

- ・日本内科学会総合内科専門医

松山崇弘

- ・日本内科学会認定内科医

谷川健吾

- ・日本内科学会認定内科医

【業績】

【学会総会発表】

伝染性単核球症が先行感染したAZM耐性マイコプラズマ肺炎の1例

第302回日本内科学会九州地方会

2013年8月24日 別府市

松山崇弘、谷川健吾、窪田幸司、川島寿史、
是枝快泉、井上博雅

結核治療終了後にparadoxical reactionを呈した2例

第71回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州
支部秋季学術講演会

2013年10月12日 福岡市

谷川健吾、松山崇弘、窪田幸司、川島寿史、
井上博雅

肺クリプトコッカス症と肺塞栓症治療中に判明したCushing症候群の1例

第304回日本内科学会九州地方会

2014年1月19日 福岡市

松山崇弘、谷川健吾、窪田幸司、川島寿史、
是枝快泉、有村愛子、井上博雅

神経内科

神経内科部長 長堂 竜 維

【特徴】

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山・長堂・林・野村は同科の出身または同科在籍中の医師です。この4人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた5人が当科の常勤医で、この5人のうち野村を除く4人が日本神経学会神経内科専門医で、野村も取得要件は満たしており取得予定です。加えて6人の非常勤医師にも応援をもらい頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から、急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつであることもあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科専門医5人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者様ですが、昨年の入院患者総数415人に比し60人増の477名（平成24年1月1日～12月31日）が一年間で入院されました。神経内科という科の性格上、予定入院に比べ圧倒的に緊急入院が多いことを考えると、ほぼ毎日1.3人の入院患者を平均的に受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者様は、一年間の初診患者総数1,345人、外来患者総数が12,277人で、一日平均外来患者数は約40人でした。病棟は別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の児浦先生・指宿先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは上之菌師長以下29名の看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。神経内科は他科に比べ高齢の患者様やADLの低下した患者様も多い中でクオリティの高い看護・介護を実践してもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。

外来は有能で気配りのできる医療クラークの郡山と片山が、5人の常勤医師と5人の非常勤医師を上手におだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人・臨床研修医対応・血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿児島大学医学部非常勤講師として学生講義・大学病院専門外来・看護学校の授業、各種講演会などを行っています。甲斐・野村の両名は各種学会で口演発表し、論文も複数発表しています。また林・甲斐・野村の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。

【スタッフ】

丸山芳一 副院長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、日本神経学会評議員、
鹿児島大学臨床教授、
日本神経学会九州地方会世話人、
久木田学園非常勤講師
愛媛大学医学部卒

甲斐 太

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

野村美和

日本内科学会認定医、大分大学医学部卒

長堂竜維 神経内科部長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、
鹿児島大学医学部非常勤講師、
日本神経学会九州地方会世話人、
久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

非常勤医師

有村由美子医師（電気生理学検査）
丸山征郎医師（血管病）
荒田仁医師（神経内科）
橋口照人医師（神経内科、糖尿病）
橋口良也医師（頸部血管超音波検査）

林 茂昭 在宅医療部部長

日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
日本内科学会総合内科専門医
鹿児島大学医学部卒

【診療状況】（2013年1月～12月）

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	95	84	147	123	129	121	87	88	107	148	111	103	1,343
再診	916	893	899	970	962	933	965	897	870	923	822	883	10,933
合計	1,011	977	1,046	1,093	1,091	1,054	1,052	985	977	1,071	933	986	12,276
1日平均 初診患者数	4.5	4.0	6.5	5.3	5.7	5.4	3.6	3.6	5.1	6.2	5.0	4.7	-
1日平均 再診患者数	43.6	42.5	40.0	42.2	42.8	41.5	40.2	36.6	41.4	38.5	37.4	40.1	-
1日平均 患者数	48.1	46.5	46.5	47.5	48.5	46.8	43.8	40.2	46.5	44.6	42.4	44.8	-
診療実日数	21.0	21.0	22.5	23.0	22.5	22.5	24.0	24.5	21.0	24.0	22.0	22.0	270.0

（昭和会クリニック含）

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
入院	38	28	35	32	37	36	47	33	43	38	41	37	37.1
退院	41	27	29	43	31	33	44	38	45	43	40	46	38.3
在院	835	619	807	672	699	870	913	937	883	837	648	768	790.7
平均病床数	26.9	22.1	26.0	22.4	22.5	29.0	29.5	30.2	29.4	27.0	21.6	24.8	26.0
平均在院日数	21.1	22.5	25.2	17.9	20.6	25.2	20.1	26.4	20.1	20.7	16.0	18.5	21.2

【入院患者内訳】（2013年1月1日～12月31日）

脳血管障害	144
感染症	62
パーキンソン病	30
てんかん	20
めまい	17
脱水症	12
ALS	10
多発性硬化症	8
筋無力症	7
顔面神経麻痺	6
多系統萎縮症	6
リウマチ性多発筋痛症	5
脊髄小脳変性症	5
CIDP	4
SLE	4
ベーチェット病	4
周期性四肢麻痺	4
MG	3
シャイドレガー症候群	3
悪性腫瘍	3
小脳失調症	3
低血糖発作	3
脳炎	3
AIDP	2
DM	2
MELAS	2
RS3PE	2
シェーグレン症候群	2
亜急性連合性脊髄変性症	2
意識消失発作	2
関節リウマチ	2
頸髄症	2
血管炎	2
対麻痺	2
大脳皮質基底核変性症	2
脳腫瘍	2
脳症	2
ACTH単独欠損症	1
DIC	1
GBS疑い	1
Raynaud現象	1

TIA	1
アルコール性ニューロパチー	1
アルツハイマー型初老期認知症	1
アルツハイマー型老年期認知症	1
イレウス	1
ウェルニッケ脳症	1
うつ状態	1
サルコイドーシス	1
マルキアファーヴァ・ビニヤミ症候群	1
ラムゼイハント症候群	1
レビー小体型認知症	1
意識消失	1
一過性全健忘	1
運動神経疾患	1
横隔神経麻痺	1
横紋筋融解症	1
外転神経麻痺	1
滑車神経麻痺	1
感覚神経型多発神経炎	1
癌性髄膜炎	1
吃逆	1
急性腎不全	1
狭心症	1
筋緊張性ジストロフィー	1
群発性頭痛	1
群発頭痛	1
頸椎症	1
結節性多発動脈炎	1
血管迷走神経性失神	1
血友病A	1
顕微鏡的多発血管炎	1
原因不明の疼痛	1
後天性血友病A	1
交通外傷	1
高血圧	1
再生不良性貧血	1
視神経脊髄炎	1
失神発作	1
心筋梗塞	1
腎不全	1
水頭症	1

正常圧水頭症	1
脊髄炎	1
脊髄腫瘍	1
先端肥大症	1
全身痛	1
総胆管結石	1
側頭動脈炎	1
多発神経炎	1
多発性筋炎	1
多発性脳神経炎	1
多発単神経炎	1
大腸癌	1
低カリウム性ミオパチー	1
低栄養	1
溺水	1
転移性脳腫瘍	1
転換性障害	1
糖尿病性ニューロパチー	1
頭部打撲	1
動眼神経萎縮	1
動眼神経麻痺	1
特発性血小板減少性紫斑病	1
乳がん	1
認知症	1
熱傷	1
脳梗塞	1
脳神経炎	1
破傷風	1
排尿失神	1
敗血症	1
不明熱	1
舞蹈病	1
末梢神経障害	1
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1
迷走神経反射	1
薬物中毒	1
良性発作性頭位変換性めまい	1
膵臓がん	1

感染症の内訳

中枢神経感染症	34
呼吸器感染症	15
尿路感染症	5
敗血症	2
蜂窩織炎	2
不明熱	1
抜歯後感染症	1
運動器感染症	1
チクングニア熱疑い	1

脳血管障害の内訳

脳梗塞	114
TIA	14
脳出血	8
脊髄梗塞	6
SAH	1
一過性黒内障	1

【死亡症例】(16名)

死因	例数
脳梗塞後遺症	3
急性肺炎	2
急性心筋梗塞	2
原発不明癌	1
トキソプラズマ脳症	1
肺がん	1
卵巣癌	1
難治性てんかん	1
閉塞性血管炎	1
発作性心房細動	1
尿路感染症	1
肺塞栓	1

【対外活動】

丸山芳一

鹿児島県エイズ対策委員
日本神経学会評議員・代議員
鹿児島大学臨床教授
久木田学園非常勤講師

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究

研究協力 丸山芳一
主任研究者 広島大学 松本昌泰

脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の2次予防効果を検討する大規模臨床研究

研究協力 丸山芳一
研究代表者 自治医科大学 島田和幸

長堂竜維

日本神経学会九州地方会世話人
鹿児島大学非常勤講師
久木田学園非常勤講師

【業績報告】

【論文】

治療抵抗性のてんかん重積に対してラモトリギンが奏効した mitochondrial encephalomyopathy, lactic acidosis, and stroke-like episodes (MELAS) の1例

臨床神経学 2013;53:809-813

甲斐太、増田秀一郎、徳永紘康、林茂昭、長堂竜維、丸山芳一
今給黎総合病院神経内科

特徴的な眼症状を欠き呼吸困難で発症した重症筋無力症の1例

鹿児島市医報 2103;11:24-27

福田宏正¹⁾ 甲斐太¹⁾ 荒田仁¹⁾ 林茂昭¹⁾
長堂竜維¹⁾ 米田敏²⁾ 丸山芳一¹⁾

1) 公益財団法人昭和会 今給黎総合病院
神経内科

2) 同 呼吸器外科

【雑文】

日本人の非心源性脳梗塞の抗血栓療法（慢性期）を考察する

Medical Tribune誌

Fighting Vascular Events in Fukuoka 2009
丸山芳一

【口演発表】

Peripheral T cell lymphomaによる脳炎を来したと考えられた一例

第201回 日本神経学会九州地方会 福岡
2013年3月16日
野村美和、中川広人、園田 健

免疫能低下が推測される患者に発症したトキソプラズマ脳症の1例

第204回日本神経学会九州地方会 久留米
2013年12月21日
佐保明、野村美和、甲斐太、林茂昭、
長堂竜維、丸山芳一

急性内頸動脈閉塞症に対してtPA静注療法が有効であった2例

第39回日本脳卒中学会総会 大阪 2014年3月14日
1) 今給黎総合病院神経内科 2) 同 脳神経外科
甲斐太¹⁾、荒田仁¹⁾、林茂昭¹⁾、
長堂竜維¹⁾、西澤輝彦²⁾、丸山芳一¹⁾

【座長】

第2回鹿児島県多発性硬化症 Peer to Peer Meeting
城山観光ホテル ガレリア 2013年6月28日
長堂竜維

【社内講演】

「脳梗塞急性期の抗血小板療法」
第一三共(株) 2013年1月17日
丸山芳一

「パーキンソン病の臨床」
大塚製薬 2013年1月23日
長堂竜維

「認知症薬の使い分け」
小野薬品(株) 2013年2月19日
丸山芳一

「パーキンソン病の診断と治療」
エフピー(株) 2013年3月13日
長堂竜維

「パーキンソン病、認知症のトピックス」
ノバルティス(株) 2013年8月1日
丸山芳一

「パーキンソン病治療におけるニュープロパッチの使用経験」
大塚製薬 2013年10月29日
丸山芳一

【座談会】

脳梗塞急性期、慢性期、回復期治療戦略
ファーライフメディカル社
霧島山上ホテル 2013年2月8日
丸山芳一

【講演会】

パーキンソン病の診断と治療
第60回 南薩医学研究会 かわなべ寿光苑
2013年6月27日
丸山芳一

脳卒中予防教室
郡山公民館 2013年8月26日
甲斐太

頭痛：放っておくといけない頭痛とは
鹿児島市郡山保健センター 2013年9月25日
長堂竜維

認知症薬の使い分け
認知症よろず相談Meeting in Kagoshima
ブルーウエーブ鹿児島 2013年10月16日
丸山芳一

脳卒中予防教室
松元公民館 2013年11月25日
甲斐太

【教育関連講義】

2013年1月9日～1月10日
鹿児島大学医学部3年生
「内分泌系構造と機能」合計4回
長堂竜維

2013年1月8日～1月10日
鹿児島大学医学部2年生
内分泌・代謝・栄養系系統講義 合計4回
長堂竜維

2013年4月16日～5月21日
久木田学園看護専門学校
系統看護学講義 脳・神経系 講義 合計7回
長堂竜維

外科(消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)

外科部長 濱之上 雅博

今年度、外科の人員構成は、下記のとおりであり2年間頑張ってくれた花園 幸一先生、また渡邊照彦先生・前田 光喜先生が7月に転出されました。7月より2年前当院にて頑張ってくれていた野口智弘先生が田上病院より帰ってこられ、頼もしい限りです。また新たに立野 太郎先生・吉満 工平先生が当科に赴任されました。当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性がもとめられる腫瘍外科があります。また、消化器・甲状腺・乳腺外科という広い範囲の臓器を受け持っています。特に病院が“がん拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファを中心に消化器内科・放射線科・麻酔科・病理診断科との垣根のない症例検討を行っています。看護師さん、paramedical staffの参加もあり、情報共有に寄与しています。さらに牟禮 洋先生を中心に研修医の増員と研修の充実が図られており、このためにもカンファレンスは重要なものとなっています。当科は、大学よりの病院実習生(ポリクリ)も週2~4名受け入れており、実際の患者様に接してもらいまた手術への参加もあり病院スタッフおよび患者様にお世話になっています。また最近、県外・県内の医学生の見学者が増加しており、彼らに接すると彼らが自分の将来像を真剣に描こうとしているのに感心させられます。外部の人の評価は内部の人の評価と異なり意外な面が評価されていることがあり考えさせられることも多い日々です。

近年、がんの治療法として化学療法が大きな部分を占めるようになり消化器癌化学療法は手術との関連も強く外科で対応させてもらっています。今後、救急・腫瘍外科・化学療法と広範囲の仕事を効率よくしていくために各部署との漏れのない情報交換がさらに重要となると思います。そのために、cancer boardを定期的で開催していく予定です。できれば連携病院の先生方との情報交流も進めたいと考えています。外科は医学界の絶滅危惧種とも呼ばれ、その厳しい中で当科 staffは本当に頑張ってくれていると感謝しております。この忙しい中で外科のスタッフが地方および全国学会・研究会で病院での臨床上的結果と得られて知見をまとめ発表してくれています。

外科の標準術式となりつつある鏡視下手術の進展・先進医療に遅れないよう大学との連携にも勤めています。また全国手術症例登録システム

(NCD)は、各種学会における専門医制度に導入され当院の症例もすべて登録されています。最近、化学療法の多様化に伴い様々な全国規模の臨床治験が行われています。当科も院内の倫理委員会の承認をえながら参加できるものへは手を挙げていこうと考えています。臨床治験は、その参加することによる病院評価の上昇もありますが、患者様への治療説明の徹底、経過観察の精度の向上など診療の質の向上も期待できます。

近年、高齢者の手術が増加し家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められることも多くなりました。連携室・事務の方々の協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も外科としての仕事を明確にしつつ他科との協力を重んじ治療を行い、また新たな臨床知見にかかわる発信ができればとよくばりつつ考えています。

【人事】

勤務者

<医師>

継続・今給察和典、牟禮 洋、濱之上 雅博

(転出)

花園 幸一 : 平成25年6月まで
渡邊 照彦 : 平成25年6月まで
前田 光喜 : 平成25年6月まで

(転入)

野口 智弘 : 平成25年7月から
立野 太郎 : 平成25年7月から
吉満 工平 : 平成25年7月から

<診療アシスタント>

手塚 あゆみ

<看護師>

熊迫 智枝、松田 めぐみ

【診療状況】

<外来患者状況>

平成25年の外来受診者総数(延べ)は4,541名であった。
その内訳は 初診患者:495名 再診患者:
4,046名
(入院患者)617名/年

【手術症例内訳】

全身麻酔症例 271 例
 脊椎麻酔症例 55 例

全麻症例 疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	5	3	2	2
乳	5	5	0	
食道	2	2		
胃	22	19	3	15
十二指腸・小腸	12	3	9	3
大腸	39	35	4	23
直腸	10	10	0	7
肝	21	18	3	11
胆	44	3	41	42
膵	10	7	3	1
ソケイヘルニア	63			
大腿ヘルニア	6			
腹壁ヘルニア	11			
虫垂炎	23	1	22	23

【講演・学会活動】

【講演】

大腸がん化学療法の現状（conversion therapy を目指して）

第13回鹿児島県病院薬剤師会 がん薬物療法対策講習会 鹿児島市 2013年5月11日
 濱之上 雅博

肝細胞癌の外科治療

今給黎総合病院 がん診断学講座
 鹿児島市 2013年10月18日
 濱之上 雅博

肝切除に有用な画像診断

鹿児島放射線技師会講演会 鹿児島市
 2013年11月5日
 濱之上 雅博

【学会・研究会発表】

外傷性腸間膜損傷の経験

第66回 鹿児島臨床外科学会 2013年8月10日
 佐保 明、濱之上 雅博、吉満 工平、
 立野 太郎、野口 智弘、牟禮 洋

当院における腹腔鏡下肝のう胞開窓術

九州内視鏡外科手術研究会 鹿児島市
 2013年8月24日
 前田 光喜、濱之上 雅博、花園 幸一、
 渡邊 照彦、牟禮 洋

肝血管肉腫の一例

鹿児島肝癌研究会 2013年11月16日
 吉満 工平、濱之上 雅博、立野 太郎、
 野口 智弘、牟禮 洋

著明な血栓形成を伴った肝外門脈瘤の一例

日本消化器関連学会週間（JDDW2013）
 東京 2013年10月11日
 渡邊 照彦、濱之上 雅博、前田 光喜、
 花園 幸一、牟禮 洋

呼吸器外科

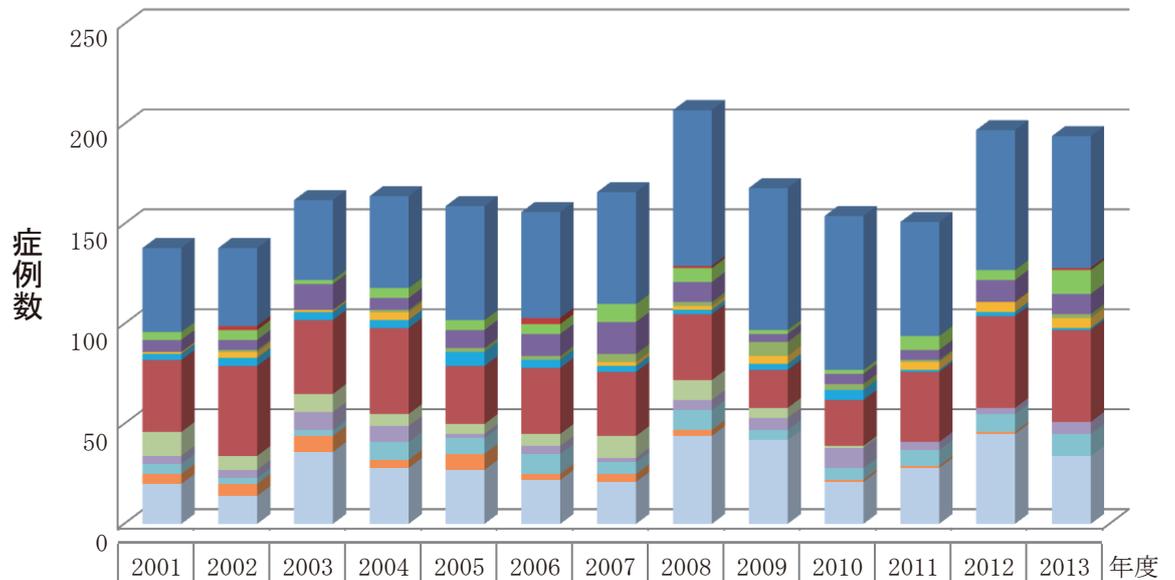
呼吸器外科部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本呼吸器外科学会専門医・指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医 日本胸部外科学会認定医・正会員
 日本呼吸器外科学会評議員 九州外科学会評議員
 日本胸部外科学会九州地方会評議員 日本肺癌学会九州支部会評議員

2013年度は、今給黎尚幸先生、巻幡 聰先生と3人体制で、10-11年度に減少した症例数も何とか増加の兆しをみせております。今年度の出来事としては、まず今給黎先生が双子の父親となったこと、巻幡先生が呼吸器外科専門医に合格したこと、私はというと、臨床研修医指導医を取得、また鹿児島大学臨床教授を拝命したことなどでしょうか。

今年度の手術症例は194例で肺癌66例、転移性肺腫瘍12例、縦隔腫瘍10例、気胸46例、胸壁腫瘍5例(横隔膜腫瘍うち2例)、膿胸6例、良性肺腫瘍11例などで、肺癌症例が伸び悩みが懸念されます。鹿児島も呼吸器外科専門施設が2施設増え、なかなか厳しい状況ではありますが、何とか踏ん張っていこうと思っております。

【手術症例】



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	年度
■ 原発性肺癌	42	39	40	46	57	53	56	78	71	77	57	70	66	
■ 気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	
■ 転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7	2	2	7	5	12	
■ 縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10	4	5	5	11	10	
■ 胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2	7	3	1	0	2	
■ 胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2	4	0	4	5	5	
■ 肺気腫	3	4	4	4	7	4	3	2	3	5	1	2	1	
■ 自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33	19	23	35	46	46	
■ 局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10	5	1	0	0	0	
■ 膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5	6	10	4	3	6	
■ 良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10	5	6	8	9	11	
■ 気道狭窄	5	6	8	4	8	3	4	3	0	1	1	1	0	
■ その他	20	14	36	28	27	22	21	44	42	21	28	45	34	
合計	138	134	162	164	159	155	164	207	168	154	151	197	194	

【2013年度 呼吸器外科 業績】

原著

原著論文名	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
The outcomes of surgery in lung cancer patients with schizophrenia	Surgery Today	44:855-858, 2014	Toshiro Obuchi, Kan Okabayashi, Takayuki Imakiire, Satoshi Yoneda, Akinori Iwasaki

症例報告

症例報告論文	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
後縦隔原発神経節細胞腫 (ganglioneuroma) の2手術例	呼吸器外科学会誌	投稿中	今給黎尚幸、米田 敏、 巻幡 聰、岩崎 昭憲

学会発表

学会発表演題名	学会名	場所・月日・年	演者
後縦隔原発神経節細胞腫 (ganglioneuroma) の2手術例	第53回日本肺癌学会九州支部学術集会	秋田、5月17-18日 2012年	今給黎尚幸、大淵俊朗、 濱田利徳、巻幡 聰、 米田 敏、岩崎昭憲
導入化学療法を行った臨床病期IIIA期以上非小細胞肺癌の検討	第30回日本呼吸器外科学会総会	名古屋、5月9日 2013年	今給黎尚幸、巻幡 聰、 米田 敏、岩崎昭憲
非小細胞肺癌根治術後のCBDCA+PACとCBDCA+GEM併用化学療法の有用性	第30回日本呼吸器外科学会総会	名古屋、5月9日 2013年	巻幡 聰、今給黎尚幸、 米田 敏、加藤文章、 岩崎昭憲
人工血管全置換による肺動形成を施行した左上葉切除	第46回日本胸部外科学会九州地方会総会	福岡、7月26-27日 2013年	今給黎尚幸、巻幡 聰、 米田 敏
家族内発生を見たMEN1型胸腺カルチノイドの一例	第54回日本肺癌学会総会	東京、11月21-22日 2013年	今給黎尚幸、巻幡 聰、 米田 敏
完全鏡視下右肺 S6 区域切除	第7回鹿児島胸腔鏡セミナー	鹿児島、10月18日 2013年	巻幡 聰、今給黎尚幸、 米田 敏
胸水貯留を契機に発見された腹膜中皮腫の一例	第54回肺癌学会九州地方会	大分、3月1日 2014年	中間 恵美子、今給黎 尚幸、 巻幡 聰、米田 敏、白濱 浩、 田代 幸恵

整形外科・リハビリテーション科

整形外科部長 松 永 俊 二

整形外科の平成25年度の活動状況を報告します。平成25年度の整形外科の手術総数は990例と前年より約100件増加しました。特に脊椎・脊髄の手術と変性疾患に対する人工関節置換術などの関節手術が前年に比べ大幅に増加しました。高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術も年々増加しています。クリニックの患者数は平均約100名/日であり昨年度と大きな変化はありませんでした。しかし、救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く、病院の過去最高数の救急車受け入れに貢献しています。入院患者総数は1239名で平均稼働率は104.7%で常に満床状態でした。本年度の平均在院日数が26.0日でした。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行いました。鹿児島大学の関連病院として今給黎総合病院は整形外科医が勤務したい病院のひとつとして人気が高い病院であります。県外の大学の医学部生も多数整形外科診療の見学に来院しています。日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として今後益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。また日本整形外科学会の専門医委員会の活動や日本脊椎脊髄病学会の評議員や監事の仕事を今給黎総合病院の対外的評価に貢献しております。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉 9名

今給黎尚典 (理事長)
松永俊二 (整形外科部長)
井尻幸成 (整形外科部長)
石田育男 (整形外科部長)
宮口文宏 (整形外科医長)
山口 聡 (整形外科専門医)
堀川良治 (専門医)
岡松伸明 (専門医)
城光寺豪 (研修医)

【人事異動】

入職 6名

山口 聡 平成25年4月1日入社
日高 亮 平成25年4月1日入社
井尻幸成 平成25年9月1日入社
堀川良治 平成26年4月1日入社
城光寺豪 平成26年4月1日入社
岡松伸明 平成26年4月1日入社

退職 7名

東福勝宏 平成25年3月31日退社
日高 亮 平成25年3月31日退社
古賀公明 平成25年8月31日退社
岡 良臣 平成26年3月31日退社
救仁郷修 平成26年3月31日退社
音羽 学 平成26年3月31日退社
内村暢幸 平成26年3月31日退社

【主催セミナー】

鹿児島外傷セミナー
平成24年4月23日 今給黎総合病院講義室

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック
外来総数31,345名 新患4,741名 1日平均109.8名

今給黎総合病院
外来総数1,689名 新患1,197名 1日平均11.4名

入院総数 1,239名
平均稼働率 104.7%
平均在院日数 26.0日

手術総数 990件

【手術内訳】（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

脊椎（221件）

腰椎後方固定術	41
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	37
頸椎後方固定術	22
胸椎後方固定術	22
頸椎椎弓形成術	19
頸椎前方固定術	19
腰椎開窓術	16
脊髄腫瘍摘出術	10
体外式脊椎固定術(ハローベスト装着術)	8
胸椎前方固定術	5
胸椎椎弓切除術	4
転移性脊椎腫瘍手術	3
腰椎前方固定	2
経皮的髓核摘出術	2
硬膜外血腫除去術	2
後頭頸椎固定術	1
軸椎骨折骨接合術	1
化膿性脊椎炎手術	1
椎体形成術	1
椎体骨搔爬術	2
脊椎腫瘍摘出術（再発）	1
仙腸関節固定術	1
歯突起骨折	1

骨折（419件）

大腿骨頸部骨折手術	124
橈骨遠位端骨折手術	68
下腿骨骨折手術	29
鎖骨骨折手術	28
足関節脱臼骨折手術	27
上腕骨近位部骨折手術	18
骨盤骨折手術	18
手指骨折手術	17
脛骨近位部骨折手術	14
膝蓋骨骨折手術	11
踵骨骨折手術	10
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	6
前腕骨骨折手術	6
大腿骨骨幹部骨折手術	6
上腕骨骨幹部骨折手術	5
肘関節内骨骨折手術	5
肘頭骨折手術	4
大腿骨顆上骨折	3
足趾骨折手術	3
上腕骨内顆骨折手術	3
モンテジア骨折手術	2
大腿骨骨幹部骨折偽関節手術	2
鎖骨骨折偽関節手術	1
上腕骨偽関節手術	1
上腕骨外顆骨折手術	1
肩甲骨骨折骨接合術	1
尺骨遠位端骨折	1
舟状骨骨折手術	1
手指骨開放性脱臼整復術	1
腸骨剥離骨折手術	1
大腿骨骨幹部開放骨折	1
骨折偽関節後骨切り術	1

切断術（9件）

下肢	9
----	---

関節手術（120件）

人工股関節置換術	33
人工骨頭置換術	33
人工膝関節置換術	17
膝関節視鏡下半月板切除術	14
膝前十字靭帯再建術	4
膝後十字靭帯再建術	2
人工肘関節再置換術	2
人工股関節再置換術	2
骨盤骨切り術	2
肘関節形成術	1
手関節形成術	1
人工肩関節置換術	1
股関節脱臼観血の整復術	1
膝関節視鏡下滑切除術	1
膝関節授動術	1
二分膝蓋骨手術	1
脛骨高位骨切り術	1
人工膝関節再置換術	1
膝外側側副靭帯再建術	1
足関節固定術	1

筋・腱・神経手術（52件）

腱鞘切開術	22
手根管開放術	11
アキレス腱縫合術	5
腱縫合術(手)	4
神経移行術	2
血管吻合術	2
腱移行術	1
神経剥離術	1
肘部管症候群手術	1
ギオン管開放術	1
神経縫合術	1
筋膜切開術	1

腫瘍手術（12件）

骨軟部腫瘍手術	9
ガングリオン手術	1
生検術	2

抜釘術（107件）

その他（38件）

開放創デブリードマン・創傷処理	29
創外固定術	6
断端形成術	2
外反母趾手術	11

感染症手術（12件）

感染持続洗浄術	7
骨髄炎手術	5

【学術活動】(平成25年1月1日～12月31日)

【学会発表】

シンポジウム RA の脊椎病変
生命予後からみた RA 頸椎病変の自然経過
第57回日本リウマチ学会 2013年4月19日 京都
松永俊二、小宮節郎

パネルディスカッション
脊椎疾患の自然経過解明への挑戦 頸椎後縦靭帯
骨化症の自然経過と脊髄症状発現因子について
第86回日本整形外科学会学術集会
2013年5月24日 広島
松永俊二、小宮節郎 戸山芳昭

骨盤骨折の手術における問題点とその対策
第86回日本整形外科学会学術集会
2013年5月25日 広島
宮口文宏、救仁郷 修、古賀公明、松永俊二、
神菌純一、有島善也、上野宣巧、永野 聡、
横内雅博、石堂康弘、小宮節郎

スポーツ脊椎障害の小経験
第79回西日本脊椎研究会 2016年6月13日 福岡
宮口文宏、古賀公明、山口聡、松永俊二、
小宮節郎

変形性股関節症に伴う変形性膝関節症 (coxitis
knee) の一例
第5回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
2013年6月20日 札幌
石田育男、岡良臣、助崎文雄、稲垣克記

骨盤骨折の new anterior approach
第2回九州骨盤研究会 2013年9月14日 久留米
宮口文宏、古賀公明、山口聡、松永俊二、
小宮節郎

胸腰椎破裂骨折に対する miniALIF
第16回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会
2013年11月23日 神戸
宮口文宏、古賀公明、山口聡、松永俊二

【座長】

後縦靭帯骨化症2 第42回日本脊椎脊髄病学会
沖縄コンベンションセンター
2013年4月27日 宜野湾市
松永俊二

頸部脊髄症における術前・術中・術後の評価
平成25年度鹿児島脊椎症例講演会
城山観光ホテル 2013年10月11日
松永俊二

【著書】

頸椎症性脊髄症性 (頸椎後縦靭帯骨化症を含む)
2013 今日の治療指針—私はこう治療している
—、山口徹、北原光夫、福井次矢編 医学書院、
pp 928-930, 2013
松永俊二

生体直流電気刺激による骨形成と細胞応答
深田栄一、大橋敏郎、久保俊一編 生体電気・
物理刺激法による骨・軟部組織修復法
pp144-154, 2013
松永俊二

【論文その他発表】

Risk factors for the development of myelopa-
thy in patients with cervical spondylotic
cord compression.
European Spine Journal 23:
10.1007/s00586-013-2839-9 i, 2013
Matsunaga S, Komiya S, Toyama Y.

Risk factors for development of myelopathy in
patients with asymptomatic ossification of
the posterior longitudinal ligament.
Journal of Spine Research 4:116-122, 2013
Matsunaga S, Tsuji T, Toyama Y, Ijiri K,
Komiya S, Numasawa T, Toh S, Ichimura S,
Satomi K, Seichi A, Hoshino Y, Takeshita
K, Nakamura K, Endo K, Yamamoto K, Kato
Y, Kato T, Shinomiya K, Tokuhashi Y,
Kawaguchi Y, Kimura T, Matsuyama Y,
Ishiguro N, Neo M, Nakamura T, Taniguchi
S, Tani T, Kato Y, Taguchi T, Sato K,
Nagata K.

Life prognosis of rheumatoid arthritis
patients with myelopathy caused by upper
cervical lesions.
Modern Rheumatology 23S:S14-15, 2013
Matsunaga S, Komiya S.

Distractive flexion injuries of the subaxial
cervical spine treated with a posterior
procedure using cervical pedicle screws or a
combined anterior and posterior procedure.
J Clin Neurosci. 20:697-701. 2013
Tofuku K, Koga H, Yone K, Komiya S.

日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPE
Q), 日本整形外科学会頸髄症評価質問票 (JOA
CMEQ) の認知度調査
Journal Spine Research 4:1388-1392, 2013
榊原紀彦、笠井裕一、紺野慎一、高橋和久、
千葉一裕、福井 充、宮本雅史、種市 洋、
加藤圭彦、金森昌志、金山雅弘、細野 昇、
竹下克志、田中信弘、橋爪 洋、松永俊二、
川上守

【講演】

頸椎後縦靭帯骨化における脊髄症状発現危険因子の解析

第7回NSG頸椎セミナー 名古屋大学医学部
2013年2月9日
松永俊二

整形外科医の診る運動器の機能低下-寝たきりも招くロコモティブシンドローム

鹿児島県民交流センター 2013年2月23日
松永俊二

多施設研究の成果-頸椎後縦靭帯骨化症の自然経過-
-神経症状発現に関する多施設研究の成果-

厚生労働省難治性疾患克服研究事業脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班平成25年度班総会
2013年6月8日
松永俊二

難治性仙腸関節機能障害における骨シンチグラフィの有用性

第21回鹿児島R Iカンファレンス
2013年8月3日 ソラリア西鉄ホテル鹿児島
古賀公明

骨粗鬆症治療の新展開

第65回南薩医学研究会 2013年9月26日
かわなべ寿光苑
松永俊二

骨粗鬆症治療現状からみた SERM(ラロキシフェン)の位置づけ-整形外科の立場から-

エビスタLTP Regional Conference
2013年10月26日 ヒルトン福岡シーホーク
松永俊二

骨粗鬆症治療の up to date

第1三共社内研修講演会 2013年12月11日
第一三共鹿児島支店
松永俊二

形成外科

形成外科部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生(千葉県立こども病院)が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常に戻れるようにしてあげることが最大の目的としております。

当科の主な仕事内容は、

1. Hand and Microsurgery (手とマイクロサージャリー)
2. Oculoplastic Surgery(眼形成)
3. Breast Surgery(乳房再建)
4. Vascular anomalies(血管腫・血管奇形)
5. Cleft Lip and Palate(口唇口蓋裂)
6. Maxillofacial Surgery(顎顔面外科)
7. Oncoplastic Skin Surgery(皮膚腫瘍外科)

特に、1は鹿児島で唯一の日本手外科学会認定基幹病院で、整形外科の手外科医とともに専門外来を行っています。

3は、乳癌術後の乳房再建が保険適応となり今後症例が増加する分野です。

Aesthetic and Functional Surgery(整容機能外科)をモットーに日々治療を行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介(たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
日本褥瘡学会認定師
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会、
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本口蓋裂学会、
日本美容外科学会、日本美容医療協会、
日本褥瘡学会、日本臨床皮膚外科学会、
日本創傷外科学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会、
日本血管腫・血管奇形研究会

信太 薫(しだ かおる)

2005年 佐賀大学医学部卒業

2007年4月 昭和大学形成外科学教室入局

2012年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本口蓋裂学会、日本創傷外科学会、
日本褥瘡学会、日本手外科学会、
日本マイクロサージャリー学会

小坂 健太郎(こさか けんたろう)

2010年 千葉大学医学部卒業

2012年4月 千葉大学形成外科学教室入局

2013年4月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会

非常勤医師
門松 香一 (かどまつ こういち)
昭和大学形成外科 講師

有村 和子 (ありむら かずこ)

泉 朝望 (いずみ あさみ)
歯ならびの歯医者さん 院長

【診療状況 (2013年1月～12月)】

外来診療
外来初診患者数 1,781名

入院診療
入院患者数 453名

手術件数
入院手術件数 522件
外来手術件数 445件

【手術件数】

外傷	188件
先天異常	31件
腫瘍	582件
癒痕・癒痕拘縮・ケロイド	34件
難治性潰瘍	41件
炎症・変性疾患	87件
美容	0件
その他	4件

顔面骨骨折	71件
切断(指、四肢)再接合	25件
四肢再建(有茎皮弁、遊離皮弁)	30件
皮膚良性腫瘍	496件
皮膚悪性腫瘍	54件
悪性腫瘍再建	31件
眼瞼下垂	40件
血管奇形硬化療法	25件
耳下腺腫瘍	13件
顔面神経麻痺	8件

【学会活動】

パネルディスカッション
四肢骨髄炎・感染性偽関節に対する血管柄付き遊離腓骨・骨膜移植を用いた再建の検討
第40回日本マイクロサージャリー学会
2013年9月26日 盛岡
高木信介

一般演題

正中神経欠損に対して血管柄付き橈骨神経移行を行った上腕切断の1例

第40回日本マイクロサージャリー学会
2013年9月26日 盛岡
信太薫

慢性骨髄炎に対する遊離血管柄付き腓骨移植とロッキングコンプレッションプレートを併用した下肢再建の検討
第16回九州昭和大学同門会学術集会
2013年1月26日 北九州
高木信介

正中神経欠損に対して血管柄付き橈骨神経移行を行った上腕切断の1例
第16回九州昭和大学同門会学術集会
2013年1月26日 北九州
信太薫

創外固定器を用いた基節骨レベル再接着指の関節可動域獲得について
第20回横浜形成外科フォーラム
2013年11月9日
高木信介

慢性骨髄炎に対する遊離血管柄付き腓骨移植とロッキングコンプレッションプレートを併用した下肢再建の検討
九州支部学術集会第91回例会 博多
高木信介

正中神経欠損に伴う上腕切断に対して血管柄付き橈骨神経移行術を行った1例
九州支部学術集会第91回例会 博多
高木信介

尿管管遺残症に対し臍半周切開による摘出術を行った4例
九州支部学術集会第92回例会 博多
小坂健太郎

ランチョンセミナー
ディベート四肢外傷治療—整形外科医の立場から／形成外科医の立場から
第27回日本外傷外科学会総会・学術集会
2013年5月23日 久留米
高木信介

【講義】

原田学園 鹿児島医療技術専門学校
2013年4月～6月 毎週火曜日
形成外科について
高木信介、信太薫

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設されました。今年度で四半世紀を迎え微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。特にこの数年、頸動脈ステント留置術は県内でも最も良好な治療成績を上げている施設の一つです。

また、脳動脈瘤のクリッピング術や頭蓋内外のバイパス手術、脳腫瘍摘出術などの開頭手術にも積極的に対応しており、この平成24年3月には手術用顕微鏡も蛍光血管撮影の行える最新式に更新も行いました。開頭手術、脳血管内治療の両者を患者さんの状況に応じて最適な方法を選択し、より良い治療成績を目指しています。

当院は年間2700台の救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者さんが多いのが特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。また、当院は癌拠点病院の指定も受けており癌の脳転移への対応を依頼されることも多く摘出手術、生検術、定位的放射線治療などで協力しています。神経内科からは脳腫瘍、脳血管狭窄のみならず脳や脊髄の生検術の依頼や、形成外科とは協同で頭蓋骨や頭皮の形成術などもあり積極的に対応して行く方針です。

【人事・スタッフ】

今年は松邨が二年目となり当院の体制にも馴染み、毎週月曜日の病院全体の救急受け入れ担当として脳神経外科領域のみならず広い領域に亘る多数の救急患者の受け入れに貢献してくれました。その結果、脳神経外科領域の救急症例も増加傾向で年間の手術件数も昨年と同じ118件を維持出来ました。脳神経外科医一人当りの手術件数としては近隣の病院と比較すると多い状態です。その人手不足の状態の中、4月から6月までの三ヶ月間は鹿児島大学からの研修医、宮本昇太郎先生が三人目の貴重な戦力となってくれました。それ以外にも救急研修中の研修医にも手術に参加させるなど研修医教育にも積極的に貢献できました。また西澤は鹿児島大学の臨床教授を拝命し医学部3～4年生

のシャドウイング学習を受け入れており、医学生への教育にも参加しております。当院の規模、地域における重要な役割から見て明らかにマンパワーが不足している現状が続いています。今後も鹿児島大学からの増員をお願いしたいところです。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成2年10月～）

1979年 鹿児島大学医学部卒業

1983年 鹿児島大学大学院単位取得退学

2013年 鹿児島大学医学部臨床教授

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

鹿児島市立病院非常勤医師

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会（評議員）、

日本脳卒中学会、脳卒中の外科学会、

日本脳神経血管内治療学会、

日本小児脳神経外科学会、

日本脳神経外科コンgress、脳ドック学会他

【脳神経外科科長】

松邨 宏之（平成24年1月～）

1997年 東京医科大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、脳神経外科コンgress、

脳卒中の外科学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳

鹿児島大学脳神経外科教授

平野 宏文

鹿児島大学脳神経外科講師

寺田 耕作

串木野脳神経外科センター

【診療実績】入院患者疾患別分類（2013年1～12月）

脳腫瘍	グリオーマ	2
	髄膜腫	5
	悪性リンパ腫	1
	転移性脳腫瘍	2
	その他	2
	合計	12
血管病変	クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）	3
	クモ膜下出血（原因不明）	1
	未破裂脳動脈瘤	9
	AVM / AVF	1
	高血圧性脳出血	15
	脳梗塞	12
	動脈狭窄（閉塞）	22
	モヤモヤ病	3
	その他	4
	合計	70
慢性硬膜下血腫	合計	18
頭部外傷	頭蓋骨骨折	1
	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	18
	脳挫傷	17
	その他	26
	合計	65

小児神経外科	水頭症	7
	二分脊椎	0
	狭頭症	0
	その他	0
	合計	7
脊椎・脊髄疾患	腫瘍	0
	脊椎症・ヘルニア	0
	その他	1
	合計	1
機能的脳神経外科	顔面痙攣	0
	三叉神経痛	0
	てんかん	4
	不随意運動	0
	その他	11
	合計	15
	感染症	脳膿瘍
髄膜炎		1
その他		2
合計		3
その他	合計	12
合計	203人	

【手術症例】（2013年1～12月）

開頭術	腫瘍	全摘出術 / 亜全摘	8
		部分摘出術	1
		合計	9
	動脈瘤	クリッピング(破裂)	4
		クリッピング(未破裂)	1
		合計	5
	動静脈奇形 / 血管腫	全摘出術	1
	血管吻合術	直接的血管吻合術	3
	開頭血腫除去術	脳内血腫	6
		硬膜外血腫	1
		硬膜下血腫	0
合計		7	
減圧開頭手術		1	
合計		26	
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	34	
	脳室ドレナージ	1	
	脳内血腫ドレナージ	2	
	オンマイヤ設置術	1	
	合計	38	

短絡術	V-P シヤント	1
	V-P シヤント再建術	1
	その他	13
	合計	15
頭蓋骨形成術		4
血管内手術	動脈瘤 coiling	3
	血管形成術 (PTA)	1
	血管形成術 (STENT)	11
	血栓溶解術	1
	その他	6
	合計	22
その他		13
合計	118件	

産婦人科

産婦人科部長 加藤明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は産科・婦人科一般診療を行っておりますが、当院には新生児内科があることから、鹿児島県の周産期医療システムの一旦を担う病院として、リスクのある妊婦さんの妊娠・分娩管理を行っております。また1次施設からの母体搬送の受け入れも行っております。婦人科は子宮癌検診や良性・悪性の婦人科疾患のみならず、下腹部痛などの婦人科救急疾患の対応も行っております。

【人事・スタッフ紹介】

今年度は鹿児島市立病院産婦人科より田平達則医師に11月30日まで勤務して頂き、12月1日以降は三浦美沙医師に勤務して頂いております。7月1日より下倉眞平医師に産婦人科専門医を取得するために平成26年3月31日まで当院で研修して頂きました。また種子島産婦人科医院へ助産師を4名出向させて頂きました。助産師名と期間を以下に記します。

種子島産婦人科医院への助産師出向

西上原えみ 2013年7月1日～9月30日
繁田朋佳 2013年7月16日～8月15日
野間愛子 2013年9月15日～11月30日
本田里美 2014年1月4日～3月22日

【診療状況】

産科

分娩件数 137件 (うち帝王切開 66件)
母体搬送 78件

婦人科

手術件数 89件
D&C 5件
付属器切除術 25件
円錐切除術 12件
卵巣嚢腫核出術 3件
単純子宮全摘術 30件
準広汎子宮全摘術 1件
腹腔鏡下手術 3件
筋腫核出術 5件
その他 5件

【学会活動】

HTLV-1陽性妊産婦がもつ児の栄養法に関する不安と困難

第26回鹿児島県母性衛生学会
2013年8月10日 鹿児島
俊 彩
(鹿児島県助産師会の一員として発表)

当院におけるハイリスク妊産褥婦の地域連携の実践
平成25年度周産期医療関係者推進事業～子ども虐待防止対策研修会～
2014年3月29日 鹿児島
西上原えみ

【講演】

気をつけよう！脳室周囲白質軟化症の超音波診断
第18回ひむかセミナー 2014年3月2日 宮崎
加藤 明彦

【論文】

子宮手術後に筋層内妊娠を起こした二例
鹿児島産科婦人科学会雑誌第22巻26-31
三浦 美沙、加藤 明彦、下倉 眞平、
寺原 賢人、田代 幸恵

急性腹症を起こした子宮内膜間質肉腫の破裂例
鹿児島産科婦人科学会雑誌第22巻32-35
下倉 眞平、加藤 明彦、三浦 美沙、寺原 賢人

【院外教育活動】

加藤 明彦
久木田学園看護専門学校 看護科
母性看護学・女性生殖器 40時間

下倉 眞平
南学園 鹿児島医療福祉専門学校看護学科
疾病論VI (母性 正常・異常) 15時間

野間 愛子
公益財団法人 出水郡医師会広域医療センター附属
看護学校
母性看護学 新生児の沐浴について演習

【表彰】

寺原 賢人
平成25年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰
2013年10月2日

【平成26年度の計画】

寺原賢人、加藤明彦、三浦美沙の3名で診療を行って参ります。当院の各診療科、鹿児島市立病院、鹿児島大学病院と連携を取りつつ診療を行って参りたいと思います。

新生児内科

新生児内科部長 丸山 有子

【診療内容】

当院のNICU・GCUは、NICU：9床、GCU：10床の合計19床の、県内では鹿児島市立病院NICUに次ぐ規模の新生児医療施設であり、Late Preterm Babyの管理、Preterm BabyのGrowing CareおよびFamily Careを担当しています。

外来業務として、新生児フォローアップ外来がありますが、当院NICUを退院したBaby達の発育発達をフォローしてゆく外来です。

【診療の担当】

NICU・GCUは、新生児内科部長の丸山と鹿児島市立病院新生児科から1週間交代で1名の先生が来られ、2人体制で日々の診療を行っています。フォローアップ外来は、金曜日には鹿児島市立病院の井之上寿美先生も来てくださり、二人体制で行っています。

夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科の医師で担当しています。

ハイリスク児の発達検査（新版K式発達検査）のために、鹿児島市立病院より吉永明美臨床心理士に来ていただいています。（月2～5回）

療育指導外来には、東京小児療育病院より奈須康子先生に来ていただいています。（月1回）

毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に、入院経路別入院児数を表2に、人工呼吸管理患者数を表3に示しました。

【外来状況】

* 新生児フォローアップ外来・シナジス外来

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けています（表4）。

* 発達検査

平成25年は136名が受けました。

* 療育相談外来

月1～2人ずつ行い、平成25年は17名が受けました。

* PIPC（早産児の両親学級）

今年は23回開催し、156人の方が聴講してくださいました。

【地域連携活動】

* 地域保健師と家族の面談をsetting

以前より、ハイリスクな児が地域へ退院する際には地域の担当保健師へ情報を提供してきましたが、現在では、NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図ることが多くなっています。22年度は18例のご家族が入院中に保健師面談を受け、23年度は36例、平成24年は61例と増加する傾向にあり、25年度は76例でした。

* 訪問看護研修（10月16日～12月7日）

NICUから退院する児においては、医療処置を必要としない場合でも、日常的なケア・観察の指導や育児支援等、訪問看護師を必要とするケースが多いのですが、鹿児島県には乳児のための訪問看護ステーションが不足していました。そこで、平成24年から、鹿児島県子ども福祉課の主催で、県内訪問看護師に対する研修を、鹿児島市立病院と当院とで開始しました。

当院での研修は、退院後の児の観察や日常ケアを主とする内容であり、新生児フォローアップ外来の見学や作業療法士による赤ちゃん体操の指導なども実施しました。平成25年度の当院の研修参加者は46名でした。

* 平成25年度 重症心身障害児・者関連施設連絡会議の開催（12月12日）

県内の重症心身障害児（者）施設とNICU施設とで構成される連絡会議が定期的に行なわれていますが、平成25年度は当院が当番世話人となり、かごしま県民交流センターにて開催しました。

* 「出張もじょクラブ」をスタート（12月15日）

小児在宅療法支援事業として県から委託されました。平成25年度から3年間限定で取り組みます。その第1回目を指宿市にて行ないました。

【入院児総数】

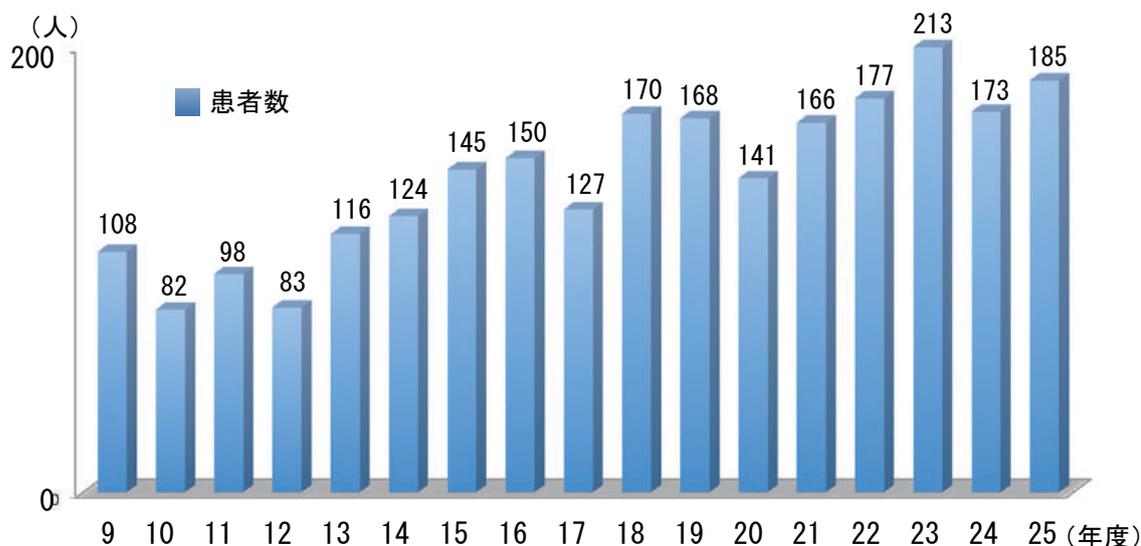


表 1 : 【出生体重別患者数内訳】

年度 (平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3	3	2	8	19	20
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35	26	40	34	43	35
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43	46	49	68	53	64
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35	52	46	59	42	35
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25	37	40	44	15	31

表 2 : 【入院経路別患者数および院内出生率】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9	29	28	36	17	22
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42	39	47	43	20	48
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66	66	80	105	118	100
大学よりgrowing care入院											3	3	6	1	9	9	10
他院よりの新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	13	23	24	21	20	9	5
院内出生率 (%)	32	33	16	33	45	30	28	19	25	34	46	36	41	42	37	10	37

表 3 : 【人工呼吸管理施行患者数】

年度 (平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)					1		5	4	5	9	15	19	12	44	33	49	46
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	10	5	4	9	7	10	4	2	4	4	21	19	13	13	11	4	16
人工呼吸管理施行数	10	5	4	9	8	10	9	6	6	13	36	38	25	57	44	53	62

表 4 : 【フォローアップ外来+シナジス外来のべ受診者数】

年度 (平成)	19	20	21	22	23	24	25
のべ人数(人)	307	684	770	890	1219	1641	1365

【教育的な活動】

* スタッフのための勉強会

- ・ 朝レクチャー：40 回開催
- ・ 茨 聡先生のレクチャー：12 回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。
- ・ 看護師・作業療法士による勉強会：10 回

* 施設見学・実習の受け入れ

- ・ 実習
久木田学園看護専門学校3年19期生 41名
神村学園専修学校看護学科3年7期生 38名

【講演】

周産期と感染症

第3回生長会産婦人科レビューコース
大阪 2013年2月10～11日
丸山有子

低出生体重児の継続支援 -- 病院での支援と地域との連携

平成25年度ハイリスク母子保健訪問指導研修会 2013年8月30日
丸山有子

NICU等への長期入院時の現状と課題

NICU等への長期入院児の支援に関するシンポジウム 2013年11月7日
原田純子

NICU等への長期入院時の現状と課題

重症心身障害児・者関連施設連絡会議
2013年12月15日
原田純子

【学会発表】

呼吸吸気変換方式警備持続用圧呼吸器(N-DPAP)

使用中の回路内の細菌培養検査を行なってみて
第15回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム
長野 2013年2月14日
戸高かおる

マイクロファイバー素材クリーニングクロスによる保育器の清拭効果の検討～次亜塩素酸ナトリウムによる消毒との比較～

第15回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム
長野 2013年2月14日
楠元友梨

超低出生体重児の3歳時発達検査の実施状況と成績

第62回九州新生児研究会 鹿児島 2013年5月25日
丸山有子

NICUにおける効果的な退院支援とは～調査からみた二次施設における訪問看護の現状と課題～

第62回九州新生児研究会 鹿児島 2013年5月25日
原田純子

超低出生体重児の3歳時発達検査の実施状況と成績

第1回周産期賢英フォーラム 岡山
2013年6月15日
丸山有子

超低出生体重児の3歳時発達検査の実施状況と成績

第32回ハイリスク児フォローアップ研究会
神戸 2013年6月8・9日
丸山有子

超低出生体重児の3歳時発達予後と周産期因子

第63回九州新生児研究会 阿蘇
2013年11月9日10日
丸山有子

超低出生体重児の3歳時発達予後と周産期因子

第58回未熟児新生児学会 金沢
2013年11月30日～12月2日
丸山有子

ハイリスク児フォローアップ外来の受診継続率向上のための家族支援～当院のフォローアップ外来の現状と課題

第23回日本新生児看護学会学術集会 金沢
2013年12月1日～2日
山口妙子

小児科

小児科部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、玉田の3名が常勤で、堀之内泉医師が非常勤で診療いたしました。一般外来のほか、堀之内兼一先生は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めている又は検査を希望されての受診が多いようです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、又新生児マススクリーニング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。内分泌疾患の負荷試験も外来でも実施する機会が増え昨年度は年間で20件ほど実施しています。スタッフも習熟してきましたが、今後も安全に正確に、専門性を生かした診療を行っていきたいと思います。

入院については、昨今、予防接種などの徹底から小児科入院事例が激減している中、地域の開業の先生方からの紹介もあり、減少しながらもある程度の数を保っています。また糖尿病初発やコントロール目的、ほか内分泌疾患、急性糸球体腎炎や紫斑病性腎炎など腎疾患での専門性を求められる入院で入院数が保たれている状況です。当院の役割をしっかり果たしていけたらと考えます。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後5年が経過し、年間のべ約600名の子どもさんを受け入れています。子育て世代の職員のバックアップのため、今後も貢献できたらと思います。

【スタッフ紹介】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医
鹿児島県小児科医会監査
日本小児科学会鹿児島地方会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン 委員
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島県保育所乳児保育研修会講師
NPO法人子ども医療ネットワーク 役員

堀之内兼一：小児科専門医
日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師 (漢方の講義)

玉田 泉：小児科専門医
日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師
鹿児島県立短期大学 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 13,728 人
入院診療 入院患者数延べ 1,012 人
(平均在院日数 5.4 日)

【診療実績】

入院疾患 (実数)
急性気管支炎・肺炎 (喘息増悪含む) 73 人
内分泌疾患 (成長ホルモン検査・糖尿病を含む) 17 人
急性上気道炎・中耳炎 9 人
急性胃腸炎 8 人
熱性けいれん・てんかん 5 人
心身症 (不登校など) 3 人
腎疾患 (ネフローゼ・尿路感染症) 2 人
その他 (顔面麻痺・肝炎・発疹症ほか) 10 人

【予防接種件数】（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

	インフルエンザ	おたふく	エイムゲン	ビームゲン	日本脳炎	狂犬病	ヒブ	子宮頸がん	水痘	麻疹風疹	四種混合	三種混合	二種混合	B C G	肺炎球菌	ロタウイルス	ポリオ	合計
1月	78	4		1	15		41	4	2	9	17	25	1	6	34	9	56	302
2月	12	6	2	2	16		43	7	5	13	37	15	1	4	39	15	22	239
3月	2	7	2	5	27		36	5	7	21	25	18	1	5	34	19	31	245
4月		7		4	24	2	44	1	2	11	30	10		7	41	16	12	211
5月		7		1	18		36	2	7	17	34	5		4	38	12	12	193
6月		7		3	28		29	1	7	23	20	7	2	7	28	9	6	177
7月		5		2	40		38		6	16	27	1	2	8	35	13	9	202
8月		3		3	40		35		4	13	24	11	7	6	30	12	8	196
9月		7		2	20		30		8	13	18	10	2	8	29	7	11	165
10月	102	8		2	12		36		7	13	25	10	1	5	34	13	14	282
11月	279	5		5	17		29		5	11	19	11	2	7	33	7	16	446
12月	249	8		3	10		32		7	10	18	6	1	6	27	12	13	402
総合計	722	74	4	33	267	2	429	20	67	170	294	129	20	73	402	144	210	3,060

【院外活動 / 講演会 学会活動など】

銚之原 昌

- ・2013年8月6日
平成25年度鹿児島県保育所乳児保育研修会講演
「乳児保育の意義と役割」
(鹿児島県・日本保育協会主催、鹿児島県保育連合会後援：鹿児島県庁にて)
- ・2013年10月23日
鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講演
(県教育委員会：県教育センターにて)
- ・2013年9月11日
南日本子ども健康セミナー（鹿児島県小児保健協会・山形屋主催）
市民の育児支援のために、育児相談
- ・鹿児島子ども虐待問題研究会
会長として年6回開催
- ・鹿児島県膠原病研究会 顧問として年2回開催
- ・鹿児島県小児科医会
2013年5月18日監査として監査
- ・鹿児島文化サロン 委員として年3回開催 参加
- ・鹿児島市子ども子育て会議 2013年5月16日
委員として育児支援活動

堀之内 兼一

- ・鹿児島市医師会学校腎臓病検診 委員、年一回委員会出席
- ・第60回小児保健学会 長年の奉仕に対して表彰

玉田 泉

- ・1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」
指導医、年に2回定例会
- ・1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
- ・ターナー症候群家族会「MIRAIの会」、
年に2回定例会参加
- ・鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員、
年12回審査会、年一回委員会

【原著論文】

子どものリウマチと半世紀
小児リウマチ, 4(1):3-7, 2013 銚之原 昌

【学会発表】

Quality of life (QOL) in children with juvenile idiopathic arthritis (JIA) treated with biologic agents- a nation-wide survey by using Pediatric Quality of Live Inventory 4.0 Generic Core Scales (PedsQL).

ICN 25th Quadrennial Congress 2013,
Melbourne, Australia, 2013. 5. 18-23
Osako Y, Takei S, Yamashita S, Nonaka Y,
Akaike H, Hokonohara M.

低血糖時に片麻痺を繰り返した I 型糖尿病の6歳男児例

第86回日本内分泌学会 2013年04月25-27日
仙台
溝田美智代、荒武真司、玉田 泉、
八牧愉二、大坪紀代子、大竹山令奈、
檜作和子、森田 智

若年発症サルコイドーシス/Blau症候群
(EOS/Blau) における関節病態の解析。

第23回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
2013年10月11-10.13日 埼玉
山遠 剛、久保田知洋、長倉智和、
山崎雄一、野中由希子、赤池治美、
根路銘安仁、嶽崎智子、今中啓之、
銚之原 昌、武井修治、河野嘉文

若年性強直性脊椎炎への生物学的製剤投与における
考察

第23回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
2013年10月11-10.13日 埼玉
山遠 剛、久保田知洋、長倉智和、
山崎雄一、赤池治美、野中由希子、
根路銘安仁、嶽崎智子、今中啓之、
銚之原 昌、武井修治、河野嘉文

クレチン症の加療中に Turner 症候群と診断した 3 例

第47回日本小児内分泌学会学術集会
2013年10月10-10.12日 東京
小木曾文乃、玉田 泉、溝田美智代、
八牧愉二、大坪喜代子、大竹山令奈、
森田 智、檜作和子、上野さやか、河野嘉文

臨床症状および生化学的評価で原因特定が困難な原
発性副腎機能低下症における包括的遺伝子解析

第47回日本小児内分泌学会学術集会
2013年10月10-10.12日 東京
天野直子、林 美恵、鳴海覚志、山田思郎、
今井一秀、玉田 泉、佐々木敦子、
室谷浩二、木津りか、望月 弘、谷口祐子、
松浦宏樹、鈴木敦詞、小野敦史、高野洋子、
石井智弘、本間桂子、長谷川奉延

新生児期にけいれん重積で発症した一過性偽性副甲
状腺機能低下症

第47回日本小児内分泌学会学術集会
2013年10月10-10.12日 東京
檜作和子、溝田美智代、玉田 泉、
大坪喜代子、森田 智

幼稚園検尿で発見され食事療法のみで 10 年間経過し
た MODY2 の 1 例

第43回九州小児内分泌談話会 2013年2月2日
玉田 泉、溝田美智代、八牧愉二、
小木曾文乃、大坪喜代子

DAX-1 遺伝子異常を認めた先天性副腎低形成症の 3 歳
男児例

第152回日本小児科学会鹿児島地方会
2013年2月3日
玉田 泉、堀之内 兼一、銚之原 昌、

相星壮吾、内門 一、奥 章三、八牧愉二、
小木曾文乃、溝田美智代、大坪喜代子、
天野直子、長谷川奉延

幼稚園検尿で発見され、食事運動療法のみで 10 年間
経過観察した MODY2 の 1 例

第153回日本小児科学会鹿児島地方会
2013年6月9日
玉田 泉、堀之内 兼一、銚之原 昌、
溝田美智代、八牧愉二、小木曾文乃、
大坪喜代子

Prader-Willi 症候群の 4 例

第153回日本小児科学会鹿児島地方会
2013年6月9日
米衛ちひろ、佐野のぞみ、石川珠代、吉留幸
一、楠生亮、玉田 泉

クレチン症の加療中にTurner症候群と診断した3例

第154回日本小児科学会鹿児島地方会
2013年10月20日
玉田 泉、小木曾文乃、溝田美智代、
森田 智、大坪喜代子、河野嘉文

入院症例におけるTBPM-PIの使用経験

小児呼吸器感染症治療Update 鹿児島
2013年1月26日
玉田 泉

二次性偽性低アルドステロン血症を発症した両側
重複腎盂尿管・水腎症の1例

第18回鹿児島県小児内分泌研究会 鹿児島
2013年11月30日
玉田 泉、堀之内兼一、堀之内 泉、銚之原 昌

・その他

平成25年3月、平成25年8月には医師会主催のこども
予防接種週間に参加して予防接種業務を行いました。

【平成 26 年度計画】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、
玉田泉で引き続き診療にあたります。

泌尿器科

泌尿器科部長 立和田得志

平成25年4月より、中目康彦、立和田得志、水間浩平、米森雅也、西山賢龍（非常勤：月のみ）で診療しています。

外来患者数は1日50人前後、入院は20人前後です。外来では新患担当医が初診の方を担当しています。再診の方は原則予約制でできるだけ待ち時間のないようにしています。

当院はCT検査まですぐ行える体制ですので、その日のうちに診断、治療方針をたてるようにしています。血液透析は入院患者のみで維持透析は行っていません。基本的に月、水、金の週3回です。

手術は腹腔鏡手術に力をいれています。平成26年3月に3D内視鏡システムを導入し、より精度の高い手術が可能になりました。限局性前立腺癌に対しては、腹腔鏡手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）まで行っており、早期退院（術後1週間前後）が可能になっています。経尿道的手術から骨盤内臓器脱手術（TVM手術）、尿失禁手術（TOT法）まで幅広く治療を行っております。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会 認定医

水間 浩平

日本泌尿器科学会専門医

部長 立和田 得志

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

米森雅也

日本泌尿器科学会専門医

【2013年4月～2014年3月手術統計】

分類	手術	件数
腎臓 ・ 副腎 ・ 尿管	腹腔鏡下根治的腎摘出術	11
	腹腔鏡下腎部分切除術	9
	開腹根治的腎摘出術	1
	腹腔鏡下副腎摘出術	5
	腹腔鏡下腎尿管全摘術	12
	開腹腎尿管全摘術	1
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術	76
	腹腔鏡下膀胱全摘術	2
	開腹膀胱全摘術 (代用膀胱1件、回腸導管1件、尿管皮膚瘻2件)	2

分類	手術	件数
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘術	52
	前立腺全摘術(小切開で施行)	16
	密封小線源治療	41
	経尿道的前立腺切除術	44
陰茎 ・ 陰囊 ・ 精巣	高位除辜術	3
	停留精巣固定術	2
	腹腔鏡下精索静脈瘤手術	1
尿道	TVM(骨盤内臓器脱手術)	5
	TOT(尿失禁手術)	2
	内尿道切開術	1

眼科

眼科部長 薄井 隆宏

平成25年度は今まで通り3人体制で診療、手術を行うことができました。5月には友寄先生が昭和大学に帰られ、徳永先生が赴任されました。10月には大井先生が鹿児島大学に帰られ、吉村先生が当科に赴任されました。今年も人事異動が激しい年でした。

外来は月曜日から金曜日まで午前は3人体制で、午後は金曜日を除き連日行い、手術は月曜日から金曜日の午後に連日行っております。

【特色】

当科は難症例の白内障手術が多く、眼内レンズ縫着も多くなっております。当科では小切開での眼内レンズ縫着を標準術式とし、眼内レンズ強膜固定など新しい方法での手術も行っております。また網膜硝子体手術は去年の件数に比べ大幅に増え、小切開で広角観察系システムを使い安全に短時間で行っております。緑内障手術も新しい器具を用い、侵襲が少ない手術が可能となっており、より良い治療成績を目指しております。

【スタッフ紹介】

薄井 隆宏（うすい たかひろ）

2000年北里大学医学部卒業

〈取得資格〉

医学博士（昭和大学）

日本眼科学会専門医

〈所属学会〉

日本眼科学会 日本眼内レンズ屈折手術学会

日本眼科手術学会

吉村 寿彦（よしむら としひこ）

2006年久留米大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本眼科学会 日本眼科手術学会

日本網膜硝子体学会

徳永 義郎（とくなが よしろう）

2010年昭和大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本眼科学会 日本眼科手術学会

日本職業・災害医学会

スタッフは看護師の川崎、出之口、有村、川口、中村、検査は視能訓練士の上村、川畑（真）、川畑（直）、他に木之下、鶴之園、鳥原（産休）、受付は赤塚、泊、医療秘書は日高、久富、岩元で行っております。訓練士の上村、川畑、藤島、他に木之下、鶴之園、鳥原、園中（産休）、受付は赤塚、泊で行っております。

【診療状況】

外来新患数	1,583名
外来再診数	12,901名
入院患者数	869名

【手術件数】

白内障手術	888件
眼内レンズ縫着	30件
緑内障手術	15件
網膜硝子体手術（網膜剥離含む）	124件
硝子体注射	163件
その他内眼手術	13件
斜視手術	4件
眼瞼下垂手術	48件
眼瞼内反症手術	7件
翼状片手術	45件
その他外眼手術	18件
合計	1,355件

【学会発表】

バックリング+ガス注入にて裂孔にガスが迷入した一症例

第236回鹿児島眼科集談会 2013年2月23日

友寄 英士、薄井 隆宏、大井 城一郎、
谷口 重雄

術中に眼内レンズ縫着糸切断、上脈絡膜出血の二つの合併症が生じた一例

第238回鹿児島眼科集談会 2013年9月7日

大井 城一郎、薄井 隆宏、徳永 義郎、
川畑 真澄

【社内講演】

ぼくの白内障手術

参天製薬 2013年11月29日

薄井 隆宏

【講義、地域連携活動】

久木田学園看護専門学校

病態学Ⅳ 眼科系 2013年9月 毎週金曜日

薄井 隆宏

口永良部島眼科検診

2013年7月

薄井 隆宏

気管食道・耳鼻いんこう科

気管食道・耳鼻いんこう科部長 昇 卓 夫

【スタッフ】

福田勝則 部長
医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
鹿児島大学医学部卒

昇 卓夫 院長
医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会専門医、補聴器相談医
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

非常勤医師：
宮崎康弘医師 今村洋子医師 茂木祥子医師

【入院患者内訳(非手術例)】

(平成25年1月～12月)

扁桃周囲膿瘍(炎)	33例
急性咽喉頭炎、扁桃炎等	14例
急性喉頭蓋炎	7例
その他咽頭疾患	3例
突発性難聴	65例
(治療効果判定)	
治癒：17例26%、著明回復：7例11%、	
回復：17例26%、不変・悪化：24例37%	
(1984年厚生省特定疾患突発性難聴研究班による判定)	
心因性難聴	1例
顔面神経麻痺(ベル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群)	5例
めまい(メニエル等)	9例
鼻出血	9例
睡眠時無呼吸症候群	2例
その他急性炎症等	5例
非手術例の入院総症例数	172例
悪性腫瘍：下咽頭癌	7例
中咽頭癌	4例
喉頭癌	3例
唾液腺癌	2例
頬粘膜癌	1例
鼻腔悪性黒色腫	1例
計	18例

【手術実績】(平成25年1月～12月)

手術総件数 492件

a) 耳科領域	88件(悪性0件)
鼓膜チューブ留置術	14件
先天性耳瘻孔手術	11件
鼓膜形成術	10件
鼓室形成術	5件
顔面神経減荷術	1件
鼓膜切開術	46件
その他	1件
b) 鼻科領域	249件(悪性1件)
鼻内副鼻腔手術	131件
鼻中隔矯正術	57件
下鼻甲介切除術	47件
鼻粘膜電気焼灼術	4件
鼻腔腫瘍	3件
その他	1件
c) 口腔・上中咽頭領域	116件(悪性0件)
口蓋扁桃摘出術	100件
アデノイド切除術	8件
軟口蓋形成術	2件
その他	6件
d) 喉頭・気管(支)・下咽頭・食道領域	25件(悪性1件)
声帯ポリープ・結節切除術	17件
喉頭・下咽頭手術	7件
その他	1件
e) 顔面・頸部等領域	14件(悪性1件)
唾液腺腫瘍	7件
頸瘻・頸嚢摘出術	3件
唾石(含顎下腺)摘出術	2件
その他	2件

皮膚科

皮膚科部長 指宿敦子

平成25年4月から指宿敦子が担当しました。

【診療内容・特徴】

診療内容は、興味、関心、専門で力点を变えず、かたよることなく、皮膚疾患全般にもれなく対応することをモットーに診療しています。外来・入院状況は図表にまとめて示しました。

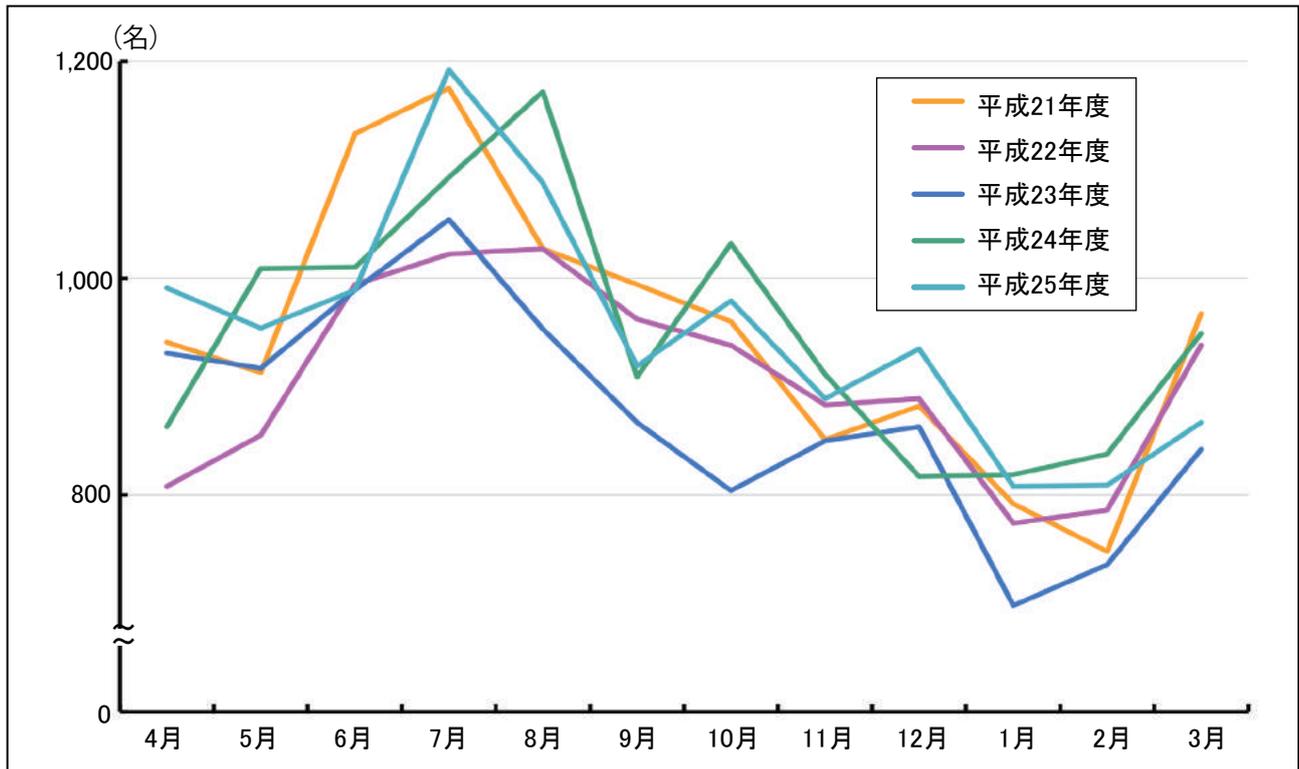
【スタッフ紹介】

指宿敦子（部長）
 〈所属学会〉
 日本皮膚科学会

【外来入院患者数の最近5年間の動態】

		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度		
		外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院
	4月	941	3	26	808	6	105	931	7	120	863	3	31	991	5	187
	5月	913	4	40	855	6	117	917	7	80	1,009	8	74	954	1	62
	6月	1,133	6	66	994	14	154	989	9	81	1,010	10	47	989	10	110
	7月	1,175	8	119	1,022	16	201	1,054	9	143	1,093	10	107	1,192	13	134
	8月	1,027	9	101	1,027	10	117	953	1	9	1,172	8	107	1,088	10	211
	9月	994	9	158	962	13	174	867	1	33	909	6	23	919	7	134
	10月	960	8	147	938	9	163	804	5	35	1,032	12	127	979	8	94
	11月	851	5	56	883	12	165	850	1	19	911	13	103	889	4	106
	12月	882	7	174	889	12	161	863	5	65	817	3	80	935	10	98
	1月	792	7	71	774	10	173	698	4	24	819	6	64	808	5	92
	2月	748	6	57	786	12	137	736	2	31	838	6	84	809	1	89
	3月	967	5	54	938	9	169	842	2	45	949	4	116	867	5	84
	計	11,383	77	1,069	10,876	129	1,836	10,504	53	685	11,422	89	963	11,420	79	1,401
外 来	初診	3,044			2,838			2,585			2,805			2,818		
	再診	8,339			8,038			7,919			8,617			8,602		
紹介患者数		200			190			190			236			227		

【外来患者数動態グラフ（5年間）】



麻 醉 科

麻醉科部長 池田 耕自

当院における麻醉科の診療内容は手術麻醉、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻醉科の陣容は、5名の麻醉科常勤医と非常勤医5名（週一回勤務）体制でした。さらに卒後研修医3名の研修を行いました。

平成25年の今給黎総合病院における麻醉科管理症例数は2,537件でした。（患者さんの平均年齢は54.1歳 最高齢は100歳）この内、緊急手術は226件（時間外140件）であり全体の8.9%（5.5%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻醉件数は、整形外科798件（31.6%）、外科327件（12.9%）、耳鼻咽喉科282件（11.1%）、泌尿器科275件（10.8%）、形成外科252件（9.9%）、歯科口腔外科177件（7.0%）、産科婦人科173件（6.8%）、呼吸器外科165件（6.5%）、眼科44件（1.7%）脳神経外科44件（1.7%）、といった現状でした。

麻醉症例内訳	
総症例数（緊急）	2,537 (226)
全身麻醉	1,558
全麻＋硬麻等	393
脊麻・硬麻等	564
伝達麻醉	1
その他	21

【各科別麻醉依頼件数】

	件数 (%)	緊急
整形外科	798 (31.6)	57
外科	327 (12.9)	57
耳鼻咽喉科	282 (11.1)	4
泌尿器科	275 (10.8)	9
形成外科	252 (9.9)	15
歯科口腔外科	177 (7.0)	0
産科婦人科	173 (6.8)	63
呼吸器外科	165 (6.5)	5
眼科	44 (1.7)	8
脳神経外科	44 (1.7)	9
その他	0	0

※麻醉科管理症例年次推移は次頁

【ICU】

平成25年のICU入室件数は681件でした。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

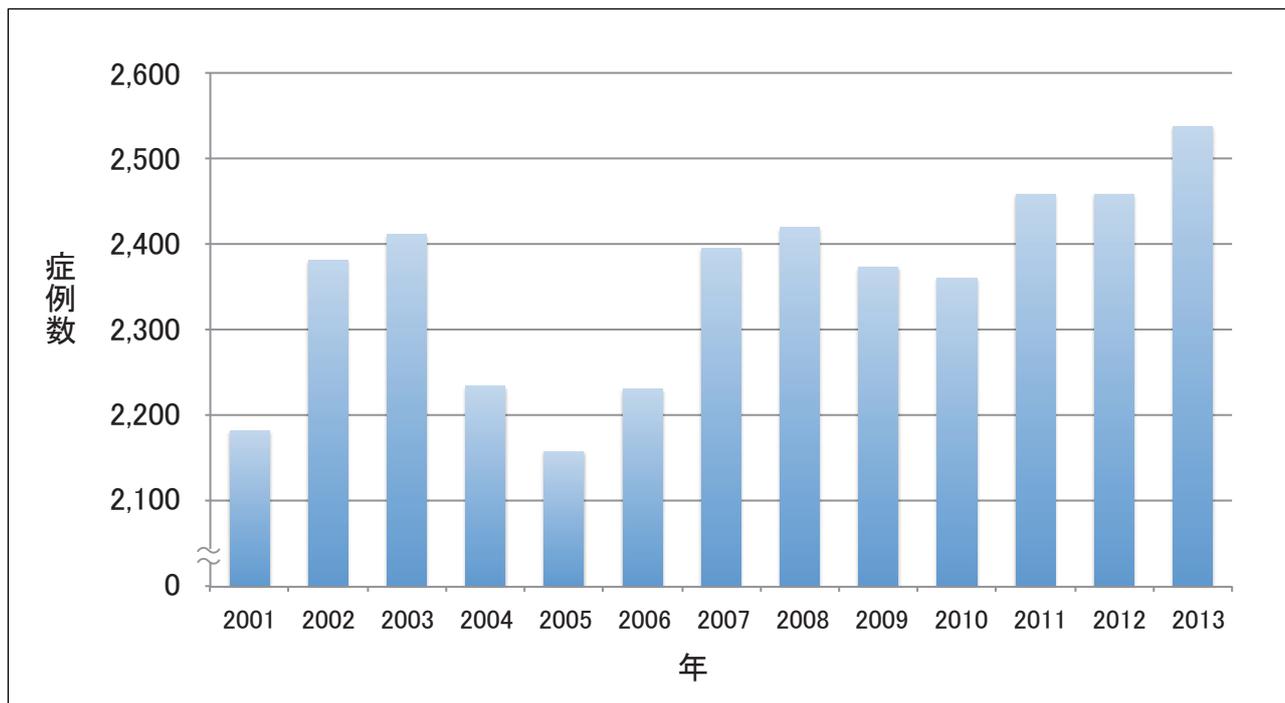
科名	入室者数
外科	205
呼吸器外科	115
整形外科	81
泌尿器科	118
脳神経外科	74
神経内科	10
産婦人科	13
麻醉科	7
循環器内科	12
呼吸器内科	9
形成外科	11
消化器内科	13
総合内科	9
その他	4
合計	681

麻醉科管理患者は7名で内訳は急性薬物中毒2名、重症急性膵炎1名、一酸化炭素中毒3名、溺水1名でした。

【麻醉科医名】

池田 耕自
 西山 淳 （平成17年10月～）
 山下 順正 （平成23年7月～）
 村山 裕美 （平成23年7月～）
 生駒 香名子 （平成24年10月～平成25年7月）
 内田 陽治 （平成25年8月～）
 宮本 昇太郎 （平成24年12月～平成25年1月）
 佐保 明 （平成25年10月）
 中間 恵美子 （平成25年11月）

【麻醉科管理症例数年次推移】



放射線診断科

放射線診断科部長 銚立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器としてCT(64列：2機、16列：1機械)・MRI(1.5T：2機)、RI・血管造影装置(Cone-beam CT)・透視装置2機・乳房X線装置・マンモトームなどを備えています。平成23年度にCT・MRI・RI装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行うIVR(Interventional radiology)の手技を必要に応じて実施しています。原発性肝癌や転移性肝癌に対する動注化学(塞栓)療法や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷による肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、重症肺炎や肺・腎などの血管奇形に対する血管内治療などを中心に取り組んでいます。その他、全身化学療法などに用いる中心静脈リザーバーや肝動注に用いる動注リザーバー埋込み術なども行なっています。その他、各診療科と協力してUS/CTガイド下生検・ドレナージなども行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 銚立博文

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本IVR学会 専門医・代議員
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
医学博士(鹿児島大学)

医長 小林秀章

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医

後期研修医 篠原哲也(平成25年4月～9月)

クリニック院長 大久保幸一

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
医学博士(鹿児島大学)

非常勤医師

神宮司メグミ(鹿児島大学) 上山友子(鹿児島大学)
袴田裕人(鹿児島大学) 永田行隆(垂水中央病院)

【検査件数】(平成25年)

	件数
1. 一般撮影	47,068
2. 透視・造影撮影	1,324
3. 骨塩定量測定	419
4. X線CT	14,843
5. DSA/Angio	208
6. RI	570
7. MRI	6,149

【主病名別患者数】

肺癌	12
転移性骨腫瘍	12
食道癌	9
転移性脊椎腫瘍	6
悪性リンパ腫	5
肝細胞癌	4
直腸癌	4
転移性肺腫瘍	3
肛門及び肛門管癌	3
前立腺癌	2
胆嚢癌	2
C型慢性肝炎	1
肝門部リンパ節転移	1
顔面打撲傷	1
頰椎症性神経根症	1
頰椎捻挫	1
頰部リンパ節転移	1
後腹膜腫瘍	1
多発性骨髄腫	1
多部位リンパ節転移	1
脱水症	1
転移性副腎腫瘍	1
頭部打撲	1
乳癌	1
熱中症	1
脳振盪	1
篩骨洞炎	1
膀胱炎	1
膝癌	1
総計	80

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	23
食道癌	10
肝細胞癌	8
直腸癌	7
悪性リンパ腫	5
胆嚢癌	3
肛門及び肛門管癌	3
前立腺癌	2
膵癌	2
胃癌	1
肝内胆管癌	1
結腸癌	1
子宮体癌	1
多発性骨髄腫	1
乳癌	1
膀胱癌	1
合計	70

IVR あれこれ

～肝細胞癌に対する IVR・non vascular IVR を中心に～
バイエル薬品 社内研修 2013年10月31日
銚立博文

【平成 26 年度の計画】

平成 25 年度は鹿児島大学放射線科医局員減少のため当院でも減員となっており、従来通りの入院病棟管理をやりながらの画像診断・IVR の遂行が難しく業務縮小で対応しております。画像診断に関する業務においては週 2-3 回非常勤医に来てもらいながらの報告書作成となっておりますが、常勤医の増員を待ちたいところです。

平成 26 年度は日本 IVR 学会の施設認定が得られる予定となっており更に精度の高い IVR 手技の提供を行っておきたいと考えております。また、本年も初期研修医のローテーターが当科を選択しておりティーチングファイルの整備など進めながら放射線診断学の魅力を発信していきたいと思っております。

【講演・学会活動】

【発表】

無水エタノールを用いて治療した腎動静脈奇形の
2 例

第12回血管腫血管奇形研究会
2013年5月18日 軽井沢
今給黎総合病院 放射線科
銚立博文 小林秀章 中禮久彦 大久保幸一
今給黎総合病院 泌尿器科 立和田得志
札幌東徳洲会 画像IVRセンター 齋藤博哉

耳下腺Basal cell adenoma 6例7病変のMRI所見

第177回日本医学放射線学会九州地方会
2013年6月15日 長崎
今給黎総合病院 放射線科
篠原哲也 小林秀章 銚立博文 中禮久彦
大久保幸一
今給黎総合病院 病理診断科
白濱 浩 田代幸恵

【講演】

肝細胞癌の画像診断・肝細胞癌に対する放射線科的治療

第4回今給黎総合病院がん診断講座
2013年10月18日
銚立博文

放射線治療科

放射線治療科部長 中 禮 久 彦

平成 19 年 10 月に当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が開設されて既に 7 年が経過いたしました。これまでの期間、おかげさまで紹介がん患者様は増加し、体幹部定位集光照射（SRT; Stereotactic Radiation Therapy）や前立腺の放射性ヨード小線源治療（前立腺シード）の開始、強度変調放射線治療（IMRT; Intensity-Modulated Radiation Therapy）の経験、放射線治療普及のための講演等、充実した日常診療に従事させていただいております。

リニアック新規患者様のこの 1 年間の総数は例年とほぼ同様でした。原発巣では肺癌、前立腺を含む泌尿器癌、及び悪性リンパ腫が多数を占めております。

残念なことです。平成 26 年 1 月から診断科を含む当科スタッフの減員がありました。これまで他院の先生方から当科へご紹介の患者様で、当院入院の上で照射を施行する場合、原則当科にて病棟主治医を担当してまいりました。しかしながら、当科にて十分な入院管理業務までを行うためのマンパワー不足から、以後、当院関連他科の先生方にご相談する運びとなりました。

他院の先生方から放射線治療をご依頼の患者様で入院が必要と考えられる場合、当科以外の当院他診療科の先生方に病棟主治医をお願い申し上げますことをご了解下さい。あるいは先生方と同一又は関連の当院当該診療科の先生方を通じて放射線治療のご依頼をお願い申し上げます。先生方のご意向に添えない機会が増えますことをお詫び申し上げます。

将来的に鹿児島で放射線治療を専門とする医師が増えることを念願しながら、がん患者様のお役に立てるべく、謙虚に日々精進していきたいと考えております。

【平成25年】

○主な原発巣 リニアック照射新患数 内訳【全248名】

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	83名 (内 肺:80名)
泌尿器系	40名 (内 前立腺:28名)
造血・リンパ系	31名
消化管系(食道・胃・腸)	26名
乳腺	21名
頭頸部	19名

○主な転移 リニアック照射新患及び再患数 内訳

骨	49件
脳	22件

○定位集光照射(SRT)新患数 内訳

肺:14名	脳:3名
-------	------

○前立腺シード【全47名】

【スタッフ紹介】

放射線治療科 部長 中禮久彦

〈経歴・資格〉

平成元年 宮崎医科大学卒業 鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医
同 3 年 国立がんセンター中央病院 放射線治療部レジデント（国内留学）
同 6 年 一誠会 三宅病院
同 7 年 今給黎総合病院放射線科
同 8 年 鹿児島大学医学部放射線科 医員
同 9 年 同上 助手
同 17 年 同上 講師
同 18 年 同上退局 今給黎総合病院放射線科 治療部長

平成 9 年 日本医学放射線学会 専門医(第 2999 号)
同 12 年 博士学位(鹿児島大学 医論第 1267 号)
同 13 年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第 336 号)

【認定取得】

平成 25 年 8 月 24 日

日本医学放射線学会研修指導者（認定期間：平成 25 年 9 月～平成 30 年 8 月）

【院内講演】

放射線治療をもっと知ってもらうために…、新研修医の先生方へⅡ

平成 25 年 4 月 4 日

中禮久彦 小林秀章 鉾立博文 大久保幸一

【地域がん拠点病院 対外教育講演】

放射線治療 Update、有害事象への対策を含めて

平成 26 年 3 月 18 日

中禮久彦 鉾立博文 大久保幸一 松下芳正 田川伸夫 小屋俊彰 川畑朋之 飯伏順一

【セミナー受講・修了】

Pinnacle3 IMRT 実践セミナー 東京秋葉原 日立メディコ本社

平成 25 年 7 月 13 日 中禮久彦

緩和医療科

緩和医療科部長 松添大助

平成21年度に緩和ケアチームがスタートし、紹介患者数は21年;39名、22年;74名、23年;103名、24年;105名、25年;169名でした。

森看護師が緩和ケア認定看護師の資格を取得し、大西看護師と共に緩和ケア認定看護師が2名になりました。

【緩和ケアチームメンバー】

専従医師 : 松添大助
 精神腫瘍担当医師
 : 小玉哲史(非常勤)
 専従看護師 : 大西玲子、森友紀
 保健師 : 植屋明代
 薬剤部 : 財間富士子、久津輪久世、
 富永修平、前嶋一友
 リハビリテーション部
 : 古市寿子、宮之原俊一、木原智美
 栄養管理部 : 田中美帆、山本里沙

【学会活動等】

《学会発表》

生活保護利用者の在宅移行～その障壁と大局からみた場合の不条理

第18回日本緩和医療学会学術大会
 2013年6月22日 横浜市
 松添大助、植屋明代、大西玲子、
 財間富士子、森友紀

告知における問題点～患者、家族、そして主治医～

第18回日本緩和医療学会学術大会
 2013年6月22日 横浜市
 大西玲子、松添大助、植屋明代、森友紀、
 財間富士子

【講義、院外活動等】

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程
 呼吸器疾患;10時間
 緩和ケア概論;2時間
 松添大助

《主催研修会》

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
 2013年10月12-13日 ホテル福丸

【診療科別紹介患者数】

平成25年	
呼吸器内科	46
外科	45
呼吸器外科	9
整形外科	7
泌尿器科	1
婦人科	13
血液内科	6
消化器内科	13
放射線科	2
耳鼻科	14
総合内科	3
神経内科	3
脳外科	2
形成外科	1
皮膚科	1
他院	3
計	169

【依頼内容】(複数重複あり)

疼痛コントロール	66	39.1%
疼痛以外の身体症状	56	33.1%
メンタルケア	102	60.4%
家族ケア	36	21.3%
退院支援	28	16.6%
その他	2	1.2%

【在宅緩和ケア診療件数】

平成21年	4
22年	10
23年	9
24年	9
25年	10

病理診断科

病理診断科部長 田代幸恵

当科は25年度4月より数年ぶりに新人技師の有村を迎え、1名増員となりました。本人の努力と教える側の工夫もあり、わずか一年で受付業務、組織標本作製、免疫染色、PCR等を習得しましたので、来年は細胞検査士資格獲得に向け、病理スタッフ全員で応援していくつもりです。

関連機材としましては、病理検査標本作成における染色及び封入作業時に発生する発がん物質の一種・キシレンガスの除去を目的とした局所排気装置「ヒスト・テック® エアプロ」を3月に導入しました。また標本の取り違えや入力番号間違い等、人為的ミスが無くなることを目標にデジタルスライドスキャナ（9月）とファイナフrostプリンタミニ（10月）を導入しました。さらに各科の学会発表用の組織写真の画質向上のために顕微鏡デジタルカメラ撮影装置を12月に導入致しました。

当院は免疫染色を早くから導入しており、抗体も多数揃えています。田代におきましては悪性リンパ腫や血液疾患関連のコンサルテーションを受ける機会が多く、その為、地域の施設にお役にたてるよう院外施設からの免疫染色の依頼も受けております。また、近年、腫瘍細胞の遺伝子変異や異常蛋白の発現状況による個別化治療のため、病理標本での遺伝子異常の検索が行われるようになりましたが、当院では免疫染色によるER, PgR, KIT, EGFR, HER2, ALK1の蛋白発現検索及び判定は院内で行っています。これらの抗体につきましても院外から多数の染色依頼があり、院内や院外施設での患者様への迅速な診断報告に努めています。

このため本年も3台の自動免疫染色装置のロッシュ、ニチレイ及びライカ（Bond III）はフル回転で、院外からの免疫染色依頼やコンサルテーション依頼症例だけでも昨年より230件増えました。

また滑膜肉腫およびPNET/ユーイング肉腫グループに関するRT-PCRはもともと症例が少ないこともあり本年は鹿児島大学病院からの依頼の2件のみでしたが、これらの診断確定には必須であり、また鹿児島の病理施設では当院だけができる手技です。今まで新村技師1人に頼っておりましたが、今後は有村技師と協力体制で行えるようになりました。

さらに、現在、遺伝子異常の検索は外注しておりますが、患者様への一刻も早い結果報告や治療開始のために来年度は一部病理部門（主に新村と有村）で対応できるように検討中です。

本年は病院の電子カルテが新しくなり、それに伴い白濱先生と田邊技師が中心となり、オーダーの構築など病理システムとの接続に関するシステム作りに多大な時間を費やしました。さらに、来年度中の病理部門のシステム更新にむけ、新システム作りを一年かけて頑張っています。

細胞診では一部の検体で液状化検体処理がルーチン化し、細胞診標本での免疫染色やセルブロック作成などスムーズに行えるようになりました。

さらに肥後と田邊の両技師は院外の細胞診検査士の院外活動にも積極的に参加し、毎年4月に行われる検査技師会鹿児島支部主催の「子宮の日」にもスタッフとして参加し、子宮癌で亡くなられる方の減少をめざし、検診や子宮頸癌ワクチンの啓蒙活動も行いました。

診断の要である病理医は小児科や産婦人科同様、全国的に数が少なく、病理医の増加が急務とされています。一人でも多くの九州の医学部生が病理医に興味を持ってもらえるよう、田代は日本病理学会九州支部で行った秋の病理学校にチューター（指導員）として参加し、さらに研修医指導医講習会も受講しました。今年は将来病理医を目指す数人の研修医が当院に研修にきてくれたことは大変喜ばしいことです。来年は当院研修医の1人が病理を研修科目としていますので、自分たちも日々進化している医療知識と一緒に学びつつ、より正確で迅速な病理診断を提供することで当院並びに地域医療にさらなる貢献ができるよう努力していきます。

【病理部スタッフ】

医師

白濱 浩 (日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、
日本病理学会病理専門医研修指導医、臨床検査管理医、鹿児島大学医学部臨床教授)

田代 幸恵 (日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本病理学会病理専門医研修指導医、鹿児島大学医学部臨床教授)

技師

徳永 敬之 (臨床病理技術士)
肥後 真 (臨床検査技師、国際細胞検査士)
新村 泰子 (臨床検査技師)
田邊 尚子 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

組織診および細胞診検体数

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
組織件数	3,232	3,644	3,346	4,065	4,039
細胞診件数	2,855	3,168	2,751	2,689	2,689

組織診断統計(平成25年1月1日～12月31日)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	(悪性)	全件	(悪性)	全件	(悪性)	
心血管	0		1	(0)	0		1
血液・骨髄・脾	6	(2)	14	(6)	5	(3)	25
リンパ節	13	(9)	43	(28)	247	(62)	303
鼻・咽頭・喉頭	27	(8)	77	(0)	10	(0)	114
肺	104	(48)	5	(1)	137	(75)	246
胸膜・縦隔・腹膜	9	(5)	1	(1)	35	(13)	45
口腔・唾液腺	6	(0)	6	(0)	60	(2)	72
食道	45	(12)	2	(1)	3	(3)	50
胃・十二指腸	450	(37)	15	(9)	26	(17)	491
小腸	6	(0)	1	(0)	23	(4)	30
大腸・肛門	160	(44)	220	(16)	88	(42)	468
肝・胆・膵	14	(3)	0		107	(29)	121
腎・尿路男性	184	(108)	120	(67)	209	(105)	513
女性器	58	(20)	30	(4)	167	(32)	255
乳腺	8	(4)	0		11	(8)	19
内分泌	0		0		23	(10)	23
中枢末梢神経	4	(2)	1	(0)	12	(3)	17
耳・眼	3	(1)	2	(0)	7	(0)	12
皮膚	155	(30)	15	(0)	818	(69)	988
骨・関節	14	(7)	2	(0)	14	(2)	30
軟部	10	(5)	3	(1)	103	(3)	116
その他	13	(8)	77	(5)	10	(5)	100
合計	1,289	(353)	635	(139)	2,115	(487)	4,039

細胞診診断統計(平成25年1月1日～12月31日)

	陰 性	擬 陽 性	陽 性	材料不適	合 計
婦人科(内膜)	160	3	3	0	166
呼 吸 器	277	31	125	14	447
消 化 器	37	4	9	2	52
泌 尿 器	321	54	31	0	406
乳 腺	23	9	15	18	65
甲 状 腺	24	11	6	9	50
体 腔 液	183	7	61	0	251
リンパ節	6	0	8	0	14
そ の 他	44	4	6	4	58
総 件 数	1,075	123	264	47	1,509

婦人科(膣頸部)

検体不適	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL
0	980	56	15	23	18
AGC	SCC	Adeno. Ca.	Other	合計	
3	12	1	1	101	1,109

総件数 2,751

- ・術中迅速診断：218件(内、院外からの依頼：2件)(H25.1.1-H25.12.31)
(H21年度:274件、H22年度:225件、H23年度:255件、H24年度:255件)
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：32件(H25.1.1-H25.12.31)
(H21年度:21件、H22年度:22件、H23年度:44件、H24年度:29件)
- ・院外からの免疫染色依頼(パラフィン切片による)：1639件(H25.1.1-H25.12.31)
(H21年度:1086件、H22年度:966件、H23年度:1257件、H24年度:1405件)
- ・院外からのコンサルテーション 35件
- ・RT-PCR 2(内、院外からの依頼：2件)

【学会活動】

第331回九州・沖縄スライドコンファレンス
田代幸恵 座長
2013年1月26日 産業医科大学

鼻リンパ腫病変におけるinducible nitric oxide synthase (iNOS)とnitroguanosin(NG)の免疫組織科学的検討

第53回日本リンパ網内系学会総会 2013年5月16-18日 京都
蓮井和久、金倉拓郎、竹屋 元裕、田代幸恵、佐藤栄一

組織型の迷った症例 (乳腺)

第89回 鹿児島県支部定例会 2013年5月23日 鹿児島
田邊尚子

鼻咽頭リンパ腫におけるDC-sign (CD209)の免疫組織科学

第102回日本病理学会総会 2013年6月6-8日 札幌
蓮井和久、賈心善、竹屋 元裕、田代幸恵、青笹克之、佐藤栄一

低悪性度末梢型T細胞リンパ腫非特異群10例の臨床病理学的検討

第102回日本病理学会総会 2013年6月6-8日 札幌
林詠子、高田尚良、佐藤康晴、田代幸恵、立山義郎、北村星子、杉口俊、能勢総一郎、吉野正

鹿児島Lymphoma Conference 2013

田代幸恵 Commentator

2013年6月15日 鹿児島

第29回 日本臨床細胞学会九州連合会学会

スライドカンファレンス 症例4 リンパ節 田代幸恵

2013年7月27-28日 福岡

神在リンパ種カンファレンス

田代幸恵 Commentator

2013年8月10日 島根

【院外活動】

1) 子宮の日キャンペーン活動実行委員 (田邊), スタッフ参加 (肥後)、2013年4月6日

2) 細胞検査士養成研修会 (呼吸器) スタッフ (肥後) 2013年6月30日

3) 細胞検査士養成研修会 (消化器) 責任者 (田邊) 2013年8月04日

4) 秋の病理学校 2013年10月26-27日 田代幸恵 チューター

5) 研修医指導医講習会 2013年11月16-17日, 田代幸恵

鹿児島県細胞学会 理事 (田代)、

鹿児島県細胞検査士会 事務局 (田邊)

【論文】

Distinct morphologic, phenotypic, and clinical-course characteristics of indolent peripheral T-cell lymphoma.

Hum Pathol. 2013 Sep;44(9):1927-36.

Hayashi E, Takata K, Sato Y, Tashiro Y, Tachiyama Y, Sawada-Kitamura S, Hiramatsu Y, Sugiguchi S, Nose S, Hirokawa M, Ando M, Abd Alkader L, Maeda Y, Tanimoto M, Yoshino T.

Castleman's disease in the retroperitoneal space mimicking a paraspinal schwannoma: a case report.

World J Surg Oncol. 2013 May 23;11:108.

Nagano S, Yokouchi M, Yamamoto T, Kaieda H, Setoguchi T, Hiraki T, Tashiro Y, Yonezawa S, Komiya S.

確定診断が困難であった縦隔原発絨毛癌と考えられた1剖検例

気管支学Vol. 35 No. 3 Page. 347 (2013. 05. 25)

松山崇弘、窪田幸司、川島寿史、是枝快泉、白濱浩、田代幸恵、濱崎哲郎、井上博雅

長期生存が得られている同時性肝転移・腹膜播種を伴った胃GISTの一治療例

鹿児島県臨床外科学会誌 Vol. 24 Page. 12 (2013. 03. 25)

高取寛之、中馬 豊、天辰仁彦、上木原貴仁、松本正隆、帆北修一、石沢隆、愛甲孝、野村秀洋、大井秀久、徳元攻、上野真一、夏越祥次、白濱浩、中村敬夫

小腸転移をきたした肺多形癌の2例

英文標題TWO CASES OF SMALL INTESTINAL METASTASIS FROM PLEOMORPHIC LUNG CARCINOMA

日本臨床外科学会雑誌 Vol. 74 No. 1 Page. 48-51 (2013. 01. 25)

加藤文章、米田敏、牟礼洋、白濱浩、田代幸恵、岩崎昭憲

在宅診療科

在宅診療科部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成25年12月現在、在宅診療科は昨年同様常勤医2名体制をとっております。通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、2回／月の定期訪問診察を行っています。

平成25年度は4人の先生に協力いただいております。途中、篠原医師は勤務異動となり、新たに4月より当院に赴任された野村医師の御協力を得る事ができ、患者様に影響をおよぼすことなく訪問診療を継続できております。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐、林、篠原(神経内科)、野村(神経内科)、生野(総合内科)、二木(総合内科)、三宅(総合内科)

【診療状況】

平成25年12月31日において当院在宅医療部の訪問診察を受けている方は28名(緩和医療科を含めると32名)となっています。

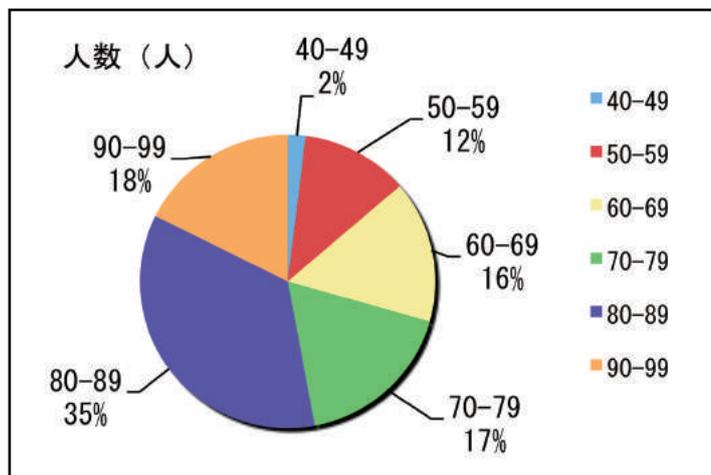
全身状態が悪化した場合は、在宅で経過をみていく場合もあれば、入院での治療も行っており、自宅療養が再度できるように対応しております。平成25年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 51名(男性 26名 女性25名)
(訪問診察：27名 男性 13名 女性 14名)

【患者年齢】

年代	人数(人)
30-39	0
40-49	1
50-59	6
60-69	8
70-79	9
80-89	18
90-99	9
100以上	0
合計	51



【平成 25 年 月別訪問診察人数】（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	21	23	22	19	21	21	22	21	21	21	18	18
（入院数）	2	2	2	1	1	1	1	2	3	1	4	3
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0
終了：その他	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1

【主疾患名】

疾患	（人）	疾患	（人）
神経系疾患	18	腫瘍	15
呼吸器疾患	5	内分泌系・代謝疾患	1
循環器疾患	6	損傷・中毒、外因の影響、消化器・泌尿器系	5
精神及び行動障害	1	合計	51

【平成 25 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	40	44	40	34	35	37	39	35	40	37	29	29	439
（緩和診察）	(5)	(6)	(4)	(2)	(0)	(0)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(0)	(28)
訪問リハビリ	12	11	12	14	12	12	13	7	12	9	7	5	126
訪問看護	101	104	102	103	114	113	112	90	101	109	91	86	1,226
合計（件）	153	159	154	151	161	162	164	132	153	155	127	120	1,791

【平成 24 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	43	43	36	38	35	38	45	46	44	43	40	38	489
（緩和診察）	(1)	(3)	0	0	0	0	(8)	(5)	(2)	(2)	(2)	(3)	(26)
訪問リハビリ	12	81	13	16	14	12	16	12	12	12	9	11	152
訪問看護	90	13	86	94	102	94	105	112	95	110	101	98	1,168
合計（件）	145	137	135	148	151	144	166	170	151	165	150	147	1,809

【平成 23 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	42	37	47	40	34	39	49	48	48	47	47	60	538
訪問リハビリ	12	12	12	12	13	13	12	13	12	13	14	12	150
訪問看護	72	75	92	89	66	110	106	101	106	102	108	117	1,144
合計（件）	126	124	151	141	113	162	167	162	166	162	159	189	1,822

歯 科

歯科部長 鎌田ユミ子

【診療内容・特色】

平成18年8月に歯科口腔外科を開設し、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、受付各1名の常勤スタッフと非常勤歯科医師でスタートしましたが、その後、一般の歯科治療や口腔ケアを必要とする外来・入院患者様の増加に伴い、平成24年4月に新たに歯科を標榜科として開設しました。

診療は、主に今給黎総合病院に入院中の患者様や他科からの紹介患者様、本院スタッフの歯科治療や口腔ケアを昭和会クリニック歯科外来にて行っています。また、入院患者様で外来受診できない方には、随時、病室へ往診して対応しています。

診療内容は、う蝕・根管治療、歯周治療、冠やブリッジ、義歯などの補綴治療です。

一般の歯科診療に加え、病院歯科でもあることから、入院患者様の口腔ケアにも積極的に取り組んでいます。高齢者や寝たきりの患者様は、ご自身で口腔ケアをできないことが多く、口腔内汚染が進んだり、飲み込む力が低下したりするなど誤嚥性肺炎を発症するリスクが高くなります。この予防には、口腔ケアが有効であると言われており、平成22年6月に院内の多職種が集まり、口腔ケアチームを立ち上げ、定期的に勉強会や研修会を開催したり、口腔ケアの病棟ラウンドを行ったりして、入院患者様の口腔ケアのレベルアップを図り、誤嚥性肺炎防止に努めています。

また、本院はがん拠点病院であり、がん治療を受ける患者様も多くいらっしゃいます。がん治療の中でも、抗がん剤治療や放射線治療などでは、その副作用でひどい痛みを伴う口腔粘膜炎になる場合があります、食事などに支障をきたすこともあります。この口腔粘膜炎は、がん治療前から、歯科で専門的な口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで、軽症化を図ることができると言われてしています。この専門的な口腔ケアを行う主体となる歯科衛生士は現在3名おり、ケアを必要とする患者様すべての口腔ケアを行うには、十分なマンパワーではありませんが、がん治療を受ける患者様が口腔トラブルに悩まされることなく、がん治療を遂行できるようサポートしていきたいと考えています。

【スタッフ紹介】

部長 鎌田ユミ子（歯科医師）

所属学会：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

外来患者数・手術件数は歯科口腔外科に掲載

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田雅司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設されました。現在、歯科と歯科口腔外科を標榜して日常診療を行っています。歯科は一般歯科を常勤歯科医師1名が担当し、歯科口腔外科外来診療は、常勤歯科医師2名が主に担当しています。歯科衛生士3名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフが歯科と歯科口腔外科を兼務し、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様の治療を主に行っています。また、当科は長崎大学歯学部口腔外科の関連病院となり、常勤歯科医師の派遣が行われるようになり、平成25年度は、三浦桂一郎先生が赴任しています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来診療

- 1) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、および外傷治療
- 2) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作成や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科
- 3) 顎矯正手術患者の術前・術後管理

2. 入院診療

- 1) 顎矯正手術：さまざまな顎変形症に対応した手術が行われています。最近の傾向としては、小顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や外科治療
- 3) さまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々の方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科

日本口腔外科学会 指導医 専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医、
日本スポーツ歯科医学会 理事、日本自己血輸血学会 評議員 理事、鹿児島大学非常勤講師、
福岡歯科大学非常勤講師、長崎大学非常勤講師、ヤンゴン歯科大学客員教授

三浦桂一郎（歯科医師）

日本口腔外科学会 専修医、日本口腔インプラント学会、日本口腔科学会、日本顎変形症学会
日本頭頸部癌学会

瀬戸山智香（歯科衛生士） 日本スポーツ歯科医学学会認定スポーツデンタルハイジニスト

瀬戸山奈緒（歯科衛生士）

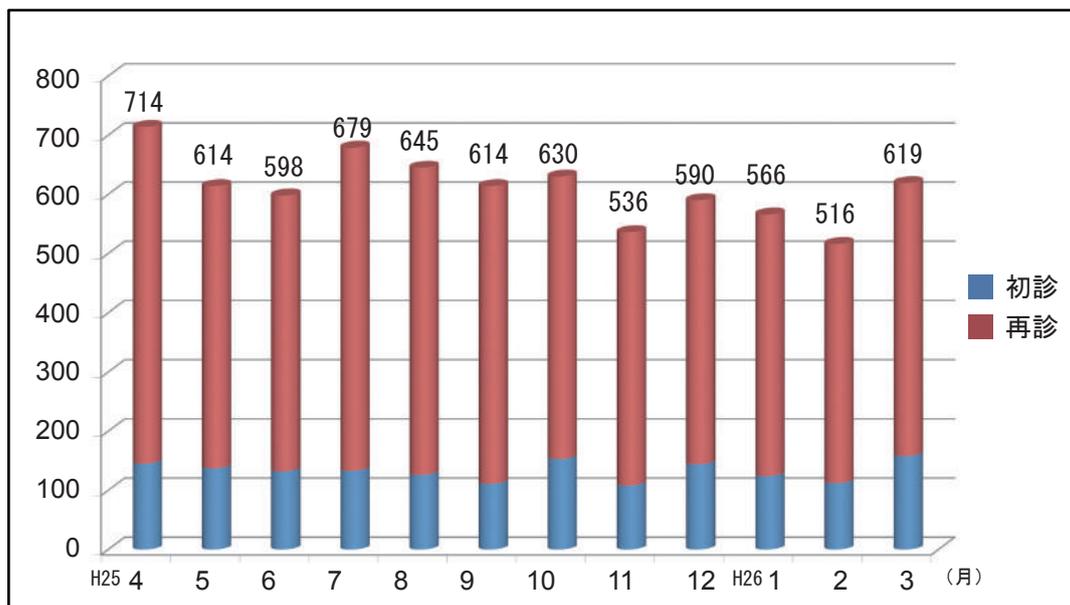
吉田千代子（歯科衛生士）

前田まどか（歯科技工士）

【2013 年度 統計】

- ・ 外来患者数 7,321 人（新患 1,583 人）
- ・ 入院患者 192 名

【月別外来患者数】

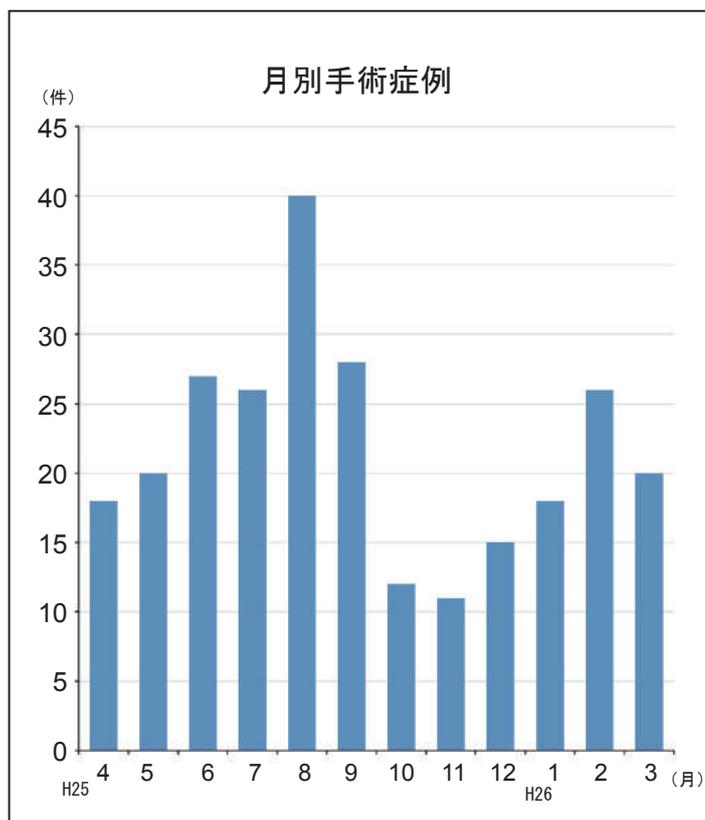


【入院患者数】

月	H25.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H26.1	2	3	合計
入院数	17	12	19	21	27	20	10	9	14	13	16	14	129

【手術症例(全身麻酔)261 件(のべ件数)】

症例	件数
抜歯(乳歯)	3
抜歯(臼歯)	24
抜歯(難抜歯)	6
抜歯(埋伏歯)	109
口腔外消炎手術	2
上顎骨形成術	23
下顎骨形成術	49
おとがい形成術	11
下顎骨折非観血的整復術	2
下顎骨部分切除術	1
口唇腫瘍摘出術	2
顎骨腫瘍摘出術	5
舌形成術	9
術後性上顎嚢胞摘出術	1
顎骨内異物除去術	2
口蓋悪性腫瘍手術	1
歯根のう胞摘出	2
顎骨のう胞開窓術	2
歯根のう胞摘出術	1
口唇小帯形成手術	1
歯根端切除手術	1
顎・口蓋裂形成手術	1
骨移植術	1
上顎洞根治手術	1
口蓋隆起形成術	1
合計	261



【2013年業績】

【学会発表】

吸収性縫合糸を用いて骨固定を行った下顎枝矢状分割法の顎間固定解除時期に関する検討」

第23回日本顎変形症学会総会

2013年6月22日・23日 大阪

吉田雅司¹、河野俊広¹、三浦桂一郎¹、湯田晃大²、山形圭一郎³

1. 今給黎総合病院 歯科口腔外科
2. 湯田歯科医院
3. 山形矯正歯科

当科における下顎骨形成術単独症例の臨床的検討

第58回日本口腔外科学会学術総会

2013年10月11-13日 福岡

今給黎総合病院 歯科口腔外科

吉田雅司・三浦桂一郎

当科における下顎骨形成術単独症例の臨床的検討

第8回熊本顎変形症研究会

2013年11月21日 熊本

今給黎総合病院 歯科口腔外科

吉田雅司・三浦桂一郎

湯田歯科医院 湯田晃大

長崎大学第二口腔外科 朝比奈泉・南里篤太郎

長崎大学第一口腔外科

梅田正博・六反田 賢・河野俊広

【講義、講演、その他】

国際医療ボランティア活動

鹿児島大学探訪

2013年5月22日 鹿児島大学

歯科口腔外科・スポーツ歯科外来 吉田雅司

当科における顎矯正手術の実際

九州矯正歯科学会鹿児島支部学術講演会

2013年9月21日

歯科口腔外科 吉田雅司

国際医療支援活動

長崎大学歯学部 2013年11月19日

歯科口腔外科・スポーツ歯科外来 吉田雅司

スポーツ歯科の現状と可能性

いちき串木野日置歯科医師会 2013年11月30日

歯科口腔外科・スポーツ歯科外来 吉田雅司

ミャンマー医療援助隊

国分ロータリークラブ 2013年12月11日

歯科口腔外科・スポーツ歯科外来 吉田雅司

スポーツ歯科の現状

鹿児島県歯科学院専門学校 2014年2月7日

歯科口腔外科・スポーツ歯科外来

吉田雅司

“My Experience in Oral Surgery”

マンダレー歯科大学 (ミャンマー連邦共和国)

2014年3月11日

Department of Oral Surgery,

Imakiire General Hospital, Japan

Masashi YOSHIDA, DDS. PhD.

【院外活動 (ボランティアなど)】

平成25年度第3回屋久島町口永良部島・歯科巡回診療

期間：2013年11月11日(月)～14日(木)

場所：口永良部地区・口永良部島診療所



ミャンマー診療隊

期間：2013年12月21日(土)～29日(月)

場所：ミャンマー連邦共和国 (ヤンゴン)



歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は格闘家菊野克紀さんをサポートしています。

世界で活躍する鹿児島市の出身で格闘家菊野克紀さんは、当科で作製したマウスピースで戦っています。



歯科口腔外科・スポーツ歯科外来はレノヴァ鹿児島をサポートしています。

平成20年12月1日付けで、レノヴァ鹿児島チームデンティストになり、選手の歯や口の問題に対する相談や口腔ケアを担当します。また、試合や練習時に口のケガを防止するために、マウスガードを提供しています。さらに、マウスガードの体のバランスに対する効果なども検討しています。



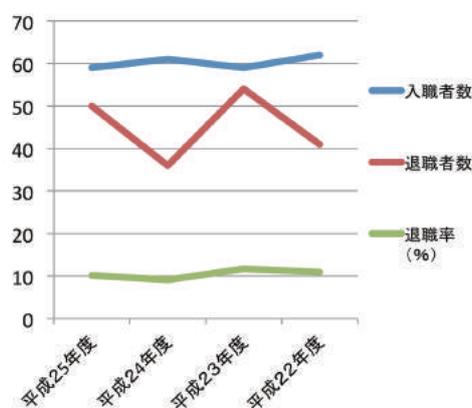
注) 国際バスケットボール協会の規約により、現在は無色透明のマウスガードが使用可能となった。

看護部

看護部長 有村 智代

平成25年度は、新入職者が59名退職者50名、退職率は、10.2%であった。退職者の内、今年度入職した看護師が9名退職した(15.2%)。中途採用者の離職率が高い。今年度は看護部へ稼働率UPのために稼働目標が定められた。目標達成のために空床を作らないよう努力し、月を追うごとに稼働率はUPしていった。看護業務は、年を追うごとに複雑化し、看護師は疲弊してきている。その状況を少しでも軽減すべく看護方式を変更(固定チームナーシング→パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS))する事にした。27年度全病棟で取り組む為に25年度より準備を始めた。PNSの成果(ペアで患者を看る事で安心安全な看護の実践、人材育成、リアルタイムの記録による超過勤務の削減、離職率の低下等)が期待される。以下に平成25年度とここ数年の看護部の状況をまとめた。

		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
入職者数	新卒者数	33	34	32	30
	既卒者数	26	27	27	32
	合計	59	61	59	62
退職者数	新卒者数	2	1	4	0
	既卒者数	48	35	50	41
	合計	50	36	54	41
退職率(%)		10.2%	9.1%	11.7%	10.9%



		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
平均年齢(歳)		37.7歳	34.9歳	34.5歳	32.8歳
平均在勤年数		7.5年	6.43年	6.96年	6.7年
年休取得率		32%	34%	26%	28.3%
出産者看護師数(名)		19名	23名	21名	22名
研修参加状況	院外参加回数(回)	109回	143回	223回	232回
	院外参加人数(名)	223名	718名	918名	1605名
	院内参加回数(回)	91回	70回	86回	96回
	院内参加人数(名)	2368名	2663名	3089名	5254名
	単位別参加回数(回)	201回	153回	257回	249回
	単位別参加人数(名)	3459名	2667名	3614名	3109名
院内見学・研修受け入れ		9	6	10	11
院外講演・ボランティア活動		38	33	13	15
院外看護研究発表		13	12	12	13
公的会議・研修会		65	60	16	16
院外講師を招いての研修		0	2	3	4
看護学校訪問(のべ訪問回数)		56校	44校	42校	30校
実習受け入れ	学校数	11校	10校	7校	7校
	延べ学生数	889名	1164名	875名	1480名
認定証・資格取得、表彰授与		11名	6名	3名	7名

薬 劑 部

薬剤部長 高橋 真理

【平成 25 年度の概要】

平成25年度は4月に4名の新入職員を迎えた。7月には1名が育児休暇を終え、時間短縮勤務制度を利用して復帰した。しかし、12月に1名、1月に1名、2月に2名退職し、年度末の薬剤師数は19名となり、増員は叶わなかった。

今年度は電子カルテ更新の年であった。10月の新電子カルテ稼働に向けて、薬剤マスタや抗がん剤プロトコルシステムの整備、運用に関する看護部との申し合わせ等、通常業務以外にも多くの仕事をこなさなければならなかった。皆で協力した結果、電子カルテは無事に稼働し、運用の面にも大きな問題は起きていない。

入院患者数が順調に増加する中、11月以降日常業務を終えるために残業する日が徐々に増えはじめ、年度末の2月・3月は毎日のように残業していた。

薬剤師を求人していただいたが、中途採用・26年4月新卒とも見つからず、このままでは今の職員が疲弊してしまうことが懸念された。人事課と話し合い、1日4～5時間程度勤務する助手を募集して、1月から1名、2月から1名の計2名の助手の方にも助けられながら、何とかやってきている。

持参薬に関する業務の拡大は以前からの課題である。持参薬に関する業務を進めるために、新電子カルテ稼働後に持参薬鑑別システムを導入することにしていった。しかし、1月に仮稼働したものの本稼働に至っていない。来年度はまず、持参薬鑑別システムの改良を電子カルテメーカーに働きかけ、9月には持参薬鑑別システムを本稼働できるようにしたい。持参薬鑑別システム稼働すれば、持参薬に関する業務を実施する病棟を増やしていけるのではないかと考えている。

昨年の診療報酬改定で病棟薬剤業務実施加算が新設されたため、多くの施設で薬剤師数を増員している。その影響もあってか、当院では来年度4月に入職する職員を迎えることができなかった。持参薬に関する業務の拡大と病棟薬剤業務を充実させるには、薬剤師の増員が必要である。今後はこれまでより多くの薬剤師を確保できるよう、積極的な求人活動を行っているところである。

【スタッフ】

薬剤師 江籠幸子 永田佳代 神門優子 久津輪久世 山下満美 財間富士子 前嶋一友
古賀亜希子 竹内さやか 富永修平 濱崎かおる 児玉理子 園田奈緒子 中目貴子
壽明伸 堀内智裕 山之内樹里 肥田香織 尾上博隆 下舞千香子 寺田真衣子
福崎久美子 高橋真理

薬剤部助手 竹之内清美 寺田素子

【部門実績】

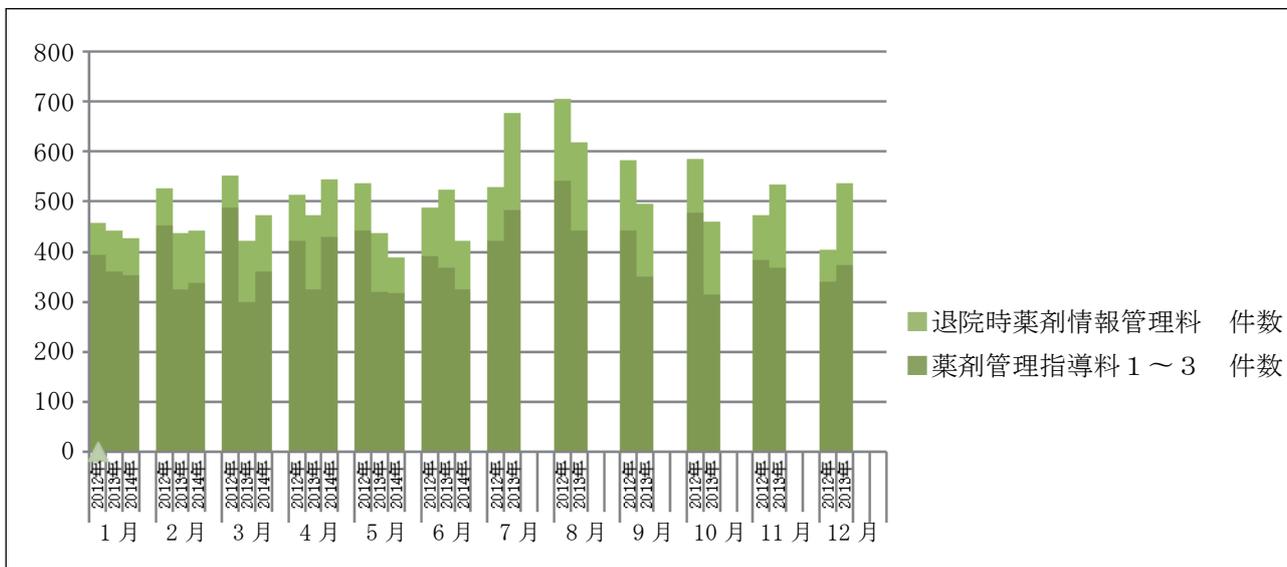
薬剤管理指導実施状況と化学療法患者数 平成24年度と平成25年度の比較

	平成24年度 月平均	平成25年度 月平均
退院患者数	638	676
薬剤師数	20	21.5
薬剤管理指導 患者数	260	292
薬剤管理指導 1～3 件数	404	366
薬剤管理指導実施率（薬剤管理指導患者数／退院患者数）	40.8%	39.4%
退院時薬剤情報管理指導料 算定件数	106	141
退院時薬剤情報管理指導算定率（算定患者数／退院患者数）	16.6%	20.6%
薬剤管理指導 退院時指導 件数／薬剤師数	25.5	23.6
薬剤管理指導料 計（円）	1,448,173	1,368,048
持参薬 鑑別件数	372	403
外来化学療法患者数	75	65
入院化学療法患者数	118	118
化学療法 計（円）	536,023	471,685

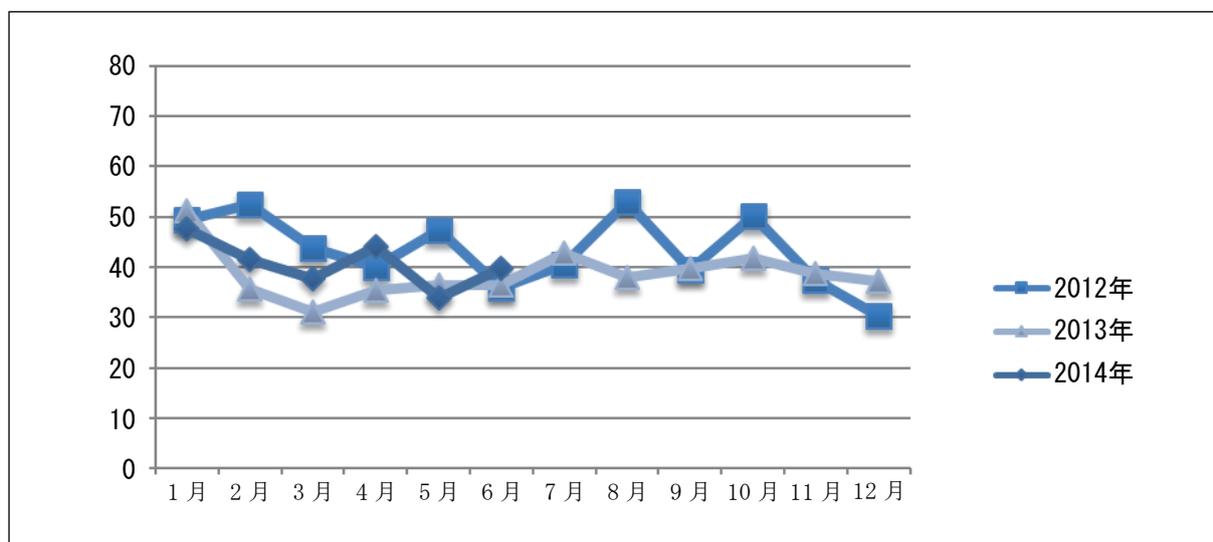
1. 薬剤管理指導

昨年に引き続き今年度も、薬剤管理指導に携わる時間を増やすことはできなかった。薬剤管理指導1～3の件数は、昨年度より1割近く減り、月平均360件であった。退院時薬剤情報管理指導を実施した患者数は3割程増え、退院時薬剤情報管理指導算定率（＝算定患者数／退院患者数）は20%であった。薬剤管理指導1～3の件数は減ったが、退院時指導件数が増えたため、薬剤管理指導実施率（＝薬剤管理指導・退院時指導 患者数／退院患者数）は40%と、昨年度と同程度であった。

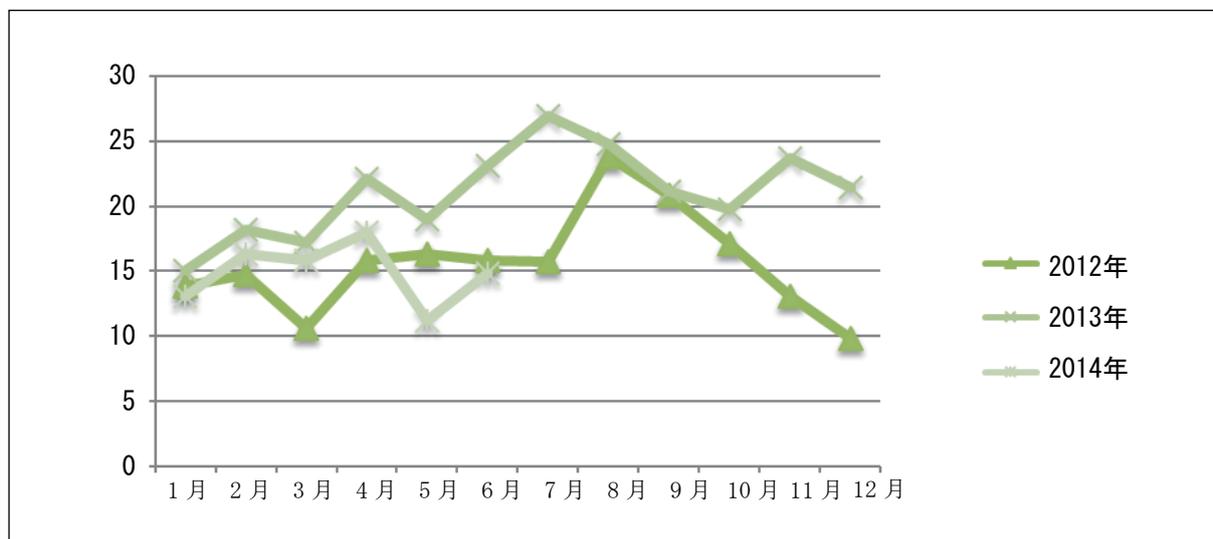
薬剤管理指導料1～3 算定件数



薬剤管理指導 実施率（薬剤管理指導・退院時指導 患者数／退院患者数）



退院時薬剤情報管理指導 実施率（退院時指導患者数／退院患者数）



2. 持参薬に関する業務

入院患者のうち6割程の患者様には持参薬があり、ほぼ全て薬剤部で確認し鑑別報告書を作成している。その件数は1ヶ月400件程で、1日5時間近い時間を費やしている。より効率的に鑑別報告書を作成するには持参薬鑑別システムの導入が必要であり、今回の新電子カルテ稼動後にシステムを導入することになっていた。ただ、システムが完成されたものでないため1月の仮稼動後に、改良を要求することとなった。改良が中々進まず、持参薬鑑別システムは1病棟でのみの仮稼動のままである。10月以降薬剤師数も減ったため、持参薬に関する業務を拡大することはできなかった。

来年度9月には持参薬鑑別システムを本稼動できるように調整し、業務拡大に臨みたい。

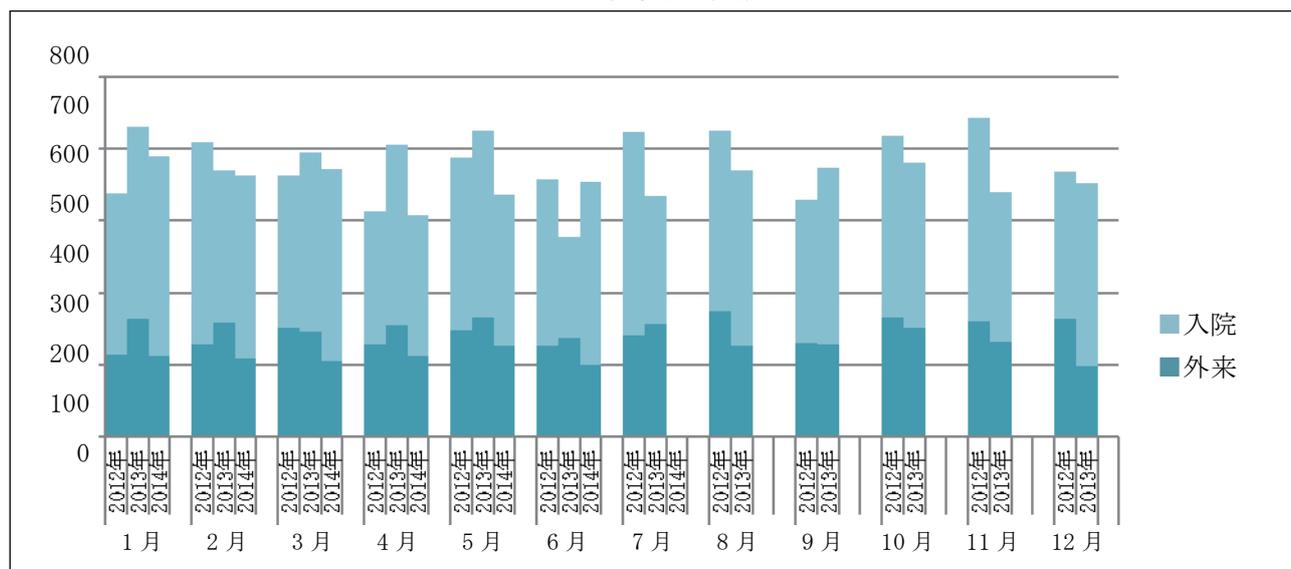
3. 化学療法

入院と外来を合わせた化学療法の件数は、昨年度より少し減少した。月平均件数で見ると、入院は118件と昨年度と変わらないが、外来は65件、昨年度より1ヶ月当たり10件程度減っている。

今年度10月の新電子カルテ稼動に伴い、抗がん剤プロトコルシステムを導入した。導入前に、システムへのレジメンの登録、セット処方作成、運用の見直しなどを行う必要があるが、担当者が中心となって準備を進めた。新システムでは、投与予定のオーダーを医師が承認した際に承認箋が発行される。それを利用して、投与日当日の処方量変更を見落としにくい仕組みを確立できたようである。

来年度は、曝露対策として、調製時や投与時の閉鎖性デバイス使用について検討していきたい。

化学療法 件数



4. 薬薬連携（保険薬局との連携）

院外処方に関する問題点の解決や、外来化学療法をより安全に行うために、病院薬剤部と保険薬局の連携は不可欠である。今年度も薬薬連携会議とがん化学療法に関する薬薬連携研修会をそれぞれ3ヶ月毎に4回ずつ開催した。

■平成25年度 がん化学療法薬薬連携研修会

- 5月15日(水) 薬剤部より 分子標的薬－EGFとVEGF－について
保険薬局より 保湿剤セキューラについて
- 8月28日(水) 薬剤部より EGFR阻害薬による皮膚障害とその対策について
- 11月20日(水) 薬剤部より 膵臓がん
保険薬局より 症例報告－胃がん・咽頭がん－
- 2月19日(水) 薬剤部より 多発性骨髄腫
保険薬局より 加齢による機能変化と服薬指導

近年、院外処方箋に検査値を印刷する施設がでてきている。新電子カルテ稼動を契機として、当院でも院外処方箋で検査値情報も提供できる体制を構築したい。

今後も周辺の保険薬局との連携を深め、より安全で効果の高い化学療法が実施できるよう努めていく。

5. 専門薬剤師 認定取得・更新など

- 財間 富士子 日本病院薬剤師会認定 がん薬物療法認定薬剤師 認定更新
- 久津輪 久世 日本薬剤師研修センター認定 実務実習指導薬剤師 認定取得
- 竹内 さやか 日本静脈経腸栄養学会認定 NST専門療法士 認定取得
- 神門 優子 日本糖尿病療養指導士認定機構認定 糖尿病療養指導士 認定更新

中央放射線部

技師長 室屋 純一

【はじめに】

平成 25 年度スタッフは、放射線科専門医 4 名、技師 21 名、看護師 6 名、医療クラーク 5 名の総計 37 名の陣容となっています。

装置・設備関係については、更新等はなく前年と変更ありません。(表 1)

業務実績としては、前年度と比べて 9 項目中 5 項目は増加しました。全体では 465 件増加しました。(一般撮影、MRI、リニアック治療、骨密度、DSA 等の件数が 922 件増加しましたが、CT、透視、R I、前立腺シード治療で 457 件の減となりました)。

現状撮影以外の業務も増加しています。CD 作成や 3D ナビ画像作成もここ数年非常に増加し、学術・情報提供用や手術等のナビ運用として利用されています。今後も厳しいですが、運用面の改善と広報等で使用効率を高め、創意工夫で精度の高い画像作りを目指します。(表 2)

学術・各種イベント活動に於いては、ボランティア活動(災害支援)や院内・外のセミナーや学術等に引き続き参加してまいります。(表 3)

また、チーム医療の下スタッフのレベルアップを図り患者様、スタッフ等から信頼頂ける安全・安心の検査を提供して参ります。

【放射線部組織(陣容)】

1. 放射線科(4名)

クリニック院長	大久保 幸一(放射線科専門医会認定医)
放射線治療部長	中 禮 久彦(放射線科専門医会認定医・放射線治療認定医)
放射線科部長	銚 立 博文(放射線科専門医会認定医)
	小 林 秀章(放射線科専門医会認定医) 1 2 月離任→

2. 中央放射線部

<技術部門担当>(21名)

技 師 長	室 屋 純 一		
副技師長	新 村 栄 次		
●本院	永 山 照 明(主任)	大 迫 良 一(主任)	飯 伏 順 一(主任)
	四 本 齊	浮 田 啓一郎(主任)	篠 原 なつき
	丸 尾 美由紀	濱 田 智太郎	加 治 屋 博 一
	小 屋 彰 俊	林 六 計	川 畑 朋 之
○川	川 原 美 咲		
リニアックセンター	松 下 芳 正(主任)	田 川 伸 夫	
●クリニック	竹之内 学(主任=室長兼務)		
	稲 留 久 恵	池 田 真 一	小 谷 祐 樹

<事務部門担当>(5名)

医療クラーク	竹 田 真理子	奥 ひとみ	西村 さおり
	四 本 春 香(主任)	武 田 美 里	

<看護部門担当>(7名)

看護師	有 村 まち子	武 田 きみこ	中 馬 たまみ
	宮 崎 浩 子	岩 川 るみ	佐々木 まゆみ
	小 園 浩 子		

○は、新入職、配属者を示す。

合計 37 名

【装置概要(表1)】

今給黎総合病院と昭和会クリニックの診断・治療機器及び主な周辺機器一覧です。

本院

検査室名等	メーカー	機種名	台数
1 一般撮影室 (I)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
		(2)CXDI-22(臥位用X線デジタルカメラ)	1
		(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
2 一般撮影室 (II)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
		(2)CXDI-11(立位用X線デジタルカメラ)	1
第1 操作通路 C R	コダック	(1)CR800 (2)CR850	2
5 FPD式X線テレビ室 (Cアーム)	日立	S F - V A 2000 F P (Versi Flex)	1
6 FPD式X線テレビ室	日立	E X A V I S T A	1
7 X線CT室 (II)	日立	S C E N A R I A (64列MDCT)	1
8 アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9 X線CT室 (I)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance64 (64列MDCT)	1
10 MRI室	日立	ECHELON Vega (1.5テスラ)	1
11 R I 室	フィリップス	BRIGHTVIEW (特)	1
13 乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV	1
		(2)マルチケア・マンモトーム (組織生検)	1
14 前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード	1
		(2)クリアスコープ 9000	1
第2 操作通路 レーザーイメージャー	コダック	ドライビュー-8900	1
受付・画像処理	テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム (PACS・検像システム) VINGENT (3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル	東芝	(1)SXT-1000A	1
	GE	(2)Brivo OEC 850	1
	シーメンス	(3)モビレット プラスHP	1
本館病棟 (ポータブル)	シーメンス	モビレット プラス	1
別館病棟 (ポータブル)	シーメンス	モビレット XP Hibrid	1
リニアックセンター	エレクタ	(1)プリサイズ トリートメント システム	1
	フィリップス	(2)ピナクル	1

クリニック

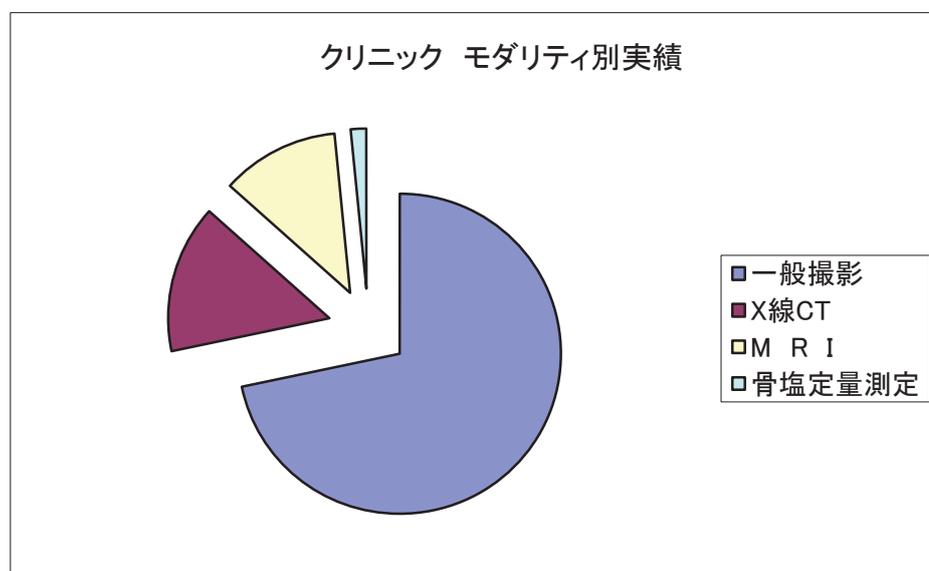
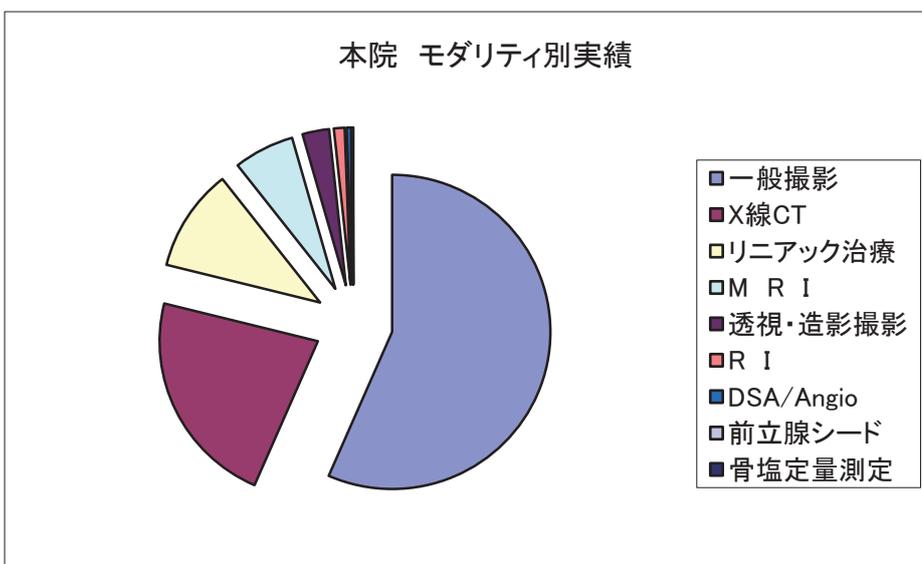
検査室名 (撮影室番号) 等	メーカー	機種名	台数
1 一般撮影室 (10)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40 (RADIOTEX)	1
		(2)CXDI-50G (臥位用X線デジタルカメラ)	1
2 一般撮影室 (9)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40 (RADIOTEX)	1
		(2)CXDI-50G (立位用X線デジタルカメラ)	1
		(3)CM-100 (超音波骨密度測定)	1
3 X線CT (MDCT) 室 (8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16 (16列MDCT)	1
5 骨密度測定室	ルナー	DPX- α ミニ (X線骨密度測定)	1
6 MRI室	フィリップス	インタラ アチエヴァ ノヴァ Intera Achieva Nova (1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	コダック	(1)CR850	1
	コダック	(2)ドライビュー-8900	1
	テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム (PACS・検像システム) VINGENT (3Dワークステーション)	1式 1式
口腔外科 デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N	1

【資格 検査業務実績(表2)】

業務実績は、下記の通りです。全体として対前年度比0.63%の増加でした。

前年度比↑は増、↓は減

検査・治療		25年度 依頼件数等			
		本院	クリニック	計	増減
1	一般撮影	27,012	19,318	46,330	↑
2	X線CT	10,652	4,025	14,677	↓
3	M R I	2,953	3,186	6,139	↑
4	透視・造影撮影	1,301	—	1,301	↓
5	R I	524	—	524	↓
6	骨塩定量測定	27	418	445	↑
7	DSA/Angio	214	—	214	↑
8	リニアック治療	5,034	—	5,034	↑
9	前立腺シード	42	—	42	↓
合計		47,759	26,947	74,706	↑



【学会活動等(表3)】

平成24年度の放射線部の院外学術活動(参加)や認定更新等は、次の通りです。

学術発表等

日時	5月18日	日時	5月18日
学会名等	九州CTフォーラム	学会名等	MRI ユーザーミーティング
演題	CT奨励研究発表	演題	腹部撮像にまつわるエトセトラ
座長	新村 栄次	講師	浮田 啓一郎
日時	6月8日	日時	6月21日
学会名等	診療放射線技師基礎講習(長崎)	学会名等	MRI講演会(日立柏工場)
演題	MRI検査	演題	臨床現場から見たMRI装置について
講師	浮田 啓一郎	講師	浮田 啓一郎
日時	7月7日	日時	7月13日
学会名等	九州部会MRセミナー	学会名等	第3回かごんまGYROミーティング
演題	MR信号の成り立ちと画質に関わる因子	演題	同期撮像について
講師	浮田 啓一郎	座長	浮田 啓一郎
日時	7月13日	日時	7月13日
学会名等	第3回かごんまGYROミーティング	学会名等	第3回かごんまGYROミーティング
演題	バランスドシーケンスにおけるアダムキュービッツ動脈描写の検討	演題	頭部TOF-MRAの短時間撮像への挑戦
演者	池田 真一	演者	小谷 祐樹
日時	8月3日	日時	11月9日
学会名等	鹿児島RIカンファレンス	学会名等	九州 MRI Gyroミーティング
演題	当院での骨シンチ表示および出力法	演題	MRI基礎講座
演者	飯伏 順一	座長	浮田 啓一郎
日時	11月9日	日時	11月23日
学会名等	九州 MRI Gyroミーティング	学会名等	九州放射線医療技術学術大会
演題	バランスドシーケンスにおけるアダムキュービッツ動脈描写の検討	演題	核医学4
演者	池田 真一	座長	飯伏 順一
日時	1月18日	日時	1月19日
学会名等	関東シナリアユーザーミーティング	学会名等	磁気共鳴専門技術者試験対策講習会
演題	当院におけるインテリIPの使用経験	演題	MRI臨床分野講習
演者	濱田 智太郎	講師	浮田 啓一郎
日時	3月8日	日時	3月15日
学会名等	市民公開講座	学会名等	鹿児島診療放射線技師女性の集い
演題	医療現場における診療放射線技師の役割	演題	女性サミット報告
演者	新村 栄次	演者	丸尾 美由紀
日時	3月29日		
学会名等	大隅地域研修会		
演題	整形領域の症例		
演者	小谷 祐樹		

学術発表(ディスカッション)等

日時	5月22日	日時	6月15日
学会名等	第20回鹿児島CT研究会	学会名等	第21回鹿児島CT研究会
演題	～心臓プロトコールについて	演題	～ワークステーションの活用について
司会・演者	新村 栄次/四本 斉	司会・演者	新村 栄次/濱田 智太郎
日時	9月25日	日時	11月6日
学会名等	第22回鹿児島CT研究会	学会名等	第23回鹿児島CT研究会
演題	～急性腹症のプロトコールについて	演題	～腹部のプロトコールについて
司会・演者	新村 栄次/加治屋 博一	司会・演者	新村 栄次/濱田 智太郎

著 述

2013年 日立 MEDIX Vo1. 58 「64ch/128slice CT SCENARIOの被曝低減機能」 新村 栄次
 2014年1月号 日本放射線技師会雑誌 「メーカーごとのシーケンス解説 日立編」 浮田 啓一郎

認定資格取得・更新者等

取 得	2013年10月	肺がんCT検診認定技師	池田 真一
	2013年12月	ピンクリボンアドバイザー	丸尾 美由紀

◇その他の活動

平成25年度の放射線部の受け入れ学術活動(参加)は、次の通りです。

研修・視察受け入れ

平成25年			
6月25日	奄美中央病院	CT検査研修	1名
7月25日	中華民国 林口長庚紀念醫院	CT装置視察	3名
12月5日	大久保病院	CT装置視察	1名
平成26年			
2月22日	上天草総合病院	CT装置視察	3名

実習生受け入れ

平成25年			
6月3日～6月28日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
7月1日～7月26日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
9月2日～9月27日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
10月1日～11月8日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科3年	2名

ボランティア

平成25年			
10月5日～6日	鹿児島ミュージックフェスタ	乳がん検診啓発活動	1名
10月27日	ピンクリボン in Kagoshima	実行委員活動	1名

院外の会議・研修会等への参加

平成25年			
5月25日	臨床実習指導者会議	城山観光ホテル	2名
6月23日	心電図セミナー	鹿児島県市町村自治会館	3名
8月1日	結核予防技術者地区別講習会	鹿児島県庁会議室	1名
7月2日	フレッシュアーズセミナー	大学病院	1名
8月2日	肺がん検診均てん化研修会	鹿児島県医師会館	1名
8月2日	乳がん検診研修会	鹿児島県医師会館	1名
8月9日	がんの早期診断に関する研修会	鹿児島市立病院	8名
10月25日	低線量CT肺がん検診研修会	鹿児島県医師会館	2名
平成26年			
3月8日	市民公開講座 「コ・メディカルの役割」	ホテルパレスイン鹿児島	2名
3月14日	乳がん検診均てん化研修会	鹿児島県民交流センター	2名
3月21日	肺がん検診均てん化研修会	パレスイン 鹿児島	1名

中央臨床検査部

部長 佐藤 榮一
技師長 村中 利也 (報告)

平成25年度は病院全体の電子カルテの変更に伴って検査部も検査システム、生化学分析装置2台を更新しました。更新したことにより処理能力、処理速度、試薬の微量化と精度の向上等で、検査時間の短縮、検査試薬の大幅なコスト削減が実現できました。また、スタッフに新卒の來住和剛技師、池本菜月技師を迎え、総勢24名の検査態勢で当院の救急医療に対応しました。中央臨床検査部実績は、生化学検査が519,831件、輸血・免疫血清検査が84,937件、血液・一般検査が531,749件、臨床微生物検査が21,657件、生理検査が26,798件、合計1,184,972件で前年と比較して検体検査件数はほとんど同じでしたが生理検査は微増しました。

日々、臨床検査データの標準化に努め精度管理は、日本医師会、日本臨床検査技師会、鹿児島県医師会、その他メーカー主催の外部精度管理への参加と毎日行う内部精度管理で良好な成績を収めました。これからも精度保証認証施設として精度管理の向上に努めたいと思います。学会、研修会等へは多くのスタッフが参加し自己研鑽に励み、3演題を発表することができました。

●平成25年度中央臨床検査部スタッフ

臨床検査部長 佐藤榮一(鹿児島大学医学部名誉教授)
臨床微生物検査 村中利也(感染制御認定臨床微生物検査技師) 今堀小百合
播磨佐江子(緊急臨床検査士)
輸血・免疫血清検査 今堀貴之(認定輸血検査技師) 宝代聡美(認定輸血検査技師)
血液・一般検査 原菌真由美(二級臨床検査士・血液学) 西田智佳(認定一般検査技師)
広崎うた 岩崎明日香
生化学検査 山崎泰代 花房雅子 永岡伸代 持留ゆりか(緊急臨床検査士) 小森田康寿 來住和剛
外来・生理検査 岩本雅代 貴島美香(認定神経生理検査技師) 平原千代子 上靄昭知 福崎愛
小原旅人 池本菜月
超音波検査 富吉祐児(認定超音波検査士) 森田修康(認定超音波検査士) 赤間由美
クリニック検査 久永洋一郎

●平成25年度中央臨床検査部実績

生化学検査	件数		件数		件数
セット検査	446,787	セット外検査	68,272	血液ガス	3,446
血中薬物濃度	570	血糖	756		
合計	519,831				
輸血・免疫血清検査					
輸血	15,153	免疫血清	6,844	感染症	28,556
腫瘍マーカー	17,525	ホルモン	11,140	その他	5,719
合計	84,937				
血液・一般検査					
血液	459,879	凝固系	38,099	尿	31,270
糞便	332	穿刺液	2,162	その他	7
合計	531,749				
臨床微生物検査					
細菌塗抹培養	12,292	嫌気培養	2,531	薬剤感受性	2,004
抗酸菌塗抹培養	2,039	PCR	1,777	その他	1,014
合計	21,657				

生理検査					
心電図	9,012	筋電図	1,478	ABI	302
脳波	286	肺機能	5,341	超音波UCG	7,716
超音波腹部	2,663				
合計	26,798				

●精度管理への参加

- ①第47回日本医師会精度管理
- ②第24回日本臨床検査技師会精度管理
- ③第36回鹿児島県医師会精度管理
- ④2013年度関東化学ユーザーズコントロールサーベイ
- ⑤ニッポーユーザーズコントロールサーベイ
- ⑥第15回血液検査コントロールサーベイ
- ⑦第6回コアプレスタ(凝固系)コントロールサーベイ
- ⑧エームス尿検査コントロールサーベイ
- ⑨第20回ルミパルスコントロールサーベイ
- ⑩第18回A I Aコントロールサーベイ
- ⑪平成25年度特異 I gEコントロールサーベイ

●実習生(学生)の受け入れ

- 熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻 4年生 2名
平成25年8月5日～平成25年8月9日(5日間)
- 山口大学医学部保健学科検査技術科学専攻 4年生 1名
平成25年9月2日～平成25年9月6日(5日間)
- 熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科 4年生 1名
平成25年9月16日(1日間)
- 山陽女子短期大学臨床検査学科 3年生 2名
平成25年9月17日～20日(4日間)

●検査部内勉強会

	発表者	発表テーマ
5月31日	日本電子	臨床検査情報処理システム JCS-50L CLALIS
11月27日	久永洋一郎	血栓性血小板減少性紫斑病
12月26日	今堀貴之	血液製剤の取り扱いについて
1月30日	播磨佐江子	肺組織より分離した <i>Actinomyces israelii</i> の一症例
1月30日	小原旅人	血液培養より分離された <i>Pantoea agglomerans</i> の一症例
2月25日	原菌真由美	クリニカルパスについて
3月25日	福崎愛	心電図症例

●学会・演題発表

- ①劇症型重症A群溶血性レンサ球菌感染症の一症例
播磨佐江子、今堀小百合、村中利也
2013年11月9～10日 第23回南九州臨床微生物研究会 沖縄県
- ②血液培養より分離された *Pantoea agglomerans* の一症例
小原旅人、今堀小百合、播磨佐江子、村中利也
2014年2月9日 第11回 鹿児島県医学検査学会 鹿屋市
- ③肺組織より分離した *Actinomyces israelii* の1症例
播磨佐江子、今堀小百合、村中利也
2014年2月9日 第11回 鹿児島県医学検査学会 鹿屋市

●学会・研究会への参加

月	学会・研修会名	人数	備考
H25. 4月	第18回鹿児島 ICT ネットワーク学術講演会	1	
5月	鹿児島県臨床検査技師会春季研修会・総会	5	
6月	第1回輸血・移植部門研修会	3	講師：今堀
	第2回九州 ICMT を育てる会	1	
	第1回血液検査部門研修会	2	
7月	第2回輸血・移植部門研修会	3	講師：宝代
	第1回感染・免疫検査部門・薬剤師会合同研修会	3	講師：村中
	第1回臨床一般部門研修会	6	
	第1回生理機能検査部門研修会	2	講師：富吉
8月	第2回血液検査部門研修会	4	
	第3回輸血細胞治療部門研修会	1	
	第1回生物化学分析部門研修会	6	
9月	第1回生物化学分析部門研修会	6	
10月	生物化学分析・臨床検査総合部門合同研修会	1	
11月	第2回大島地区・臨床微生物検査部門合同研修会	1	講師：村中
	第2回臨床微生物検査部門研修会	3	座長：村中
	第23回南九州臨床微生物研究会	2	演題：播磨・座長：村中
12月	第5回輸血細胞治療部門研修会	2	
	第6回輸血細胞治療部門研修会	3	
H26. 1月	九州支部生理機能卒後教育セミナー	4	
	AIA セミナー2013	3	
	生物化学分析・検査管理運営部門合同研修会	2	
2月	鹿児島県データ標準化サーベイ報告会	2	
	第4回血液検査・止血凝固分野合同研修会	2	
	第2回感染症診断フォーラムー九州ー	4	座長：村中
	第7回輸血細胞治療部門研修会	1	
	第11回鹿児島県医学検査学会	3	演題：播磨・小原
	第25回日本臨床微生物学会	1	
	第3回臨床微生物検査部門研修会	4	座長：村中
3月	平成25年度日本医師会精度管理調査研修会	1	
	平成25年度鹿児島県合同輸血療法懇話会	2	
	平成25年度鹿児島県医師会精度管理調査研修会	2	
	シーメンス南九州ヘマトロジーアドバンスセミナー	2	
	第3回臨床一般部門研修会	2	
	第3回鹿児島市地区・臨床生理部門合同研修会	2	
	第8回輸血細胞治療部門研修会	3	講師：岩崎

リハビリテーション部

療法士長 児島 邦幸

【平成 25 年度の概要】

1. はじめに

専従の急性期リハビリ担当療法士 60 名（理学療法士 38 名、作業療法士 14 名、言語聴覚士 8 名）、日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医の資格を有する医師を専任配置し、入院リハは土日祝日も休まず、リハサービスを提供しております。十分なリスク管理のもとに、発症当日、または数日以内に、早期離床をめざしたリハビリを開始します。

チーム医療の実現のために、訓練室中心のシャトルリハから、病棟ごとに療法士を配置し、ベッドサイドリハに重点を置いています。病棟カンファレンスに参加し、医師・看護師をはじめ、多職種との密な情報交換に努めています。

当院は、重症者や高齢者の割合が非常に多く、原疾患の治療が円滑に進むように、積極的にケアチーム・サポートチームに参加し、リハビリの立場から協力できることを考えています。

2. 届出承認

施設承認	受理番号	算定開始
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	（脳Ⅰ）第 46 号	平成 18 年 4 月 1 日
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	（呼Ⅰ）第 28 号	平成 18 年 4 月 1 日
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	（運Ⅰ）第 7 号	平成 22 年 4 月 1 日
がん患者リハビリテーション料（Ⅰ）	（がんリハ）第 9 号	平成 23 年 7 月 1 日

3. スタッフ（平成 26 年 3 月 31 日現在）

専任リハ医師	1 名	
理学療法士	38 名	（2 名育休中）
作業療法士	14 名	
言語聴覚士	8 名	
リハビリ事務	4 名	
リハビリ助手	2 名	

4. 人事

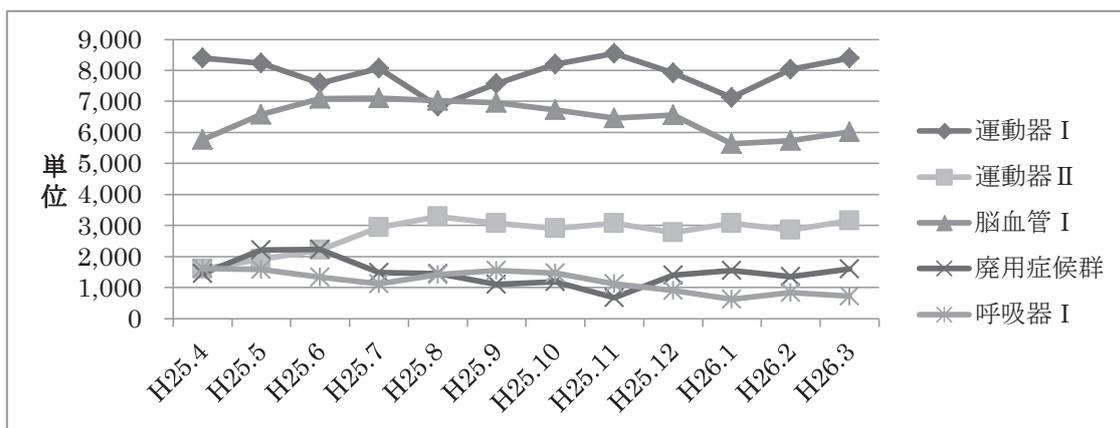
入職	H25. 4. 1	理学療法士	辻 直聖	鹿児島医療福祉専門学校
	H25. 4. 1	理学療法士	水島 真	九州看護福祉大学
	H25. 4. 1	理学療法士	内田有理香	鹿児島医療技術専門学校
	H25. 4. 1	理学療法士	井上和貴子	鹿児島医療福祉専門学校
	H25. 4. 1	作業療法士	白濱裕紀子	鹿児島大学
	H25. 4. 1	言語聴覚士	堀綾香	鹿児島医療技術専門学校
	H26. 2. 1	理学療法士	木下恵美	鹿児島県から転入
退職	H26. 2. 28	作業療法士	長瀬愛美	熊本県へ転出
	H26. 2. 28	理学療法士	古田和大	東京都へ転出
	H26. 3. 23	理学療法士	里未来	東京都へ転出
	H26. 3. 31	理学療法士	新川英治	長崎県へ転出
	H26. 3. 31	理学療法士	福森愛美	鹿児島県へ転出
	H26. 3. 31	理学療法士	壹岐伸弥	大阪府へ転出
	H26. 3. 31	作業療法士	小渡麻里子	大阪府へ転出
H26. 3. 31	作業療法士	高江洲牧子	沖縄県へ転出	

【部門実績】

1. 平成 25 年度療法明細

療法明細	□外来			□入院			■合計		
	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数
脳血管 I	78	166	78	37,039	77,623	28,527	37,117	77,789	28,605
廃用症候群	8	23	8	8,992	17,675	7,476	9,000	17,698	7,484
運動器 I				42,472	94,906	36,755	42,472	94,906	36,755
運動器 II	3,543	7,267	3,542	14,678	31,350	13,444	18,221	38,617	16,986
呼吸器 I	9	27	9	7,119	14,300	6,977	7,128	14,327	6,986
◇◇◇小計◇◇◇	3,638	7,483	3,637	110,300	235,854	93,179	113,938	243,337	96,816
初期加算				32,713	65,116	28,615	32,713	65,116	28,615
早期リハビリテーション加算				60,088	123,584	51,380	60,088	123,584	51,380
リハビリ総合実施計画書	897		897	4,008		4,008	4,905		4,905
退院時リハビリ指導				1,171		1,171	1,171		1,171
摂食機能療法				875		875	875		875

	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3
運動器 I	8,405	8,225	7,590	8,072	6,849	7,575	8,193	8,544	7,911	7,124	8,026	8,392
運動器 II	1,603	1,920	2,212	2,940	3,285	3,073	2,910	3,074	2,767	3,075	2,860	3,154
脳血管 I	5,772	6,571	7,084	7,100	7,019	6,952	6,726	6,462	6,556	5,629	5,740	6,022
廃用症候群	1,458	2,212	2,221	1,478	1,443	1,101	1,182	678	1,398	1,558	1,348	1,598
呼吸器 I	1,621	1,588	1,329	1,116	1,413	1,547	1,473	1,119	905	622	843	724
	18,859	20,516	20,436	20,706	20,009	20,248	20,484	19,877	19,537	18,008	18,817	19,890



2. サポート・ケアチーム報告

●褥瘡対策チーム

定期活動として、毎週月曜日(14時～およそ16時)、多職種(医師・専任看護師(WOCナースなど)・薬剤師・栄養士・理学療法士・作業療法士)からなるチームで院内褥瘡患者をラウンドし、病棟看護師を交え、処置と情報共有を行っている。さらに、年1回(10月頃)、院内全看護師を対象に、ポジショニング勉強会(講義・実技)を開催している。

不定期活動として、病棟からの要望により、現に褥瘡を有している患者および褥瘡発生の危険性が高い患者に対し、ポジショニングプランの作成と担当看護師への伝達を行っている。(褥瘡認定作業療法士 宮之原俊一)

●NST

栄養障害の状態にある入院患者様、栄養管理をしなければ栄養障害の状態になることが見込まれる入院患者様に対し、原疾患の治療促進および感染症などの合併症予防などを目的として栄養管理に係る専門的知識を有した多職種(医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士など)からなるチームで、週1回(火曜日14時～)カンファレンス・回診にてサポートを実施している。

言語聴覚士としては、対象患者様の口腔機能・嚥下機能の評価、食事形態・嚥下訓練の内容などの情報提供を実施している。また、8月に[嚥下の診かた]をテーマに院内勉強会を開催。(言語聴覚士 徳永弘樹)

●口腔ケアチーム

チーム勉強会を、偶数月第3金曜日17時半より、クリニック4階歯科外来にて実施している。言語聴覚士は4月に院内勉強会(VFによる嚥下評価)を開催。活動については、ラウンドを隔週金曜日14時～15時より、歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士・看護師・栄養士のメンバーにて実施している。言語聴覚士の役割として、介入を必要とする患者様の検討や嚥下機能の状態を報告している。尚、口腔ケアチームだよりを毎月1回発行し、院内への活動報告や口腔ケアについてのメッセージを発信している。(言語聴覚士 徳永弘樹)

●緩和ケアチーム

週1回(木曜日 14時～)、緩和ケアチームの介入している入院患者様に対し、病室へのラウンド、その後医局3階にてカンファレンスを実施している。緩和医療科の患者様や緩和ケア(医師・看護師)に依頼のあった患者様で医師による疼痛コントロールや看護師による精神的なサポート、退院支援のために介入している方を対象としている。

多職種(緩和医師・精神腫瘍科医師・緩和認定看護師・保健師・薬剤師・栄養士・理学療法士・作業療法士)からなるチームで構成されている。理学療法・作業療法士の役割としてリハビリを介入している患者様のADLや疼痛の状態を報告し、多職種での情報共有を図っている。(理学療法士・リンパ浮腫指導技能者 古市寿子)

3. 実習受入

種別	養成校		人数	開始	終了
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	第3学年長期臨床実習	1名	H25.5.13	H25.7.20
		第3学年長期臨床実習	1名	H25.8.5	H25.10.12
		第3学年長期臨床実習	1名	H25.9.12	H25.11.9
		第2学年臨床検査測定実習	3名	H25.7.22	H25.7.27
		第2学年臨床評価実習	1名	H25.2.3	H25.2.22
		第1学年介護体験実習	1名	H26.2.24	H26.2.26
	鹿児島医療技術専門学校	第4学年臨床評価実習	1名	H25.8.5	H25.10.11
		見学体験実習	1名	H25.7.22	H25.7.26
	宮崎リハビリテーション学院	臨床実習Ⅱ	1名	H25.8.19	H25.10.30
	琉球リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H25.4.7	H25.6.12
福岡リハビリテーション専門学校	第3学年長期臨床実習	1名	H26.1.6	H26.2.28	
九州中央リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H25.8.5	H25.9.28	
作業療法学	鹿児島医療技術専門学校	第4学年長期臨床実習	1名	H25.8.5	H25.10.11
	神村学園専修学校	第3学年臨床実習	1名	H25.6.24	H25.8.17
		検査測定実習	1名	H25.7.29	H25.8.3
	琉球リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H25.4.8	H25.6.12
	九州中央リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H25.5.20	H25.7.13
	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	第3学年長期実習	1名	H25.7.15	H25.8.24
沖縄リハビリテーション福祉学院	第3学年長期臨床実習	1名	H25.8.12	H25.10.12	
言語聴覚療法学	鹿児島医療福祉専門学校	臨床実習	1名	H25.6.24	H25.8.3
		臨床実習	1名	H25.12.9	H25.12.27
		評価実習	1名	H26.2.17	H26.3.8

【学術実績】

1. 学会

- 円背患者に対する既製の車椅子を用いたシーティング
第15回日本褥瘡学会学術集会 兵庫 2013年7月19日～2013年7月20日
OT宮之原俊一、PT新川英治、PT福森愛美、OT鶴田和也、高木信介(形成外科医)
- 仙腸関節障害に対する当院における治療の現状
第21回日本腰痛学会 東京 2013年11月1日～2013年11月2日
PT松下卓矢、PT山崎数馬、PT佐藤珠葵、PT勝山誠、PT都外川希、古賀公明(整形外科医)
- 右開放性距骨体部骨折を呈した症例を経験して
第35回理学療法作業療法九州合同学会 熊本 2013年11月23日～2013年11月24日
PT上岡裕明

2. 研究会

- 仙腸関節機能障害に高率に合併する絞扼性末梢神経障害～非特異的腰痛の原因の一つとして～
第4回日本仙腸関節研究会 東京 2013年11月3日
PT勝山誠、PT山崎数馬、PT佐藤珠葵、PT松下卓矢、PT都外川希
松永俊二（整形外科医）、古賀公明（整形外科医）

3. 論文

- 脳梗塞急性期における片麻痺上肢への促通反復療法と持続的低周波電気刺激法の同時併用療法による運動機能と浮腫の改善
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine Vol.51 No.3 2014.3
OT前迫篤、OT長瀬愛美、長堂竜維（神経内科部長）
下堂園恵（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学教授）
川平和美（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学名誉教授）

【認定資格者】

3学会合同呼吸療法認定士	4名	豊留研二 木下知恵 松川優香 松本芙実 倉元充
心臓リハビリテーション指導士	1名	豊留研二
リンパ浮腫指導技能者	1名	古市寿子
褥瘡認定作業療法士	1名	宮之原俊一
健康運動指導士	1名	兒島邦幸
福祉用具プランナー	1名	兒島邦幸
福祉住環境コーディネーター2級	4名	古市寿子 中塩屋佳子 七村和也 下柳田莉加

【部門の取組み】

平成17年11月～	NSTにST参加
平成18年4月～	疾患別リハ施設承認
平成18年4月～	専従常勤の療法士が20名
平成19年10月～	褥瘡対策チームにPT・OT・ST参加
平成20年4月～	専従常勤の療法士が30名
平成20年7月～	療法士の病棟担当制の開始
平成21年3月～	日祝含めた均等配置勤務体制開始
平成21年4月～	専従常勤の療法士が40名
平成22年6月～	口腔ケアチームにST参加
平成22年10月～	緩和ケアチームにPT・OT参加
平成23年6月～	専従常勤の療法士が50名
平成23年7月～	がん患者リハ施設承認
平成24年4月～	日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医を専任配置
平成25年4月～	専従常勤の療法士が60名
平成25年7月～	NSTにPT・OT参加

臨床工学部

技士長 齋藤 謙一

1. 高気圧酸素療法

高気圧酸素療法は、第1種装置(川崎エンジニアリング社製KOH-2000)2台で月～金曜日8:30～17:00、土曜、祝祭日8:30～12:00実施。緊急時にはオンコールでいつでも実施できる体制になっています。

平成25年度は216名の患者様に対して総治療回数は2,566回、内救急適応577回(救急率29.0%)でした。前年度比では治療患者数-23.1%、総治療回数-18.7%、救急適応-24.0%と全てにおいて減少しました(図1)。診療科別依頼件数では整形外科(前年比-36.4%)、耳鼻咽喉科(-4.9%)、外科(-42.2%)の3科で全体の8割近くを占めています(図2)。診療科別治療回数は整形外科が救急・非救急合わせて1,305件(救急の割合8.2%、1人当りの平均治療回数20回)、耳鼻科598件(22.4%、10回)、外科219件(84.8%、10回)でした(図3)。適応疾患は腸閉塞、突発性難聴、脊髄関連疾患がそれぞれ27%ずつで全体の8割を占めます(図4)。

高気圧酸素治療は1回の治療に1時間10分～20分掛かるため時間内では1日14名が限界ですが(病棟や患者様の)時間や状況が許す限り治療を行いますのでご遠慮なく依頼をお願いします。

図1 HBO治療回数推移

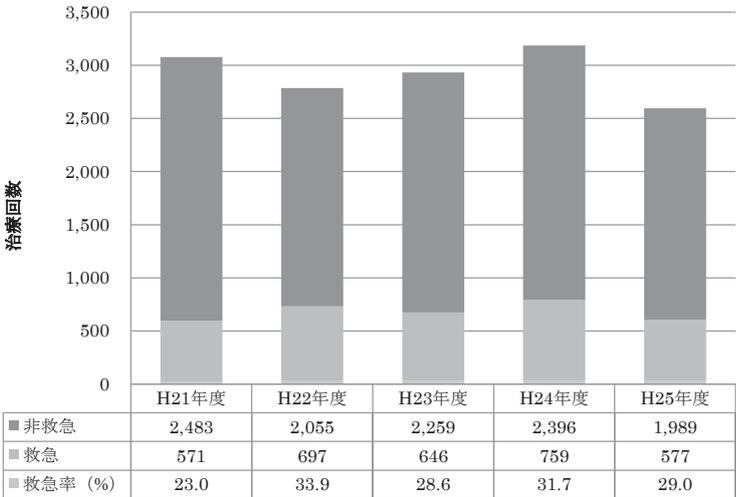


図2 診療科別HBO依頼件数

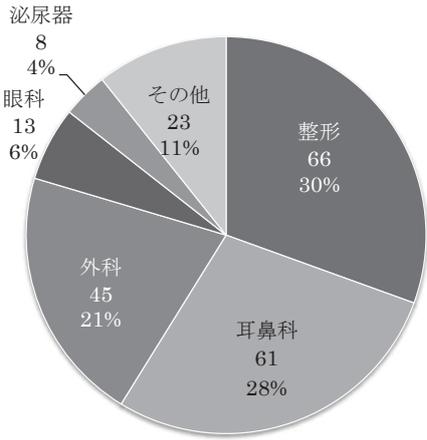


図3 診療科別 HBO治療件数

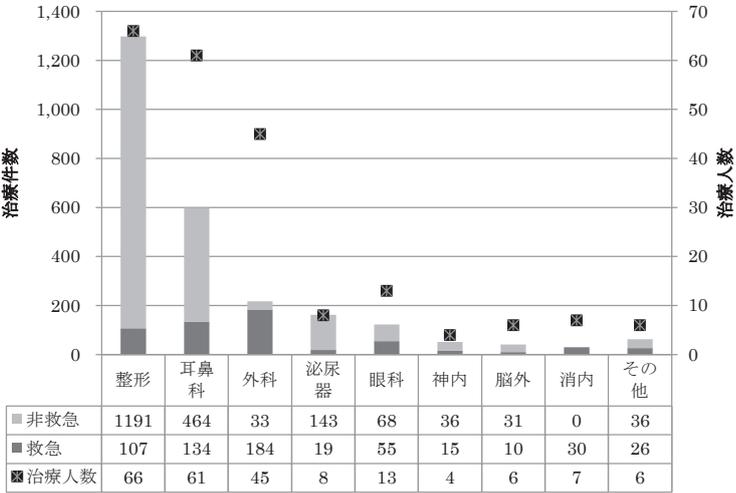
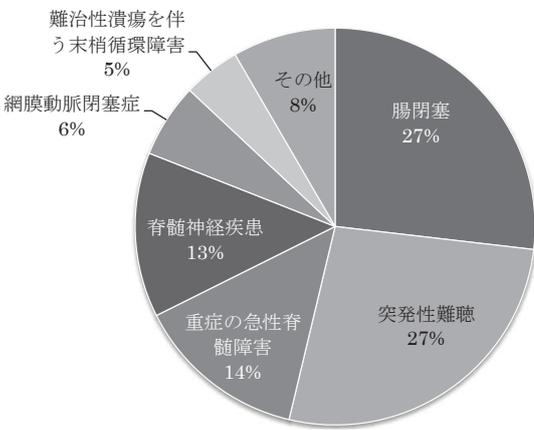


図4 H25年度 HBO適応疾患



2. 人工呼吸

平成 25 年度の人工呼吸器使用状況は、合計 317 件の貸出しで昨年比+27% でした (NICU 含む)。これまで全体的に人工呼吸器の使用状況は漸減傾向でしたが増加に転じています (図 5)。個別で見ると IPPV (NPPV に対応した略称で挿管による人工呼吸器: invasive positive pressure ventilation) は昨年と大きく変わらないが、わずかに漸減しています。対して NPPV は前年比 +19% と増加傾向にあります。大きく増加 (昨年比 +312%) している在宅用人工呼吸器は、当院での循環器内科による心不全に対する ASV (Adaptive Servo Ventilation: 順応性自動制御換気) 導入と入院患者の持ち込みによる CPAP の増加によるものです。睡眠時無呼吸症候群 (SAS: Sleep Apnea Syndrome) による居眠り運転による交通事故やで社会的関心が高まり導入する患者が増えているようです。(※ これまで、在宅用の人工呼吸器は使用件数にカウントしていませんでしたが今年度より加えることにしました)。診療科別の使用状況は ASV 導入が多かった循環器内科が一番多く NPPV や在宅用呼吸器を扱うことの多くなる内科系が上位を占めるようになりました (図 6)。

当院所有の人工呼吸器では、NPB-740 が導入後 10 年以上経過しており病棟で取り扱う次期人工呼吸器として HAMILTON-C1 (スイス HAMILTON MEDICAL AG 製 日本光電取扱い) を 2 台導入しました (表)。特徴として、小型でコンパクト (約 4.9kg)、空気配管を必要としない、内蔵バッテリー 2 時間駆動、NPPV として使用可能、モードとして ASV (Adaptive Support Ventilation: 適応補助換気: PCV による強制換気から自発呼吸まで患者の状況に応じて適切な換気に自動的に可変するモード) を搭載し容易に換気条件を設定できるようになっています。また、年度末には MRI 静磁場強度 3 テスラ環境での使用可能なガス圧式人工呼吸器 CARE vent MRI (カナダ O-TWO MEDICAL TECHNOLOGIES INC. 製 日本エア・ウォーター取扱い) を導入し人工換気中の患者様の MRI 検査を安全に行えるようになりました。この 2 機種的人工呼吸器導入により人工換気患者の搬送・検査への臨床工学技士立ち会い依頼が急増しています。

図 5 人工呼吸器貸出し件数の年度別推移

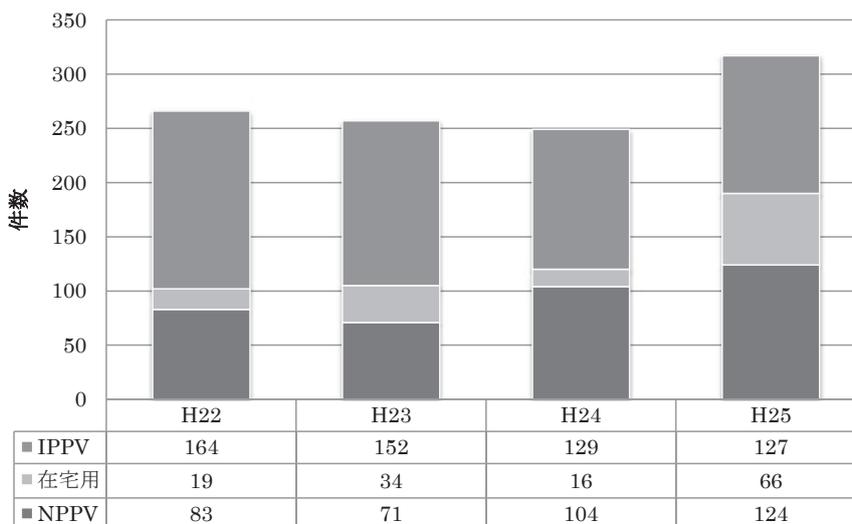


図 6 診療科別人工呼吸器取扱い

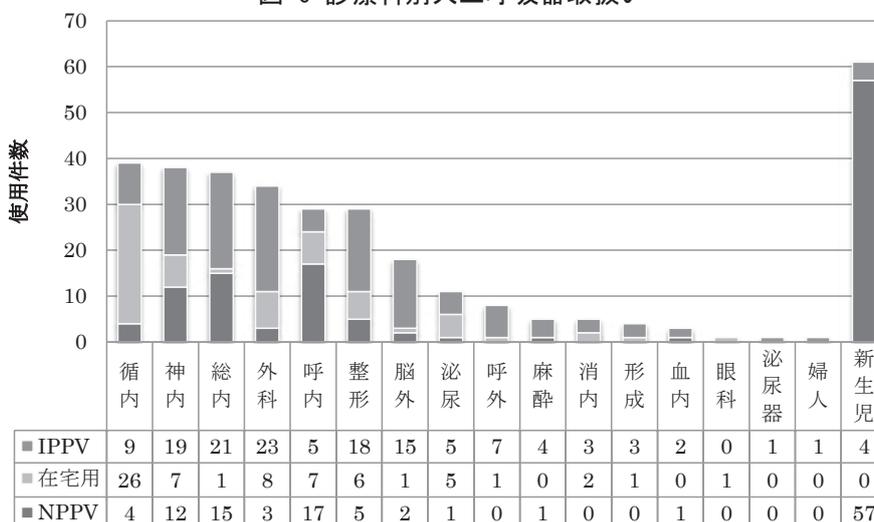


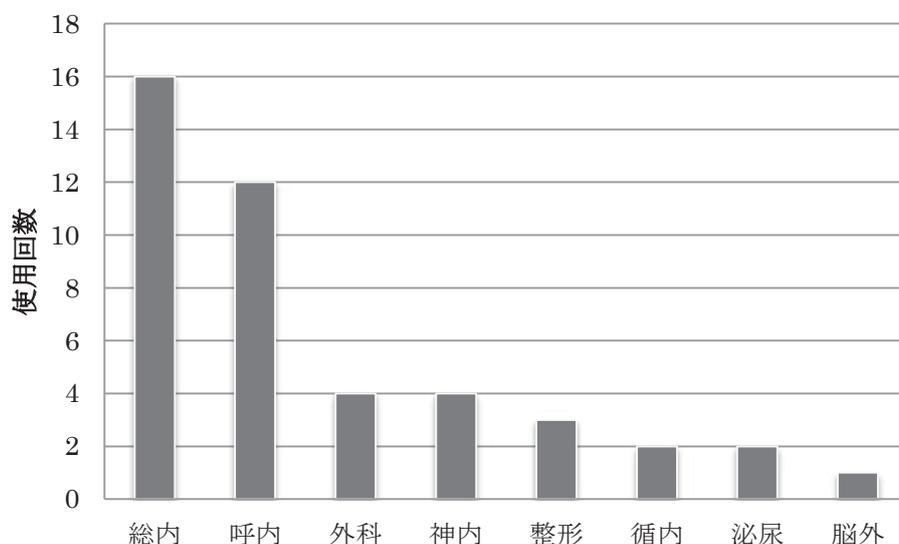
表 1 当院の人工呼吸器

メーカー	機種名	台数	コメント
Covidien	NPB-740	5	コンプレッサ内蔵、長時間バッテリー搭載、病棟用
Covidien	NPB-840	4	高性能、高度な設定が可能、
Dräger	Evita_XL	1	高性能、APRVモード、スマートケア搭載
GE Healthcare	Engstrom Carestation	1	高性能、酸素消費量やCO2産生量、エネルギー消費量、呼吸商、FRC測定
Philips	BiPAP vision	2	NPPV専用機
Philips	V 60	2	NPPV専用機 常時レンタル
Dräger	Carina	1	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可
Smiths Medical	paraPAC 2D	1	ガス駆動、搬送用
Dräger	Babylog 8000plus	3	新生児専用人工呼吸器
CareFusion	infant Flow SiPAP	2	新生児専用 n-CPAP装置 +3台レンタル中
HAMILTON	HAMILTON-C1	2	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV可、ASV・APRVモード搭載
O-TWO Medical	CARE vent MRI	1	ガス駆動、搬送用、MRI対応

人工呼吸器関連として平成25年度導入した新しい酸素療法の一つで鼻カニューラを使用して高流量の酸素投与を行うネーザルハイフロー (nasal high flow: NHF) があります。加温加湿機を介した21～100%の酸素を約60L/分まで流せるのが特徴で、規定した酸素吸入が可能になるためⅡ型呼吸不全への適応、高流量でPEEPも期待できることからマスク等による酸素療法とNPPVとの間の治療法として心原性肺水腫、COPD急性増悪など多くの急性呼吸不全症例に使用できるのではないかと考えられています。

平成25年度の使用状況は図7のようになります。

図 7 血液透析治療回数の推移



3. 血液浄化

血液浄化のうち血液透析は3台の個人器(+ICU内に1台)で実施しています。平成25年度の透析実施回数は291回、昨年度比+22.3%でした(図8)。その他、持続的腎代替療法(CRRT)、アフェレーシスの実施状況を(図9)に示しました。

図8 血液透析治療回数の推移

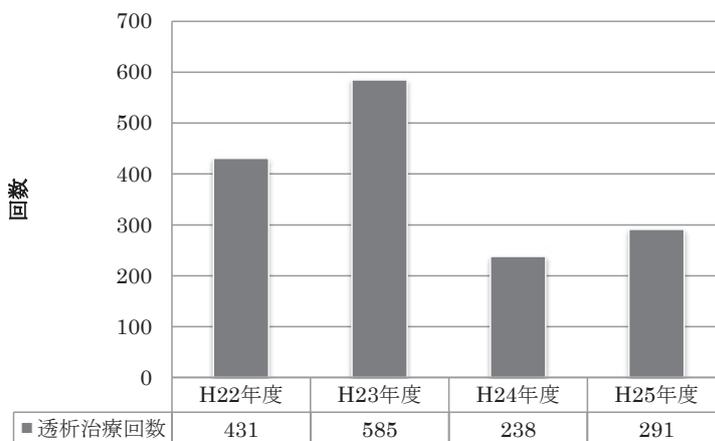
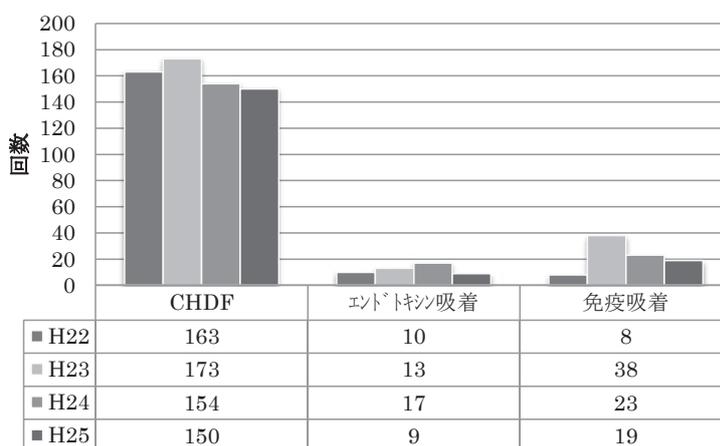


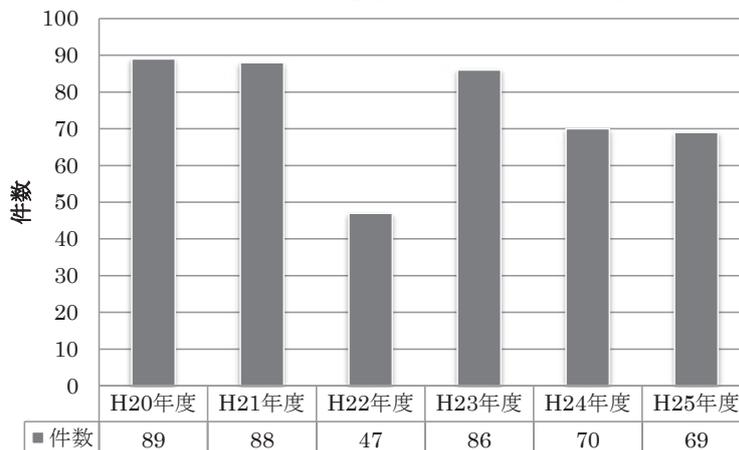
図9 アフェレーシス実施状況



4. 術中脊椎誘発電位モニタリング

脊椎、脊髄の手術の際、SSEP(体性感覚誘発電位)による術中モニタリングを施行しています。脊髄モニタリングとは脊髄の電気伝導性を評価する方法であり、圧迫性病変や脊髄腫瘍などによる脊髄の損傷の程度を評価することができます。来年度はMEP(運動誘発電位)を導入し術中運動機能のモニタリングを実施します。(K930 脊髄誘発電位測定等加算 3,130点)

図10 術中脊椎誘発電位モニタリング 件数



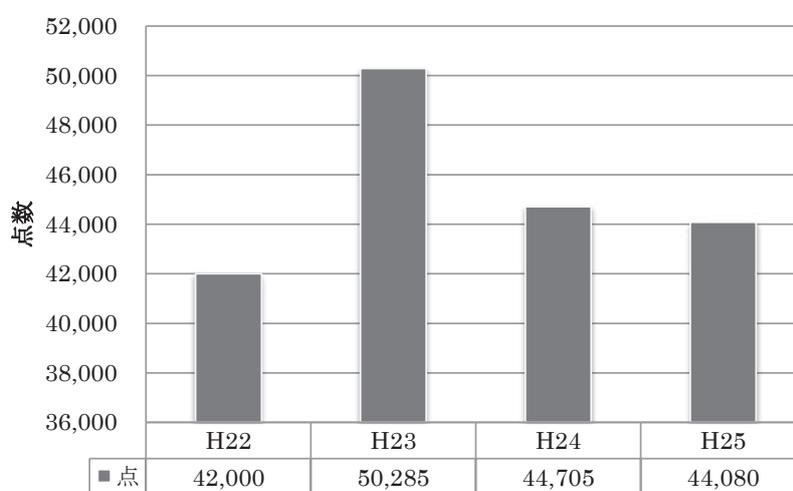
5. 医療機器安全管理料

平成20年度診療報酬改訂で、医療機関における医療機器の安全確保や適正使用を一層推進するため、特に安全管理の必要性が高い生命の維持に直接関与する医療機器の専門知識を有する臨床工学技士の配置について評価するという事で「医療機器安全管理料1 50点（1月に1回）」が新設され、平成22年度改訂で100点に引き上げられました。図11に点数の推移を示しました。

医療機器安全管理料1に関する施設基準

- (1) 医療機器安全管理に係る常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること。
- (2) 医療に係る安全管理を行う部門（以下「医療安全管理部門」という。）を設置していること。
- (3) 当該保険医療機関において、医療機器の安全使用のための責任者以下「医療機器安全管理責任者」という。）が配置されていること。
- (4) 当該保険医療機関において、従業者に対する医療機器の安全使用のための研修が行われていること。
- (5) 当該保険医療機関において医療機器の保守点検が適切に行われていること。

図11 医療機器安全管理加算 1



在宅医療部

主任 竹ノ下美子

在宅医療部は、訪問診察と訪問看護を行っています。訪問診察は在宅診療科の林先生、甲斐先生をはじめ他に総合内科、神経内科の医師4名と連携しています。本年は保健師、看護師の移動や入退職に伴うスタッフの入れ替わりが多くあり、業務に支障がないように調整してきました。現在、保健師3名、看護師1名で活動しています。今後はスタッフの定着をはかり、業務の充実に努めていきたいと思ひます。

I. 訪問看護活動(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

1) スタッフ (五十音順)

保健師・看護師 4名 小野・生野・竹ノ下・南
 小野 (H25年6月10日 外来→在宅医療部へ異動)
 桑鶴 (H25年3月末在宅医療部→ICUへ異動)
 地藏 (H25年12月末 退職)
 松山 (H25年1月入職5月退職)
 南 (H25年12月入職)
 訪問診察医師(兼任) 7名 甲斐・生野・野村・林・二木・松添・三宅
 兼任理学療法士 1名 豊留
 兼任作業療法士 1名 児島

2) 患者総数 51名(男性 26名 女性 25名)

① 転帰

転帰	人数(人)
軽快	1
転院	9
施設入所	1
長期入院	1
死亡(病院)	10
死亡(在宅)	4
合計	26

② 月別訪問件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計(件)
訪問診察	40	44	40	34	35	37	39	35	40	37	29	29	439
(緩和診察)	(5)	(6)	(4)	(2)	(0)	(0)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(0)	(28)
訪問リハビリ	12	11	12	14	12	12	13	7	12	9	7	5	126
訪問看護	101	104	102	103	114	113	112	90	101	109	91	86	1,226
合計(件)	153	159	154	151	161	162	164	132	153	155	127	120	1,791

3) 相談ケース

① 相談内容

相談内容	件数
訪問診察と看護について	10
訪問看護について	30
訪問診察について	4
介護保険について	1
その他	6
合計	51

② 相談依頼者

相談依頼者	件数
緩和ケアスタッフ	19
医師	9
ケアマネージャー	8
MSW	5
患者・家族	2
看護師	6
その他	2
合計	51

4) 主疾患名 (51名)

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	18	尿路器系疾患	1
悪性新生物	15	消化器系	1
循環器疾患	6	内分泌系・代謝疾患	1
呼吸器疾患	5	精神及び行動障害	1
損傷、中毒外因の影響	3	感染症	0

II. 健康教室

平成 25 年 11 月 18 日 「健康に過ごすヒント」
総合内科：生野 Dr 18 名聴講

※電子カルテ変更に伴う講義室使用不可のため、他 2 回の健康教室は未実施。

III. その他の活動

1) 家族会だより 第 26 号 平成 25 年 9 月発行

2) 実習生受け入れ実績

- ・久木田学園看護専門学校 : 4/15 ~ 9/5 15 名
- ・鹿児島中央看護専門学校 : 7/22 ~ 8/15 16 名
2 年課程 (通信制) 看護科
- ・鳳凰高校看護学科 : 4/8 ~ 10/31 29 名
- ・神村学園高等部 : 11/4 ~ 11/28 6 名
看護学科専門課程

3) 院内感染防止対策委員会 : 月 1 回

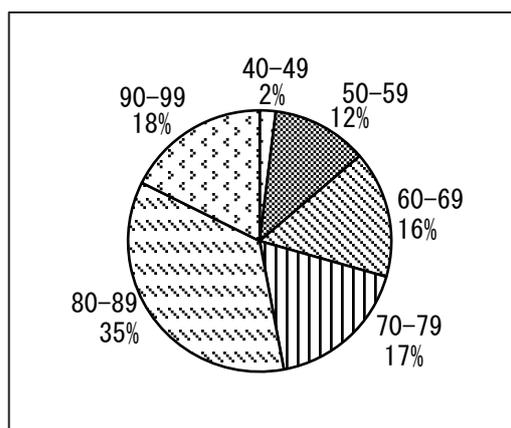
4) 労働安全衛生委員会 : 月 1 回

5) 病院業務運営会議 : 月 1 回

6) 死亡患者初七日訪問 : 5 名

5) 患者年齢(平均 76.80 歳 40~98 歳)

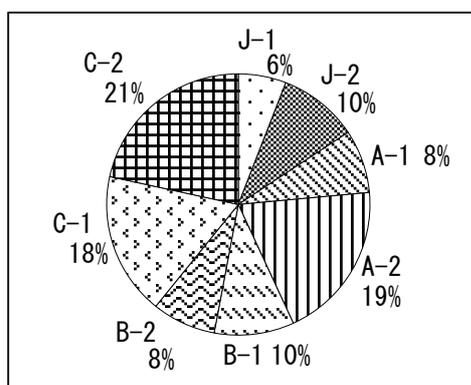
年代	人数 (人)
30-39	0
40-49	1
50-59	6
60-69	8
70-79	9
80-89	18
90-99	9
100以上	0
合計	51



6) 寝たきりランク

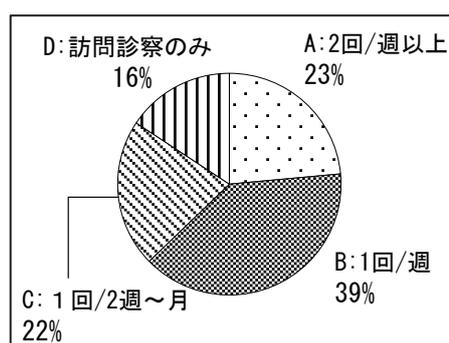
生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活は自立しており独力で外出する 1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1. 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

ランク	人数 (人)
J-1	3
J-2	5
A-1	4
A-2	10
B-1	5
B-2	4
C-1	9
C-2	11
合計	51



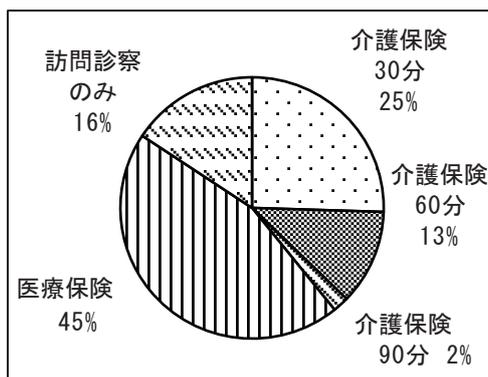
7) 訪問看護の頻度

訪問回数	人数 (人)
A: 2回/週 以上	12
B: 1回/週	20
C: 1回/2週~月	11
D: 訪問診察のみ	8
合計	51



8) 訪問看護の保険の種類

介護保険30分	13
介護保険60分	6
介護保険90分	1
医療保険	23
訪問診察のみ	8
合計	51

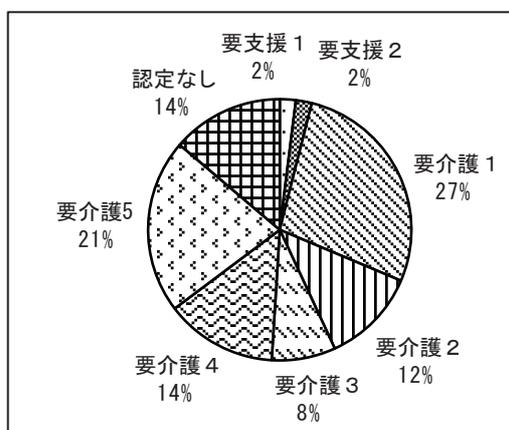


9) 医療依存度ケース

内容	人数(人)	内容	人数(人)	内容	人数(人)
軟膏塗布	24	坐薬挿入	5	吸入	2
創処置	23	人工呼吸器	4	膀胱洗浄	2
排便・浣腸	9	バルンカテーテル留置	4	人工肛門・ウロストミー	2
点滴・注射	7	リハビリ	3	点眼	1
麻薬・抗癌剤管理	7	気管切開	3	IVH(ポート)	1
胃ろう・経管栄養	6	在宅酸素療法	3	その他	4
吸引	5	導尿	3		

10) 介護保険利用者

介護度	人数(人)
要支援1	1
要支援2	1
要介護1	14
要介護2	6
要介護3	4
要介護4	7
要介護5	11
認定なし	7
合計	51



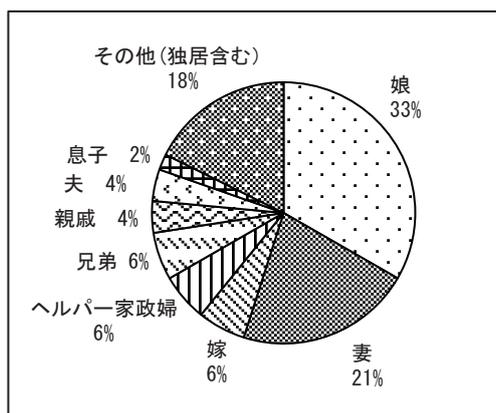
11) 清潔介助

内容	人数(人)
全身浴	1
部分浴	11
部分保清	13

全身浴: 入浴・シャワー浴・全身清拭など
 部分浴: 足浴・手浴・陰部洗浄・洗髪など
 部分保清: 口腔ケア・耳垢除去・髭剃り・爪きりなど

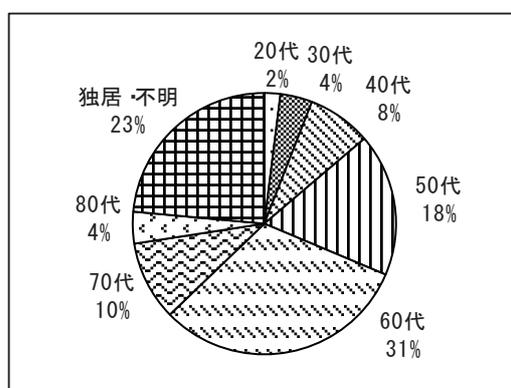
12) 主な介護者

介護者	人数(人)
娘	17
妻	11
嫁	3
ヘルパー・家政婦	3
兄弟	3
親戚	2
夫	2
息子	1
その他(独居含む)	9
合計	51



13) 介護者の年齢(平均 62.02 歳 40～88 歳)

年代	人数(人)
20代	1
30代	2
40代	4
50代	9
60代	16
70代	5
80代	2
独居・不明	12
合計	51



14) 介護保険利用状況

内容	人数(人)	内容	人数(人)
訪問介護	20	通所リハビリ	8
訪問入浴	8	通所サービス	15
訪問リハビリ	15	ショートステイ(病院を含む)	12

15) 指導内容

内容	人数(人)	内容	人数(人)
服薬指導	40	精神的支え	12
栄養指導	24	認知症対応方法	10
介護指導	22	家族の健康相談	9
福祉サービス紹介	14	終末期の援助	9

16) 他の専門機関・職種との連携

- 1) 訪問歯科診療の利用 2名
- 2) 訪問薬剤指導の利用 4名

居宅介護支援事業所

管理者 主任介護支援専門員 中村とも子

平成25年度、前期はケアプランソフト（居宅介護計画）の電子化移行のため慌しく過ぎ後期は時期を見据えたかのように困難ケースが舞い込み、担当八坂の感情の波動で電気がすべてショートする？などミステリアスなことも有りましたが共に充実した1年でした。

一方、他県では認知症高齢者の徘徊による死亡事故でJR側より遺族へ損害賠償の判決や徘徊防止にドア鎖施錠し「高齢者虐待」でケアマネージャーや介護事業所が処分されるなど・・・
当事業所においても先の見えない多くの問題にどう対応し判断していくか今後の課題となっています。

【スタッフ】

ケアマネージャー歴共に9年の穏やかな二人（八坂・中村）がクリニック2階に常在しています。
仕事柄訪問している事も多いですがクリニックや本院からの相談、受診立ち寄りの利用者様や外部からの相談者等広く対応しております。

また2Fフロアのスタッフ皆様や事務長には暖かく見守って頂き感謝しています。

【概要】

当院は高度医療により急性期病院ではありますが疾病の回復が早期解決しても急なADL低下により介護計画（ケアプラン）や変更等が必要とされる場合もあります。
微力ではありますが当院並びに地域全体に貢献するよう心がけてまいります。

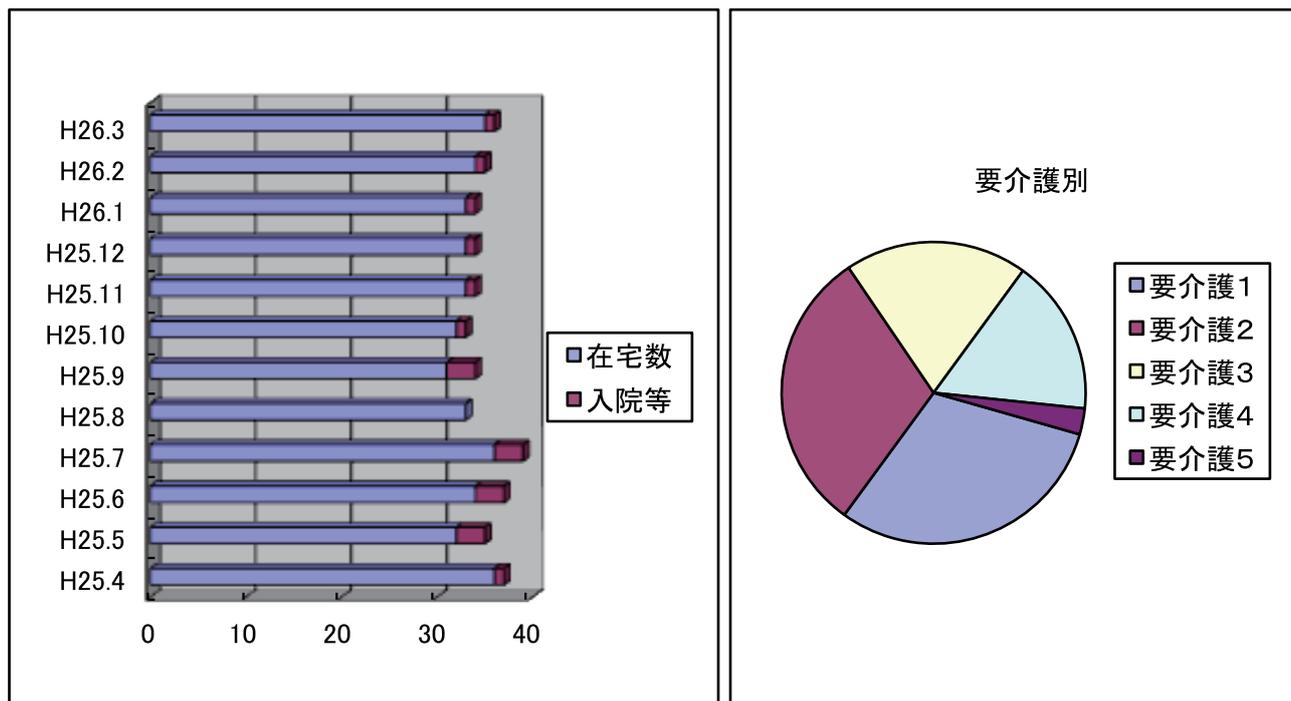
【主な疾病】

アルツハイマー認知症、脳血管性認知症、脳梗塞後遺症、特発性正常圧水頭症、多系統萎縮症（線条体黒質変性症）、パーキンソン病関連疾患、レビー小体病、慢性心房細動、うっ血性心不全、MPO-ANCA 関連血管炎症候群、糖尿病、腰部脊柱管狭窄症、全盲、股関節人工骨抜去操爬術後、頸椎損傷、肺癌、肝細胞癌 他

【居宅関連 会議及び研修の参加】

- H25. 6. 1 介護支援専門員協議会総会および研修会
- H25. 6. 17 難病患者等療養生活支援のための研修会
- H25. 6. 21 主任ケアマネフォローアップ研修会「苦情から学ぶマネジメント」
- H25. 9. 20 ケアマネージャーとリスクマネジメント 主任介護支援専門員対象
- H25. 10. 31 県難病医療センター「パーキンソン病について」ハートピアかごしま
- H25. 11. 13 集団指導 市民プラザ
- H25. 12. 16 鹿児島市保健所 難病患者等療養生活支援のための研修及び検討会
- H26. 1. 20 高齢者虐待対応研修会 市役所講堂
- H26. 2. 7 ケアプラン向上研修会「ケアマネジメント基礎技術」
- H26. 3. 6 多職種連携会議 市民プラザ
- H26. 3. 17 難病患者等療養生活支援の為の研修会
- H26. 3. 20 地域ケア会議 鹿児島市民プラザ
- H26. 3. 22 主任ケアマネフォローアップ研修会「事例研究から学ぶ地域包括ケアシステム」

【平成25年4月～平成26年3月 居宅介護支援計画作成数】



* 計画担当人数には基準があります。

【ケアプラン関連】

平成25年度

年間相談数 (件数外)	45件
新規プラン作成	23件
担当者会議開催	77件
死亡・施設入所	12件
軽度判定・地域包括へ	3件

【市役所申請(介護保険課 高齢者福祉課、障害者福祉課)】

要介護認定申請 (区分含)	34件
住宅改修理由書作成	13件
介護手当申請	8件
例外給付確認申請	1件

この他 訪問給食回数増減申請、福祉受給申請、介護保険負担限度額申請
 虚弱高齢者介護保険対象外福祉用具給付申請等も適宜おこなっております。

MSW 吉 満 実

地域の基幹病院としての性格を持ち、高度救急医療の提供を行う当病院では入院外来治療において阻害要因としての様々な問題が発生しています。また、医療制度の変遷により役割分担が更に明確になって来ており、このような背景において平成 25 年度の MSW としての活動を報告致します。

平均在院日数の短縮

当病院における MSW としての最大の役割としては、院内外との連携であります。

現在の当院の基準としては、『平均在院日数 17 日以内』です (DPC 導入にて短縮化傾向)

「平均在院日数の短縮」は、DPC 病院として最大の課題です。質の高い医療の提供と伴に患者様の早期転院や退院、社会復帰を目指し援助を行っています。

◆MSWの早期介入の促進

MSWが入院初期より、患者さんの状態・基本情報等を把握する事により、いろいろな問題を未然に防ぎ、円滑な退院・転院への援助が可能となります。

早期での患者さんとの関わりを持つ事で、信頼関係の構築が容易になり、患者様・その家族の理解を得る事により、入院・治療期間の短縮につながります。また、整形外科・脳神経外科・神経内科・呼吸器内科・総合内科のカンファレンスに同席し患者さんの状態や状況の変化に応じて対応しています。また、退院調整部門として退院調整カンファレンスの他職種介入により患者様の退院や転院に関して質の高い支援が構築されつつあります。

◆社会的入院患者へのアプローチ

核家族化が進む中、一人暮らしの為に家に帰れない、日中仕事で自宅介護が困難等いわゆる「社会的入院」が、問題になっています。当病院においても例外ではありません。現時点においては、MSWの早期患者把握・介入によって、かなり減少傾向にあります。常日頃より療養型の医療機関、回復期リハビリテーション病院・介護老人保健施設・グループホームや在宅復帰の場合は居宅介護支援事業所等と綿密に連携をとることで、迅速な援助を行う事が出来ています。

◆長期入院患者へのアプローチ

長期入院患者(入院期間3ヶ月以上)の的確な把握を行い、「なぜ、長期になっているのか」ということを明確にする事が重要です。長期入院となっている患者さんの中には、治療の経過で長期になられた患者さんや病状的に退院・転院が困難な患者さんへの理解は忘れてはなりません。

社会的入院患者・長期入院患者へのアプローチの結果、長期入院患者の占める割合が5%台に減少しています。長期入院患者さんの内訳としては、感染症、重度の褥創、人工呼吸器管理等が多くなっています。

以上のような取り組みで、確実に「平均在院日数の短縮」は実現しています。

DPC 導入医療機関である当病院としては、更に他の医療機関や介護施設との連携が必要となってきます。

「平均在院日数の短縮」は、各スタッフ間の協力・連携等の複合的要素の充実にて可能となる事も忘れてはなりません。今年度は、昨年度に比べて減少傾向にあります。

地域の医療機関・介護保険関連事業所との連携強化

当病院が急性の DPC 医療機関として体制を維持していく為には、地域の各医療機関との連携を推進していかなければなりません。

また、療養型の医療機関もそれぞれ役割や特徴があります。その状況を把握して患者さんの橋渡しをしなくてはなりません。リハビリテーションにおいても疾患別限度日数が導入され、リハビリ目的で早い時期での転院が必要となってきました。地域の医療機関との連携もより迅速に行っていかなければならなくなりました。

介護保険に関連した施設や居宅会議支援事業所との連携もより多様化し多くの事業所との関係が必要となっています。

医療相談室の開設

当院本館 1 階に医療相談室や患者サポート窓口を開設しており、個室での面談・相談が可能です。患者様のプライバシーに配慮した面談が可能です。

医療相談室では、患者様や御家族に来室してもらい相談援助を実施する形を取っていますが、来室が困難な場合は各病室への訪室も可能です。また、がん相談・経済的相談・社会的相談・各種申請書類についての相談や苦情や個人情報に関する相談窓口としての機能を有しています。

その他の業務として

変遷していく医療保険制度や介護保険制度において、MSW として対処しなければならない事柄は多いものです。

MSW の業務として、外来・入院患者さんを問わず、医療費の相談や社会福祉サービス等の相談を、受けています。介護保険・特定疾患・身体障害者手帳の手続き代行や苦情処理・個人情報に関わる相談・平均在院日数の管理・紹介患者の管理・問題患者への対処等々、その他の細かい業務は多いものです。

今年度も退院調整部門(病棟看護師・MSW)として、早期に退院カンファレンス現場と実施し、早期退院・転院をスムーズにおこなっていくように取り組んでいきたいと思われまます。

この取り組みもあり在院日数は大幅に短縮傾向で 16 日台で今年度は推移しました。

当院は整形外科の入院患者様の割合が高く重症度及び複雑性が高い患者の割合が高いことが DPC の分析で結果がでていますが、効率性が低い点が指摘されてます。効率性を高めるため院内・院外を含め連携を強化していく事が課題です。

MSW スタッフ・勤務状況

原口 一博 吉満 実 上西 章子 田中 富美都

現在、月曜日から金曜日までの午前・午後、土曜日の午前の勤務となっています。

事前に連絡を頂ければ、時間外でも相談には応じます。

平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成25年度	16.1	16.9	16.4	16.0	16.2	17.2	16.5	15.8	15.3	15.3	15.6	16.1	16.12
平成24年度	16.4	15.4	15.2	14.3	13.9	15.0	15.8	14.7	15.9	17.1	15.9	15.0	15.38
平成23年度	16.0	18.6	17.0	15.8	16.3	18.3	15.7	15.8	16.1	17.9	18.9	17.2	16.97

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成25年度	6.6%	6.3%	6.4%	7.1%	6.2%	4.8%	3.2%	3.4%	5.7%	5.9%	5.7%	5.7%	5.6%
長期（人数）	24	22	23	27	23	19	12	13	21	22	22	22	20.83
病床稼働	362	348	362	380	372	393	377	382	371	373	384	389	374.4
平成24年度	7.4%	6.9%	6.9%	6.8%	6.2%	6.3%	5.1%	5.7%	7.6%	4.2%	7.0%	8.2%	6.5%
長期（人数）	24	23	24	23	24	22	20	21	19	16	27	30	22.75
病床稼働	323	335	346	340	386	350	395	367	250	382	386	367.9	352.3
平成23年度	8.2%	8.7%	7.3%	7.5%	7.9%	7.6%	6.3%	8.6%	14.0%	7.1%	7.9%	8.7%	8.2%
長期（人数）	27	33	26	27	32	27	23	34	35	27	30	30	29.25
病床稼働	329	378	358	361	403	357	366	394	250	379	381	343	358.3

退院援助患者集計表（MSW介入）

	病院	在宅	老人保健施設	他施設・GH	死亡退院	平成25年度合計
4月	61	19	4	2	3	89
5月	63	14	5	7	7	96
6月	77	31	2	3	1	114
7月	85	31	1	5	0	122
8月	76	15	2	5	2	100
9月	76	25	1	6	2	110
10月	73	17	0	4	5	99
11月	74	26	2	2	4	108
12月	79	20	5	4	2	110
1月	69	21	3	2	3	98
2月	89	17	0	0	1	107
3月	77	24	1	4	2	108
平成25年度合計	899	260	26	44	32	1261
平成24年度合計	864	240	26	53	27	1210
平成23年度合計	731	227	28	48	41	1075

がん相談支援センター

専従保健師(緩和医療課) 植屋 明代

がん相談支援センターは本館1階、産婦人科外来向いの23番にあります。専従相談員として植屋が常駐しておりますが、不在時は緩和ケア認定看護師の大西・岩山が対応し、MSWは主に転院支援に関わり、相談内容によっては栄養士、薬剤師、医事課などの他職種の協力ももらいながら対応しています。今年度は患者さん・ご家族からの要望により11月に直通電話も設置いたしました。少しずつではありますが、スタッフからの相談窓口紹介による相談件数も増え、当院以外の方からの相談も増えてきました。次年度は医師からの紹介で更に相談窓口へ繋がりやすいように、そして来談者が必要な情報が得られ、気持ちの辛さが少しでも軽減されるような相談支援を続けていきたいと考えています。

スタッフ：植屋・大西・岩山(緩和医療課) 原口・吉満・田中・中村(地域医療連携室)

相談内容 (*重複相談対応あり)	緩和医療課対応			MSW対応			合計
	患者	本人	その他	患者	本人	その他	
がん治療	35	42	4	0	0	0	81
がんの検査	17	13	2	0	0	0	32
症状・副作用・後遺症	6	10	1	0	0	0	17
セカンドオピニオン	19	18	4	1	0	0	41
治療実績	0	1	0	0	0	0	1
受診方法・入院	4	2	4	0	0	0	10
転院	9	67	21	2	2	2	103
医療機関の紹介	6	27	3	155	21	5	217
がん予防・検診	1	0	0	2	2	0	5
在宅医療	4	33	5	0	0	0	42
ホスピス・緩和ケア	8	65	10	3	0	0	86
症状・副作用・後遺症への対応	10	9	4	3	0	0	26
食事・服薬・入浴運動・外出など	5	10	1	1	1	0	18
介護・看護・養育	7	35	5	0	0	0	47
社会生活(仕事・運動・外出)	3	0	0	0	0	0	3
医療費・生活費・社会保障制度	5	11	0	4	3	0	23
補完代替医療	11	28	1	0	0	0	40
不安・精神的苦痛	60	115	6	0	0	0	181
告知	2	10	1	0	0	0	13
医療者との関係・コミュニケーション	16	30	6	0	1	0	53
患者-家族の関係・コミュニケーション	2	24	1	0	0	0	27
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0	0	1	0	0	0	1
患者会・家族会	9	2	0	0	0	0	11
その他	41	35	22	2	0	0	100

★緩和医療課のがん相談対応 416 件の内訳は『緩和医療課』のページに詳細掲載。

【院外会議】

鹿児島県がん相談員部門会議(鹿児島大学病院) 6月：原口、植屋 2月：田中、大西、植屋
地域連携会議(相良病院主催)：2月 岩山、植屋

QCセンター 医療安全管理課

課長 千田 清美

平成25年のインシデント報告件数は、1683件で毎月100件以上のレポートが登録された。昨年より導入された電子レポートシステムの同胞通知機能により、登録されたレポートの一つひとつに、各部署および安全管理部門の担当者が確実に目を通すことが出来る環境となっている。レポートシステムにおいて、報告者とインシデントの背景要因に着目した質問をコメント欄で送受信することができるため、背景要因を掘り下げて検討する場面が生じている。また、統計分析機能を活用し、毎月の定例委員会で登録レポートの傾向や部署ごとの発生状況などの提示を行った。電子レポートシステムは、登録されたレポートを通じて報告者や現場のセーフティマネージャーの意識へ働きかけることができるツールであり、現場の改善活動の取り組みの記録にもなっている。1つの報告から現場の取り組みが始まり、業務や環境に関するさまざまな問題を院内全体で改善する取り組みに発展させることができる。レポートシステムを積極的に活用し、安全に関する改善活動や日常的な安全確保のための取り組みが安定的に実践できるよう各部署のセーフティマネージャーと連携を図り、事故の無い安全な医療提供の体制を検討しなくてはならない。

【委員会活動】

安全管理部門カンファレンスを毎週開催、1週間のインシデントレポートを提示し、改善策の検討や、報告書から見える院内設備の不具合などへの対処など、各部門・部署における安全確保のための取り組みについて協議した。また、東京海上日動メディカルサービス株式会社のメディカルリスクマネジメント室と共同し、全職員を対象とした医療安全管理に関する意識調査を実施、11月の全職員対象の医療安全研修会で調査結果の提示を行った。研修会においては、「場面の演技から学ぶ日常業務におけるコミュニケーションの重要性」についてメディカルリスクマネジメント室の方の講演と「劇団今給黎」による、院内事案をもとにした寸劇を観賞後に、事案に関して参加者によるグループワークを展開した。

毎月定例開催される医療安全対策委員会および看護安全対策委員会において、院内インシデントの発生件数やアクシデント事案を提示し、外部のリスクマネジメント情報（東京海上日動メディカルサービス、医療機能評価機構からの医療安全情報、PMDA情報）の紹介を実施。

院内教育の取り組みとしては、全職員を対象とした医療安全研修会を2回、職種・対象者別の研修会を10回実施し、看護部教育委員へ研修テーマであるリスククレームの院内事例提供などの支援を行った。また、年度末には各病棟の看護安全対策委員へインシデントレポートシステムの統計分析機能の操作説明を個別に実施した。

【院内教育研修】

日程	内容	対象者
平成 25 年 3 月 29 日	医療安全の基礎、個人情報の保護について	新卒者
平成 25 年 4 月 4 日	医療安全管理の基本的考え方	研修医 2 名
平成 25 年 5 月 30 日	看護部 クリニカルラダー 医療安全管理	レベル4 21 名
平成 25 年 6 月 28 日	看護部:看護を語る リスククレーム	レベル3 40 名
平成 25 年 7 月 18 日	看護部:医療安全管理の基本的考え方	ナースアシスタント 15 名
平成 25 年 8 月、10 月	輸液の安全管理・輸液ポンプ、シリンジポンプについて	リハビリテーション部門
平成 25 年 8 月 19 日	看護部 クリニカルラダー 医療安全管理 具体策の考え方	レベル3 35 名

平成 25 年 9 月 12 日	看護部:医療安全管理～KYTのススメ	レベル2 32 名
平成 25 年 9 月 27 日	看護部:医療安全管理～KYTのススメ	レベル4 18 名
平成 25 年 11 月 15 日	医療安全全体研修 ① 意識調査の結果報告 医療安全管理課 ② 寸劇を通して場面の演技から学ぶ 日常業務におけるコミュニケーションの重要性 ③ 患者誤認防止のポイント:東京海上日動メディカルサービ ス株式会社メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生、工藤千佳先生	全職員対象 228 名
平成 25 年 11 月 22 日	看護部:フォーカスチャーティング 倫理的配慮が見える看護記録 : 診療記録の書き方	レベル4 38 名
平成 26 年 1 月 29 日	看護部:インシデントレポートシステムによる対策案の 入力方法について	レベル4 17 名
平成 26 年 2 月 21 日	医療安全全体研修 地域で受ける時代の救急医療とドクターヘリ ～鹿児島市立病院救命救急センター 救命救急センター長 吉原秀明先生	全職員対象 152 名

【救急蘇生ワーキンググループ】

4月と8月に活動計画のミーティングを行い、1月に院内公募で決定した受講生12名（医師、看護師、臨床工学技師）の職員を対象に、コースディレクターにより日本救急医学会へ申請された認定プログラムの I C L S コースを、鹿児島大学病院総合臨床研修センターにおいて2日間開催した。今後、院内 B L S コース、I C L S コースともに日本救急医学会へ申請を行い認定プログラムとしての開催を展開する予定である。
〈コースディレクター〉 麻酔科 西山淳

【院外活動】

鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議において、他医療機関の安全管理者との意見交換。また、平成26年2月15日の看護協会主催の鹿児島地区医療安全研修へファシリテーターとして参加。

【患者およびご家族への対応】

6診療科において対応事案あり。

【医療安全管理部門カンファレンス（1回/週）】

〈カンファレンスメンバー〉

松永俊二副院長（統括セーフティマネージャー）
高橋真理（医薬品安全管理責任者）
岩下邦子（看護副部長）
野口桂一（事務局長）
濱田敏彦（クリニック事務長）

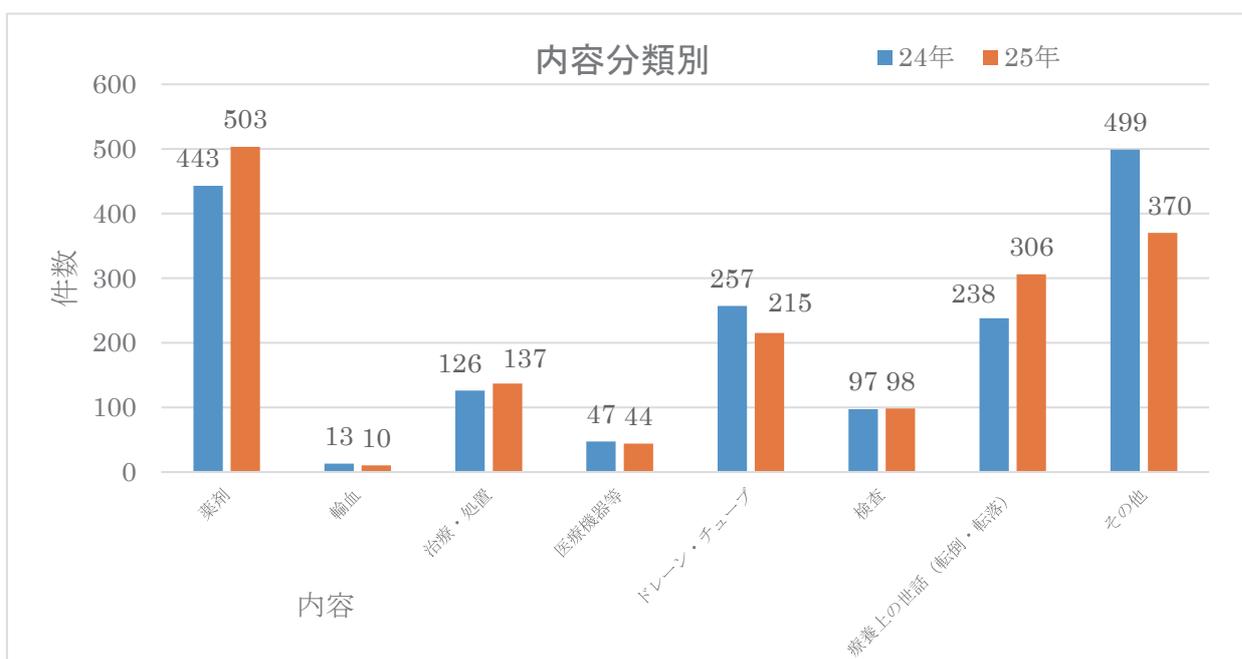
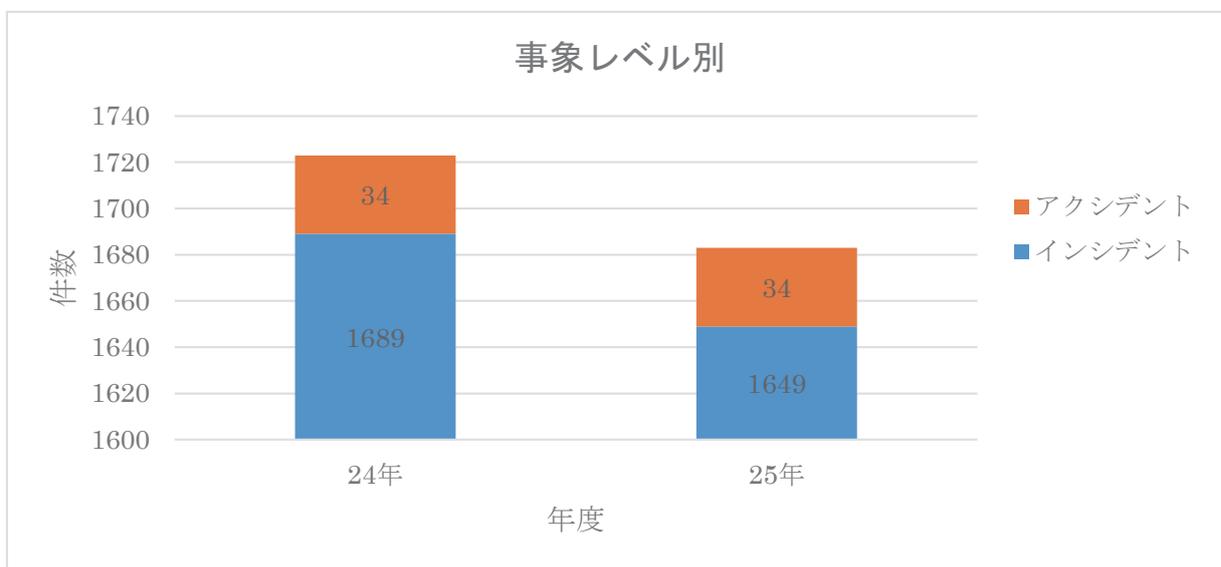
千田清美（専従医療安全管理者）
斎藤謙一（医療機器安全管理責任者）
山下真理恵（看護安全対策委員会委員長3階南師長）
川井田祐一郎（事務局長代理）
益田阿佑美（総務課）：書記

〈主な検討事項〉

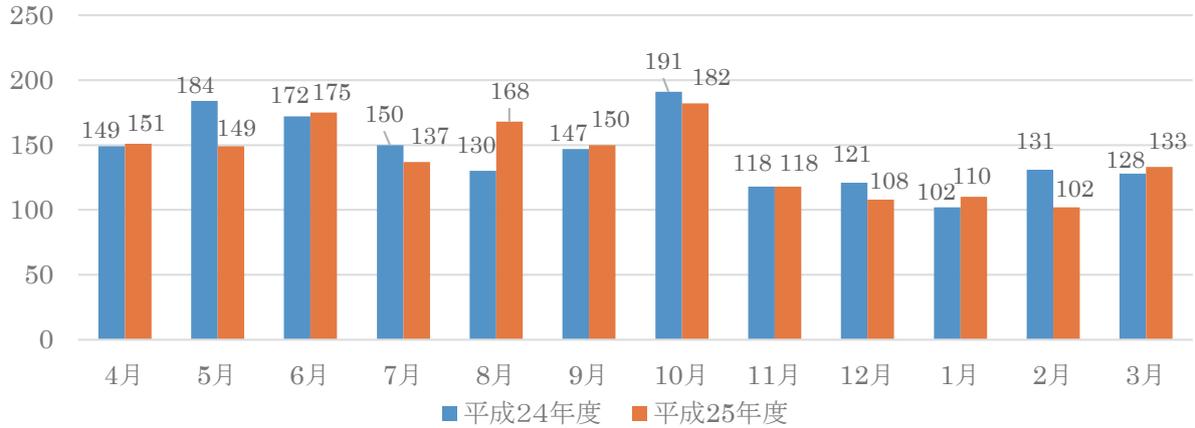
第1週目は火曜日、2週目以降は月曜日に毎週定例で開催。1週間単位で登録されたインシデントレポートおよび事案の経緯についてカンファレンスメンバーで情報共有し、改善策について検討。

- ・リウマトレックス過剰服用事案を受けて、外来患者への投薬状況の確認および注意事項の提示、周辺の調剤薬局との情報共有を医薬品安全管理責任者にて行った。
- ・予防接種ワクチンの取り扱いにおけるインシデントより、使用物品の環境整備や予防接種の予約システムの見直しを提言、シリンジ製剤の導入。
- ・転倒・転落防止において、エアマット使用中のベッド柵についてハイタイプを整備、転倒事象のあったクリニック待合ロビーの環境改善などの検討。
- ・患者確認について、院内の現状評価を目的に意識調査を実施し、全職員対象の研修会における院内事例の検討と研修の運営企画。
- ・患者リストバンドにおいて、文字判別が不明瞭になったバンドの再発行の運用を検討。
- ・カンファレンスメンバーによる、院内ラウンド。

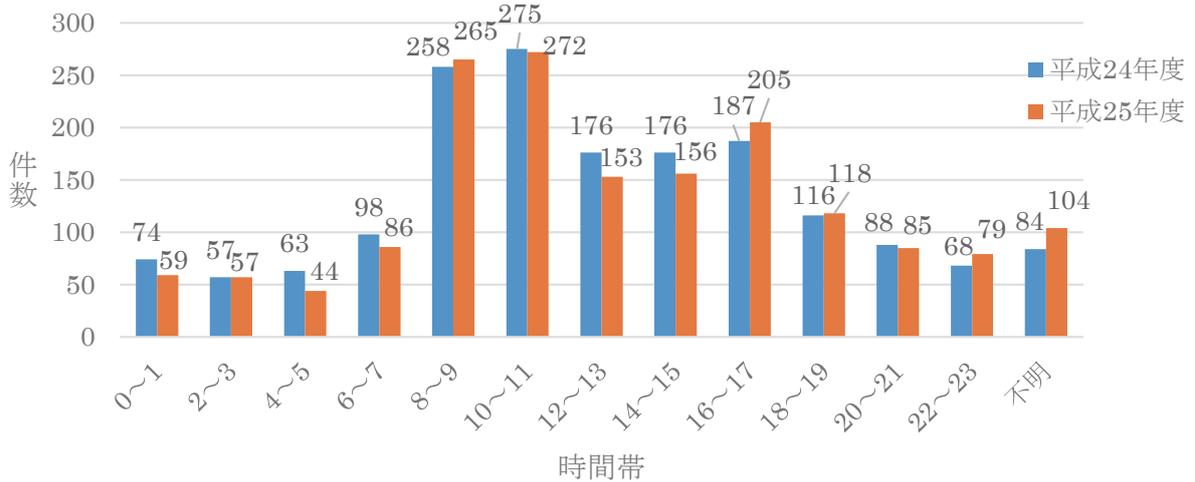
【院内報告の動向：平成24年～25年】



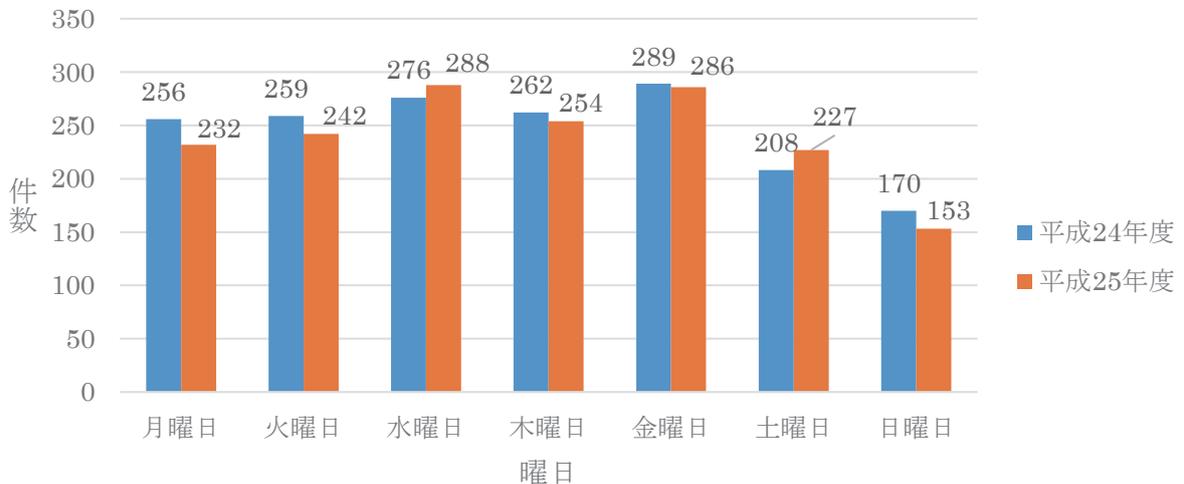
月別報告件数



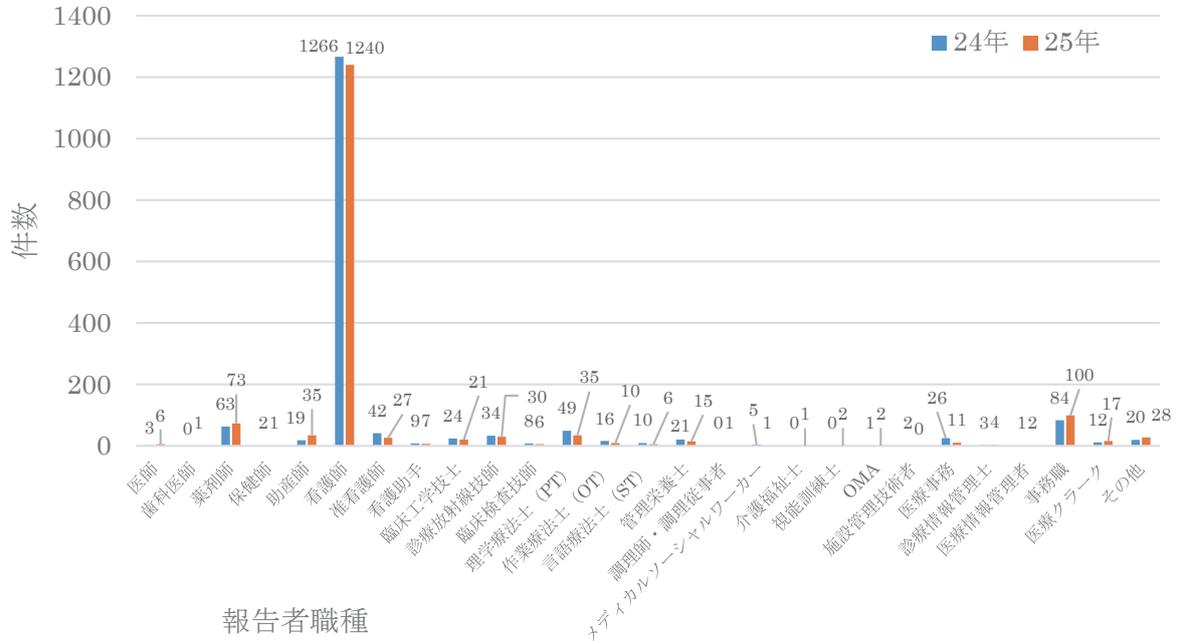
発生時間帯別



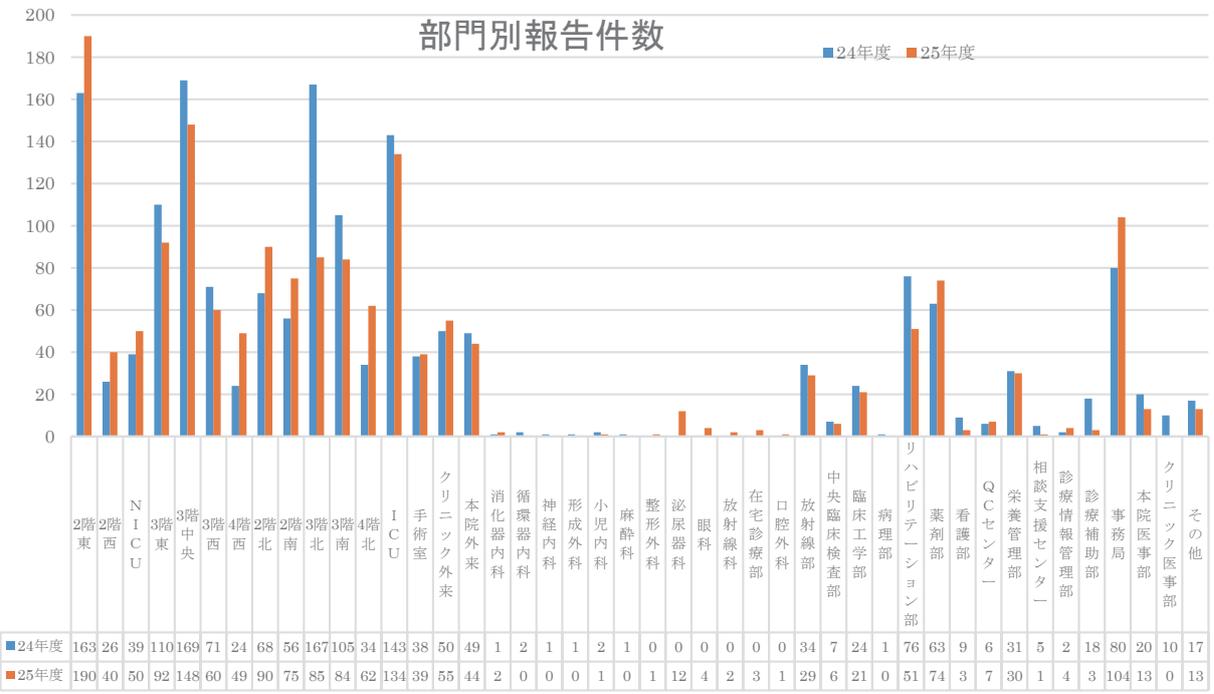
発生曜日別



報告者職種別



部門別報告件数



【全職員を対象とした意識調査の結果】

医療安全意識調査の調査項目は、「1、医療安全活動全般について」「2、緊急時・事故発生時の対応」「3、患者確認方法」の3つの視点について全13項目の質問で構成。全職員を対象に、アンケートを配布し、回収は100%であった。

意識調査の結果に関して東京海上日動メディカルサービスより、過去に調査した同等規模の病院と比較し、医師の参加数が多く各項目についても病院全体の医療安全意識の高さが伺われるとのことであった。

●3つの視点に関する評価

1、医療安全活動全般について

医療安全活動が活発に展開されていると96%の職員が感じ、また医療安全対策委員会や、各部門の医療安全担当者を85%以上の職員が認識できている。

① インシデント・アクシデント報告については、報告の必要性やどのように活用され、どのような意義があるかが十分に伝わっていない職員もいる。

② 医療安全研修会の参加は、研修参加が法的に必要であることの周知が必要。

2、緊急時・事故発生時の対応

事故発生時の対応マニュアルや、エマージェンシーコールのかけ方について、職場毎にシミュレーショントレーニングを定期的実施する風土作りが必要。

3、患者確認方法

① 同等規模の病院と比較すると、患者確認に関する意識が高い。

② 患者確認方法を知らない職員を減らす工夫が必要。

医療安全意識調査結果

～平成25年度実施～

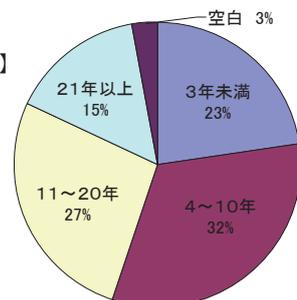
公益財団法人昭和会
今給黎総合病院

東京海上日動メディカルサービス株式会社
メディカルリスクマネジメント室

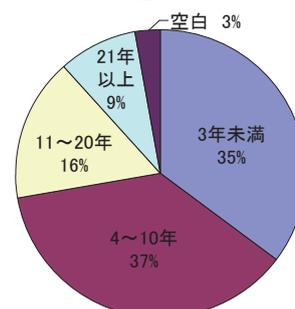
回答者の内訳

【職種】	人数 (名)	割合 (%)
医師	69	8.1
看護師	430	50.5
薬剤師	21	2.5
診療放射線技師	19	2.2
臨床検査技師	29	3.4
栄養士・調理師(補助)	10	1.2
リハビリ(PT・OT・ST)	59	6.9
看護助手・介護士	49	5.7
事務職員	113	13.3
その他	30	3.5
未記載	23	2.7
総計	849	100.0

【経験年数】

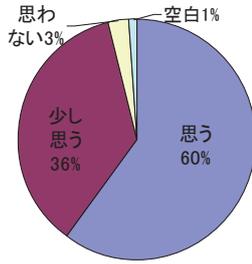


【勤務年数】



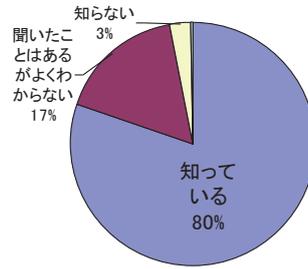
医療安全活動全般

質問A: あなたの病院では、医療安全活動が活発に展開されていると思いますか。



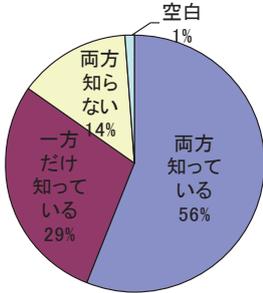
医療安全活動全般

質問B: 医療安全管理委員会が院内で開催されていることを知っていますか。



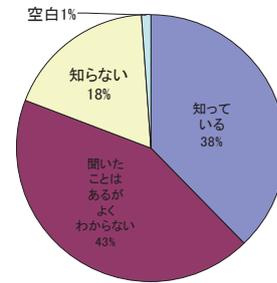
医療安全活動全般

質問C: あなたの部署の「医療安全管理者」と、病院全体の「医療安全管理の担当」がそれぞれ誰なのか、知っていますか。



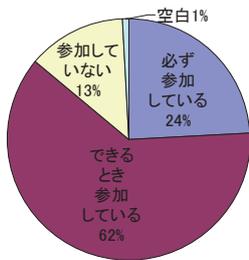
医療安全活動全般

質問D: インシデント・アクシデント報告が、院内でどのように集計・分析されているか知っていますか。



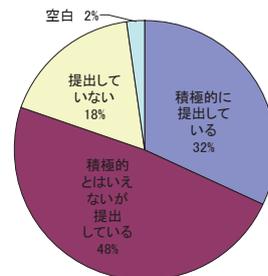
医療安全活動全般

質問E: 院内で開催される医療安全に関する研修会に参加していますか。



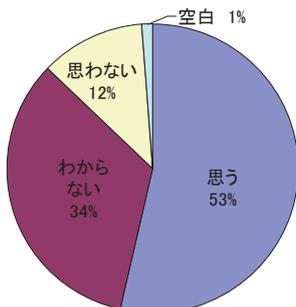
医療安全活動全般

質問F: インシデント・アクシデントに関する報告書を積極的に提出していますか。



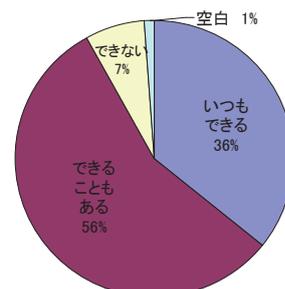
医療安全活動全般

質問G: あなたの部署では、インシデント・アクシデントに関する報告書を積極的に提出する風土があると思いますか。



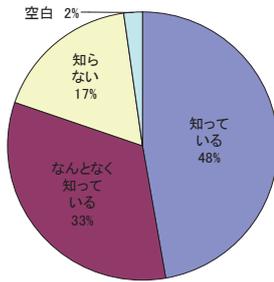
医療安全活動全般

質問H: あなたの部署では、安全に関わる問題が生じたとき、職種や役職の壁を感じないで、意見交換をすることができますか。



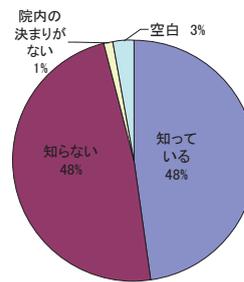
緊急時・事故発生時の対応

質問I: 緊急時のコール(エマージェンシーコール)のかけ方を
知っていますか。



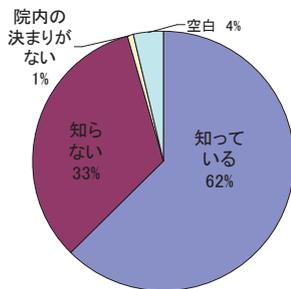
緊急時・事故発生時の対応

質問J: 院内で決められた、事故発生時の対応に関するマニュアル
の内容を知っていますか。



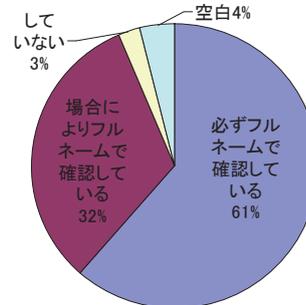
患者確認方法

質問K: 院内で決められた、患者確認方法を知っていますか。



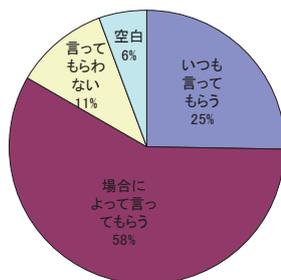
患者確認方法

質問L: 患者さんの氏名をフルネームで確認していますか。



患者確認方法

質問M: 名前を言える患者さんには、患者さん自身にフルネーム
を言ってもらえますか。



QCセンター 褥瘡管理課

主任 下前百合香

1、スタッフ3名（皮膚・排泄ケア認定看護師1名、日本褥瘡学会認定師（看護師）1名、事務1名）

2、部門実績

業務内容：・入院患者の褥瘡対策・褥瘡患者管理、スタッフ指導、形成外来との連携
⇒詳細は褥瘡対策委員会報告書参照

- ・褥瘡対策患者抽出し予防訪問
- ・スキンケア・創傷ケアコンサルテーション
- ・NPWT(VAC・RENASYS) 製品物品管理
- ・体圧分散寝具管理(除圧マット・Air マット・ポジショニングクッション)
- ・褥瘡回診(毎週月曜日 14:00～)
(形成外科医、皮膚・排泄ケア認定看護師(下前)、日本褥瘡学会認定看護師(逆瀬川)、
薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、各病棟スタッフ)
- ・NSTカンファレンス・回診：日本褥瘡学会認定看護師(逆瀬川)参加(毎週火曜日)
- ・褥瘡対策委員会開催(毎月第1水曜日：17:15～18:15)
- ・褥瘡勉強会開催(偶数月開催)

日時	内容	担当	参加人数
4月24日	「褥瘡とは」	褥瘡管理課(下前)	108名
6月27日	「褥瘡に関わる診療報酬と記録用紙」	褥瘡管理課(下前)	124名
8月28日	「スキンケア」	褥瘡管理課(逆瀬川)	57名
10月24日	「ポジショニングの基本」	リハビリテーション部	108名
11月6日	「新カルテシステムの褥瘡関連記録」	褥瘡管理課(下前)	136名
12月26日	「ポジショニングの考え方」	リハビリテーション部：OT 鮫島	57名
H26年2月	褥瘡治療について	形成外科医	感染対策にて中止

- ・ストーマケア管理コンサルテーション
新規ストーマ造設患者数
(コロストーマ8名、イレオストーマ5名、尿管皮膚瘻2名、回腸導管術1名)
- ・ストーマ外来(診察日に合わせて日程調整)

3、学術実績

1)学会発表

第15回日本褥瘡学会学術集会

- ・円背患者に対する既製の車椅子を用いたシーティング
口演発表：リハビリテーション部 宮之原俊一

2) 院外講演活動

日時	主催・場所	内容	担当
6月15日	共催：モルテン株式会社 奄美文化センター	メディカルケアサポートセミナー in 奄美 -Wellbeingと褥瘡対策を考える- 「明日から実践！」～褥瘡予防のスキンケア～	下前
7月6日	第17回鹿児島大学医学部 保健学科公開講座	「ストーマリハビリテーションの基本」 実技指導	
10月19日	鹿児島県看護協会主催 (大隅地区)	ジェネラリストの能力開発促進教育 (stage I・II・III) 「褥瘡ケアの実際」	
11月21日	社会福祉法人 向陽会 やまびこ医療福祉センター	褥瘡勉強会 「褥瘡予防のためのポジショニング」	
12月19日	医療法人 三愛会 整形外科三愛病院	褥瘡勉強会 「褥瘡評価 DESIGN-R」	
平成26年 3月8日	鹿児島県看護連盟 南薩地区研修会	「褥瘡ケアの実際」 ～褥瘡深達度別の褥瘡処置・ケア～	

3) 院外開催講演会への参加

平成 25 年 4 月 29 日 鹿児島県オストメイトの会 “こだま会”
「平成 25 年度 定期総会（鹿児島県支部）」

平成 25 年 6 月 22 日 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第 6 回鹿児島県在宅褥瘡セミナー
「ポジショニング実技と症例検討」
当院リハビリテーション部スタッフ指導参加

4) 院外開催会議への参加

平成 25 年 7 月 19 日 日本褥瘡学会 九州地方会世話人会
第 11 回九州地方会学術集会(企画・運営会議)

・日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第 6 回鹿児島県在宅褥瘡セミナー(企画・運営会議)

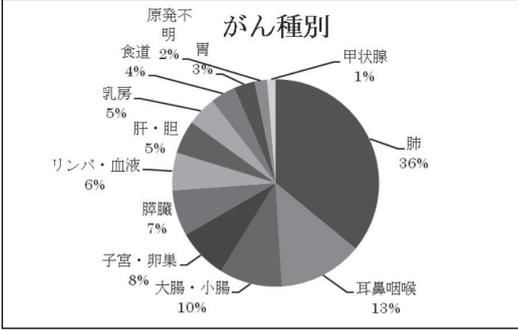
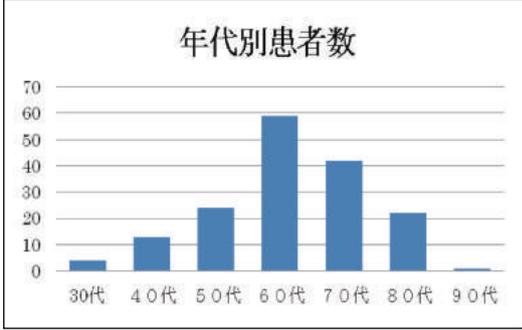
QCセンター 緩和医療課

主任 植屋 明代

緩和医療課は、緩和ケアチーム専従で緩和ケア認定看護師の大西・岩山、がん相談支援センター専従の保健師植屋の3名で活動しています。地域がん診療連携拠点病院として2年目を迎えチーム依頼（前年度比+48）がん相談件数（+103）も増えました。少しずつ活動が院内スタッフに周知されつつありますが、更に“がんと診断された時からの緩和ケア”が浸透するよう、多職種の協力を得ながら緩和ケア実践と共に、病院全体のがん看護と相談の質の向上、広報・周知に力を入れていきたいと思ひます。

●緩和ケアチーム

チーム依頼件数：165名(男91名・女74名) / がん患者158名・非がん患者7名



*鹿児島医療センター耳鼻咽喉科より機器入替のため放射線治療入院(H25.9-H26.2:18名チーム依頼)

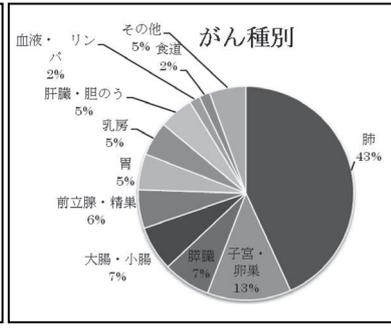
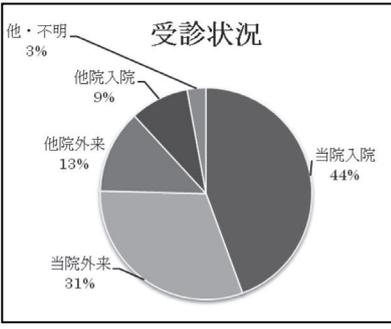
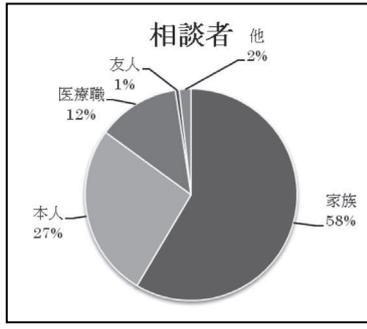
診療科別依頼内容 (重複依頼あり)

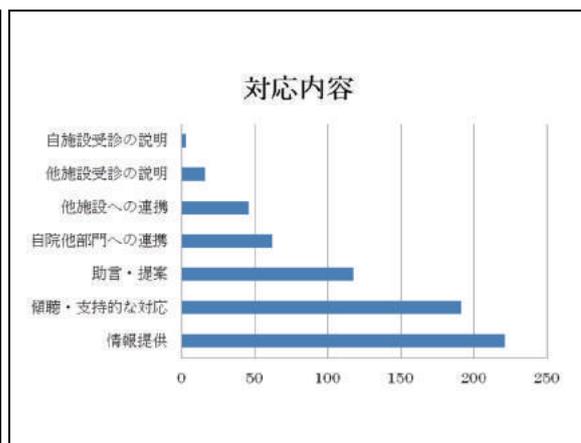
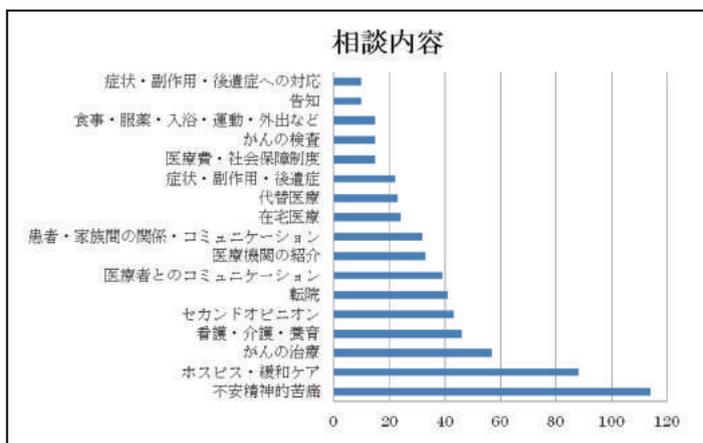
	がん性疼痛	疼痛以外の症状	精神症状	家族ケア	倫理的問題	地域連携退院支援	その他
外科	14	10	21	2	0	3	0
呼吸器外科	3	2	5	0	0	1	0
呼吸器内科	12	16	27	17	0	14	1
消化器内科	9	5	9	5	0	5	0
総合内科	1	1	8	2	0	0	0
整形外科	4	1	1	0	0	1	0
耳鼻科	12	10	18	2	0	0	0
神経内科	2	2	2	1	0	0	0
脳外科	1	0	2	0	0	0	0
婦人科	4	6	7	5	0	1	0
形成外科	1	0	0	0	0	0	0
他院	2	2	0	0	0	0	1

●がん相談支援センター(緩和医療課対応分)

相談件数：416件 *11月より直通電話設置

(面談：268 電話：144 メール：4 / 初回：177 2回目以上：273 不明2)





●ほっとサロン今給黎(第3水曜日 13:00～15:00)

がん患者さん、ご家族が安心して思いを語り合う場として、がんサポートかごしまと協働で開催しています。

月	ミニ勉強会テーマ	担当	参加者 (スタッフ含む)
4	鹿児島県のがん対策について	三好綾(がんサポートかごしま理事長)	10
5	みんなで歌おう	参加者のみなさん	8
6	化学療法のセルフケア	河原尚美(がん化学療法認定看護師)	11
7	夏バテ予防の食事について	田中美帆(管理栄養士)	11
8	緩和ケアってなあに？	森友紀(緩和ケア認定看護師)	17
9	ハンドマッサージ	白石いずみ(サパイバー・リラクゼーションサロン teresa)	16
10	抗がん剤について	富永修平(薬剤師)	11
11	日本癌治療学会報告	野田真記子(がんサポートかごしま)	14
12	クリスマス会	参加者のみなさん	16
1	がんと心のケア	大西玲子(緩和ケア認定看護師)	13
2	ストレッチでリフレッシュ	木原智美(作業療法士)	11
3	いのちの授業	三好綾(がんサポートかごしま理事長)	13

●がん・緩和ケア研修会(2～3ヶ月1回企画)

日付	テーマ	講師	人数
H25. 4. 12	早期からの緩和ケア	林章敏先生 (聖路加国際病院)	176
6. 4	がんの臨床現場におけるスピリチュアルペインとそのケア	的場康德先生 (鹿児島大学)	131
10. 16	エンディングノート	DVD	56
H26. 3. 6	抗がん剤の話	水野圭子先生 (鹿児島大学病院)	111

●セカンドオピニオン外来 2件

性別	年齢	がん部位	相談内容	相談者	対応医師
女	69歳	肺がん	治療について、粒子線療法の適応	本人	川島(呼吸器内科)
男	49歳	肺がん	手術について	本人・母	米田(呼吸器外科)

●がん患者カウンセリング料算定(緩和ケア認定看護師大西・岩山対応分)

総数39件(病棟15名 外来24名) *15件は未確定診断、研修未終了医師のため算定不可

●リンパ浮腫指導管理料算定:40名(病棟36名 外来4名 / 外科3 泌尿器37)

*リンパ浮腫外来(PT 古市対応 自由診療):2名(実施総回数8回)

●退院支援(緩和医療課対応:緩和ケアチーム+がん相談支援センター)(人数)

緩和ケア病棟(計34):中央病院(14)相良病院(9)堂園メディカルハウス(6)南九州病院(2)
出水郡医師会広域医療センター(旧阿久根市民病院)(2)鹿児島市医師会病院(1)

他医療機関(計24):久保内科(2)林内科胃腸科病院(2)内村川上内科(1)湯田内科(1)
田上病院(1)うえはらクリニック(1)薩南病院(1)小田代病院(1)
田上病院(1)市来内科(1)加治木温泉病院(1)ゆのもと記念病院(1)
相良整形外科(1)屋久島徳洲会(1)池田病院(1)隼人温泉病院(1)
大隅鹿屋病院(1)川辺生協病院(1)おぐら病院(1)健翔会病院(1)
指宿浩然会病院(1)森口病院(1)

在宅医(計13):当院在宅医療部(6)五反田内科クリニック(3)ナカノ在宅医療クリニック(2)
三輪クリニック(1)昭南病院(1)

●図書館の閲覧・貸出利用者(がん相談支援センター図書)

29名利用(貸し出し:計40冊)

●リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま 2013参加

平成25年5月11日(土)正午~12日(日)正午 呼びかけ“今給黎総合病院チーム”で参加。
24時間リレーウォーク参加:33名 ルミナリエバッグ:計111枚(応援参加:34名)

●学術実績

- ・学会発表 日本緩和医療学会学術大会ポスター発表
「告知における問題点~患者、家族、そして主治医~」 大西
- ・症例発表 鹿児島緩和ケア研究会
「終末期患者の家族がぶつける怒り、その奥にある苦悩を支える」 岩山
- ・講義(院内)看護部研修クリニカルラダーレベルⅠ「我が国におけるがん対策と当院の現状」 植屋
Ⅱ「マウスケア」「エンゼルケア」 岩山
Ⅲ「緩和ケア」 大西
Ⅳ「症状コントロール」「死の体験飛行」 大西
Ⅴ「コミュニケーション」 植屋
(院外)訪問看護ステーションであて「がんの症状コントロール」 大西
居宅介護支援事業所ファルマコム「緩和ケアについて」 岩山
- ・ほっとサロン今給黎ミニ勉強会 「緩和ケアってなあに？」 岩山
「がんと心のケア」 大西
- ・研修協力 緩和ケア研修会ファシリテーター 当院:大西、岩山、植屋
鹿児島医療センター:大西、岩山
鹿児島大学病院:大西

●その他の活動

- ・緩和ケアチームラウンド・カンファレンス(木曜日午後)
- ・病棟カンファレンス参加(随時)
- ・呼吸器内科回診参加(金曜日)
- ・在宅医療部カンファレンス参加(第2・4火曜日)
- ・化学療法緩和ケアネットワーク(第1木曜日)
- ・がん看護委員会(がん関連認定看護師で企画実施)(第1木曜日)
- ・緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院2回/年)
- ・鹿児島県がん相談支援センター部門会議(鹿大病院2回/年)
- ・緩和医療科・精神腫瘍科診療の調整・補佐
- ・パンフレット・リーフレットにより情報提供、広報・周知活動、図書館“すまいる”へパンフレット等提供
- ・誕生日カード、グリーンケア(電話・手紙での遺族ケア)
- ・緩和ケア週間にてPR(10/6-12)
- ・本館受付にて映像RP
- ・がん相談支援センターに直通電話設置(11月~)
- ・鹿児島県がん相談員メーリングリスト管理
- ・患者図書室運営委員会・職員教育研修委員会

QCセンター 感染管理課

立和名聖子

平成24年3月QCセンターへ感染管理課が新設され専従の感染管理者が配置された。

当院は、感染防止対策加算1を取得しており連携病院との評価ラウンドやカンファレンスを実施している。対外的な活動の場が増えることにより他施設との情報交換や情報共有ができ当院の院内感染対策の改善や充実につなげることが出来ている。院内では感染対策チーム（以下ICT）の再構築により週1回のICTカンファレンスや環境ラウンドが定着し院内感染対策の推進を図っている。

感染発生時は、感染管理課で情報が集約され感染対策チーム（以下ICT）と組織横断的な関わりを行っている。患者と医療従事者の両方を無用な感染から守るために日々活動している。

【スタッフ】

1名（感染管理認定看護師）

【部門実績及び活動内容】

院内感染防止対策委員会の運営（毎月第4水曜日、臨時会議1回）

感染防止対策加算合同カンファレンス 4回実施（米盛病院、天陽会中央病院と連携）

感染防止対策地域連携加算相互評価 1回実施（南風病院と連携）

ICT会議、ラウンド（毎週水曜日 49回実施）

看護部リンクナース会の運営（毎月第1火曜日）

院内の相談件数 115件

院外からの相談件数 11件

中心静脈カテーテル関連感染サーベイランス、挿入時プロセスサーベイランス、

速乾式アルコール消毒剤使用量サーベイランス（ICU対象）

手洗い強化月間（手洗い評価、全病棟対象）

職種別感染対策指導

感染発生時の保健所報告と対応

各種感染発生時の対応

【学術実績】

院内感染研修（全職員対象）

第1回 消毒剤適正使用と最近のトピックス（6月21日）

講師：八木 俊和先生（丸石製薬株式会社 学術グループ）

第2回 医療廃棄物の分別について（12月13日、12月19日、3月19日）

講師：武田 晃稔先生（株式会社太陽化学）

院内研修

看護部 クリニカルラダーⅠ（4月19日）

ラダーⅡ（12月12日）

ラダーⅣ（5月20日、7月22日、10月28日、12月16日）

看護助手研修（4月25日、5月23日）

リンクナース会ミニレクチャー（計6回）

研修医 研修医ガイダンス感染（4月15日）

院外研修講師

感染管理ベストプラクティス研究会鹿児島ワーキンググループアドバイザー

平成25年度介護事業者支援セミナー「感染症の理解と予防」

平成25年度第3回臨床微生物検査部門研修会「Clostridium difficile 陽性時の対応について」

QCセンター がん化学療法課

主任 河原 尚美

【はじめに】

平成24年12月に、がん化学療法をうける患者様やご家族、または化学療法にかかわる看護師への支援を目的にがん化学療法課が新設され、配属となりました。平成24年4月に当院が地域がん診療連携拠点病院として指定をうけたこともがん化学療法課が新設された要因のひとつにあげられます。

さて、がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法が治療の選択肢となる治療期の患者・家族を対象に治療の決定から化学療法薬の投与管理、治療中および治療後の経過のなかで行われる身体的・心理社会的側面からの看護を主体としています。その役割を踏まえた上で平成25年度は、がん化学療法課として何ができるのか、何をしなければならないかを模索した1年でした。現状を見直し、すぐに改善を図らなければならないことから取り組んでいきました。まだまだ、課として周知されていない部分もありますが、がん化学療法に関わる全ての人が安心して治療を行えるようサポートしていきたいと考えております。

【スタッフ】

河原 尚美 2013年 がん化学療法看護認定看護師取得

【部門実績】

化学療法緩和ケアネットワーク委員会（毎月第1木曜日）

がん看護委員会開催（毎月第1木曜日）

外来化学療法室での直接ケア、病棟訪問し指導

レミケード投与マニュアル作成

血管外漏出セット作成後、当該部署へ配置

鹿児島医療センターより紹介患者に関して他部署との連携・調整

日本癌治療学会参加（H25.10/24-26）

日本がん看護学会参加（H26.2/8-9）

がん看護研修担当指導者研修参加（H25.10/16・17）

相談（H25.4～H26.3） 68 件

（投与管理・副作用について、手技に関して、曝露に関して、血管外漏出に関して、経口抗がん剤に関して、CVポートに関して、患者への看護に関して 等）

【院内での講義】

4/9 研修医への研修	5/2 「アレルギー/過敏症について」	6/13 「抗がん剤使用時のスキンケア」
6/13 「レミケード投与に関するマニュアル」	6/19 「化学療法のセルフケア」	7/11 「レミケードの投与と管理」
7/23 「化学療法とその看護」	7/24 「頭頸部がんの投与と管理」	9/6 「ミキシング」について説明
9/11 「ミキシング」について説明	9/26 「アブラキサン®の投与管理」 「トップビューパー針の取り扱い」	10/31 「化学療法概論」
11/11 「抗がん剤の安全な取り扱い」	11/13 「2階東病棟における退院指導」	12/26 3東におけるミキシング業務
1/14 「副作用を知りましょう」	1/31 CVポート研修会	3/7 CVポート研修会

計 18回

QCセンター 施設課

課長 田中英樹

【はじめに】

当課は、病院全体の施設の管理を行う部署で、24時間体制で業務を行っています。

病院の理念、基本方針、目標に沿って目標課題を毎年設定し達成できるように業務を推進しています。

また、病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために建物、設備のメンテナンスをサポートしています。老朽化した建物、設備に対して単純に修理・更新の手配をするのみではなく、運営方針や経費対効果を考慮した、適切な修繕計画の策定も担っています。また東日本大震災以降、大規模災害時にも、建物の機能不全に陥ることがないように、日常の点検業務・修繕に取り組んでいます。

【スタッフ】 7人体制

1・2級ボイラー技士、第1・2種電気工事士、危険物取り扱い、冷凍機、防火管理者等の有資格者

田中・米盛・佐々木・山元・小土橋・大迫・永野
資格を取得することだけでなく、どんな物でも修理できる発想力の豊かさが求められます。

【実績】

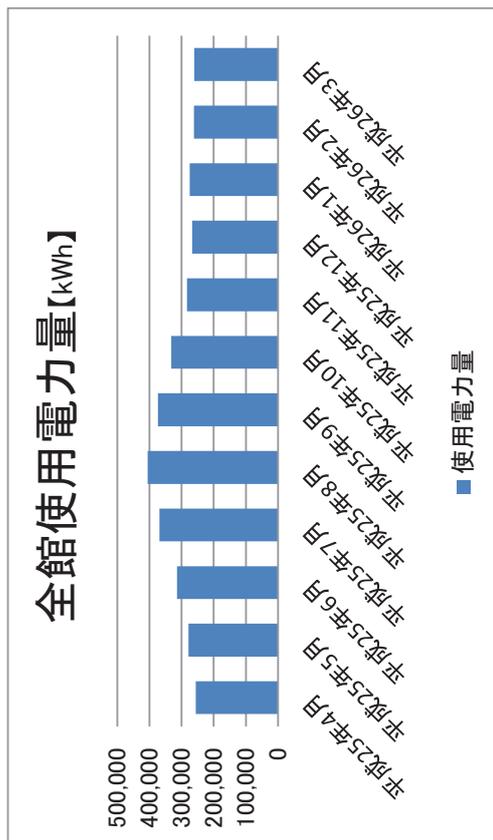
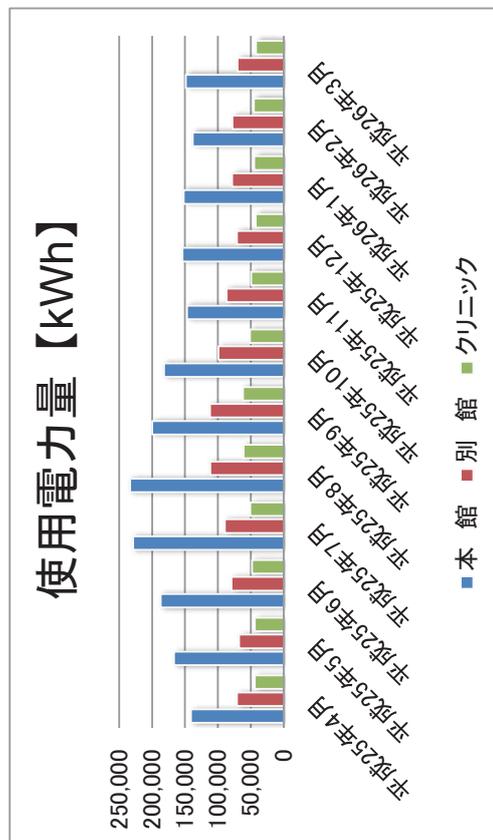
4月	本・別館冷温水機分解整備 全館害虫駆除 エレベータ点検【全館】	10月	熱交換器、分解整備 全館害虫駆除 自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】
5月	中材・消毒器性能検査【3缶】 本・別館、受・高架水槽清掃 クリニック電気年次精密点検 ホルムアルデヒド残留濃度測定 エレベータ点検【全館】	11月	本館2号ボイラー性能検査 火祭り ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備保守点検【本・別館】 ガス器具保守点検 本・別館冷温水機分解整備 総合防火訓練 エレベータ点検【全館】
6月	自動ドア総合点検 総合防火訓練 エチレンガス残留測定 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検	12月	本館1号ボイラー性能検査 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検
7月	自家発電設備精密点検 手術室消毒器性能検査【2缶】 エレベータ点検【全館】	1月	医療ガス設備保守点検【本・別・クリ】 エレベータ点検【全館】
8月	別館ストレージタンク性能検査 窒素酸化物・ばいじん量測定 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】	2月	本館ストレージタンク性能検査 本・別館電気年次精密点検 窒素酸化物・ばいじん量測定 エレベータ点検【全館】 汚水検査 自動ドア総合点検
9月	汚水検査 エレベータ点検【全館】	3月	CE設備検査 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】

エ

電力使用量実績表

【2013年4月分～2014年3月分】

		使用電力量【kWh】												合計
使用電力量		平成25年4月	平成25年5月	平成25年6月	平成25年7月	平成25年8月	平成25年9月	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月	平成26年3月	合計
本館		141,204	166,836	186,900	228,828	233,280	199,788	181,896	146,940	153,672	151,956	138,288	148,824	2,078,412
別館		70,944	67,728	79,290	89,628	111,348	111,972	98,940	86,928	71,328	78,276	78,060	70,224	1,014,666
クリニック		44,052	43,878	48,174	50,664	61,176	62,070	51,240	49,332	42,438	45,072	45,432	42,066	585,594
合計		256,200	278,442	314,364	369,120	405,804	373,830	332,076	283,200	267,438	275,304	261,780	261,114	3,678,672
使用電力量														



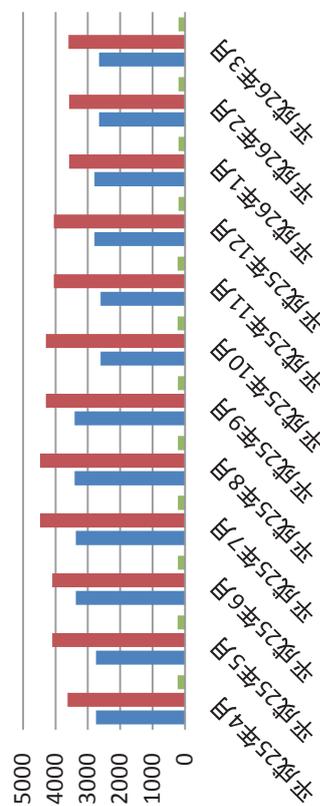
給水使用量実績表

【2013年4月分～2014年3月分】

単位【m³】

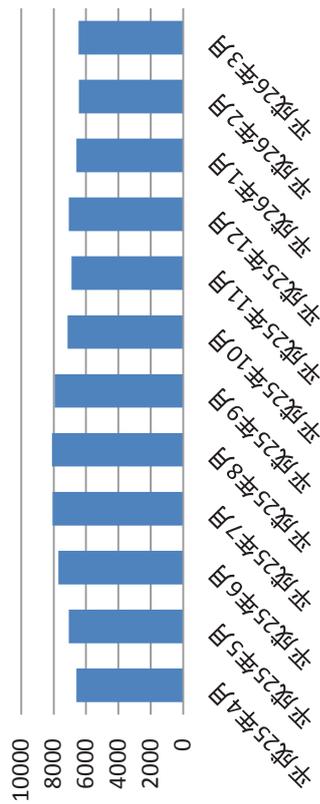
給水使用量	平成25年4月	平成25年5月	平成25年6月	平成25年7月	平成25年8月	平成25年9月	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月	平成26年3月	合計
本館	2747	2747	3377	3377	3414	3414	2610	2610	2797	2797	2657	2656	35203
別館	3627	4101	4102	4472	4472	4296	4297	4056	4056	3581	3582	3600	48242
クリニック	227	227	223	223	221	220	226	227	207	207	200	201	2609
合計	6601	7075	7702	8072	8107	7930	7133	6893	7060	6585	6439	6457	86054
給水使用量													

給水使用量[m³]



■ 本館 ■ 別館 ■ クリニック

給水使用量合計[m³]



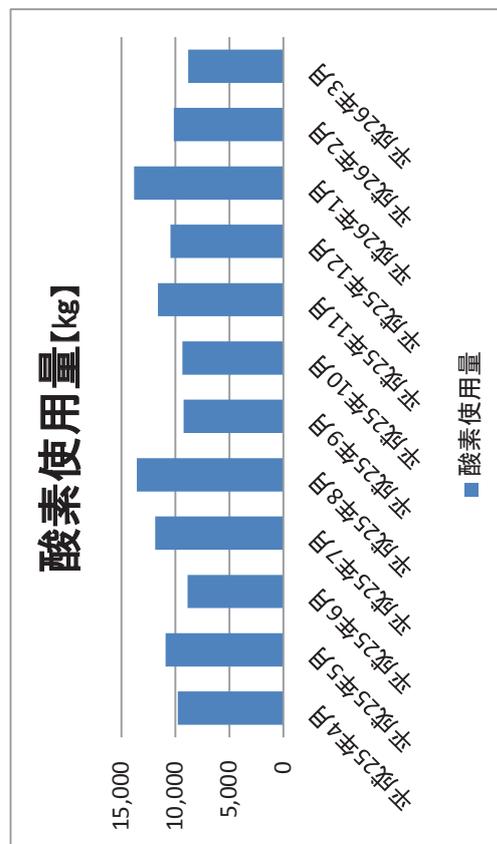
■ 給水使用量

医療用酸素使用量実績表

【2013年4月分～2014年3月分】

単位【 kg 】

	平成25年4月	平成25年5月	平成25年6月	平成25年7月	平成25年8月	平成25年9月	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月	平成26年3月	合計
酸素使用量	9,788	10,899	8,863	11,872	13,561	9,233	9,348	11,617	10,459	13,815	10,136	8,816	128,407



栄養管理部

課長 上平田美樹

●スタッフ構成(平成26年3月末現在)

施設側：管理栄養士9名、管理栄養士(事務アシスタント)1名、栄養事務1名
日清医療食品(株)：管理栄養士1名、事務栄養士3名、厨房栄養士3名、
調理師9名、調理員17名、洗浄パート6名 合計50名

●認定資格取得状況(平成26年3月現在)

- | | | | |
|----------------|-------|------|------|
| ・病態栄養専門師認定 | 上平田美樹 | 鈴木聖子 | 鵜瀬裕美 |
| ・糖尿病療養指導士認定 | 上平田美樹 | 山本里沙 | 鵜瀬裕美 |
| ・NST専門療養士認定 | 鈴木聖子 | | |
| ・NSTコーディネーター認定 | 上平田美樹 | 鈴木聖子 | |
| ・特定保健従事者認定 | 鈴木聖子 | | |
| ・健康運動療養指導士認定 | 鵜瀬裕美 | | |
| ・がん病栄養態専門師認定 | 上平田美樹 | | |

●栄養管理

今年度は、平成25年10月1日から電子カルテの切り替えを行う際、給食管理システムの見直しを図り、電子カルテと直結したシステム作りを行いました。入院時の栄養スクリーニングをMNA®-SF (Mini Nutritional Assessment - Short form)に変更し、入院時から栄養不良や合併症予後因子を早期に発見しケアへと繋げること、褥瘡対策とリンクさせることにより、より良い栄養管理の在り方について検討し、変更となりました。また同時に、特別食が必要な患者様へは、栄養指導の早期介入を行い、治療食に対する理解や生活習慣病改善に対して尽力して参りました。結果、管理栄養士の病棟活動や訪問の機会が増え、より多くの患者様の声を伺うことが出来ました。術後の食欲不振の確認や個別対応を行い、食事だけでなく栄養機能食品を効果的に用いるなど、栄養状態の早期改善や食事対応の充実を他職種と協働して行い、急性期疾病の治癒・回復を援助して参りました。献立作成では、季節折々の行事食やお弁当メニューの回数を増やすなどの工夫を行いました。

●栄養指導

平成25年度の指導実績は、入院3,305件(前年度比111.1%)、今給黎総合病院外来栄養指導175件(前年度比100.6%)、昭和会クリニック外来栄養指導143件(前年度比134.9%)、合計3,623件(前年度比110.8%※1)という結果でした(疾患別内訳；図1参照、※1；栄養指導算定・非算定を含む実施数)。食習慣に起因する栄養指導(高血圧・心疾患・糖尿病・肥満・脂質異常症・痛風)は2,869件、全体の79.2%(前年度120%)を占める結果となり、入院中の食事や健康祭り等に於いての栄養教育や、継続した食事療法、食習慣の改善を援助していく必要があると考えております。

図 1) 平成 25 年度 疾患別栄養指導実績

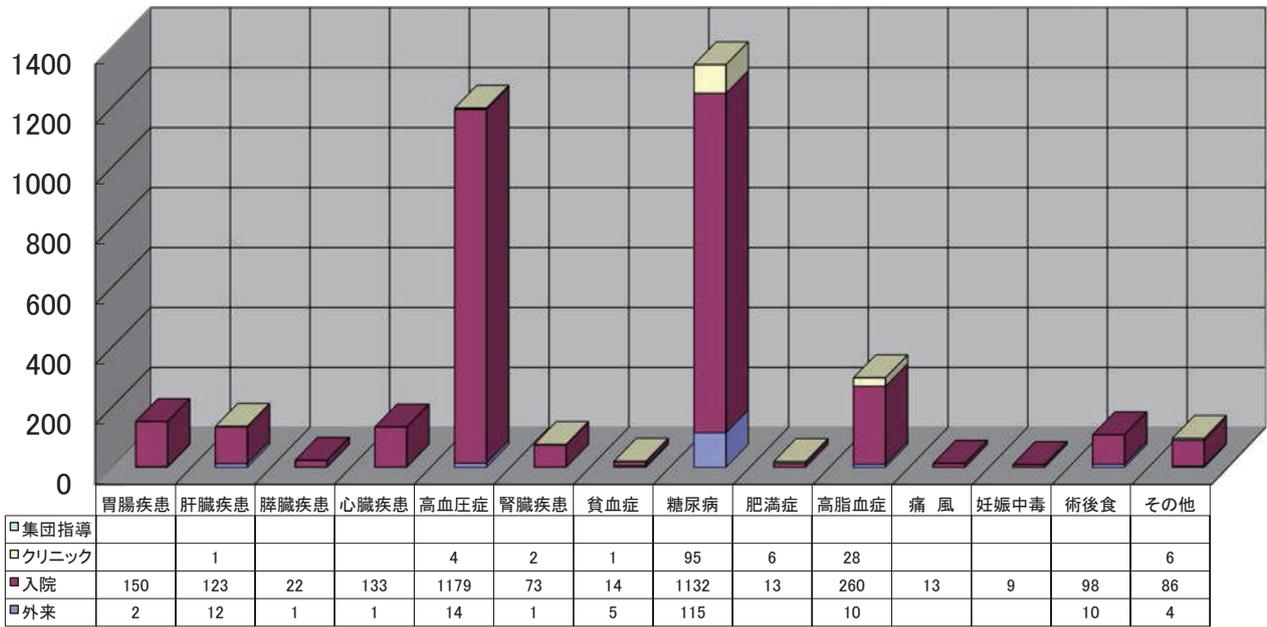
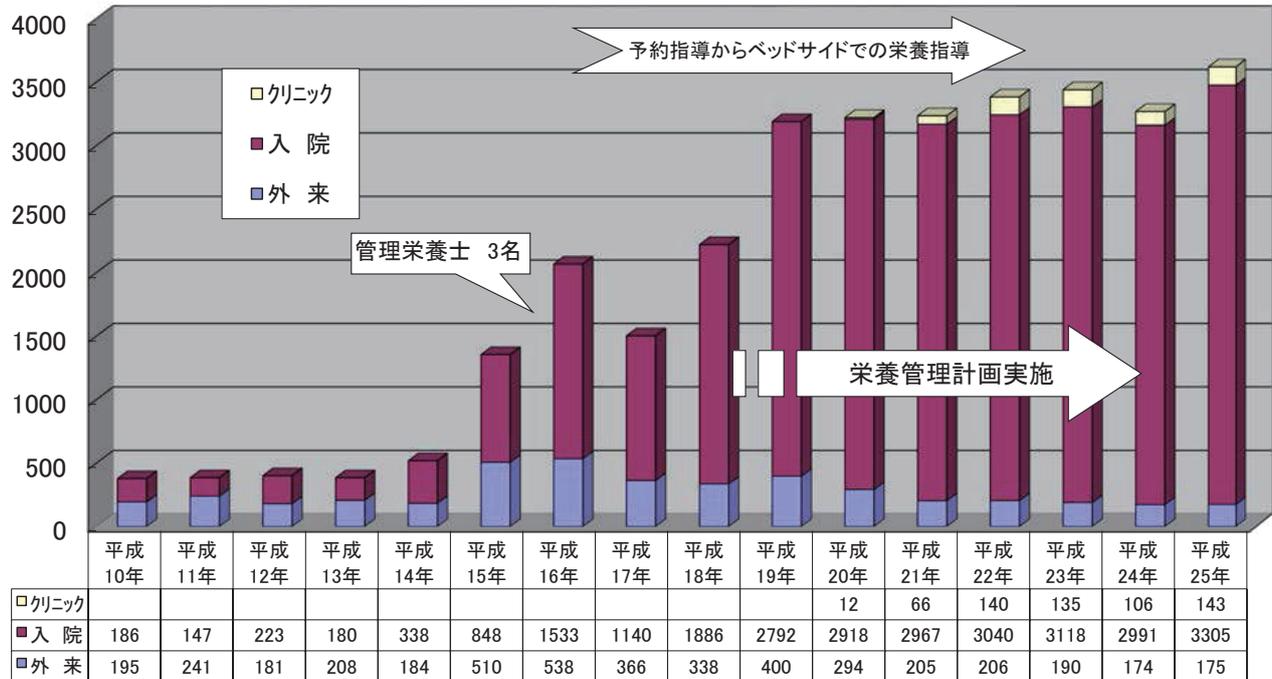


図 2) 年度別栄養指導件数の推移



●平成 25 年度 栄養管理部活動状況報告

・実習生受け入れ状況

実習生受け入れ状況

平成 25 年 8 月 19 日～8 月 31 日 鹿児島純心女子大学 臨地実習(Ⅰ)病院
給食栄養管理実習 2 名

・見学受け入れ

平成 25 年 1 月 23 日 NST 活動見学

南風病院(看護師・管理栄養士・検査技師・薬剤師・リハビリ・言語療法士) 6 名

・院外講演・発表活動

平成 25 年 6 月 22 日 第 9 回ぴくるすの会研究会「連携した栄養管理」 上平田美樹

平成 26 年 1 月 19 日 第 6 回九州・山口口腔ケアシンポジウム IN 鹿児島
「他職種と協同する口腔ケアを目指して」 鈴木聖子

・院外ボランティア活動

平成 26 年 5 月 11 日～12 日 リレーフォーライフ～命のリレー～ 山本里沙 田中美帆

平成 25 年 6 月 22 日 第 9 回ぴくるすの会研究会 鈴木聖子 鵜瀬裕美

平成 25 年 8 月 17 日～18 日 第 44 回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鵜瀬裕美

平成 25 年 11 月 2 日 市民健康まつり 鵜瀬裕美

平成 26 年 2 月 2 日 カーボカウント&インスリンポンプセミナー(熊本)
上平田美樹 山本里沙 鵜瀬裕美

・施設の公開利用

平成 25 年 5 月 12 日 「みんなでいきいき健康まつり」にて栄養相談及び食事提供 225 名受付

平成 25 年 11 月 18 日 健康教室による栄養相談 森田恵理子

平成 25 年 12 月 20 日 「自己血輸血療法における食事」 上平田美樹

・施設の公開利用

NST 講演会運営

平成 25 年 6 月 28 日 「急性期から考えるサルコペニア」

講師：熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科 吉村芳弘

・災害関連研修会への参加状況

平成 25 年 8 月 4 日 チームアプローチによる災害時の食事支援

～共通理解を深める～スタッフ養成研修修了者 上平田美樹

平成 26 年 2 月 2 日 食品中放射性物質に関する研修会

～コミュニケーター養成研修～プログラム修了者 鈴木聖子 森田恵理子

平成 26 年 2 月 8 日～2 月 9 日 JDA-DAT(栄養士会 災害支援チーム)

～スタッフ養成研修～ プログラム修了者 上平田美樹

・病院指定

NST 関連

JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定 更新日：平成 26 年 2 月 26 日

(認定期間) 2014 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

・ほっとサロン今給黎への管理栄養士派遣

平成 25 年 7 月 17 日 「夏バテ予防」講師 田中美帆

平成 25 年 12 月 18 日 クリスマス会 田中美帆

・院外研修会参加

(鹿児島県主催)

平成 25 年 12 月 15 日 鹿児島県慢性腎臓病(CKD)に関する研修会

上平田美樹 鈴木聖子 鵜瀬裕美

(公益社団法人鹿児島県栄養士会主催研修会)

平成 25 年 6 月 15 日 総会及び研修会

上平田美樹 鵜瀬裕美

平成 25 年 7 月 14 日 特別講演・新人研修並びに糖尿病栄養部総会

鈴木聖子

平成 25 年 8 月 19 日 食フォーラム 2013

田中美帆 久留理恵

平成 25 年 8 月 31 日 県民公開講座～糖尿病予防と食生活～

山本里沙

平成 26 年 1 月 19 日	生活習慣病予防食生活セミナー・コレステロール	鵜瀬裕美
平成 26 年 2 月 2 日	CKD 診療ガイドラインセミナー	鈴木聖子
平成 26 年 2 月 15 日	糖尿病コメディカルスタッフセミナー	山本里沙 鵜瀬裕美
平成 26 年 3 月 2 日	糖尿病治療と食事管理	上平田美樹 鈴木聖子 山本里沙

・その他、研修会・学会参加状況

平成 25 年 4 月 20 日	クリニック経腸栄養セミナー(鹿児島)	上平田美樹 鈴木聖子 鵜瀬裕美 小田あすか
平成 25 年 5 月 16 日～17 日	第 56 回日本糖尿病年次学術集会(熊本)	上平田美樹
平成 25 年 6 月 1 日	糖尿病スタッフセミナー(鹿児島)	上平田美樹・山本里沙・鵜瀬裕美
平成 25 年 6 月 15 日～16 日	新生児フォーラム(東京)	久留理恵
平成 25 年 7 月 6 日	病態栄養教育セミナー受験者用講習会	田中美帆・森田恵理子
平成 25 年 7 月 6 日	病態栄養教育セミナー更新者用講習会	鈴木聖子
平成 25 年 11 月 14 日	脂質異常症治療ガイドライン 2013 年版普及啓発セミナー	山本里沙 田中美帆 森田恵理子 小田あすか
平成 25 年 11 月 16 日～17 日	日本糖尿病療養指導士認定機構主催 受験者用講習会(福岡)	森田恵理子
平成 26 年 1 月 11 日～12 日	第 17 回日本病態栄養学会教育セミナー(大阪)	山本里沙
平成 26 年 2 月 27 日～28 日	第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会(横浜)	鈴木聖子

診療情報管理部

主任 畑 中 幸 子

【院内がん登録集計(2012年1月1日～2012年12月31日)】

※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

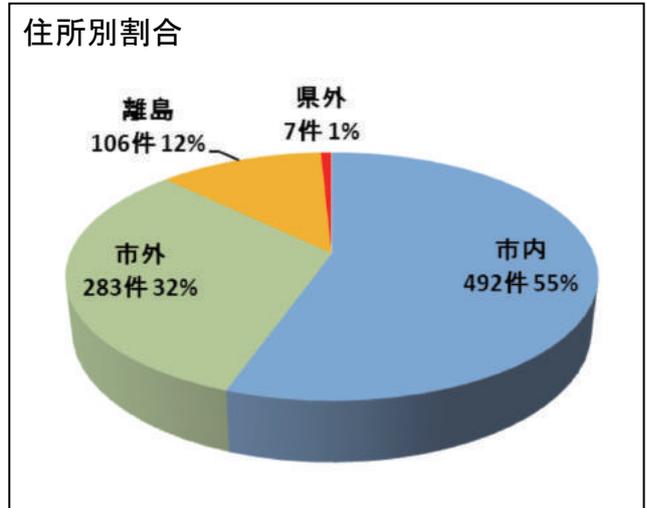
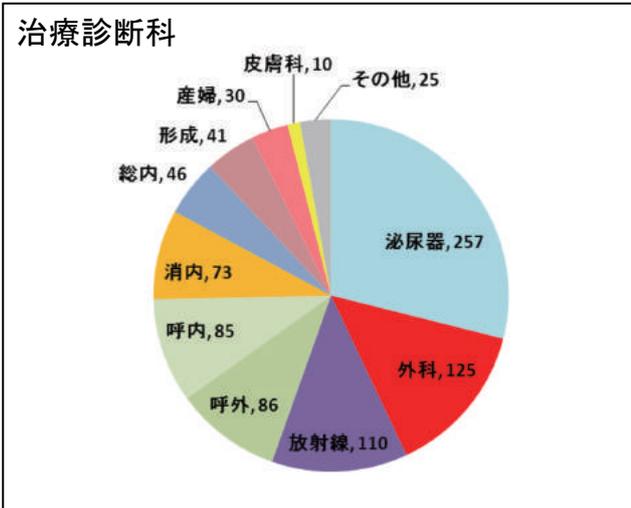
- 1腫瘍1登録 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています
 (例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント

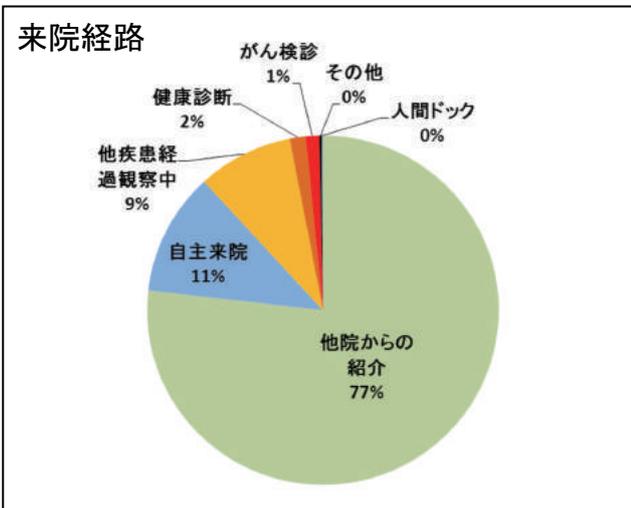
②住所別割合

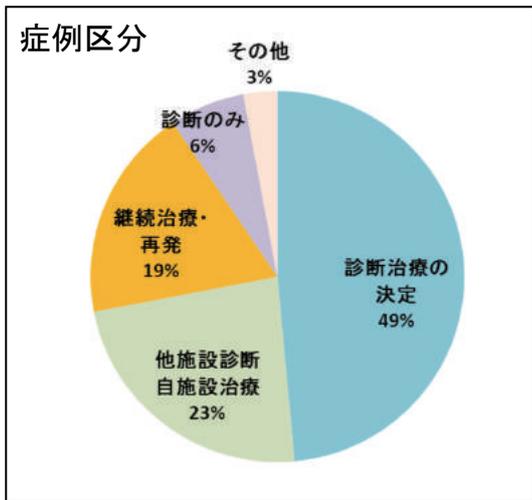
患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に、薩摩川内市 37、霧島市 37、
 鹿屋市 33、始良市 28、その他
 離島では、種子島が 86 で約 80%を占めています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。





④ 症例区分

診断治療の決定：

当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

他施設診断自施設治療：

がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

継続治療・再発：

他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例もしくは、他施設にて治療後、再発し、当院にて治療を行った症例

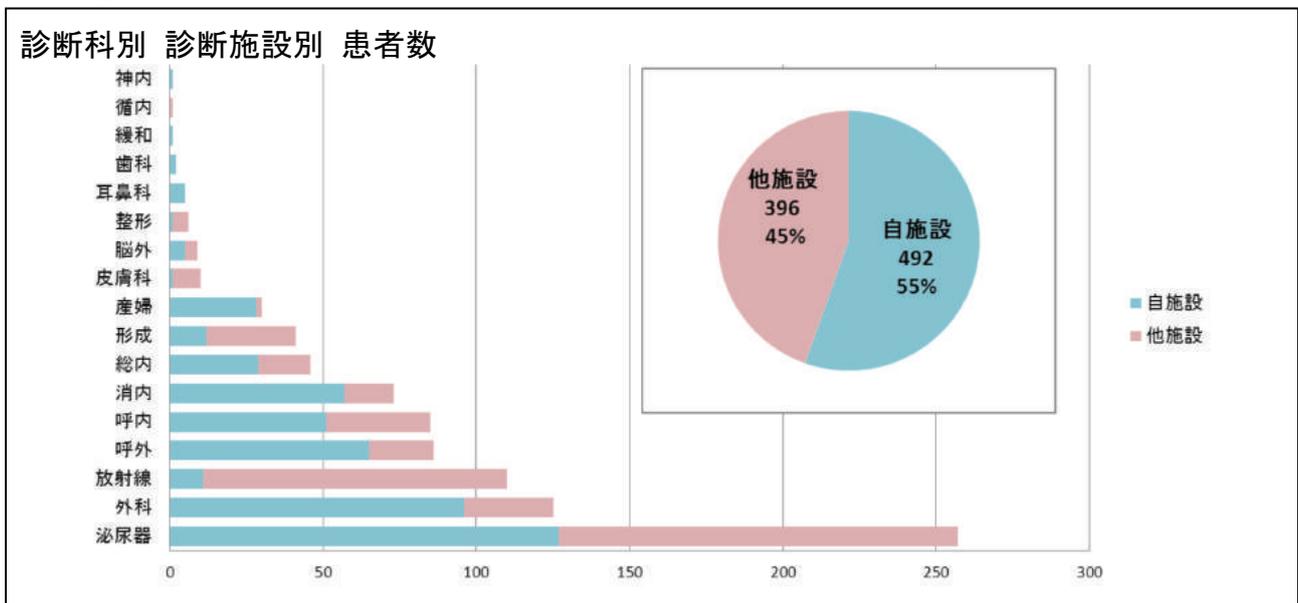
診断のみの症例：

当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例

その他：セカンドオピニオン症例

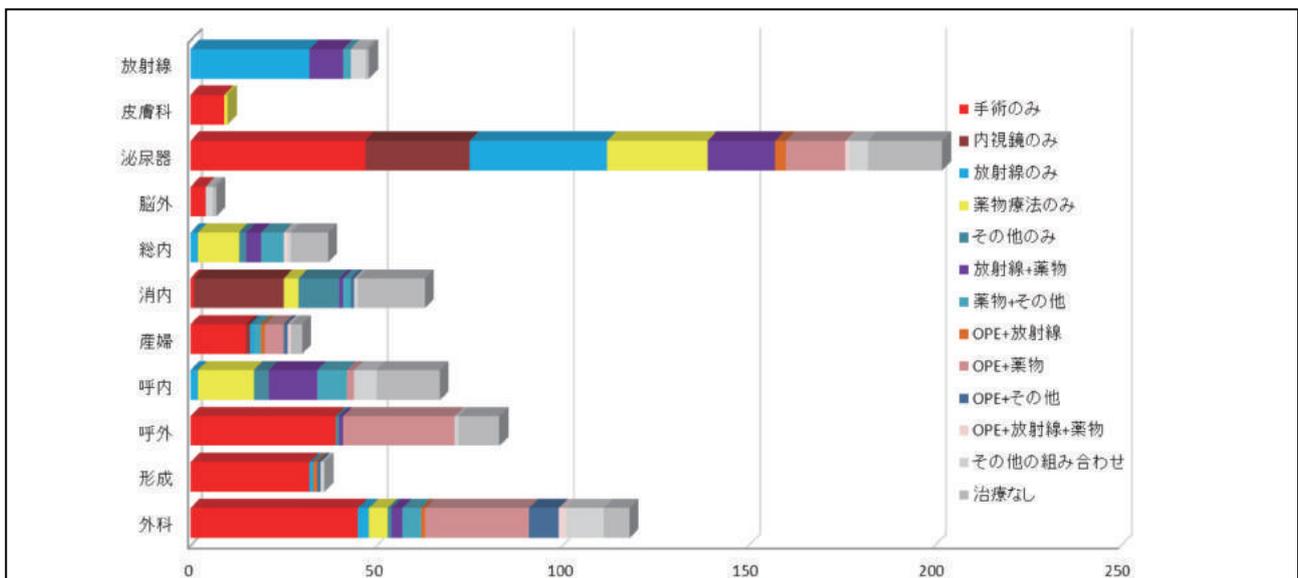
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断をどこで行われたかを診療科別で示しています。



⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

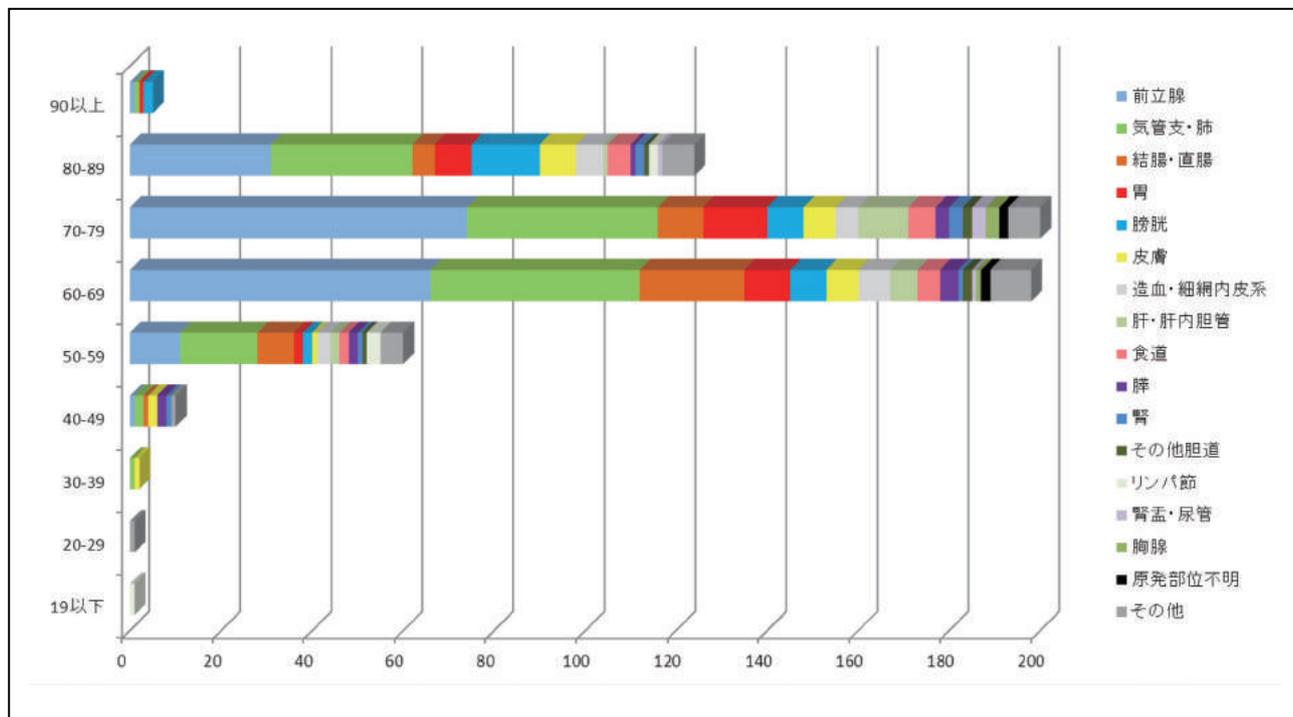
初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



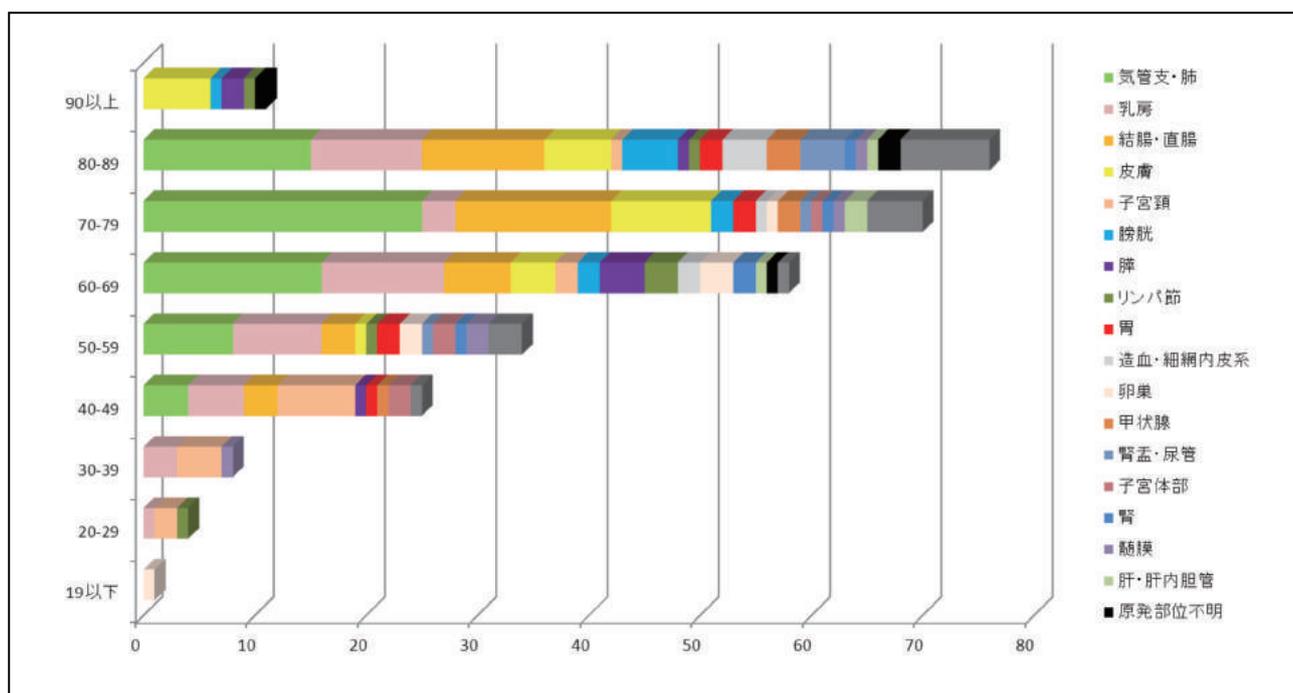
⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています

年齢別・原発部位別患者数(男性)



年齢別・原発部位別患者数(女性)



患者サポートチーム

看護副部長 岩下邦子

患者サポート窓口2年目を迎えた。6月までは看護師とソーシャルワーカーが交代で窓口対応していたが、7月より看護師1名が午前午後常に常駐する体制がとれたことにより、昨年比してすべての項目に対して件数が上がった。窓口対応は多岐にわたり、さながらホテルのコンシェルジュのようである。中でも診療科相談の件数が上がったことは、看護師であるという専門性が活かされた結果ではないかと考える。

患者サポートチームでは窓口対応のほか、昨年同様毎週カンファレンスも行なっている。その他、月1回全部署の代表者が集まる患者サービス委員会を開催している。その委員会では各部門が把握している患者様からの意見・要望に対し検討する他、前出のカンファレンスの内容を伝達し、周知を図っている。

主な今年度カンファレンスで検討された内容は、以下の通りである。

- ・患者サポート窓口専用のPHSの設置と運用
- ・患者サポート窓口専用ICレコーダーの保管・管理
- ・外来正面に待機するタクシーの停車位置について会社側と取り決めを行なう
- ・マスク着用のポスター作成・掲示
- ・2東のシャワー室運用並び設備内容の検討について
- ・一階ホールの公衆電話の再設置
- ・院内放送の内容検討・アナウンス技術の向上
- ・別館ホールへの新聞の配置
- ・入院時の必要物品の自動販売機による販売決定
- ・院内喫煙者対策考案実施
- ・院内掲示物の掲示基準の決定

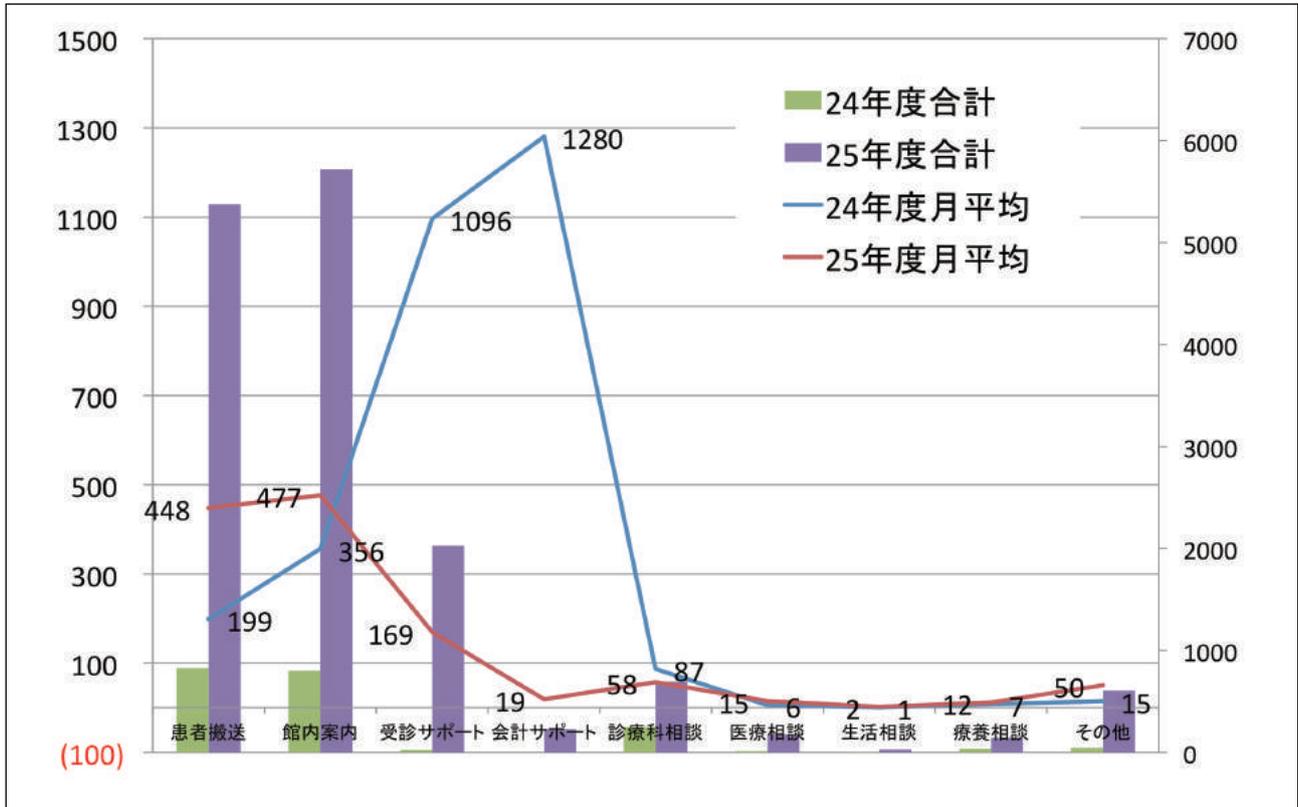
25年度患者サポート窓口状況

	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
4月	378	384	2	213	16	0	9	106	0
5月	402	338	97	1	0	13	0	3	22
6月	365	367	88	1	2	17	0	3	20
7月	330	375	158	2	2	26	0	4	64
8月	563	603	200	0	37	19	7	3	77
9月	526	526	175	2	42	16	3	3	56
10月	531	530	211	1	57	20	1	2	85
11月	443	472	213	1	82	17	2	3	62
12月	475	530	216	1	107	8	3	2	54
1月	471	532	228	0	105	15	1	4	58
2月	442	506	220	2	121	16	0	4	48
3月	453	555	222	1	123	9	0	5	59
年間合計	5379	5718	2030	225	694	176	26	142	605
平均	448	477	169	19	58	15	2	12	50

その他の主な内容

ベビーカー貸し出し	重心事申請代筆	サポート室を授乳のために提供
クリニックへの車いす案内	銀行案内	トイレへの介助 内服援助
荷物の預かり	郵便局案内	入院について電話相談
ホテル紹介	売店案内	

患者様サポート相談窓口項目別対応件数と月平均の24年度と25年度の比較



その他の項目

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ベビーカーの貸し出し | 緩和相談 |
| クリニックへの案内 | トイレでの排泄介助 |
| 荷物の預かり | 個室希望援助 |
| 宿泊施設の紹介 | タクシーの手配 |
| 重度心身助成金申請書代筆 | PET検査に対する情報提供 |
| 銀行郵便局案内 | 弾性ストッキング購入手配 |
| 内服援助 | テレビカード返金操作案内 |
| 聴覚障害者の受診・会計サポート | 周辺（ストアやバス停）説明と道案内 |
| 授乳援助 | 精算機操作援助 |
| タクシーへの移乗介助 | バス時刻調べがん相談 |
| 杖歩行者の付き添い介助 | セカンドオピニオン相談 |
| 入院についての電話相談 | 診療科予約 |
| クレーム | |

事務部

事務局長 野口 桂一

平成25年度 特記事項

4月19日 NPO「医療の質に関する研究会」の支援を受けて
患者図書室 すまいる 開設
10月1日 (株) ソフトウェアサービスに電子カルテ及び
医事会計システム入替

公益事業部の今年度の主な活動報告です。

1、がん医療対策関連について

【地域がん診療連携拠点病院】

- 1) 4月12日
がん緩和ケア研修会 早期からの緩和ケア～
急性期病院の場合～
聖路加国際病院 緩和ケア科部長 林 彰敏
178名参加(外部参加者34名)
- 2) 6月4日
がん緩和ケア研修会「がんの臨床現場における
スピリチュアルペインとそのケア」
鹿児島大学病院 腫瘍学講座 的場康徳
131名参加(外部参加33名)
- 3) 10月12日・13日
緩和ケア研修会 がん診療に携わる医師に対す
る緩和ケア研修会
12名参加
- 4) 10月16日
がん緩和ケア研修会 エンディングノート
(DVD 講演)
当院 緩和医療課 植屋・大西・森 主催
58名参加(外部参加者6名)
- 5) 10月18日
がん診断講座講演会
・肝細胞癌の画像診断と放射線科における治療
・肝細胞癌の外科治療
・内科における肝細胞癌の治療と抗ウイルス
治療による肝細胞癌の予防
当院 放射線科部長 銚立博文
当院 外科部長 濱之上雅博
当院 消化器内科部長 前田正彦
59名参加(外部参加者6名)
- 6) 3月6日
がん緩和ケア研修会 抗がん剤の話
鹿児島大学病院 呼吸器内科助教 水野圭子
100名参加(外部参加者11名)

- 7) 3月18日
副作用に関する講演会
放射線治療 Update・有害事象へに対策を含
めて 進行期肺がんの治療現状について
当院 放射線治療科部長 中禮久彦
当院 呼吸器内科部長 川島寿史
58名参加(外部参加8名)

- 8) 3月28日
大腸癌治療カンファレンス
大腸癌治療の現状と地域連携
症例検討会
2例提示/がん診療連携パス(大腸癌)について
金沢赤十字病院 第一外科部長(兼)副院長
西元元一
当院 外科部長 濱之上雅博

2、各学校より実習病院の指定を受け、次の通り 実習生を受け入れ、実習指導を行った。

5月13日～5月24日
キャリアデザイン専門学校 12日間 2名

3、視察・研修・見学(社会人の個人、団体、および 学生)の受入

- 1) 7月4日
川内市医師会立市民病院 用度課の物品管理
に関する見学 3名
- 2) 8月19日
福岡医療福祉専門学校 3名
- 3) 2月19日
クオアリハビリテーション病院
電子カルテ見学 12名

4、文化・スポーツ事業活動・ボランティア活動

- 1) 4月13日
県民交流センターにて鹿児島BLSO開催に
あたり当院の救急車を貸出

- 2) 6月18日
当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血
28名実施
- 3) 9月14日・15日
第67回県民体育大会 東開庭球場1名選手派遣
- 4) 11月28日
当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血
22名実施

5、入院患者の不在者投票

- 1) 7月21日執行
参議院議員通常選挙
7月18日不在者投票 49名実施
- 2) 9月22日執行
屋久島町議会議員選挙
9月19日不在者投票 3名実施
- 3) 11月17日執行
霧島市長選挙および桐嶋氏議会議員選挙
11月15日不在者投票 2名実施
- 4) 12月1日執行
知名町長選挙
11月24日不在者投票 1名実施

6、当院で開催された研修会・勉強会

- 1) 4月2日
医療安全研修会 医薬品の安全管理について
医療安全管理の基本的な考え方
当院 薬剤師副薬局長 江籠幸子(医薬品安全管理責任者)
当院 医療安全管理課 千田清美(専従医療安全管理者)
- 2) 5月12日
「第9回みんなでいきいき健康まつり」
当院各診療科医師と職員にて 外部参加者200名
- 3) 6月21日
院内感染講演会「消毒液の正しい使い方」
304名(院内のみ)
- 4) 8月31日
救急事後検証会・合同勉強会
救急外来受入状況について 顔面外傷、事後検証意見交換
当院 形成外科部長 高木信介
当院 外来副部長 尾堂知子
67名(外部参加者8名)
- 5) 11月15日
医療安全研修会
1. 7月に実施した医療安全意識 調査の結果報告
2. インシデント事例を基にした3つの場面(寸劇)を鑑賞しワークシートで個人ワーク
3. 個人ワークシートに基づき意見交換
～グループワーク～
東京海上日動メディカルサービス(株)
メディカルリスクマネジメント室
首席研究員(薬剤師)工藤千佳
主任研究員(看護師)玉利英子
227名(院内のみ)

- 6) 11月18日
公開無料健康教室 「健康に過ごすヒント」
当院 総合内科部長 生野博久 18名聴講
- 7) 12月13日・18日
院内感染研修会医療廃棄物の分別について
株式会社 太陽化学 武田晃稔
514名(外部参加者8名)
- 8) 3月18日
副作用に関する講演会
放射線治療 Update・有害事象への対策を含めて
進行期肺がんの治療現状について
当院 放射線治療科部長 中禮久彦
当院 呼吸器内科部長 川島寿史
58名(外部参加者8名)

7、その他の活動

- 1) 9月9日
鹿児島県医師会 集団災害事故救急訓練に伴うFAX連絡訓練実施
- 2) 10月17日
産科退院患者様による「おぎゃー献金」を日母おぎゃー献金基金へ献金する
- 3) 11月2日
第62回鹿児島市おはら祭前夜祭出場 113名
- 4) 12月25日
職員によるNHK歳末助け合い募金
103,003円寄付
- 5) 12月30日
つるぞえひなた君を救う会募金
1回目 75,803円寄付
2回目 63,708円寄付

8、経理課の主な活動

- 1) 平成25年4月1日より事業区分変更後事業開始
平成25年3月27日変更認定
変更内容
公益法人の事業区分を6事業(公益1事業・公益2事業・収益1事業・収益2事業・そのほかの事業・法人会計)から、3事業(公益事業・収益事業・法人会計)に変更して平成25年4月1日より、事業開始した。
- 2) 監査法人監査(北三会計社)
- 24年度
実査・棚卸立会 平成25年4月2日・8日
下半期監査 平成25年5月9日
決算監査 平成25年6月3日・4日
- 25年度
上半期監査 平成25年12月11日・12日

XI. 院内研修会・講演会一覧

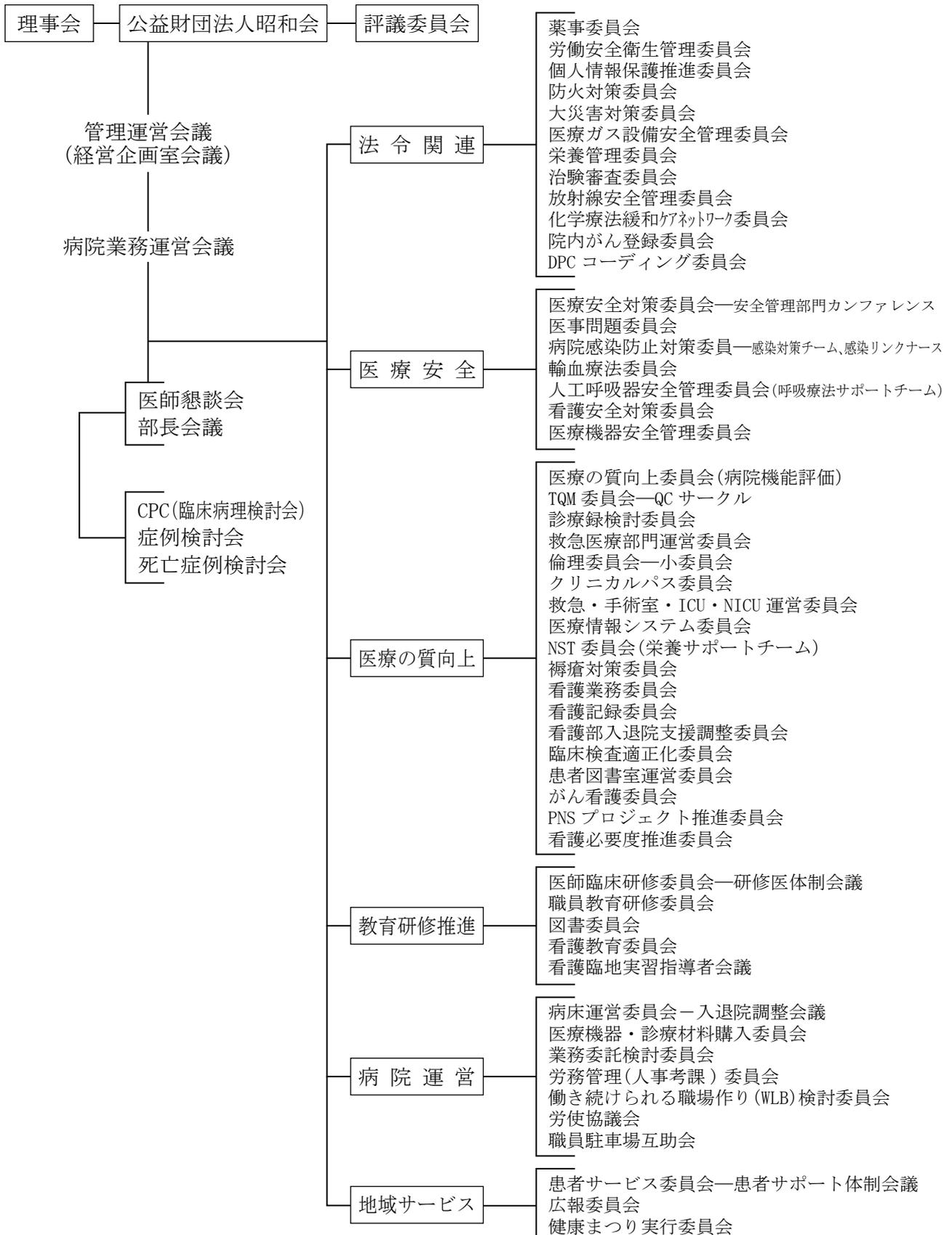
平成25年度の講義室にて開催された研修会・講演会一覧

月日	演題	講師	受講者	備考
4月2日	医療安全研修会 医薬品の安全管理について 医療安全管理の基本的な考え方	当院 薬剤師副薬局長 江籠 幸子 (医薬品安全管理責任者) 当院 医療安全管理課 千田 清美 (専従医療安全管理者)		院内のみ 4/4・4/5
4月12日	がん緩和ケア研修会 早期からの緩和ケア ～急性期病院の場合～	聖路加国際病院 緩和ケア科 部長 林 章敏先生	178名	外部参加 34名
4月15日	脊椎カンファレンス	当院 整形外科医師と外部の医師参加	15名	外部参加 5名
5月11日	今給黎スポーツフォーラム 野球少年による肩肘障害	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 スポーツ整形外科教授 筒井 廣明 先生 理学療法士 鈴木 貞興先生、田村 将希先生	75名	外部参加 67名
5月13日	脊椎カンファレンス	当院 整形外科医師と外部の医師参加	15名	外部参加 5名
5月23日	鹿児島細胞診定例会	市内の病理関係者	35名	外部参加 30名
6月4日	がん緩和ケア研修会 がんの臨床現場におけるスピリチュアル ペインとそのケア	鹿児島大学病院 腫瘍学講座 的場 康徳 先生	131名	外部参加 33名
6月12日	I C T 合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	14名	外部参加 7名
6月21日	院内感染講演会 消毒薬の正しい使い方	丸石製薬株式会社 学術情報グループ 八木 俊和 先生	304名	院内のみ
6月24日	形成外・放射線科合同講演会 血管腫・血管奇形診療の実際(診断から治 療のステラテジーまで)	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 総合血管内治療センター長 血管内治療研究所 今井 茂樹 先生	21名	外部参加 4名
6月28日	NST 講演会 急性期から考えるサルコペニア	熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション科 吉村 芳弘 先生	179名	外部参加 69名
8月19日	鹿児島外傷セミナー 橈骨遠位端骨折から考えた骨粗鬆症治療 戦略	産業医科大学 整形外科学 准教授 酒井 昭典 先生	102名	外部参加 50名
8月21日	I C T 合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	14名	外部参加 7名
8月31日	救急事後検証会、合同勉強会 救急外来受入状況について 顔面外傷 事後検証意見交換	当院 形成外科部長 高木 信介 先生 当院 外来副部長 尾堂 知子 看護師	67名	外部参加 8名
10月7日	I C T 合同カンファレンス	当院と外部の医師参加	13名	外部参加 7名
10月16日	がん緩和ケア研修会 エンディングノート (DVD 講演)	緩和医療課 植屋・大西・森 主催	58名	院内のみ
10月18日	がん診断講座講演会 肝細胞癌の画像診断と放射線科における治療 肝細胞癌の外科治療 内科における肝細胞癌の治療と抗ウイルス 治療による肝細胞癌の予防	当院 放射線科部長 鉾立 博文 先生 当院 外科 部長 濱之上雅博 先生 当院 消化器内科部長 前田 正彦 先生	59名	外部参加 6名

11月15日	医療安全研修会 1.7月に実施した医療安全意識調査の結果報告 2.インシデント事例を基にした3つの場面(寸劇)を鑑賞しワークシートで個人ワーク 3.個人ワークシートに基づき意見交換～グループワーク	東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 上席研究員 (薬剤師) 工藤 千佳 先生 主任研究員 (看護師) 玉利 英子 先生	227名	院内のみ
11月30日	今給黎スポーツフォーラム 肩肘のスポーツ障害に対する超音波検診症例検討	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 整形外科 医師 鈴木 昌 先生 教授 筒井 廣明 先生 理学療法士 千葉慎一先生、尾崎尚代先生	95名	外部参加 47名
12月13日	院内感染研修会 医療廃棄物の分別について (12/13・12/18 同じ内容で2日間)	株式会社 太陽化学 武田 晃稔 先生	514名 両日で	委託業者 27名
1月17日	パーキンソン病医療講演会 パーキンソン病の原因・診断・治療	当院 神経内科 部長 長堂 竜維 先生	53名	外部参加 16名
2月21日	救急医療講演会 地域で受ける時代の救急医療とドクターヘリ～鹿児島県の新たな挑戦～	鹿児島市立病院 救命救急センター長 吉原 秀明 先生	152名	院内のみ
3月6日	がん緩和ケア研修会 抗がん剤の話	鹿児島大学病院 呼吸器内科助教 水野 圭子 先生	100名	外部参加 11名
3月18日	副作用に関する講演会 放射線治療 Update、有害事象への対策を含めて 進行期肺がんの治療現状について	放射線治療科 部長 中禮 久彦 先生 呼吸器内科 部長 川島 寿史 先生	58名	外部参加 8名
3月28日	大腸癌治療カンファレンス 大腸癌治療の現状と地域連携 症例検討会 2例提示 / がん診療連携パス(大腸癌)について	金沢赤十字病院 第一外科部長(兼)副院長 西元 元一 先生 当院 外科部長 濱之上 雅博 先生	50名	外部参加 7名

XII. 会議・委員会活動報告

会議・委員会組織図



平成26年4月1日 現在

病院業務運営会議

議長 今給黎 尚典
(院長) 昇 卓夫
事務局 前野 浩一(報告)

【目的】

総合医療推進に伴い、病院運営上の実務についての連絡調整、意見集約を図りながら、より充実したチーム医療を構築する。

【本会議の開催】 毎月第2月曜日 (18:00分～19:30分)

【出席者】

理事長、院長、各科部長、各科医師、看護部長、看護師長、薬局長、放射線・検査技師長
療法士長、栄養管理課長、事務局長、事務部課長、各責任者

本会議は、病院運営上において、原動力的会議として位置づけられ、毎月1回開催されている。各科各部よりの連絡事項、報告、問題点、提案等を提議して、多面的な立場より検討し、「より適切な医療とサービスの提供」を目標にしている。

本年度も多くの課題が検討され、医療機能の質の向上・改善が図られた。

今年度は、現行の電子カルテの保守契約の終了に伴い、医師をはじめ各関係部署が検討し、10/1よりソフトウェアサービス社に、電子カルテシステム、医事会計システムの入替えを行った。

がん関係では、緩和ケア研修会、がん診断講座、副作用に関する講演会、癌カンファレンスなど、地域の医療関係者へ案内し勉強会も積極的に行った。

また、救急医療に関して、市立病院救命センター長・吉原秀明先生によるドクターヘリのご講演や、各消防局のご協力のもと、救急隊との合同で事後検証会、勉強会などを行った。

今後も患者様や地域医療関係機関へ、更なる貢献向上に向けて、全職員一体となり取り組んでいきたいと考える。

《今年度の主な検討事項》

- ・各部署からの現状(実績)報告
- ・各委員会からの報告
- ・収入支出報告、稼働状況目標
- ・医療安全、院内感染対策
- ・サマリー、診療記録監査、がん登録報告
- ・病院移転関係 他
- ・クリニカルパス使用率報告
- ・各講演会関係
- ・在日数短縮、病床利用率
- ・インフル、ノロウイルス対策
- ・新電子カルテシステム導入検討

薬事委員会

委員長 大久保 幸一
事務局 高橋 真理（報告）

【目的】

採用薬の整理・後発品への切替え

【委員会スタッフ】

大久保幸一 昇卓夫 中目康彦 大場一郎 野口桂一 末吉美津代 前嶋一友 高橋真理

【平成 25 年度の活動内容】

平成25年度は、3ヶ月毎に開催している新規採用・削除薬を審議する定期の薬事委員会を第77回～80回まで、4回開催した。新規採用薬は40品目、新規採用に伴い33品目を削除し、3品目を用時購入とした。後発品への切替えは、内服薬32剤、注射薬3剤の計35剤について行った。後発品への切替えについては院内での理解も得られているようである。

医業収入に対する薬剤費率は10.9%、薬剤費のうち後発品の占める割合は9.70%となった。分子標的薬・生物学的製剤など高額な薬剤が増えてきており、薬剤費は年々増加しているが、医業収入に対する薬剤費率は0.16%減少した。

薬剤費と薬剤費率(医業収入に対する薬剤費の割合)・薬剤費に対する後発品の割合

	平成24年度		平成25年度	
	合計	月平均	合計	月平均
医業収入	9,503,602,245	791,966,854	9,878,558,084	823,213,174
薬剤費	1,051,115,058	87,592,922	1,080,610,045	90,050,837
薬剤費率	11.06%		10.90%	
後発品金額	106,733,225	8,894,435	104,778,492	8,731,541
後発品割合	10.28%		9.70%	

平成26年診療報酬改定 DPC機能評価係数Ⅱの見直しにより、後発医薬品指数が新設された。

平成24年10月から平成25年9月までの後発医薬品置換率（＝後発医薬品使用数量／後発品が発売されている医薬品の使用数量 *使用数量は薬価単位）に応じて後発医薬品指数が決められた。60%の場合、後発医薬品指数は0.0145、40%の場合0.0090、20%の場合0.0030となる。

当院の後発医薬品指数は0.00736、後発医薬品置換率は約33%であった。後発医薬品指数による収入は年間約2,500万円と試算される。後発医薬品への切替えを更に進めるために、4月以降は毎月後発医薬品の候補を提示していく予定である。

また、来年度も引き続き同効薬の整理についても検討し、採用薬の適正化を図っていきたい。

労働安全衛生管理委員会

委員長 牟禮 洋
事務局 前野 浩一（報告）

【目的】

職員の健康保持及び職場の環境衛生の改善について必要な事項を定め、職場の勤務能力を向上させる。

【活動報告】

1. 労働環境衛生、施設等の改善
2. 職員の健康保持の判定及び事務処理に関する事
3. 職員の疾病予防に関する事
4. 常時飲食物を扱う職員の保菌検査及び保健衛生や指導に関する事
5. 放射線技師及び放射線科に勤務する職員の保健衛生や指導に関する事
6. 夜勤を行う職員の保健衛生や指導に関する事
7. その他衛生管理に必要な事

【総括】

今年は、全国的に風疹が大流行し、当院でも職員の健康管理と院内感染対策の観点からも、抗体検査を行い、抗体のない者には予防接種を実施するという方向で動いた。

抗体検査を実施した結果、半数以上の職員が、抗体なしもしくは低下しており、麻疹・風疹、水痘、ムンプスの接種を全額病院負担にて実施した。接種者は5年後に再度抗体検査を実施していく。

職員検診関係で、50歳以上の男性職員を対象に、希望者はP S A検査も検診時に行うことを決めた。医師の時間外を毎月集計して委員会で検討しており、規定を超過している医師にはストレスチェックを行って改善策を図っている。

今年も職員の健康保持のため、いろいろな事に取り組んできた。来年も更に改善に向けて頑張っていきたいと思う。

個人情報保護推進委員会

委員長 白濱 浩

毎年、事故は発生しておりますが、重大な個人情報漏洩事故はほぼなくなりました。しかし、最近の傾向としては患者様に手渡す書類に他の書類が混ざりこんでしまったり、封筒と中身が入れ違う事故が数件発生しております。これらに対しては、2重チェックの厳格化を行っております。

その他、マニュアル化の困難な事例がまれに発生し、顧問弁護士を含め担当で話し合いながら対応する事例もありました。

院内巡視でも大きな問題は見つかっておりません。

最近の事故や対応の困難な例を見ますと、職員各自の意識レベルや知識の底上げが一番重要かと思われます。院内での講演会などの教育がますます重要になって来ていると思われます。

防火対策委員会

委員長 昇 卓夫
佐々木 守 (報告)

【目的】

火災の予防及び火災発生時の対応について、日常的に職員の防火意識の高揚と防火訓練の立案・計画・実施等により、患者様・職員の人命を守る事を最大の目的とする。

本委員会の第一目標は、火災発生時の初期消火と患者様の人命救助である。

日常的においては、消火設備、非常ベルの位置、避難経路の確保及び周知、廊下の物品管理、消火設備・防火戸の前に物を置かない等、職員の防火意識の向上を図ることである。

今年度も、消防署上町分遣隊立ち合いのもと、通報・初期消火・避難誘導の防火総合訓練を2回実施した。訓練では、患者の避難誘導・担架による搬出方法などまだまだ改善が必要である。また、実際に消火器を使用した消火訓練を行い使用方法の周知を図った。

大半の方は、火災は発生しないだろうという気持ちかもしれませんが、しかし、病院火災の事例も報道され死者も多数出ています。

今後も、初期消火と患者様の人命救助の為、基本的な訓練は怠らず、本委員会を通じて職員一人一人の防火意識の向上に努めたい。

【平成 25 年度の主な活動】

- H25. 4 鹿児島市自衛防火協会定期総会 (事務長出席)
- 6/13 本委員会開催 (20名出席)
- 7/24 夜間想定防火訓練実施 (通報・初期消火・避難誘導) 87名参加
消火器取扱い 5名実施
- 10/8 中央消防署査察
- 11/12 本委員会開催 (34名出席)
- 11/28 昼間想定防火訓練実施 (通報・初期消火・避難誘導) 119名参加
消火器取扱い 6名実施
- 11/29 防火訓練反省会 (21名出席)
- 11/27～11/30 消防設備総合点検 (4日間)

医療ガス設備安全管理委員会

委員長 牟禮 洋
報 告 田中英樹

【委員会議事録】

1. 施設課長の交代に伴い今年度委員会より、医療ガス安全管理監督責任者の宮下道男から田中英樹に変更になりましたことをご報告いたします。
2. Q. 高気圧酸素治療装置 KH0-2000 の標準仕様では、マット・枕の外装を導電性材質、内装を難燃性素材になっておりますが今回の年次点検時にマットがビニール素材の物に変更されておりました。
応急措置として(患者のみ接続→患者とマットを接続)してありますが安全を保障するものではありませんので当社指定の導電性マットへの交換をお願いしますとコメントがありました。

A. 臨床工学部 齋藤技士長より、高気圧酸素治療室で使用していたマットが古くなったこともあり現在のマットに交換しました。以前のマットは固く患者様より腰などが痛くなるとの申し出が度々ありました。現在のマットを使いだしてからではそのような申し出も聞かれず、安全も考慮しての使用なので問題はないと判断しております。メーカーサイドには商品指定をするのであれば、クレームの出ない商品を開発するように申し入れをしました。
3. 救急室の胃洗浄の吸引レーシーバータンクが以前、容量オーバーで既設の配管に流れこむという事がありました。対策としてレーシーバータンクと壁のアウトレットの間に新しくフィルターを取付ました。フィルターが濡れる事でそれ以上吸い上げられない構造を構築し、タンク容量も1.9Lの4連→3.4Lの4連に変更してあります。
4. 医療ガス・配管設備などの取扱い職員研修
医療ガス取扱い講習会を2014/4/10に新人看護師対象41名に行いました。新人看護師対象ではなく、部署に関係なく参加できるようにと意見がありました、24年度は研修医師2名の参加した実績もあり、他に参加希望があれば部署に関係なく、参加出来る様に事前にお知らせしたいと思います。

時間：16：00～17：00

【出席者名簿】

役付委員又は役割	名 前	病院内職務名	備考
委員長・・・総括責任者	牟 禮 洋	副院長	
副委員長	池 田 耕 自	麻酔科部長	
副委員長	有 村 智 代	看護部長	
委員(監督責任者)	田 中 英 樹	施設課長	
委 員	東 美 津 子	サプライ師長	
委 員	中 村 章 子	IC 師長	
委 員	藤 山 み どり	看護副部長	
委 員	齋 藤 謙 一	臨床工学部 技士長	
委 員	坂 口 聖 治	事務局	
委 員	寿 明 伸	薬剤師	
委 員	米 盛 正 志	施設課	

出席者：11名 欠席：0名

栄養管理委員会

委員長 昇 卓夫
運営 上平田 美樹

目的：患者栄養管理の内容充実
栄養管理業務の改善向上

会議内容：院内約束食事箋に関する事項
入院患者の嗜好調査に関する事項
入院及び外来患者様の栄養指導に関する事項
栄養管理業務の運営に関する事項
NST・医療安全管理に関連する事項
電子カルテ使用に関する事項

委員：院長・事務長・看護部長・副看護部長 2 名・病棟師長 5 名
管理栄養士 1 名・NST専従管理栄養士 1 名
給食委託管理部 1 名・チーフ 1 名・調理スタッフ 1 名

平成 25 年度の活動内容及び取り組み

＝平成 25 年＝

- 4 月 食事アンケート結果報告(配布数 90 名、回答数 78 名：回収率 86%)
栄養管理計画運用に関する検討・改訂
前年度インシデントアクシデント報告及び対策
- 5 月 クリニカルパスとの連携(扁摘術パス改訂)
栄養指導件数増加についての検討・医師への提言
- 6 月 夏場の衛生対策・確認、食中毒対策及びマニュアルの改訂
緊急時連絡網、院内 trouble 時の対応(報告ルート)確認
- 7 月 締切り時間後の食事対応(オーダー数・病棟別集計・対策確認)
新電子カルテ導入における検討と進捗報告
栄養スクリーニング方法についての見直し(褥瘡対策に関する診療計画書との連携)
- 8 月 食事アンケート調査実施(全病棟の一般常食・全粥食の方を対象)
- 9 月 食事アンケート結果報告(配布数 118 名、回答数 89 名：回収率 75%)
食事オーダー入力手順・食事箋関連の見直し・医師への操作指導
- 10 月 新電子カルテ導入における周知事項
- 11 月 ノロウイルス対策その他感染性嘔吐下痢症に対する院内対策マニュアル配布
栄養指導推進(強化月間)
防火対策確認(避難通路確認・備品類のチェック)
- 12 月 採用濃厚流動食規格変更報告
ノロウイルス対策強化・感染拡大防止策検討

＝平成 26 年＝

- 1 月 アレルギーに関する院内伝達方法ルール作成
- 1 月 時間外入力状況に関する報告(集計・報告・対策確認)
温冷配膳車切り替えについての検討(4 月導入・食器類 新規購入検討)
- 2 月 院内アメニティー・食事サービス向上に関する事項
医師検食記載に対する報告
- 3 月 糖尿病治療食に関する検討(院内糖尿病食事構成の見直し・炭水化物量の配分)
食事アンケート調査実施(全病棟の一般常食・全粥食の方を対象)
配布数 133 名、回答数 111 名：回収率 83%
日清医療食品との契約見直し(年間評価・連携・人員配置について)
災害対策メニューの提供とカード提供(α化米使用)
配膳車リースアップに伴う変更事項確認(配膳車・食器類の検討)

治験審査委員会

委員長 生野 博久
事務局 前嶋 一友(報告)

去年度に引き続き、新日本科学臨床薬理研究所がSMO(治験施設支援機関)として参加して頂きました。委員会に関しては毎月開催しています。

今年度、審査対象試験としては、

- 昭和会クリニック神経内科実施試験
 - MSD株式会社依頼による、中等度～重症パーキンソン病日本人患者を対象としたプレラデナントを12週間投与した際の有効性及び安全性を評価する第Ⅱ相、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照用量設定試験

- 昭和会クリニック神経内科実施試験
 - 大日本住友製薬株式会社依頼による、AD-810Nのパーキンソン病を対象とした二重盲検群間比較による検証的試験〔第Ⅲ相試験〕

- 昭和会クリニック小児科実施試験
 - 一般財団法人化学及血清療法研究所依頼による、KD-357(狂犬病ワクチン)第Ⅱ/Ⅲ相試験(小児)

- 昭和会クリニック神経内科実施試験
 - アストラゼネカ株式会社依頼による、難治性逆流性食道炎を対象としたD961H 20mg 1日2回経口投与と、D961H 20mg 1日1回経口投与の有効性及び安全性を比較検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、並行群間試験

今給黎総合病院実施試験は1試験、昭和会クリニック実施試験は3試験及び院外からの審査依頼試験数は3試験でした。審査依頼施設としては、川原泌尿器科、天保山内科、八木クリニックであった。

また、鹿児島大学病院 治験管理部が主催する臨床試験実務者懇談会が当院で開催され、当院における治験薬取り扱い、事例報告等について発表を行い、多施設、他職種の方々と意見交換することができました。

来年度は当院、昭和会クリニックでの実施治験数の増加及び外部医療機関の治験審査依頼数の増加に努めていきたいと考えます。

放射線安全管理委員会

委員長 中禮 久彦
報告 室屋 純一

【目的】

本委員会は、「予防規程」及び「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」(以下「法」という)の今給黎総合病院における運用について審議し「予防規程」及び「法」の目的とする放射線障害の発生の防止と、公共の安全を確保することを目的とする。

開催日： 平成 25 年 6 月 24 日(月)

出席者： 25 名

- (1) 本院・クリニック院長
- (2) 放射線治療部長(放射線安全管理委員会委員長・放射線取扱主任者兼務)
- (3) 医療安全管理課委員長(産業医)・他専任医療安全管理課員
- (4) 事務部(事務局長・総務・庶務・施設課)
- (5) 看護部(看護部長等)
- (6) 中央放射線部(業務従事者等)
- (7) 医療相談室長

【議事】

1. 前年度報告

(1) 放射線障害防止法に基づく職務審議案件報告

- ①業務従事者の登録とその教育・訓練・健康診断及び被曝管理に関すること
 - ・業務従事者の新規登録はありません
 - ・放射線取扱実務者研修会・放射線障害防止法講習会等への参加を行った
 - ・被ばくに関して、スタッフの 5mSv 以上の放射線被ばく者なし
 - ・健診(前期)5月16日から18日まで、(後期)11月14日から16日まで実施
～放射線被ばくによる障害者の発生なし
- ②規約、規程集の変更や見直し人選等について
 - ・人事変更に伴う委員の変更を行う(離任、着任に伴う)

(2) 各部門(リニアック・シード・CT・X線テレビ・一般撮影等)より安全管理報告

- ①給水器等の導入により造影副作用については、前年度と比較して減少している
- ②重篤な患者が発生した場合等の素早い対応(救急コールや連絡網等の見直し等)マニュアル化を図った
- ③外科用透視装置の更新も図られ、被ばく線量の軽減や画像トラブルが改善した

2. 今年度事業計画について

(1) 医療監視への対応～7月30日に医療監視予定、準備作業の実施予定

(2) 職員、電離健診実施について

- ①前期5月15日から17日実施、後期11月13日から15日までの実施予定

(3) 放射線取扱者総合管理システム(被ばく線量、健康診断結果、教育訓練受講等管理)の導入を図り業務改善に役立てたい(放射線業務従事者の健康診断問診票が複雑になっているため改訂等)

以上

*上記の項目に対して、報告協議し了承を頂きました。次回については、来年の5・6月に開催(臨時招集はその都度)予定です

化学療法緩和ケアネットワーク委員会

委員長 米田 敏
報告 河原 尚美

【目的】

本委員会は、院内で行われているがん化学療法の問題点などを議論し解決策を見出すことを目的としている。さらに院内で実施されている化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、承認する。また、外来化学療法室の現状を報告し、問題点を洗い出し、解決策を見出す。そして、緩和ケアに関する問題点を議論し、院内で統一化を計る。

【委員会スタッフ】

委員長 米田 敏(呼吸器外科)

委員 寺原 賢人(産婦人科)加藤 明彦(産婦人科)濱之上 雅博(外科)立野 太郎(外科)
野口 智弘(外科)巻幡 聡(呼吸器外科)今給黎 尚幸(呼吸器外科)小濱 浩介(血液内科)
窪田 幸司(呼吸器内科)立和田 得志(泌尿器科)
財間 富士子、中目 貴子、尾上 博隆(薬剤部)古市 寿子(リハ)田中 美帆(栄養管理部)
酒匂 英子、松永 雅美、栄多 陽子(2西)松野下 恵子、村崎 まこと、久永 可奈子(2東)
稲森 優子、木原 智美(3東)水元 英子、大脇 美枝(3西)池田 美智子、上野 京(2北)
屋野 由貴(2南)松山 真衣(4北)布市 多美子、同免木 直美(外来)
植屋 明代、大西 玲子、岩山 友紀(緩和医療課)河原 尚美(がん化学療法課)
福德 里佳、田中 泉美(医事課)

【平成 25 年度の活動内容】

毎月1回 第1木曜日(17時30分～)

- ・ 毎月の外来化学療法実績報告
- ・ 院内の化学療法数・主な有害事象報告、化学療法に関わる医療安全事案、解決すべき問題点の提案が行われた。
※特にアレルギーや血管外漏出などの情報を共有することができた。

・ 栄養管理部

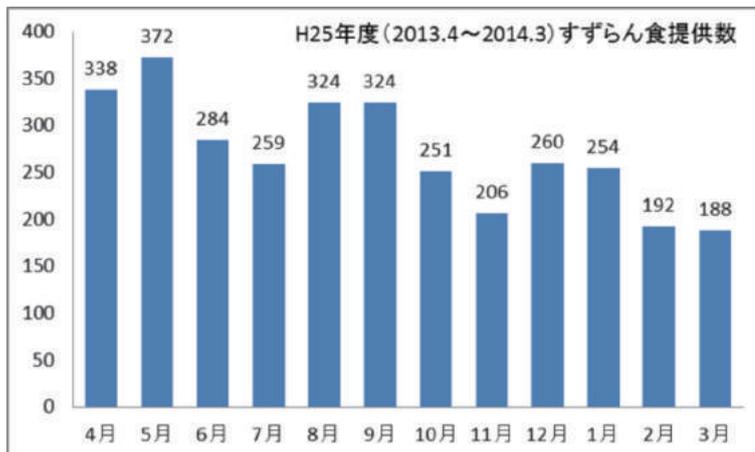
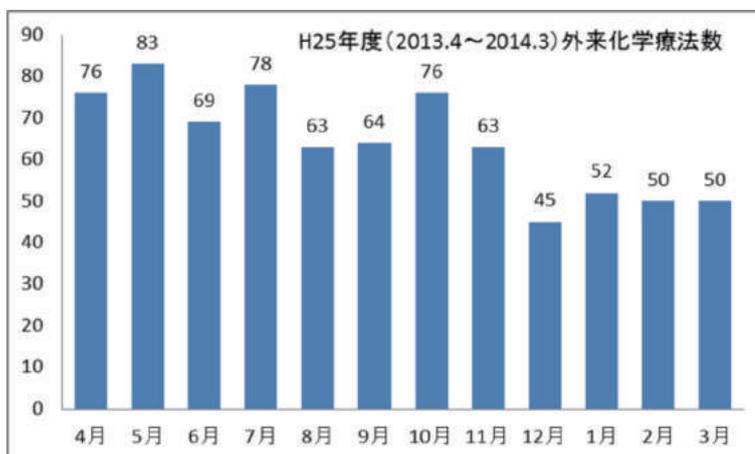
すずらん食提供者へのアンケート結果報告並びに今後の献立変更への取り組みについての報告がなされた。(右図)

・ 医事課

算定報告並びに化学療法・緩和ケアに関する診療報酬改定内容の説明

・ 緩和ケア

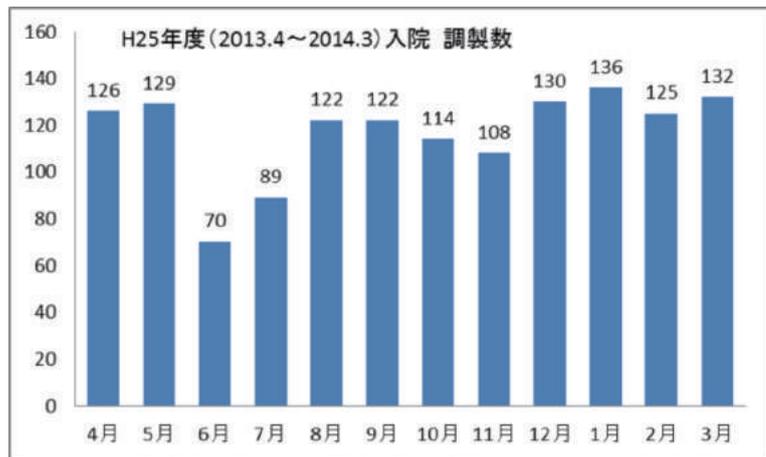
ほっとサロン案内、緩和ケア研修会案内(詳しい内容に関しては、緩和医療課の項参照)についての報告がなされた。



・薬剤部

毎月、入院化学療法調剤数報告

電子カルテ移行に伴い、抗がん剤プロトコル登録票について改正点の説明年間を通して、薬剤に関する情報提供、電子カルテのオーダーに関する注意点などを報告した。



・医師

H25年度(2013.4~2014.3)新規レジメン申請

- 4月⇒TA(ハ^レクリタキセル+アク^ラ)療法(婦人科)承認
- 5月⇒ア^ラキサンA療法(外科)承認
- 8月⇒CDDP+TS-1療法±放射線療法(呼外)承認
ア^ラキサン+CBDCA療法(呼外)承認
FP療法+放射線療法(耳鼻科)承認
- 10月⇒CBDCA+PEM+Bev療法(呼内)承認
- 12月⇒VNR単剤療法:乳がん(外科)承認
VCD療法(血内)承認
- 2月⇒ハ^レジエタ+ハーセ^チン+ト^セタキセル療法:乳がん(外科)承認
CPT-11単剤療法(呼内)承認
- 3月⇒PTX+CBDCA+BV療法:卵巣癌(婦人科)承認
GEM+CBDCA+BV療法:卵巣癌(婦人科)承認

以上、12件申請されすべて承認された。

●アバスチン投与について

アバスチンの副作用として創傷治癒遅延による合併症があり、ポート造設時、当院では傷の治癒状態を考慮し、1週間以上あければ投与可能とした。

●がん薬物療法をうけている患者のインフルエンザワクチン接種について

インフルエンザワクチンは、がん薬物療法を開始する2週間以上前、もしくは、がん薬物療法終了後7日以上経過した後の接種を推奨。接種回数は1回を推奨。

●入院で化学療法を行う場合

原則、前日の16時までの入力。当日化学療法入院の場合でも、もし、16時以降の入力になる場合や当日の入力になる場合は、その時点で医師が薬局(4525)へ連絡。連絡がない場合は、病棟での混注になる。

DPCコーディング委員会

委員長 牟禮 洋
報告 上唐湊 芳一

【活動報告】

当委員会は、年4回(1、4、7、10月)開催しております。
委員の構成は、病院長をはじめとして副院長、事務局長、診療情報管理士、医事課スタッフ18名 総勢約22名で構成されます。

【目的】

標準的な診断及び治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする。

委員長 牟禮 洋(副院長)

委員 昇 卓夫(病院長)	越間 北斗(4 西医事担当)	福德 里佳(3 西医事担当)
野口 桂一(事務局長)	岩元 正子(手術室医事担当)	河野 真子(3 北医事担当)
畑中 幸子(診療情報管理士)	道岡 美香(2 西・N・GCU 医事担当)	蓑田 綾香(4 西医事担当)
上唐湊 芳一(医事課長)	東 知子(3 中央医事担当)	中村 亜希子(3 南医事担当)
東 貴史(医事課長補佐)	針山 朋美(2 南医事担当)	田中 博子(2 北医事担当)
坂口 聖治(ICU 医事担当)	小湊 麻美(2 北医事担当)	
永野 一彰(2 東医事担当)	米満 久美(4 北医事担当)	
柿木 浩希(3 東医事担当)	若松 めぐみ(2 東医事担当)	

議事内容としまして、様々な報告、提案をしています。

(議題)

25.4月

- ・DPC 包括 / 出来高算定 差額比較
- ・症例検討(放射線科)
放射線治療中に脳梗塞を発症 肺癌か脳梗塞かで迷うケース
- ・入院期間区分別割合報告
- ・他院のケースについて (DPC コーディング手順について等)

25.7月

- ・症例検討(泌尿器科)
- ・23 年度、24 年度泌尿器科入院収入比較と対策について
- ・提出データの詳細不明割合について
25 年 4-6 月 詳細不明コード割合平均 2.5%
- ・26 年 4 月診療報酬改正について(案)
DPC 算定ルールについて
機能評価係数Ⅱについて

25.10月

- ・症例検討(循環器内科)
医療資源病名に DIC と肺動脈血栓塞栓症で迷うケース
- ・DPC 支援ソフトについて
Arrows 使用不可 GHC の病院ダッシュボード検討中

26.1月

- ・症例検討(神経内科)
脳梗塞 副傷病付与について
- ・DPC 資源再投入病名の検討
- ・電子カルテシステム変更に伴う DPC 運用の見直し
- ・機能評価係数Ⅱの具体的評価内容

【総括】

適切なコーディングを行うために、関係部署でよく議論し診療報酬請求業務等を行っております。
また、ICD の知識がないと誤ったコードにより、診療報酬請求業務にも影響がありますので、皆でより一層の向上を図りたいと考えております。
先生方にも DPC 制度・請求業務に関して啓発活動をもう少しできたらと思います。
また、DPC のデータを提出していることから行政や患者さんからの評価も受けているとの認識をもち、正確なデータが提出できるよう日々精進していきたいと考えております。

医療安全対策委員会

委員長 松永 俊二
管理者 千田 清美
事務局 益田 阿佑美（報告）

【目的】

本委員会は医療安全対策の確立を促進し、もっと適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。
また、医療事故発生時の適切な対応及び医療事故等の経験を無駄にしないため、原因分析と再発防止策を検討の上、安全教育の場にフィードバックするなど、より強固な安全対策により、医療の質の確保と向上を図る。

【平成 25 年度委員会スタッフ】

松永俊二(委員長)、牟礼洋(副委員長)、昇卓夫、丸山芳一、三浦桂一朗、有村智代、藤山みどり、岩下邦子、千田清美(管理者)、長野みつ美(2月～)、下前百合香、高橋真理(4月～)、室屋純一(～6月)、今堀貴之(7月～)、児島邦幸、齊藤健一、徳永敬之、鈴木聖子、山元真貴子、野口桂一、原口一博、濱田敏彦、岩元正子、宮下道男(～7月)、田中英樹(8月～)向田剛(4月～)、益田阿佑美

(外部)東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室
玉利英子、工藤千佳 (年4回)

【今年度の主な活動】

※看護安全対策委員会との連携

- ・同委員会で特に課題となったアクシデント報告の再検討と対策を図る

※毎週医療安全管理責任者により、インシデント管理システムによる、内容分類別、事象レベル×発生月別、事象レベル別の報告あり、検討を加える

※医療安全対策研修会

H25. 11. 15. (金)

「劇団今給黎による寸劇」

「患者誤認防止のポイント」

「患者確認の基本」

「医療安全に関する意識調査結果報告」

講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社
メディカルリスクマネジメント室

玉利英子

医療安全管理者 千田清美

- ・「患者確認について 25年度の報告より」
部門ごとに展開

※医療安全推進月間

11月24日～12月30日の期間実施する

(安全標語、ポスター作成、安全意識の向上及びレポート入力促進を図る)

※その他、主な検討実施事項

- ・医療安全管理指針改定
- ・安全管理報告とフィードバック
- ・リスクマネジメント関連情報の検討
- ・安全関係委員会からの報告、情報提供
- ・評価機構の安全情報の検討
- ・医薬品，医療機器材料，褥瘡管理者よりの安全情報の検討
- ・安全管理部門カンファレンスの実施(毎週月曜)
- ・院内避難経路・施設ラウンド
- ・その他

病院感染防止対策委員会

委員長 丸山 芳一

委員長 丸山芳一(神経内科、ICD)、 副委員長 川島寿史(呼吸器内科)、立和名聖子(CNIC)

委員 昇 卓夫(病院長)、三浦桂一郎(歯科)、

有村智代、藤山みどり、岩下邦子、近藤ひとみ、酒匂英子、尾之上稲子、末吉美津子、上ノ園洋子、
中村章子、有菌さつき、東 美津子、山下真理恵、上ノ町和呼、田中かすみ、水元英子、上野 京、
稲森優子、松野下恵子、古川秀子、尾堂知子(看護部)、高橋真理、久津輪久世、児玉理子(薬剤部)、
肥後 真(病理部)、竹之内 学(放射線部)、村中利也、今堀小百合(議事記録)(検査部)、
吉川絵里香(リハ部)、斉藤謙一(臨床工学部)、千田清美(医療安全部)、上平田美樹(栄養部)、
小野純子(訪問看護部)、山本あかり、野口桂一(事務部)

Infection Control Team (ICT)

丸山芳一、川島寿史、池田聖子、田中かすみ、有菌さつき、横山睦美、久津輪久世、児玉理子、村中利也、
山本あかり、日高 亮

当委員会は毎月第4水曜日に委員会を開催した。感染状況報告(村中委員)、抗菌薬使用状況(久津輪委員、児玉委員)、院内感染(インフルエンザ、風疹、嘔吐下痢、疥癬など)のコホート調査、発生状況、対応(立和名委員)を行った。また、Infection Control Teamは毎週水曜日2か所の部署を視察して現場にて問題点を指摘した。感染防止の教育として以下の院内講演会を開催した。

感染症講演会

「消毒薬の正しい使い方」 丸石製薬株式会社 八木俊和 平成25年6月21日

「医療廃棄物の分別」 太陽化学 武田晃稔 平成25年12月13日、18日、平成26年3月19日

また、対外的には感染管理Ⅰ相互監査を平成25年10月24日(今給黎総合病院)、平成25年11月29日(南風病院)にて実施した。病院全部門を155項目にわたりA、B、Cの3段階評価を行った。他施設内に立ち入り、お互いの感染防止策に第三者の視点で評価することは極めて有意義なことである。

その他、感染管理Ⅰ、Ⅱ相互カンファレンス(当院、天陽会中央病院、米盛病院3者合同)を4回行った。

第1回平成25年6月12日～風疹、疥癬対策～

第2回平成25年8月21日～針刺し事故対策、HIV拠点病院活動、抗菌薬使用状況～

第3回平成25年10月7日～感染性腸炎、インフルエンザ報告～

第4回平成26年1月15日～リンクナース活動・教育、抗菌薬使用状況～

感染症発生時の主な対応としては平成25年12月、緊急入院患者にガフキー2号検出、同室患者の健康調査を中央保健所指導の下に実施した。幸い感染者は出なかった。

平成26年1月6日入院患者にインフルエンザA発症、お見舞い客からの感染で病室閉鎖、マスク着用の義務化。一部病棟は面会制限を行った。病棟閉鎖による入院制限は医業遂行上の大きな問題であった。以後、2月18日まで面会制限をおこなった。以後も必要に応じて病棟閉鎖、予防服薬など迅速に対処し、パンデミック防止に努めた。

感染防止対策マニュアルの改訂を行った。A-5 感染経路別予防策 2. 接触感染予防策、5. 感染予防対策時のPPE選択および患者対応、A-7 報告が必要な主な感染症、D-2 血管内留置カテーテル関連感染症、D-3 手術部位感染、E 針刺し・切創事故発生時の対応 に改訂をくわえた。

輸血療法委員会

委員長 丸山 芳一

委員長 丸山芳一(神経内科)、副委員長 濱之上雅弘(外科)、小濱浩介(血液内科)

委員 昇 卓夫(病院長)、
有村智代、藤山みどり、近藤ひとみ、中村章子、松野下恵子、有賀さつき、二之宮ルミ子、
久保ひとみ(看護部)、高橋真理(薬剤部)、川井田祐一郎(事務部)、
村中利也、今堀貴之、宝代聡美(検査部)

輸血事故防止と血液製剤適正使用が通年の大きな議題である。型違い・取り違い輸血はもっとも注意すべき事項であるが、過剰な発注、不要な在庫は診療に支障をきたさない範囲で少なくあるべきである。この見地から輸血管理室を中心に輸血事故を起こさず、かつ廃棄血を最小にしつつ迅速な輸血医療を行うべく尽力している。平成 25 年度の輸血血液製剤購入額は 49,571,574 円、廃棄血の金額は 929,635 円で多くは過剰発注による濃厚赤血球製剤の期限切れであった。輸血血液製剤は「返品不可」であることを改めてご理解いただきたい。廃棄血金額は平成 15 年度の 5,707,880 円をピークに今年度は最低記録を更新した。ひとえに適正使用、適正発注の浸透と、輸血管理室の努力による。

自己血貯血は 267 単位、使用は 226 単位(使用率 84.6%)であった。アルブミン/RCC 比は 1.40、FFP/RCC 比は 0.56 であった。少数ながら RCC と FFP の抱き合わせ輸血がみられた。また、血液製剤説明・同意書を副作用等の頻度を加えて改訂した。

診療録検討委員会

委員長 丸山 芳一

委員長 丸山芳一(神経内科)

委員 昇 卓夫(病院長)
有村智代、岩下邦子、近藤ひとみ、上ノ町呼子、尾堂知子(看護部) 千田清美(医療安全管理課)
高橋真理、堀之内智裕(薬剤部) 豊留研二、前迫篤(リハビリテーション部) 上田平美樹(栄養管理部)
川井田祐一郎、東 貴史、野島雄二郎、神野博幸、道岡美香、米満久美、天野里美(事務部)
畑中幸子、小西裕典、黒丸恭弘 (診療情報管理部)

本委員会は毎月第 2 火曜日に開催した。

クラーク採用に際してその目的、仕事内容について診療録記録の観点から検討し、代行入力を取り決めを行った。診療記録の紛失につき検討した。種々の計画書、種々のチェックシート、口頭指示受け書、輸血・抗生剤投与時のチェックフローシートなどが紛失しており、届け出書を作成した。

その他、多くの書式の改訂、新規作成などの承認を行った(レミケード投与バイタルサインチェック、放射線科口頭指示受け、同意書確認署名、輸血承諾書、退院時要約記載指針、諸記録の貸し出し証明書など)。また、過去の内視鏡フィルム、術中写真、スライド、術中 VHS 画像などは個人情報委員会との了解を得て医療記録廃棄として業者委託した。

当委員会の重要な関心事として退院サマリー完成率があるが、残念ながら 100%完成はわずかの差で達成できていない。

当委員会は診療録監査(昇、丸山、近藤、岩下、上ノ町、尾堂、千田、畑中、小西)を毎月第 4 金曜日に実施してきた。細かい指摘を加えて主治医へ報告している。また、診療情報研究会に当院の椎間板ヘルニアの一例の監査に出したところ、SOAP 記載でない、具体的記載がない、日付が間違っている、患者情報が不十分である、術前麻酔医師の記載がない、手術後の記載内容が薄い、経過を把握しているのかなど厳しい指摘があった。クラーク制度の導入で診療録記載補完の充実が期待される。

看護医療安全対策委員会

委員長 山下真理恵(3階南師長)
副委員長 中尾咲子(NICU主任)

毎月第3火曜日に開催。院内インシデント報告、医薬品および医療機器安全管理者からの情報提示、注意喚起文書の配布、院外リスクマネジメント関連情報についての情報共有を実施。25年度の院内報告件数は、1683件（前年度1720件）の登録があり、看護部の割合は1300件で全体の77%であった。報告された事案をもとに、院内体制の評価や管理の現状について検討し改善策の提示を行った。今年10月に電子カルテシステムの入れ替えがあり、旧システムから新システムへの移行に伴うエラーの発生が確認された。ヒューマンエラーは、システムや環境要因により引き起こされることを考え、システム志向でエラーを起こさない、起きたエラーが事故に発展しない安全対策を講じなくてはならない。そのためには、インシデントレポートを活用し、ミスやエラーの発生する原因を検討すること、再発防止策や未然防止策の安全を最優先する取り組みが必要である。

【25年度の委員会活動目標】

- 1、インシデント・アクシデント報告の推進
- 2、患者取り違え防止策の徹底
- 3、投薬管理での5R確認と指差呼称の実践
- 4、事例分析の実践

〈検討事項〉

①院内リスクマネジメント情報

- ・前月の安全管理報告書提出件数・事象レベル・発生事例について報告。
- ・医療機器安全管理および医薬品安全管理責任者からの周知事項の提示。
- ・部署内の時刻管理、留置針の不具合事象に関する取り扱い、インスリン注入器の取り扱い、挿管チューブの破損事例、バックバルブマスクの管理、メラサキュームの接続外れ、硬膜外カテーテル管理、院内転倒事案、PTPシートの誤飲、検査時の義歯の管理について検討。
- ・診療記録物紛失届けの取り扱い、輸血オーダーの不具合事象、抗がん剤プロトコールの運用、ポート針の管理に関する注意喚起など関連委員会からの周知事項の提示。
- ・ダブルバッグ製剤（ビーフリード、エルネオパ）の取り扱いについて製薬会社より解説、各病棟へ取り扱い説明シートを配布。
- ・栄養チューブ管理における栄養チューブ挿入時の安全な確認方法の見直しを行い、推奨される確認方法を検討しナースングスキルのマニュアル改訂を看護業務委員会と共同で実施。

②外部リスクマネジメント関連情報

医療機能評価機構からの医療安全情報、PMDA情報、東京海上日動メディカルサービスからのリスクマネジメント関連情報の紹介。

③薬剤管理、転倒・転落、ドレーン・チューブ管理、事象分析の4チームを編成し課題に取り組んだ。

- ・薬剤チーム：内服薬自己管理の基準の検討。
- ・転倒・転落チーム：転倒転落アセスメントスコアシート活用の現状評価を行い、スコアシートによる患者評価を推進する為の手順書を配布。
- ・チューブ・ドレーン管理チーム：末梢ルートの固定方法についてマニュアルの作成を行い、見直しを実施後に全病棟へマニュアルを配布。
- ・分析チーム：新人スタッフと中堅スタッフの内服薬インシデント事案を2件提示し、RCA分析を実施。

年度末には、各病棟委員においてインシデントレポートシステムの統計分析機能を活用し、自部署のインシデントの傾向と今後の対策について評価を行い今後の課題の抽出を行った。

救急医療部門運営委員会

委員長 西澤 輝彦

当委員会は麻酔科池田部長のお世話でICU、手術室、中央材料部、NICU運営委員会、更に物品購入委員会と合同で月1回開催されています。救急部門は主に救急車受け入れ態勢や休日の当番医の体制などについて討議しています。本年度は毎月のいわゆる「お断り症例」の把握、一覧作成を行いました。また市消防局から当院がお断りした例の時間帯別、疾患別などの統計をいただきました。救急隊側から見ると当院は年間900件以上のお断りがあることが判明しました。数的には明らかに院内で把握できているものとの乖離が明らかとなりました。内容としては他の搬入との重なり、処置中、手術中を理由としたことが多い、夕方から準夜帯にかけての断りの数が多い、内科疾患の急病の断りが多いことがわかりました。

今後、この時間帯の体制強化、複数の同時受入れの体制作り、内科疾患の受け入れ強化を検討して行く方針です。

倫理審査委員会

委員長 今給黎 尚典
小委員会委員長 昇 卓夫
事務局 山本 あかり（報告）

【目的】

今給黎総合病院および昭和会クリニックで行われる医学研究や医療行為に対し、倫理上の対応指針を示すことを目的とする。ヒトを対象とした医学研究については「ヘルシンキ宣言」、日常の医療については「リスボン宣言」を審議上の基準とし、医学的、倫理的および社会的観点から調査検討し、審議する。また、倫理に関する職員への教育、研修などにより、患者の意思の尊重と人権保護の意識高揚を図る。

【H25年度倫理審査委員会委員】

今給黎 尚典、昇 卓夫、大久保 幸一、丸山 芳一、牟礼 洋、寺原 賢人、佐藤 榮一、白濱 浩、有村 智代、藤山 みどり、野口 桂一、原口 一博、前野 浩一、上唐湊 芳一、長野 芳幸(外部委員)、蓑毛 長史(外部委員)

【H25年度倫理審査小委員会委員】

昇 卓夫、丸山 芳一、牟礼 洋、寺原 賢人、白濱 浩、有村 智代、藤山 みどり、野口 桂一、前野 浩一、上唐湊 芳一、山内 茂(外部委員)

【平成25年度 医学研究に関する倫理審議】

小委員会で審議された「医学研究に関する倫理」の申請20件が出席委員全員一致にて承認された。

「日常の医療行為に関する倫理」の申請は無かった。

※ 厚生労働省「倫理審査委員会報告システム」に、委員名簿、手順書、審議録（H25.1～）を掲載。

<URL: <http://rinri.mhlw.go.jp/>>

- No. 103 H25. 4. 12(金)
『StageⅢの治癒切除胃癌に対する術後補助化学療法としてのS-1+Docetaxel 併用療法とTS-1 単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験』
申請者： 外科部長 濱之上 雅博
- No. 104 H25. 4. 12(金)
『リマ・セメントレス・フェモラルシステムの臨床評価(安全性及び有用性)』
申請者： 整形外科部長 石田 育男
(同意書を提出すること)
- No. 105 H25. 5. 17(金)
『顎変形症の手術の術前と術後の摂食嚥下機能の変化における検討』
申請者： 歯科口腔外科部長 吉田 雅司
- No. 106 H25. 5. 17(金)
『口腔外科手術後のドレーンの比較・検討 マルチチャネルドレナージセット(ポレウレタン製)とシリコン製の比較』
申請者： 歯科口腔外科部長 吉田 雅司
(一旦取り下げ、No. 108 で再申請とする)
- No. 107 H25. 5. 17(金)
『顎変形症患者における顎骨移動手術に伴うセファロメトリーによる口腔咽頭腔の形態学的評価と閉塞性睡眠時無呼吸障害に関する研究(京都大学口腔外科との共同研究)』
申請者： 歯科口腔外科部長 吉田 雅司
- No. 108 H25. 5. 22(水)
(No. 106 の再申請)
申請者： 歯科口腔外科部長 吉田 雅司
(承諾書をつけること)
- No. 109 H25. 6. 14(金)
『GM s (赤ちゃんの自発運動)評価と運動発達』
申請者： リハビリテーション部 作業療法士 中村 環
- No. 110 H25. 6. 14(金)
『トキソプラズマ脳症に対するピリメサミン、スルファジアジン内服治療』
申請者： 神経内科 / 在宅診療科 甲斐 太
- No. 111 H25. 8. 9(金)
『乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体 PPSB-HT の緊急時使用に対する許可申請』
申請者： 外科部長 濱之上 雅博
- No. 112 H25. 8. 9(金)
『腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行された患者の手術前後の身体機能の変化』
申請者： リハビリテーション部 理学療法士 高田 奨
- No. 113 H25. 8. 9(金)
『筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病等嚥下障害を来す疾患に対するスコボラミン軟膏の試用』
申請者： 神経内科 野村 美和
- No. 114 H25. 9. 13(金)
『J -BRAND Registry —2 型糖尿病におけるアログリプチンの安全性と有効性の検討—』
申請者： 糖尿病内科部長 盛満 慎吾
- No. 115 H25. 11. 8(金)
『MRI における画質改善の検討』
申請者： 中央放射線部 池田 真一
- No. 116 H25. 12. 13(金)
『肺がん化学療法における発熱性好中球減少症におけるピアペネムの有効性・安全性の検討』
申請者： 呼吸器内科部長 川島 寿史
- No. 117 H25. 11. 8(金)
『アイサートマイクロ 255 挿入後の安全性を前向きに調査する多施設共同の疫学研究』
申請者： 眼科部長 薄井 隆宏
- No. 118 H25. 11. 8(金)
『右開放性距骨体部骨折を呈した症例を経験して』
申請者： リハビリテーション部 理学療法士 上岡 裕明
- No. 119 H25. 12. 13(金)
『虫垂癌におけるムチン蛋白発現に関する臨床病理学的研究 特に予後との関連について』
申請者： 病理診断科部長 白濱 浩
- No. 120 H25. 12. 13(金)
『StageⅢ結腸癌に対する術後補助化学療法としてのS-1+ オキサリプラチン(C-SOX)療法の効果・安全性確認試験』
申請者： 外科部長 濱之上 雅博
- No. 121 H25. 12. 13(金)
(No. 114 の申請について、臨床研究患者登録期間の延長)
申請者： 糖尿病内科部長 盛満 慎吾
- No. 122 H26. 2. 14(金)
『褥瘡患者立脚型 QOL 評価指標の開発研究』
申請者： 褥瘡管理課主任 下前 百合香
- No. 123 H26. 2. 14(金)
『ダットスキャン検査開始における収集条件等確認の為の患者撮影』
申請者： 中央放射線部主任 飯伏 順一

クリニカルパス委員会

委員長 中目 康彦
事務局 古川 秀子（報告）

委員長 : 中目康彦(泌尿器科医師)

委員 : 病院長、医師、副看護部長、各病棟・外来・クリニック看護師、薬剤部
診療情報管理課、臨床検査部、栄養管理課、医事課、リハビリテーション部

【委員会目的・目標】

1. 救急医療に必要なパス作成
2. パスと DPC の連携強化
3. 利用率アップのための現状把握とパスの啓蒙活動を行う
4. パスの電子カルテ導入の準備

【活動内容及び実績】

1. クリニック・外来部門で大腸ポリープ切除術、胃瘻造設術のパスの見直しを行い電子カルテ導入時に活用した。
2. 各病棟に医事課担当者が配属になり 3 年になる。医事課担当者が毎月パス症例数をあげ啓蒙活動に繋げた。
3. パス症例数と利用率の実績評価を各科毎にまとめて連絡会議で委員長が報告した。
4. 10 月に電子カルテ導入が決定し、6 月に契約会社より電子パス導入工程表が提示された。
パス委員の中から各部署より 1 名、計 12 名選出しプロジェクトチームを結成し、週 1 回検討会を開催した。
毎月の委員会で、工程表に基づいて進行状況を確認し、委員会の進め方を提示した。10 月には診療科毎に 1 症例以上、紙パスから電子パス移行を試みた。
平成 26 年 2 月末現在、電子パス 39 症例稼働(承認済み)、作成中の電子パスを 36 症例ある。
5 ヶ月経過し、使用数も増加している。
今後の課題として、電子パスの運用時のポイントの 3 項目で評価すると、①共有化について：用語の標準化（マスター化）に要する時間が短く、日本クリニカルパス学会推奨のベーシックアウトカムマスター（BOM）を使用した。②標準化について：アウトカムごとの標準基準となる観察項目の適正値の見直しを行うことが必要である。特に、アウトカムチェックをどこでおこなうか。バリエーション評価・分析結果をどのように解釈し、PDCA 展開のためにどのようにしていくか検討が必要である。③電子パスの記録について：バリエーション分析を可能にするためにどのような記録体系がよいか検討する必要がある。
上記のことを改善し、電子パス作成マニュアルを検討し、パスの活用推進を行う。

*院内パス大会 2 回実施

(パス委員会より、1 回目：電子化に向けた取り組み、2 回目：電子パスの現状と課題について発表)

- | | | |
|------------------|------|------------|
| 1 回目：平成 25 年 6 月 | 6 演題 | 参加人数 176 名 |
| 2 回目：平成 26 年 3 月 | 5 演題 | 参加人数 110 名 |

*日本クリニカルパス学術集会参加 4 名

NST委員会（栄養サポートチーム）

委員長 生野 博久
報告 鈴木 聖子

【目的・目標】

栄養サポートチーム（以下:NST）とは、栄養障害のある患者様に対し、生活の質の向上、原疾患の治癒促進、感染症などの合併症予防を目的とした多職種で構成されたチームです。当院のNSTは主治医からの申し込みを原則としています。栄養管理を行うためには、主治医の治療との連携が必要であるという理念からです。多岐にわたる病態に応じた、適切な助言・補助ができるよう今後も努めて参ります。

【活動】

2005年4月に日本静脈経腸学会より、NST稼働施設認定を受けカンファレンス・回診を行っています。構成メンバーは、総合内科医師・口腔外科医師、管理栄養部、褥瘡管理課・薬剤部・中央検査部・リハビリテーション部・看護部・事務部です。毎週カンファレンス・回診を実施し、あらゆる職種の視点から知識を出し合い患者様の栄養改善に取り組んでいます。平成23年6月から、栄養サポートチーム加算の算定を開始するにあたり、栄養管理についてオンコール体制で院内外からの相談に応じております。また、地域医療における貢献の一つとして、院外からの研修視察を受け入れております。

【委員】

内科医2名、歯科医1名、看護師長1名、看護師主任1名、看護師各病棟より1～4名、褥瘡管理課看護師2名、薬剤部4名、リハビリテーション部7名、臨床検査部4名、管理栄養士2名、事務部2名

主な活動内容

●NST対象者スクリーニング

臨床検査部の協力により毎週1回、血清Alb3.0g/dl以下（平成25年6月より2.5g/dl）の患者様をリストアップしその中から介入者を抽出、対象者のスクリーニングを実施しています。

●NSTカンファレンス 毎週火曜日 14時30分～

参加者:医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師

アセスメント:身体計測・臨床検査データ・栄養量などの推移を確認

ディスカッション:各アセスメントを踏まえ、栄養補充方法やルート、内容について検討

ミニ会議:NSTコアメンバー（運営委員）での検討事項の確認や伝達事項の確認

●NST回診 毎週火曜日 15時30分～

参加者:医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師

カンファレンスを基に患者の身体状況の確認 栄養投与ルートの確認と現在の問題点の把握、リスクマネジメント、患者様やご家族への説明指導、主治医への提言

●NST会議 毎月第1水曜日 13時15分～

NST委員会からの報告

病棟NSTからの報告や情報共有

NST専門療法士などによる学会報告や症例検討会

●NST勉強会 奇数月17時30分～18時30分

栄養に関する知識向上のため、院内院外から講師を招き自発的な勉強会を開催しています
平成25年度は院外から講師を招聘しサルコペニアに関する研修会を開催しました。

参加者179名（うち院外47名）

内容:「急性期から考えるサルコペニア」

社会医療法人社団熊本丸田会 熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科 吉村 芳弘 先生

●研修・視察の受け入れ

平成26年1月23日他施設より薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・検査技師各1名視察
当院でのNST活動方法やシステム運用などについて視察研修されました。

●院外での報告

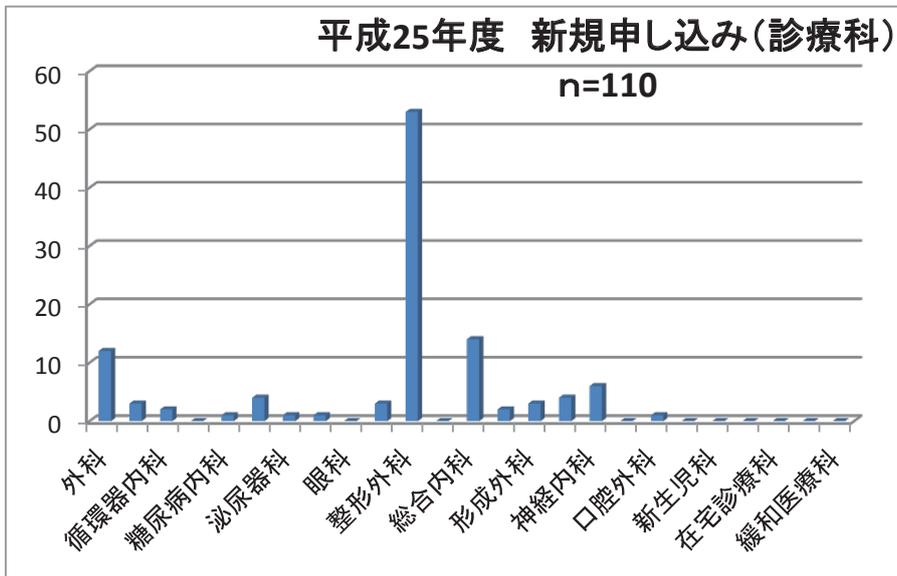
- 平成26年1月19日 九州山口口腔ケアシンポジウムin鹿児島
「当院における口腔ケアと食事・栄養」～多職種と協働する口腔ケアを目指して～
シンポジスト 鈴木聖子
- 平成26年2月28日日本静脈経腸栄養学会2014 パシフィコ横浜
「採血へのNSTセット導入の試み」
ポスター発表 生野博久

●その他

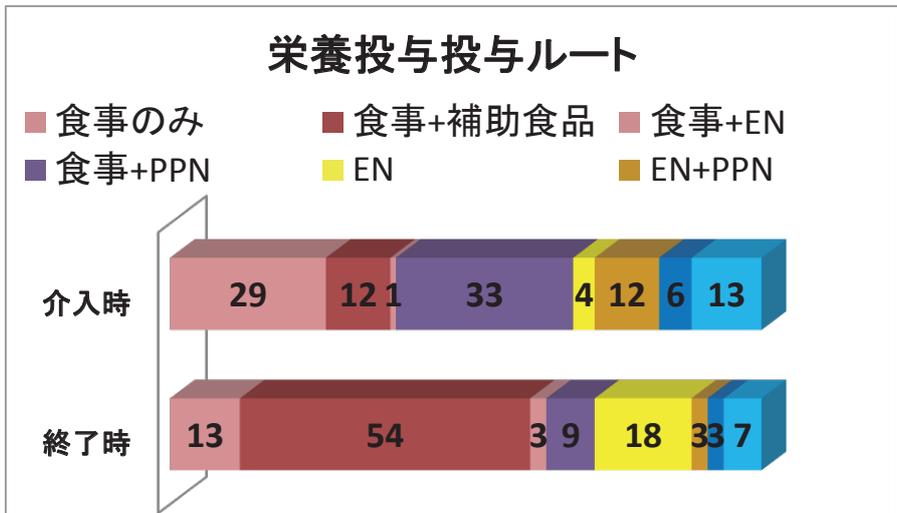
日本静脈経腸栄養学会認定 NST 専門療法士
薬剤師 1名 看護師 1名 合格

(年間報告)

年間依頼件数 110名 年間回診述べ件数 555件

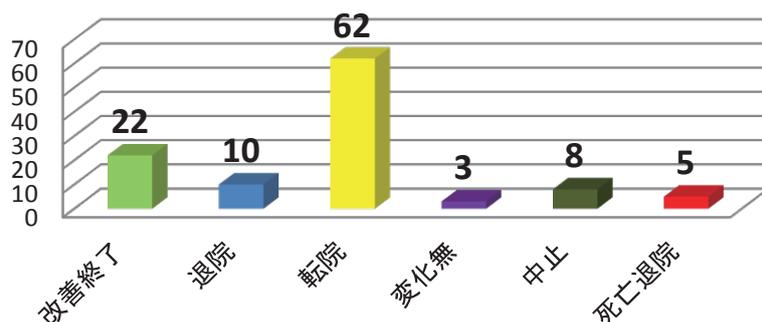


診療科別の依頼件数を示します。整形外科の 53 名。次に総合内科 14 名、外科 10 名、形成外科 7 名であり、脳神経外科・神経内科が各 5 名、消化器内科 4 名、呼吸器外科・皮膚科・呼吸器内科が各 3 名、循環器科・泌尿器科・口腔外科が各 1 名でした。



栄養投与方法を介入時と終了時で比較しました。NST では患者様に合った栄養療法を目標に投与ルートの検索を行います。食事 + 輸液の併用であった患者様が 33 名より 9 名へ減少し食事と栄養補助食品での併用が 12 名から 54 名へ増加しています。

平成25年度 終了時の転帰



終了時の転帰は全体の56.4%にあたる62名が転院にて終了です。

今後も栄養管理が継続できるよう、情報提供を行ってまいります。

平成25年度は、1年間で110名の依頼があり555件のカンファレンス・回診を実施しました。整形外科からの依頼が最も多く、次いで総合内科、外科の患者様の依頼がありました。当院は急性期病院でありNST介入患者様も全体の56.4%が転院の転帰となっております。そのため、切れ目なく栄養管理を継続できるよう、NST介入患者様が転院や施設へ退院する場合は、栄養情報提供書を送付しております。来年度も引き続き、栄養管理の重要性を院内外に啓蒙しつつ、患者様の栄養管理が行えるようサポートしていく所存です。また、今後は退院後や術前の外来時より栄養管理が必要な場合はご依頼いただけるよう体制を整えて参ります。

医療情報システム委員会

委員長 西澤 輝彦

医療情報システム委員会（通称システム委員会）は通常は月一回、木曜日に定例の会を行っています。特に新しいシステムの運用開始時には臨時の会議や実際的な運用を決めるためのWG（ワーキンググループ）を適宜行っています。単に電子カルテの運用だけではなく、病院全体のシステム化に向けて全領域からの参加があるのが大きな特徴です。

平成25年度は電子カルテの更新がなされました。4月末に電子カルテベンダーをソフトマックス社からソフトウェアサービスへの変更を決定しました。5月から導入作業を開始し五か月の短期間で10月1日から新システムが無事稼働することができました。その間、操作指導や運用面の詰めが行われ多くの職員の協力をいただきました。以前から進めてきたサーバーの仮想化に関しても従来のJBCCからアルゴグラフィックス社に変更し、従来の電子カルテを仮想サーバー上に置き簡便に参照できるシステムを構築することでデータ移行の問題をクリアしました。12月末までベンダーに常駐していただき細かい修正を行いました。その後は運用の流れの変更に伴って発生する問題を解決しながらブラッシュアップを図っています。

褥瘡対策委員会

委員長 形成外科 信太 薫
褥瘡管理課 下前 百合香 (報告)

平成25年度の日本褥瘡学会学術集会において、褥瘡と医療機器関連圧迫創を区別するよう示唆され本年度報告より、分けて報告する。

褥瘡対策が必要な患者数は、年間3586名で入院患者数の約44%であった。そのうち、褥瘡ハイリスク対象患者数は2051名で褥瘡対策患者の約57%を占めていた。年々高齢者の入院が増加しており、ハイリスク項目では皮膚脆弱が約72%を占め、褥瘡や皮膚トラブル発生リスクは高い状態であった。しかし、褥瘡・医療機器関連圧迫創総数は、昨年より111件減少しており、褥瘡推定発生率は、全国平均以下の月が増え、医療機器関連圧迫創を省くと1%以下の月も多くなった。全病床が徐圧マットとなり、Airマットへの変更も可能であり、患者状態に合わせた寝具を提供できる体制となった。又、5月にポジショニングクッション(バナナフィット:75個、ウェルビータイプ:20個)を新規購入、ポジショニンググローブ50組を追加購入し、各病棟や外来・リハビリへ配置した。既存のネットクッションも利用し、リハビリスタッフによるポジショニング指導も行っており、その成果もある。ポジショニングクッションは不足しており、衛生面を考慮すると、レンタルクッションの導入や体位変換による夜間の睡眠障害が問題となっており、自動体位変換付マットレス導入の検討も今後必要と考える。

年々、褥瘡予防に対するスタッフの認識が高まり、効果的な予防ケアが行われるようになってきた結果と思われる。

平成24年度より、褥瘡対策が入院基本料に包括され、各病棟師長・主任・褥瘡対策委員を褥瘡管理者で登録し褥瘡診療計画書作成やケア内容を確認することで、責任感が生じたこともあり、良い結果に繋がったと考える。

褥瘡ハイリスク患者に対しては、褥瘡管理課にて訪問し患者状態を確認後、病棟Nsへケア内容を確認し指導している。

褥瘡発生部位は仙骨から臀部周囲と下腿が多く、医療機器関連圧迫創ではBiPAPマスクが最も多かった。

治療規制もあり体動制限や末梢循環障害など全身状態悪化・栄養低下があり、予防困難な症例もあった。

診療科別では、院内発生は整形外科が37%と最も多く、院外は整形外科27%、総合内科23%であった。

褥瘡回診は毎週月曜日:14時より形成外科医・WOCN・褥瘡学会認定Ns・リハビリテーション部・栄養課・薬剤部と共に各病棟を訪問し、褥瘡評価を行い、病棟Nsと褥瘡回診チームにてケア内容の評価を行い、褥瘡経過記録を作成しケア統一が図れるようにしている。又、褥瘡患者転院時のサマーは、継続し褥瘡管理課にて情報提供を行っている。

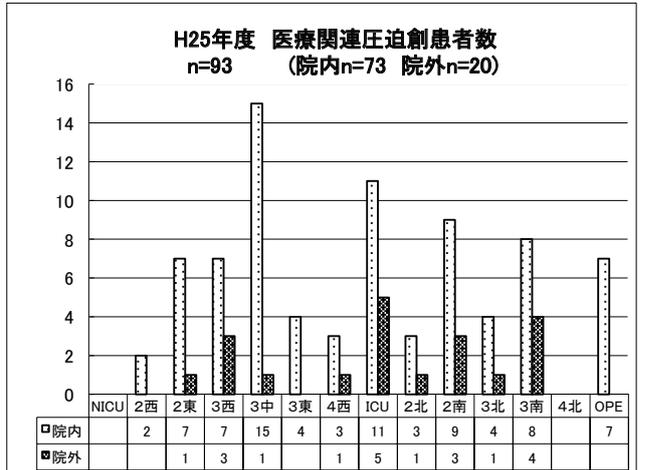
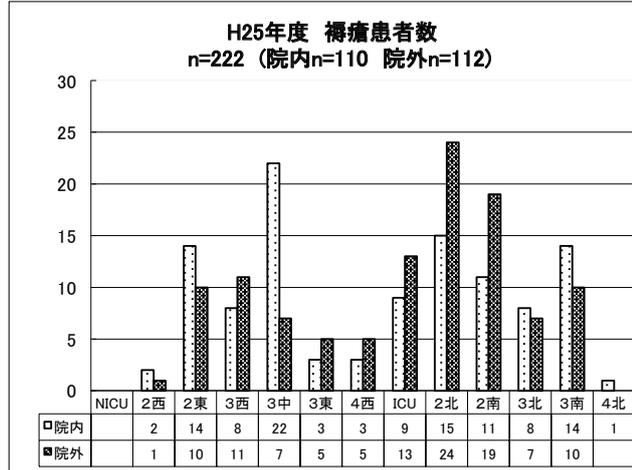
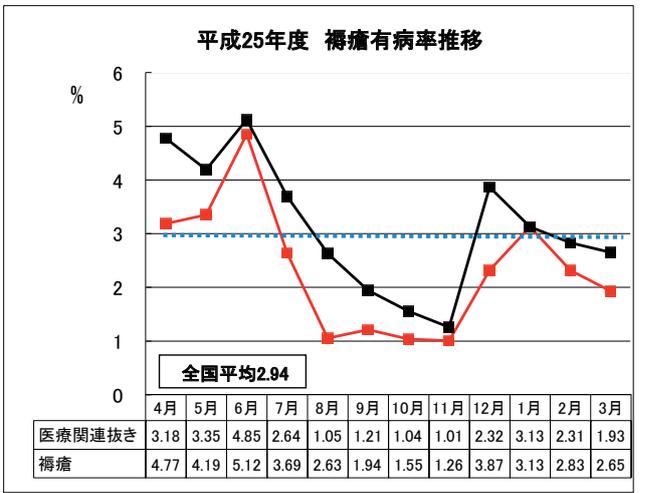
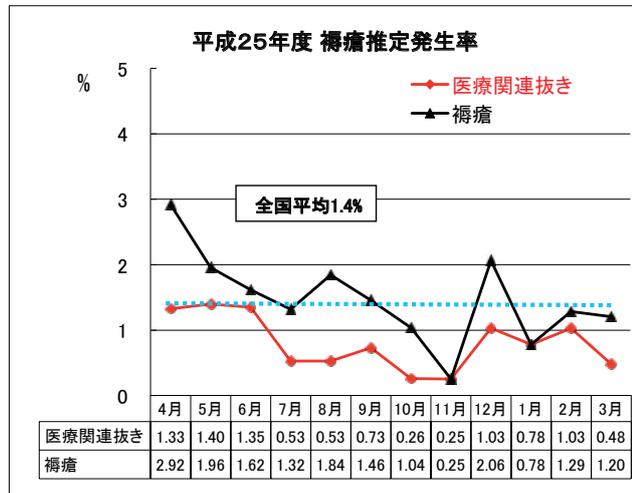
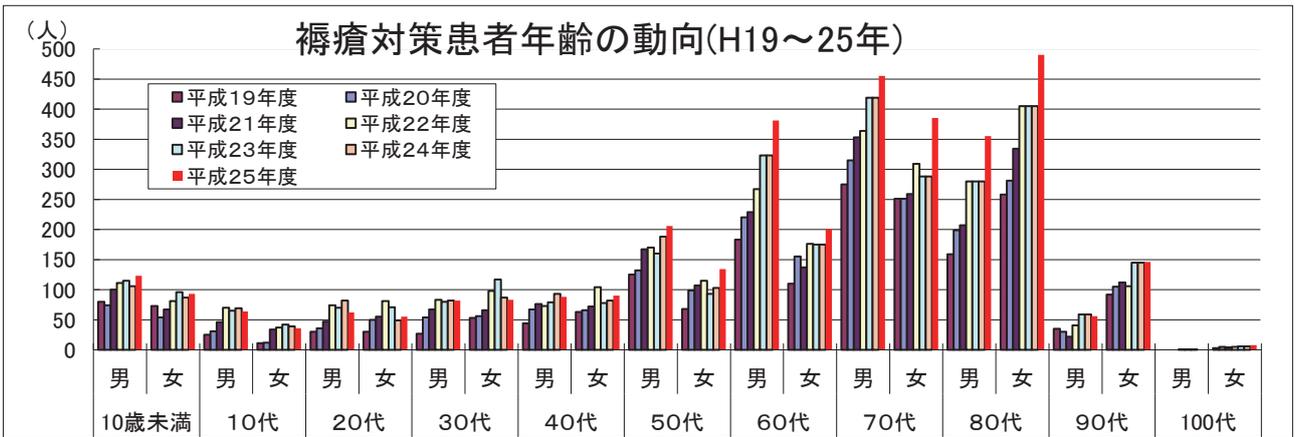
10月より電子カルテシステム変更に伴い褥瘡関連記録も変更となり、基本的な考えは同じであるが、記録に混乱が生じた。又、統計処置ができる予定であったが、データの一部に不備があり、今後修正が必要である。

院内勉強会は偶数月に開催し、リハビリ部にも講義を依頼し参加人数は60~140名/回で、498名と昨年より少なかったが、8月は講義室が全面使用できず参加者を絞ったことや、2月は感染対策にて中止したことが要因であった。

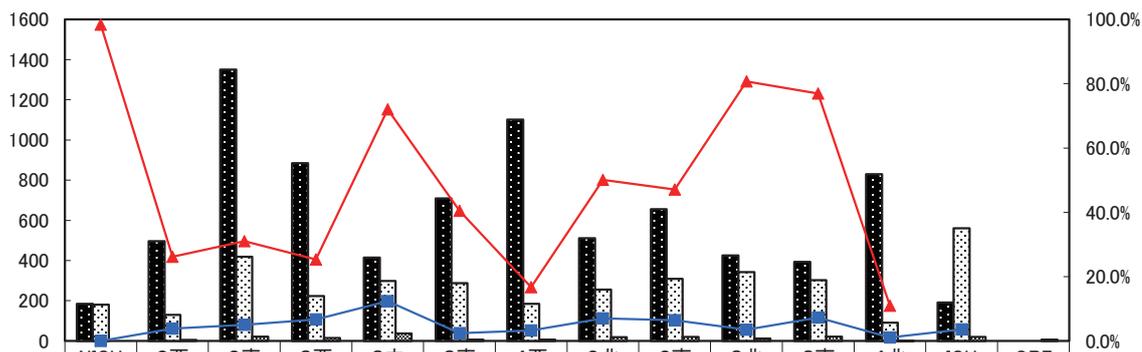
日本褥瘡学会学術集会では、褥瘡対策チームで参加し、リハビリスタッフが口演発表を行った。

	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
4月	684	125	162	14	53	43	18	44	2	116	21
5月	650	130	172	12	68	49	13	45	1	125	20
6月	647	131	143	14	49	49	24	32	2	98	26
7月	753	133	178	8	65	42	13	43	2	137	21
8月	708	117	157	9	59	41	13	24	2	119	19
9月	683	137	169	11	66	44	18	37	3	126	11
10月	673	123	173	13	64	59	15	53	2	119	15
11月	679	127	190	6	66	48	19	54	2	135	11
12月	681	127	196	22	71	53	10	43	0	141	25
1月	659	122	179	13	69	51	18	35	1	139	26
2月	634	108	170	13	48	45	15	38	1	111	23
3月	685	155	162	8	51	42	13	46	1	110	17
計	8136	1535	2051	143	729	566	189	494	19	1476	235

	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
NICU	184	16	165		58	2				165	
2西	485	118	12	1	5	7				5	2
2東	1350	235	183	11	66	34	5	9	9	167	24
3西	885	92	132	3	90	39	1	14	1	112	22
3中	415	106	193	3	54	27	18	89		110	29
3東	711	198	89	4	34	8	1	16		88	10
4西	1100	121	63	1	10	1	2	5		58	8
ICU	189	48	513	98	192	359	149	222	1	204	31
2北	511	99	157	7	97	6		2	7	156	33
2南	656	138	171	11	75	3		4	1	158	28
3北	427	155	188	4	23	48	6	64		132	16
3南	394	133	170		25	31	7	64		111	31
4北	829	76	15			1		5		10	1
計	8136	1535	2051	143	729	566	189	494	19	1476	235



平成25年度入院患者総数と褥瘡対策患者および、褥瘡発生割合(病棟単位)



	NICU	2西	2東	3西	3中	3東	4西	2北	2南	3北	3南	4北	ICU	OPE
入院患者数	184	496	1350	884	415	709	1101	511	656	425	394	829	191	
対策者数	181	130	419	224	299	287	184	256	309	343	303	91	561	
院内褥瘡		5	21	15	37	7	6	18	20	12	22	1	20	7
要対策割合	98.4%	26.2%	31.0%	25.3%	72.0%	40.5%	16.7%	50.1%	47.1%	80.7%	76.9%	11.0%		
発生率	0.0%	3.8%	5.0%	6.7%	12.4%	2.4%	3.3%	7.0%	6.5%	3.5%	7.3%	1.1%	3.6%	

看護業務委員会

委員長 稲森 優子

【目的】 看護業務の統一化並びに、看護水準の維持、向上を図る事を目的とする

【H26 年度目標】 看護基準・看護手順を活用し統一した看護を実践する

【開催日時】 毎月第3水曜日 13:30～14:30

【委員】 有村看護部長 近藤副部長 中村師長 山下師長 副委員長 日高主任 小川主任・病棟・手術室・外来・クリニック 各委員1～2名

【活動内容】

- 4月～5月 疾患別看護基準作成・見直し/ナーシング・スキルの見直し
- 6月 ナーシング・スキルの見直し 持続栄養注入栄養セット交換について手順変更
- 7月～ ナーシング・スキルより課題設定、2項目をチェックリスト入力及びテスト開始
テスト結果80点以上を目指し病棟全体テスト未実施8割以下は再テスト
全身清拭/静脈採血
- 8月 陰部洗浄/手指洗浄・消毒 ナーシング・スキルの見直し
- 9月 スタンダード・プリコーション/足浴
輸液セット・CVドレッシング交換の手順変更 ナーシング・スキルの見直し
- 10月 直腸内与薬 ナーシング・スキルの見直し
- 11月 浣腸/手浴 ナーシング・スキルの見直し
- 12月 酸素療法/中心静脈カテーテル ナーシング・スキルの見直し
- 1月 酸素吸入療法/酸素ボンベの取り扱い ナーシング・スキルの見直し
- 2月 口腔内・鼻腔内吸引/気管内吸引 ナーシング・スキルの見直し

(評価)

今年度は各病棟より主な疾患の看護基準として病態生理を始め主症状・治療・検査・看護の問題点・看護診断・経過・観察・安静・食事・清潔・看護を枠として作成に取り組んだが、同疾患での外科内科系での病態生理の統一化が図れず、次年度に持ち越す事となった。また、ナーシング・スキルが導入され、PDFからの閲覧も可能となり、委員よりスタッフへの周知を図り活動してもらった。各病棟へ1台ずつインターネット機能のパソコンも配置され、看護技術を映像で確認・習得できスタッフ教育・研修にも利用し大いに活用していきたい。

看護記録委員会

委員長 上ノ町 和乎

【目標】 患者が見える看護記録の取り組み

看護部長 有村 智代
副看護部長 岩下副看護部長
委員長 上ノ町 和乎
副委員長 新徳 まゆみ アドバイザー 松野下 恵子

〈委員〉

2西 末増 枝里子	NICU 山下 奈津紀	2東 松脇 奈々恵	中馬 聖藍
3西 岩下 結花	3中 永田 恵里	3東 野上 愛	北野 美鈴
4西 出口 忍	ICU 黒坂 愛子	2北 池増 さおり (4月まで)	新徳 まゆみ
2南 徳 恵梨香	井上 勇哉	3北 内田 志帆	安田 有希
3南 松平 美紀	前原 瑞紀	4北 西 洋子	
手術室 岩切 まどか	外来 窪田 みどり	クリニック 稲子 幸枝	高倉 加代子

【平成25年度の検討事項】

- 4月・ICUのせん妄評価表の見直し
 - ・インシデント、アクシデントの記録について資料の読み合わせ
 - ・テンプレートの検討（転倒・転落 ドレイン・チューブ類の使用 血管外漏出）
- 5月・眼科退院指示について
 - ・病日入力間違いについて
 - ・手術患者チェックリストのバイタルについて
- 6月・記録監査について
 - ・ソフトウェアによる勉強会受講方法について
 - ・看護計画見直しについて
- 7月・テンプレートの検討
 - ・手術患者チェックリストのスキヤン不備内容について
 - ・ソフトウェアによる看護計画修正ファイルの入力法説明
- 8月・テンプレートの追加・修正
 - ・経時記録導入にあたっての学習内容について
- 9月・排便のスケール表の活用について
 - ・新電子カルテの経時記録について
 - ・テンプレートの確認
- 10月・看護計画見直しについて
 - ・行動制限チェックシートについて
- 11月・新電子カルテ稼働状況についての確認
- 12月・麻薬使用時の記録の方法
 - ・症状記載基準の追加・修正
 - グループ検討（1回目）
 - ・輸血運用について

平成26年

- 1月・平成25年度の評価発表
 - ・転棟サマリーの見直し
 - ・看護必要度について
 - 2月・転棟サマリー新運用について
 - ・症状記載基準の追加・修正
 - 3月・心電図経過記録表について
 - ・術前申し送り事項内容の検討
 - ・看護処置の酸素やレスピレータ等の入力について
 - ・症状記載基準の追加・修正
- グループ検討（2回目）

平成25年度看護記録委員会活動報告

患者が見える記録の取り組みを目標に年間計画を作成したが、10月から新電子カルテへ移行との情報を受けて、新電子カルテ稼働がスムーズに行くことを優先に活動してきた。看護記録もフォーカスチャータリングから経時記録へ変更となるため、記録内容の検討、看護計画、観察項目、オーダー内容なども含めて検討し、その結果10月からの稼働は出来たが、運用していく中で新たな課題が出てくると思われる。今後も患者の見える看護記録を目標に取り組んでいきたい。

看護部入退院支援調整委員会

委員長 近藤 ひとみ

【目的】 各部署における円滑な入退院支援調整の実践を支援することで、患者の早期退院・ケアの質の向上を図ることを目的とする。

【目標】 1. スクリーニングシートの活用
2. アセスメントシートの活用
3. カンファレンスの実施
4. 指導等の実施

【委員】 看護部長 有村 智代
副看護部長 岩下 邦子
委員長 近藤 ひとみ 副委員長原田副師長・大野主任
2西 栄多陽子 2東 赤坂美保 NICU 宮崎由香里 3西 金子さおり
3東 下水流智美 3中 元吉亜里沙 4西 朝廣美香 ICU 小野保代
2北 赤崎みずえ 上野師長 2南 都甲あずさ 井上勇哉
3北 前田ゆかり 3南 外園春香 新川知沙 4北 上温湯和美
外来 中馬たまみ クリニック 上山真紀
MSW 原口一博 吉満実 上西章子 田中富美都

【活動内容】

退院調整マニュアルの読み合わせ・見直し
事例プレゼンテーション（グループワーク：毎月）
退院指導パンフレットの見直し・作成
他施設実習
グループワーク・演習
退院調整加算算定状況の報告
地域連携入退院支援月刊情報誌の購読・活用（6冊／年間：輪番制）

【反省】 スクリーニング・アセスメントシートをほとんどの部署が活用していない前年度の反省の結果を踏まえ、活用できるシートへの見直しを行った。しかし、活用している部署もあれば未だにシートの記載漏れ・不備のある部署もあるなど差異が生じた。また、カンファレンスの実施については、多職種を含めたカンファレンス日を設定するなどの工夫のみられた部署もあるが、全体的に実施されていないという結果であった。指導等の実施については、パンフレット使用での指導が定着してきつつあるが、十分な退院支援が出来ているとは言い難い状況であった。来年度は受け持ち看護師の役割に着目し、受け持ち看護師がどのように退院支援に関わっているか退院支援の現状や認識の調査を実施、受け持ち看護師の役割に関する課題を明確にし取り組みたい。そうすることで受け持ち看護師としての意識の向上と責任感を持つことができ、適切な支援が実施できると考える。

臨床検査適正化委員会

委員長 白濱 浩
事務局 村中 利也(報告)

平成25年度臨床検査適正化委員会は、精度管理報告、新規検査項目の実施、外注化項目の決定や中止、検査運用の変更等、臨床検査の適正化を目的、目標に年2回程度開催しています。

●委員会スタッフ

委員長	白濱 浩	(診療支援部長)
副委員長	佐藤 榮一	(中央臨床検査部長)
副委員長	生野 博久	(総合内科部長)
委員	岩下 邦子	(看護副部長)
	尾堂 知子	(外来看護副師長)
	濱田 敏彦	(クリニック事務長)
	御供田 貴之	(経営企画課長)
	東 貴史	(医事課長補佐)
	村中 利也	(中央臨床検査部技師長)
	山崎 泰代	(中央臨床検査部主任)
	宝代 聡美	(中央臨床検査部：議事録担当)

●平成25年度の活動内容

(精度管理報告)

平成25年度日本医師会臨床検査精度管理報告
参加項目数49で総合評点98.6と良好な成績でした。

平成25年日本臨床検査技師会精度管理報告
197項目中194項目がA～B判定であり良好な成績でした。

(新規検査システム、機器、検査項目等の更新)

生化学自動分析装置の更新

2013年6月1日より変更(日立7180より日本電子BMへ)
新機器への変更はスムーズに行われ、また、今現在安定して測定可能となっている。前機器と比較し試薬が安価でメリットがある。

検査システムの更新

2013年10月1日より更新(シスメックスCNAより日本電子CLALISへ)
前検査システム(14年使用・CNA)は終盤トラブルも多発していたため新検査システムへと更新された。新システムは生化学検査機器と同メーカーであるためメリットも大きい。導入当初は新電子カルテ導入時期と一緒にあったこともありトラブルも散見されたが、今現在大きなトラブルもなく運用されている。

血球沈降速度測定機器新規導入

前測定機器の老朽化が進み、かつ、部品が製造中止となった為新測定機器を導入となった。レート法により、1時間値を30分で、2時間値を1時間で測定可能なため検査時間の短縮が可能となっている。また、採血も従来法より少量で済むようになっているが、採血時の注意事項がある為看護部にはメールと案内を配布し、現在問題なく検査可能となっている。

マイコプラズマ抗原検査(定性検査)

2013年12月9日より院内で検査、咽頭ぬぐい液を専用綿棒にて提出。
電子カルテのオーダーはインフルエンザの上に設定。
結果は約40分、保険点数：150点、判断料：144点
小児科の協力のもと進められ、感度は少し低いですが臨床診断において大きな問題はないとの判断であり導入された。感度においてはサンプル(綿棒)の取り扱いで感度が左右されることがある為、案内パンフレットを配布済みである。

蓄尿安定化剤ユリメジャータブレットにより蓄尿C-ペプチド、蓄尿蛋白、蓄尿アルブミンの同日検査が可能となった。

C-ペプチド測定のための前安定化剤では、蛋白、アルブミンが低値傾向であった為、同日に依頼があった場合2日に渡って蓄尿をお願いしていたが、新安定化剤導入により3項目同時に測定可能となり蓄尿が一日で済むようになった。

(検査項目の変更、中止)

血液凝固第13因子活性検査変更のお知らせ

院内で測定しておりましたが、検査依頼減少の為、平成24年11月よりKMLへ外注変更致しました。緊急対応で1時間程で結果報告致します。測定方法は従来同様ラテックス比濁法で基準範囲は70～140%です。

クオンティフェロンTB検査受託一時中止について

特定ロット採血容器の品質上の理由により、供給停止となり検査受託一時中止となります。代替項目として結核菌特異的IFN- γ (T-SPOT. TB)の検査を受託開始します。検体：ヘパリン加血液 9ml (常温) 方法：ELISPOT
法 所要日数：4～5日 検査実施料：630点、判断料：144点
検査委託先：KML 月曜～土曜 14時までに提出

便潜血検査反応容器変更

改良版の測定キットはサイズがコンパクトになり、検体滴下量も減少し、また有効期限が前キットよりも長いためメリットも大きく、問題なく移行が行われ運用されている。

(その他)

夏季に稼働となったクリニック検査室の温度センサーは、稀に誤報があるが問題なく作動しているとの報告がされた

以上のことが2回の委員会で報告、決定されました。

看護教育委員会

委員長 藤山 みどり

看護教育の委員長として毎年教育計画を立案し、実施、評価していきますが、いつも反省に上る事があります。もっと早い段階で、年間計画を日時まで決めてスタッフへ周知したいという事です。27年度計画は早々に計画を立ててまいります。

当院の教育は、レベル1は新人看護師、レベル2は2年目、レベル3は3年目、レベル4は4年目以降とし、レベル4の中は12に分けています。①医療安全 ②感染対策 ③救急看護 ④呼吸器ケア ⑤がん看護 ⑥倫理 ⑦離島研修 ⑧教育 ⑨看護研究 ⑩基礎技術 ⑪看護管理 ⑫中途採用者研修です。レベル4の中を多く分ける事で1回の研修人数を20名～30名とすることができます。しかし、研修の予定は増え、(月10～11位の研修があります。)毎月研修場所を確保する事が大変になり、他の集まりに迷惑を掛けているかも知れません。25年度の院内研修は91テーマ実施しました。院外研修へは、109テーマに参加していました。

患者図書室運営委員会

委員長 昇 卓夫
報告 大原 美保子

【委員会目的・目標】

患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討し、また患者図書室としての意向を反映できるようにする。

【患者図書室目的・目標】

患者さんご自身が病気や検査・治療法について理解を深め、医療提供者の医療に関する説明の質と効率の向上を図り、協働の医療を促進する。

【委員会構成】

医師(病院長・運営委員長)1名、看護部1名、リハビリテーション部1名、患者サポートセンター1名
緩和医療課1名、事務局(事務局長、総務企画課)3名、総務企画課 学術情報室 2名。
上記のほかボランティア運営委員会委員(人事課)1名が参加。

【平成 25 年度の活動内容・実績】

患者図書室運営委員会の開催は 2 回。利用統計・蔵書点検・ボランティアスタッフの活動状況の報告や運営に関する細部の取り決めを行った。次年度は開催回数を増やしたい。

患者図書室『すまいる』は、NPO 法人『医療の質に関する研究会』の『患者図書室プロジェクト』の支援により、平成 26 年 4 月 19 日にオープンした。室内什器・装飾、図書、運営マニュアル、蔵書管理システムなどはプロジェクトの寄贈による。

ボランティアスタッフを中心に原則 2 名ずつで運営しており、25 年度は 19 名のボランティア登録者が活動した。

25 年度は延べ利用者数 2,102 人、1 日平均利用者数 9.2 人、入院患者比率 46.3%、図書貸出数 291 冊であった。開設場所が本館 7F でありアクセスがよくないこともあり、利用者数は多いとは言えないが、室内は落ち着いたデザインで見晴らしの良い場所であり、利用者からは好評をいただいている。

開設当初は入院患者への貸出を 1 人 1 冊としていたが、対象者を職員へも拡大し、1 人 2 冊までとしたことで、貸出数が増加している。

平成 26 年度はまずは、患者さんへの紹介や患者さん同士の口コミにつながるよう、職員への認知度の向上や利用の促進を図りたい。様々な部門の職員の利用をお願いしたい。

がん看護委員会

委員長 大西 玲子

【目的】

- 1：地域がん診療拠点病院であり、がん患者と家族がどの時期であっても安心して治療・療養できるように病院全体のケアの質向上を図る。
- 2：院内における治療期から看取りにわたって緩和ケアの問題点などを議論し、緩和ケアへの関心を高め、本委員会で一緒に考えることによって質の向上を目指すことを目的とする。
- 3：院内で実施されているがん化学療法が“確実に”“安全に”“安楽に”行われるよう支えることを看護師の役割として自覚し、実践できるよう問題の共有化をはかり、対策を講じていく。

会議開催：毎月第一木曜日 16時30分～17時30分 医局3階

平成25年度委員長 大西玲子

平成25年度委員

2 東：村崎まこと, 有村康子, 久永可奈子 2 西：松永雅美 NICU：原田純子
3 西：立石佳子, 大脇三枝 3 東：木原知美 3 中：穂満一代 4 西：仮屋由美
ICU：磯崎美幸 2 北：池田美智子, 田川万里子, 近川優美 2 南：屋野由貴
3 北：永尾幸江 3 南：杉山沙矢香 4 北：松山真衣
外来：布市民子, 同免木直美, 加治屋加代子, クリニック：入江田徳美
緩和医療課：植屋明代, 森友紀, がん化学療法課：河原尚美

【活動内容と実績】

- 5月「アレルギー・過敏症の場面に遭遇したら」講義, グループセッション
- 6月～7月「看取りについて」
- 8月「倫理的事例検討」
- 9月「カンファレンスを上手に活用するためのコツ」
- 10月「看取りパンフレットの検討」
- 11月「逝去時の対応」講義, ロールプレイ
- 12月「エンゼルメイクについて検討」
- 1月「抗がん剤の暴露について」
- 2月「精神症状のアセスメント Q&A」Dr. 小玉による講義

平成24年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、今まで以上に質の高いがん看護の提供が求められています。本年度より、今までコアメンバーで開催されていた緩和ケアネットワーク会議を改め、がん看護委員会として全病棟の看護師が参加する会議を発足させました。

発足1年目はがん看護委員と共にがん看護の質向上を目指し、治療期から終末期までのがん看護における困難感などを考えながら様々なことに取り組みました。1年間の取り組みによりがん看護委員会としてがん看護実践能力がレベルアップしたことで、各部署のがん看護実践の質向上へつながる第一歩になったのではないかと考えています。

医師臨床研修管理委員会

委員長 昇 卓夫
副委員長/プログラム責任者 牟礼 洋
事務局 山本 あかり (報告)

【委員会目的・目標】

本委員会の医師臨床研修活動は、医師としての基盤形成期において、人格の涵養性、プライマリ・ケアの基本的な診療能力等を習得し、将来の地域医療を担う専門医の育成を目的とする。また、研修に専念できる環境の整備を図る。

【H25 年度委員】

(指導医)昇 卓夫、牟礼 洋、西澤 輝彦、松永 俊二、長堂 竜維、前田 正彦、大場 一郎、川島 寿史、濱之上 雅博、米田 敏、井尻 幸成、堀之内 兼一、加藤 明彦、池田 耕自、生野 博久、高木 信介、中目 康彦、盛満 慎吾、小濱 浩介、薄井 隆宏、指宿 敦子、丸山 有子、田代 幸恵、中禮 久彦、今給黎 尚幸、鉾立 博文、西山 淳、下舞 浩二、三宅 健治、松邨 宏之、高橋 誉(谷山病院；研修協力型病院)、浜畑 弘記(長島町立鷹巣診療所；研修協力施設)、長野 芳幸(外部委員)
(指導医以外)有村 智代、高橋 真理、兒島 邦幸、村中 利也、室屋 純一、上平田 美樹、野口 桂一、原口 一博、永井美由紀、山本 あかり

【平成25年度の活動内容及び実績】

平成 25 年度は、基幹型初期臨床研修医 3 名(佐保、中間、大田)を採用、鹿児島大学病院の協力型として研修医 3 名(宮本、田中、木下)を受け入れ、合計 12 診療科で指導を行った。5 名の上級医が指導医講習会を修了し、厚労省指定の指導医は計 20 名(全常勤医の約 26%)となった。また、研修プログラム責任者講習会を副委員長が修了した。

本年度の新たな取り組みとして、救急部門における協力型研修医受入れにとともに、救急指導の充実を図った。救急症例カンファレンスを開催し(10/31～)、研修医と救急担当指導医が毎週参加した。修了判定会については(今年度の修了者なし)、中間判定会を開催し現時点での評価を行った(3/27)。

採用状況について、鹿児島県における平成 26 年度採用医師臨床研修マッチング(平成 25 年度実施)マッチャ者 84 名(前年度より 2 名減)、採用者は 73 名(前年度より 2 名減)、その内、当院におけるマッチャ者 3 名(前年度より 1 名減)、4 月採用者は 2 名(前年度と同じ)であり、県内の実績は 3 年連続減少傾向にある。当院は大きな推移なく定員(8 名)を満たせなかったが、研修を考慮した医学生の見学者が昨年度より約 3 倍増え、当院の魅力が医学生に広範囲に周知されていることは明らかである。その期待に応えるべく、鹿児島県内の研修病院とも協力しながら多方面における受け入れ体制の充実が必須である。

初期臨床研修関係事業(平成 25 年度)

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
H25. 4. 10	iCrip マッチングフェア 2013	6 名	メック福岡校	株式会社メック
H25. 4. 26	平成 25 年度研修医歓迎レセプション	4 名	県医師会館	県医師会
H25. 4. 28	第 8 回九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会	6 名	福岡国際会議場	九州厚生局
H25. 6. 5	平成 25 年度第 1 回県初期臨床研修担当者会議	3 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 6. 21	見学医学生等出前セミナーへ派遣(中間恵美子研修医)	1 名	福岡県北九州市	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 6. 26	平成 25 年度第 1 回県初期臨床研修連絡協議会	2 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 7. 8	夏の臨床研修病院合同説明会	7 名	鹿児島大学	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 7. 20	第 8 回県初期臨床研修医合同研修会(佐保明研修医、症例発表)	6 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 9. 22	e レジフェア 2013 in 福岡	5 名	福岡国際会議場	株式会社リンクスタッフ
H25. 11. 11	平成 25 年度第 2 回県初期臨床研修連絡協議会	2 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 11. 16 ～ 11. 17	第 4 回臨床研修指導医養成講習会(当院医師 5 名修了)	5 名	NC サンプラザ	県初期臨床研修連絡協議会
H25. 12. 6	平成 25 年度第 2 回初期臨床研修担当者会議	2 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 1. 18	第 9 回県初期臨床研修医合同研修会(中間恵美子研修医、症例発表)	7 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 1. 20	鹿児島県初期臨床研修医募集用広報ツール制作企画提案評価委員会	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
H26.3.2	レジナビフェア 2013 in 福岡	6名	マリンメッセ福岡	民間医局
H26.3.14	臨床研修病院見学ツアー事業(※ 2名の見学者を受入)	1名	県内3病院	県初期臨床研修連絡協議会
H26.3.15	春の臨床研修病院合同説明会	6名	県医師会館	県初期臨床研修連絡協議会

(その他) ・医学部医学科学生病院見学 35名受入
 ・平成26年度より鹿児島市立病院(総合周産期母子医療センター)を研修協力施設に追加申請(選択部門)
 (歯科医師研修医) 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院研修歯科医 25名受入

職員教育研修委員会

委員長 長堂 竜維
 事務局 前野 浩一(報告)

【目的】

安全で質の高い医療を効率的に提供するには、職員の生涯に亙る教育研修は極めて重要である。病院の業績を上げ発展させる要素は多種あるが、究極には職員各人の能力の向上とその十分な発揮が最大の要素であり、各人の能力水準を組織的、継続的に発展させる事が重要である。

【活動内容】

- * 全職員対象講演会、院内学術・各委員会主催講演会等の管理・運営
- * 各部署の学会・研修会・旅費等の把握
- * 学会・研修会等の職員の要望、意見、改善等の対策

【総括】

当院は平成24年度にがん診療連携拠点病院と地域医療拠点病院となり、がんに関する講演会や地域医療従事者や一般市民の方を対象とした講演会を開催しなければならない。

25年度はがん関係に関しては、すべて無事に開催することができたが、地域の医療従事者や一般市民向けに関してはどうであったか、院内掲示や報道機関、スーパーなど無料で広報できることはしたが、講師をどうするのか、開催時期や開始時間はどうしたらよいかなど細かい部分でもたつく部分があった。

その他、医療安全、院内感染関係の講演会に関しては、外部からの講師をお招きし、職員の参加も非常に多く充実していた。

しかしその反面、毎年思うことだが『参加しない・協力しない・関わらない』職員が多いのも事実である。一人一人が自覚し取り組んで欲しいものである。

学会活動について、各部署、上司から部下までくまなく参加している。中には1つの会に6、7人も参加する学会もあり、今後は人数の制限も呼びかけていきたい。

また、出張は必ず要望書を提出するのが規則だが、研修医関係の説明会や、他院への視察・見学など一部の参加に関して要望書の提出がないことがあるので、年間の集計の関係もあることから、今後は必ず参加する中の首長に記入をしてもらい提出をしてから参加してもらうよう、また報告も記入する決まりだが、徹底されていないので今後は厳しくしていきたい。

看護臨地実習指導者会議

委員長 酒匂 英子

【平成 25 年度目標】

1. 統一した指導ができる
 - ①各病棟の指導案の作成や修正
 - ②三観（学生観・指導観・教材観）や実習の目的・目標の周知徹底
 - ③指導力の徹底
2. スタッフが実習に関心を持ち、病棟全体で実習を支える体制を作ることができる

【活動内容及び実績】

統一した指導が実施できることを目標に掲げ、指導要項の活用や指導案の作成などを行った。また昨年作成した「臨地実習指導の振り返りチェック表」を用い自己の評価が出来るようにした。次年度は、チェック表を集計することで今後の課題を明確にし解決策の検討をする予定である。また今年度は国家試験の勉強会も実施でき、試験問題を意識した実習指導内容になったと思われる。今後も引き続き取り組んでいきたい。感染の時期には学校側との連絡や自己管理についてなど多数の問題が生じる。患者への対策だけではなく実習生に対しての指導も必要となるため早期の対応ができるよう今後検討していきたい。

平成 25 年度臨地実習指導者会議活動報告

H 2 5 年度	4 月	久木田学園看護専門学校・神村学園専修学校・龍桜高等学校・医療法人協会立看護専門学校との打ち合わせ、久木田学園反省会
	5 月	鹿児島医療技術専門学校打ち合わせ、第 1 0 2 回看護師国家試験学習会
	6 月	鹿児島中央看護専門学校・神村学園専修学校・久木田学園との打ち合わせ
	7 月	神村学園高等部専門課程打ち合わせ、医療法人協会立看護専門学校反省会
	8 月	久木田学園看護専門学校反省会、臨地実習指導者研修会の報告 鳳凰高等学校連絡協議会出席
	9 月	鳳凰高等学校連絡協議会に参加しての報告：外来・3 中 神村学園高等部・神村学園専修学校の反省会、神村学園高等部基礎課程・鳳凰高等学校との打ち合わせ
	1 0 月	各病棟目標中間反省発表 久木田学園・神村学園専修学校の打ち合わせ
	1 1 月	久木田学園・神村学園専修学校の打ち合わせ、鹿児島中央看護専門学校 2 年過程・鹿児島医療技術専門学校の反省会
	1 2 月	鳳凰高等学校との反省会、久木田学園看護専門学校打ち合わせ 勉強会「教育とは何か」
	1 月	久木田学園看護専門学校反省会、久木田学園看護専門学校・神村学園高等部専門課程の打ち合わせ
	2 月	2 5 年度各病棟目標反省発表 久木田学園（統合実習・基礎看護学）反省会
	3 月	久木田学園看護専門学校打ち合わせ、久木田学園・神村学園専修の反省会

病床運営委員会

委員長 昇 卓夫
事務局 吉満 実(報告)

目的 病院全体の病床の効率的な各科の割り当て・入退院の状況及び空床状況に合わせ急性期のDPCの医療機関として適切かつ効率的病床の有効利用を目指す
長期入院患者（3ヶ月以上）の把握と社会的入院患者の減少を目指す
DPC病院であり効率化の向上を目指す

開催日時 毎月1回 業務連絡会前 別館地下講義室

委員 昇院長（委員長）・今給黎理事長・牟禮副院長・西澤副院長
大久保クリニック院長・丸山クリニック副院長・寺原産婦人科部長・生野内科部長
有村看護部長・藤山看護副部長・近藤看護副部長・岩下看護副部長・尾堂外来副師長
野口事務長・川井田事務長補佐・御供田経営企画課長・上唐湊医事課長・原口MSW・吉満MSW

会議議題 前月の病院全体平均在院日数及び各科の在院日数の報告と改善策
前月の病床稼働率の報告及び改善策
長期入院患者数（3ヶ月以上）の報告と各患者状況把握
入退院調整会議報告からの運営改善
その他、病床の有効利用や用途変更について

総括 平成25年度は当院は地域支援病院（平成25年4月1日付けで）に認定されました。地域支援病院では登録医（近隣の提携医療機関）からの紹介を断らない体制づくりと逆紹介率の向上が望まれます。また、開放型病床を確保し地域の医療機関と連携し共同診療を行うこととなりました。また、亜急性病床の運営（12床）を行ない、自宅退院を目指すと共に病床稼働率を意識した運営を行ないました。

当院は整形外科の患者様が多く、ベッドコントロールをよりスムーズに行なうため3階中央病棟を術前や重傷者、感染症患者を受入れ、その後別館へ移行していく流れをつくり救急患者の受入れがよりスムーズになったと思われまます。

尚、来年度については診療報酬の改定も踏まえた病床運営を検討していくこととなります。

亜急性病床の廃止や看護必要度向上、在院日数の更なる短縮を目指し今後の運営を検討していきたいと思われまます。

平成25年度（平均在院日数・稼働率・入退院数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均値
在院日数	14.6	15.3	14.8	14.0	16.2	15.6	17.0	15.4	14.3	16.7	16.0	15.6	15.5
稼働率	80.6%	77.4%	80.5%	84.6%	82.9%	87.5%	84.0%	85.1%	82.6%	83.1%	85.5%	86.5%	83.4%
入院数	684	650	647	753	708	683	673	679	681	659	634	685	678.0
退院数	6701	626	675	720	717	689	640	699	761	559	633	723	676.0

労務委員会

委員長 昇 卓夫
報告 堀 雅之

【目的】

働きやすい環境づくりを基本に、規程の策定や見直し、各部署からの事案の検討、検証、解決を図り、職員人事考課制度の運用と適正な人件費管理を目的とする。

【委員】

昇卓夫(委員長)・有村看護部長・野口事務局長・堀経営企画室長・十島人事課長補佐

【主な議題】

- 4月 人事考課の進捗・人件費、常勤医昇任、奨学金貸与者(院内看護師)、認定看護師、診療補助部の配置転換
- 5月 人事考課進捗の確認、医師多面評価の考課者、人事異動の検討、規程新設の検討、手当変更の検討
- 6月 人事考課の決定、昇給の決定、医師多面評価の考課者、種子島支援の助産師検討、昇格者の決定、手当変更の決定、新入職看護師の対応、人事異動の検討、来年度薬剤師の増員検討
- 7月 十島村看護師派遣の検討、人事異動の検討、採用活動の検討(派遣会社の活用)、パート職員の人事考課の説明、労使委員会開催検討
- 8月 十島村看護師派遣の検討、採用活動の検討(派遣会社の活用)、パート職員の人事考課の説明、病児保育規程内容の変更
- 9月 種子島・十島村看護師派遣の現状報告、採用活動の検討(派遣会社の活用)、パート職員の人事考課進捗報告、手当変更の検討、人事考課中間面接実施の説明、施設課オンコール体制の検討、託児所拡大の検討
- 10月 WLBからの報告、人件費推移の検証、種子島・十島村看護師派遣の現状報告、採用活動の検討(派遣会社の活用)、パート人事考課の昇給検討、給与規程の変更検討、昇格者検討、託児所拡大の検討
- 11月 人件費推移の検証、時間外の定義確認、採用活動の検討(派遣会社の活用)、医師他科オンコール手当の新設検討、人事考課説明会開催日決定、託児所拡大の検討
- 12月 託児所保護者説明会事前打ち合わせ、手当変更の検討、規程新設の検討、出退勤システム導入の検討
- 1月 手当変更の検討、規程新設の検討、出退勤システム導入の検討、採用活動の検討、入社式の決定
- 2月 手当変更の検討、規程新設の検討、人件費推移の検証、人事考課スケジュール確認、新卒入職の確認、人事異動の検討、組織変更の決定
- 3月 人件費推移の検証、規程新設の検討、人件費推移の検証、組織変更の確認、人事異動の確認、昇格・降格・配置異動の決議、新任医師の給与設定、人事考課の進捗確認、看護師採用進捗確認、入社式の確認

【総括】

平成25年度本委員会では「人件費の適正化」「職員のモチベーション向上」「規程の整備」を主な施策として取り組みました。(人件費率：平成24年度54.2%⇒平成25年度53.6%)

働き続けられる職場作り (Work Life Balance) 検討委員会

委員長 昇 卓夫
報告 岩下 邦子

昨年からの取り組みの月1回のWLB検討委員会、ピタッとカエルデーの実施、就業規則の周知対策、看護部保健室の定期、不定期の開催は継続実施中。その他、誕生日をアニバーサリーとして年休を使用し休暇が取れるという、全職員が年休を少なくとも1回は取得できるよう仕組みを作成した。また、託児所の夜間・休日保育数を2回から3回へ増やし運用している。

看護部では日本看護協会の25年度インデックス調査（施設・個人）に参加。10月8日9日の鹿児島県看護協会で開催されたワークショップに2年目の取り組み施設として7名（臨床工学士1名人事担当1名含む）参加。2年目インデックス調査結果を分析した。主な結果を以下にあげた。

- ・20～30代が72.4%と昨年度の75%よりは低くなっているもの以前就業者の7割をしめる。
- ・中堅層の中途採用者が増えている。
- ・未婚率が58.4%と昨年度より増加している。
- ・「今の勤務先にてできるだけ長く勤めたい」にそう思う、ややそう思うを合わせると40%弱にとどまっている。
- ・院内託児所の夜間預かりと休日預かりが2回から3回に増えたことに利用しやすくなり、利用者が増加した。独身者も勤務希望を出しやすくなった。
- ・ピタッとカエルデーがマンネリ化してきている、導入時より帰ろうという意識が低下してきている。
- ・経営・組織・上司についての質問でポイントが下がっているが労働環境についてのポイントは昨年より上がっている。

分析結果をもとにミッション：質の高い医療看護を提供する地域に根ざした救急病院、ビジョン全職員が健康でやりがいをもって働き続ける職場を意識し、

- ①ピタッとカエルデーに対する意識を再確認する
- ②日勤のリリーフ体制の構築
- ③院内の看護教育プランに自分の看護を語る場面を作る

以上の3つをアクションプランとして実施した。

①ピタッとカエルデーに対する意識を再確認する

ピタッとカエルデーに対する意識調査を実施。全部署で取り組んでもらえるように毎週月曜日にある全体朝礼での告知。しかし部署により達成率に大きな差が出ていた。毎回ピタッとカエルデーに取り組み状況他アンケート実施してきた。その内容を検討したところ回数を増やしてほしい、病棟毎に実施させてほしいという意見が出てきた。委員会で検討し、回数を増やすという案と各部署内で数名ずつに実施の2案を労務委員会に提出。労務委員会では月1回の開催も厳しいのであれば、部署ごとに数名ずつ（このスタッフをピタッとカエルさんと呼ぶ）に実施するという案が採用。昨年度末に募集決定したWLBのロゴをいれたカエルバッジを作成し、ピタッとカエルデーとピタッとカエルさんはユニフォームの袖に着け、周囲への周知を図り、意識づけを行うこととした。今後ピタッとカエルさんの運用状況について調査し課題発見する予定である。

②日勤のリリーフ体制の構築

時間外の多い病棟の実態調査に行く分析と対策を検討する。一番時間外の多い病棟から2病棟選択し、実施。現在分析中である。今後対策を検討。日勤のリリーフ体制の構築。
実態調査の方法に時間を要したため、今年度リリーフ体制の構築は見送った。

③院内の看護教育プランに自分の看護を語る場面を作る

調査結果が年度途中のため今年度は計画に組み入れることができなかつたため、次年度の計画に盛り込む予定である。

本年度、インデックス調査が紙面でなくネットを利用しての調査だったためか回収率が低かつた。次年度は入力方法についての丁寧なマニュアルを作成し回収率をあげ、より多くのスタッフの意見を抽出できるようにしていきたい。

病児保育室

報 告 濱田 里恵

【平成 25 年病児保育室業績】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
延べ利用者数	61	63	63	61	85	79	96	69	54	74	62	58	825
開設日数	23	23	25	25	24	25	26	27	23	26	24	23	294
満室おことわり	11	32	12	2	17	5	13	13	12	8	4	11	140

以上、多くの方々のご協力の下、順調に6年目の運営を展開しております。

昨年度が合計624名をお預かりに対し本年度825名と利用者が増えております。

子育て世代の多い職場で、子育て中の方もそうでない方も働き続けられる職場環境の提供の一つと考え、今後も病児保育室を通して貢献できたらと思います。

【参加学会・院外発表】

H25.4/13・14 5/25・26

全国病児保育協議会 認定病児保育専門士養成講座参加

西郷

H25.6/1・2

日本医療保育学会参加 愛知県

濱田・吉村・西郷

演題発表「MRI プレパレーションツールの作成と実践報告」

吉村

H25.7/14・15

全国病児保育研究大会 山口県

畠中

H25.10/7

全国病児保育協議会 鹿児島支部会 第7回総会・担当交流会

畠中・吉村・西郷・玉田

【資格取得】

H25.9月

(一社)全国病児保育協議会 認定病児保育専門士資格取得

西郷

H26.2月

日本医療保育学会認定 医療保育専門士資格取得

吉村

労使委員会

委員長 昇 卓夫

報 告 堀 雅之

【目的】

職員にとって働きやすい環境づくりに取り組み、労働意欲と健康の維持、向上を図る。労使協力して職場の繁栄を目指し、相互の満足、共存共栄を目的とする。

【委員会】

労使代表者が集まり、定例8月に行う。但し必要に応じて随時開催する。

25年度開催実績 8月・3月

【活動状況】

- ・時間外労働に関する協定書・協定届の確認
- ・出出勤システム導入により、就業規則第37条条文の変更
- ・給与規程の変更
 - ①給与規程第16条（役職手当）の明文化・統一化
 - ②条項の変更
 - ③資格手当規程の新設
 - ④固定時間外手当の段階的な廃止

広報委員会

委員長 西澤 輝彦
報告 永井美由紀

【目的】 医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、インターネットを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対するの広報を目的とする。

【委員会】 年4回 但し必要に応じて随時開催

【委員】 委員長 西澤輝彦副院長
総務企画課 前野浩一課長、中央放射線部 濱田智太郎・稲留 久恵、中央検査部 花房雅子、
薬剤部 濱崎かおる・壽 明伸、リハビリテーション部 福森・甲斐、栄養管理部 福元 のぞみ、
相談支援センター 吉満実・岡本 美穂、看護部(師長担当)、
学術情報室 大原美保子(書記)・永井美由紀(司会)

【活動状況】

広報誌 四季だより (季刊誌年4回発行)
院内報 いまきいれ (毎月発行)
病院業績集 昭和会誌 (年報) 平成25年10月発行
ホームページ・Facebook

広報委員会では広報誌、四季だよりの発行が主な活動となっています。

今年度は院内外での取組活動、イベント等の病院情報や、採用情報の効果的な広報を行う目的で平成26年1月より病院公式のFacebookを公開致しました。アクセスは20～40代が多く、他県や学生の閲覧もあります。担当以外からの記事の提出がまだ少ないため今後、各部署の活動記事を増していこうと思います。

2月には地元の情報誌、リビングかごしまに当院を紹介してもらいました。内外の反響が大きく今後も継続的に当院のPRを行う予定です。

広報誌・ホームページ等からの情報提供により病院への信頼、理解、好意を得られ、患者さまの満足度も高められると思います。今後もより多くの情報を発信し、患者さま、関連施設、地域の方々とのコミュニケーションを図りたいと思います。

健康まつり実行委員会

委員長 昇 卓夫
事務局 前野 浩一(報告)

【開催目的】

地域住民を対象に、健康は日常の食事・運動などの生活習慣によることが多大であるとの認識と共に、「楽しい健康づくり」の観点より健康増進への普及を図っていく。

【報告】

1. 開催日 平成26年4月26日(土) 受付13:00~15:30 相談14:00 16:30
2. 場 所 今給黎総合病院、リニアックセンター、別館1F、B1F
3. 健康チェック/ 身長・体重測定・体脂肪率・血圧・検尿・骨密度測定・頸部エコーなど
4. 健康相談/ 専門医による「糖尿病の相談」など17コーナー開設 その他(お薬相談・食事相談)

今回で健康まつりも11回となった。今回は受付時の混雑を少しでも解消するため、当院の目玉である『頸動脈エコー』を事前に募集、抽選という形をとった。厳正な抽選のもと40名を抽出した。

受付時の混雑などは見られなかったが、いつもより30~40名少ない171名の参加となった。

抽選の影響も考えられるが、近くでイベント等もあり参加者が少なかったのか、あるいは当院も新しい試みを考えなければならない時期なのか、岐路にきている感もある。

アンケートより、改善・要望の声や感謝の声も多く頂いた。

いずれも次回の開催に向け、多くの方に来場して頂くように取り組んでいきたい。また、ボランティアとして参加して頂いた133名の職員の方にも感謝致します。

VIII. 院内外活動報告

緩和ケア研修会を開催致しました。

2007年、がん対策推進基本計画で「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが国の目標として掲げられました。これにより各地のがん拠点病院が中心となって全国津々浦々で緩和ケア研修会が開かれています。

当院では10月に平成25年度 緩和ケア研修会を開催致しました。



◎ 緩和ケア研修会に参加して

産婦人科 部長 加藤明彦

10月12日、13日と2日間に渡り、緩和ケア研修会に参加させて頂きました。明日から診療に役立つ治療、ケアを学ぶことが出来、とても有意義な2日間となりました。私を含めた12名のための場先生、村上先生、松添先生、坂元先生、松下先生、児玉先生、高濱先生に講義をして頂き、またグループ演習やロールプレイの時には認定看護師のみなさんにお手伝い頂き、さらにはお茶やお菓子や資料など必要な物品を揃えて当日は受付などの外回りの仕事をして下さった今給黎総合病院の事務の方々まで含めると、生徒の数よりも多い先生・スタッフ陣に驚くとともにとても感謝しております。ここで学んだことを今後の診療に活かして頑張りたいと思います。ありがとうございました。



◎ 緩和ケア研修会に参加して

研修医 中間 恵美子

10月12・13の2日間、緩和ケア研修会に参加してきました。

これまで院内の同研修会に何度か参加したことがあり、大学の講義を含め「緩和ケア≠看取り」と分かっていたつもりでしたが、やはり、出来ることはお話を聞いて気持ちを楽にするお手伝いをするくらいで、今回の研修も傾聴法などがメインなのではないかと思っていました。しかし、実際に参加してみると疾患に伴う疼痛コントロールや消化器・呼吸器症状の判断・対処についてなど学ぶことができ、色々な側面から患者さんの心・体問わず苦痛を緩和していくものなのだと再認識することができました。

研修会を通して何より一番印象に残ったのは、がん告知のロールプレイ。自分が患者役をして医師からその説明を受ける、という作業は「がんを告知される」と分かっているにもかかわらず、また研修医の私は医師役として告知することもこれまで経験がな

く、いざやってみるととても辛く難しいことなのだ実感しました。加えて、同じグループだった2人が患者役・医師役をした際の反応・対応がそれぞれ違って、それは個性や信念によるものであり、医療に正解はないのだ、と改めて感じました。

これまで、「患者さんの気持ちに寄り添う」ことを目標にしてきましたが、病気やこれからのことに落ち込んでいる患者さんと話していると一緒に落ち込んでしまうのが私にとって悩みの種でした。今回のロールプレイの中で患者役をした際、医師役の先生から自信に満ちた説明を受けてみてそれがすごく心の支えになることを実感しました。経験のない自分が適切なことを言うてはいけない、と曖昧な対応をしていたのが患者さんにとってどれほどの不安を与えていたか。。。共感する心も大事ですが、患者さんに安心感を与えられるようもっと勉強して知識を積んで自信をつけていきたい、と思いました。

また、参加者の大半が臨床経験10年以上のベテランの先生方で、まだ研修医として働き始めて半年の私が混ざってしまっているのか、という不安や緊張もありました。ロールプレイやワークショップ自体に不慣れなこともあって最初は戸惑いが大きく、なかなか発言できないでいましたが、スタッフの方の声かけで徐々に緊張はほぐれていきました。また精神科・外科・内科そして開業医・勤務医・訪問医と様々な科、診療形態の先生方が参加されていてそれぞれの意見を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。研修内容はもちろん、ご一緒いただいた先生方との出会い、また打ち上げでは普段ゆっくり話す機会のなかった当院の事務の人たちともお話できて、色々な意味で、楽しい研修会でした。

私は病理医を志望しています。がん診療と病理診断は切っても切り離せない関係です。この研修中に、がん診療・がんと共に生きる患者さんのことをもっと知り、今後の臨床・研究に生かしていきたいと思いました。



広報誌「四季だより」平成25年12月号より

リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま

5月11日(土)12:00～12日(日)12:00 当院からも24時間リレー・ウォーク(がん患者さんとご家族を支援するチャリティーイベント)に今給黎総合病院チームで 医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、理学・作業療法士、医事課、事務職員と多職種で参加しました。自前のテントを張り、ハッピーを着て4回目の参加です。

リレー・ウォークに参加者33名、応援参加34名(計67名+友人・ご家族)

ルミナリエバッグ111枚の協力をすることができ、参加チーム代表として感謝状をいただきました。



広報誌「四季だより」平成25年6月号より

患者図書室『すまいる』がオープンしました

当院では、4月20日に患者図書室を開設いたしました。これはNPO法人「医療の質に関する研究会」の審査に合格しその支援を受けてのことで、「患者図書室プロジェクト」による鹿児島で初めての患者図書室になります。

患者図書室は、患者さま自らが病気や治療法などについて学び、調べ、積極的に治療に参加していただくためのお手伝いをする場所です。どうぞお気軽にご利用ください。

◎患者図書室の目的

1. 患者さまの医療に関する知りたいという多様な要望にこたえる。
2. 患者さまやそのご家族への情報提供ツールとして、医療従事者が「患者図書室」を活用することで、医療に関する説明の質と効率の向上を図る。
3. 患者さまとご家族が、病気や治療について理解を深め、自信を持って積極的に医療に参加することを支援し、医療従事者とのコミュニケーションを促進することで、「協働の医療」を促進する。
4. 患者さまやそのご家族に、病院における「癒しの空間」を提供する。

◎患者図書室『すまいる ーみんなの医療情報AからZまでー』

場 所 今給黎総合病院 本館7階(和温療法室右隣)

利用時間 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～16:00

(土曜・日曜・祝日・年末年始はやすみです)

利用対象者 当院の患者さま及びそのご家族

(但し、上記以外の方も施設利用申込書のご提出でご利用頂けます)*1



◎サービス内容

- ・ 図書の閲覧・貸し出し
病気・治療に関する解説本や食事療法・栄養の本、検査・薬の本など、約700冊(初年度 約460冊)。わかりやすい最新の図書を選びました。当院に入院中の患者さまには貸し出しのサービスも行っています。
- ・ 図書の貸し出しサービス
対 象：当院に入院中の患者さま
貸し出し冊数：1回1冊 *2
貸出期間：1週間
- ・ パンフレット& チラシ
病気・治療に関するさまざまなパンフレットやリーフレット、チラシを設置しています。ご自由にお持ち帰り下さい。
- ・ インターネットのご利用
インターネットが使えるパソコンをご用意しています。また、医療情報サイトを患者図書室の図書分類に沿って整理したインターネット上の優良サイトURL集「しらべる君」もご利用ください。
- ・ 映像の視聴
病気や治療についての映像を視聴コーナーでゆっくりご覧いただけます。

*1 現在は提出不要。どなたでも利用可

*2 現在はお一人2冊まで

広報誌「四季だより」平成25年6月号より

XVI.昭和会クリニックの現況

(1) 標榜科目(15診療科)

内科、糖尿病内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科
 形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、
 気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、
 歯科、歯科口腔外科、病理診断科

(2) 病床数 無床

(3) 医療設備概要(放射線部門、検査部門)

※印：今年度購入(新設・更新)
 外来部門は除く

(放射線部門)

検査室名(撮影室番号)等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(10)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)	1
2	一般撮影室(9)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(立位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
3	X線CT(MDCT)室(8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16(16列MDCT)	1
5	骨密度測定室	ルナー	DPX-αミニ(X線骨密度測定)	1
6	MRI室	フィリップス	インテラ アチーバ ノバ Intera Achieva Nova(1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	C R レーザーイメージャー	コダック コダック	(1)CR850 (2)ドライビュー 8900	1 1
	画像処理	テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACS・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
口腔外科	デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N	1

(検査部門)

コーナー	機器名称	メーカー	用途	台数
血液一般	総合血液学検査装置 ADVI 2120	シーメンス	血液像・血算項目他	1
	クリニテック アドバンタス	シーメンス	尿定性検査	1
	自動血沈計 モニター20	常光	血沈測定	1
	双眼顕微鏡 BX-4 5	オリンパス	尿沈査・血液像他	1
	遠心分離器 2010	クボタ	遠心作業	1
生化学	自動分析装置クリナライザJCA-BM6010	JEOL	生化学・免疫検査	1
	遠心分離器 2410	クボタ	血清分離	1
	業務用冷凍冷蔵庫	サンヨー	試薬管理・血清保存	1
	自動採血管準備装置 BC・ROB0-686	テクノメディカ	採血管システム	1
	スーパーデサリナー SDA-0080-001型	オルガノ	蒸留装置	1
生理	自動解析装置付心電計	フクダ電子	心電図	1
	AVL OPTI	AVL	pH、PCC2、PO2	1
	マイクロ coモニター(一酸化炭素ガス分析装置)	ヒディ	co	1
	SPiro Sift SP-370 COPD 肺 Per	フクダ電子	肺機能(VC・FVC)	1
	呼吸機能測定装置マスタースクリーン IOS-J	フクダ電子	VC-FVC・呼吸抵抗	1
	アプノモニターmini	チェスト株式会社	睡眠評価装置	1

(4) H25年度 科別外来患者数 (複数診療科受診を各々1とした場合)

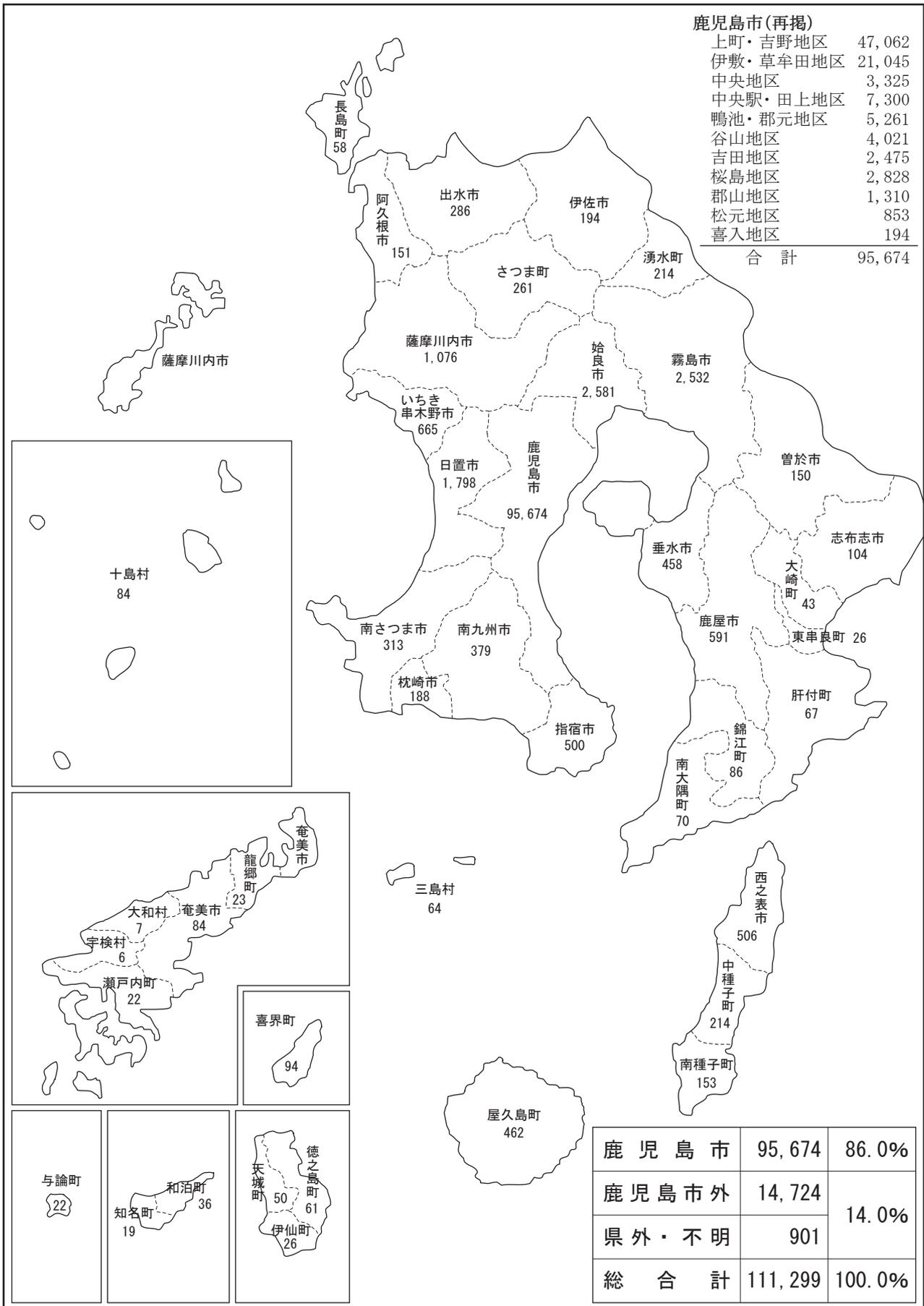
・在宅医療含む

・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計	1月 平均	1日 平均	初診率 (%)
総合内科	903	836	689	778	704	669	815	1,099	1,054	1,021	830	913	10,311	859	38.2	39.4
糖尿病内科	117	105	99	100	116	104	120	100	107	127	102	111	1,308	109	4.8	1.7
神経内科	1,057	1,061	1,024	1,032	952	945	1,028	903	952	901	846	946	11,647	971	43.1	10.3
呼吸器内科	486	567	468	515	498	474	535	515	579	541	478	536	6,192	516	22.9	9.4
小児科	1,001	1,106	973	1,122	1,046	991	1,177	1,177	1,227	949	1,025	1,023	12,817	1,068	47.5	35.3
整形外科	2,656	2,722	2,677	2,838	2,742	2,519	2,773	2,523	2,448	2,441	2,428	2,736	31,503	2,625	116.7	14.9
形成外科	540	583	670	710	622	485	604	573	595	448	472	514	6,816	568	25.2	19.2
脳神経外科	292	279	276	301	284	260	302	266	309	257	276	270	3,372	281	12.5	9.0
皮膚科	991	954	989	1,192	1,088	919	979	889	935	808	809	867	11,420	952	42.3	24.7
気管食道・ 耳鼻いんこう科	620	610	607	642	576	518	587	523	527	573	596	628	7,007	584	26.0	33.0
放射線科	45	32	48	39	7	10	24	25	11	24	24	26	315	26	1.2	93.7
新生児内科	140	87	94	88	123	98	103	105	110	98	114	110	1,270	106	4.7	5.7
歯科口腔外科	714	614	598	679	645	614	630	536	590	566	516	619	7,321	610	27.1	21.6
合計	9,562	9,556	9,212	10,036	9,403	8,606	9,677	9,234	9,444	8,754	8,516	9,299	111,299	9,275	-	-
1日平均	416	425	409	418	384	410	403	420	429	417	406	413	-	-	412.2	-
救急車患者数 (再掲)	3	2	3	6	3	3	6	2	3	2	1	1	35	-	-	-

初診	2,022	2,080	1,993	2,145	2,040	1,756	2,106	1,910	1,985	1,914	1,841	1,983	23,775	1,981	88.1	-
再診	7,540	7,476	7,219	7,891	7,363	6,850	7,571	7,324	7,459	6,840	6,675	7,316	87,524	7,294	324.2	-
初診率(%)	21.1	21.8	21.6	21.4	21.7	20.4	21.8	20.7	21.0	21.9	21.6	21.3	21.4	-	-	-

(5) 平成25年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



公益財団法人昭和会
昭 和 会 誌 (第19号)

発行日 平成26年10月

発 行 公益財団法人昭和会

今給黎総合病院

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号

電 話 099-226-2211(代表)

FAX 099-222-7906

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会

昭和会クリニック

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町2番6号

電 話 099-226-2212(代表)

FAX 099-222-3366

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp
